G-Class

取扱説明書

Mercedes-Benz

マーク

この取扱説明書では、以下のマークを使用しています。

> ⚠ **警告**
> 警告項目は、お客様ご自身やお車に同乗の方々の健康や生命をおびやかすような危険への注意を喚起するものです。

> **環境に関する注意**
> 環境に関する注意は、環境を意識した行動や廃棄についての情報を提供しています。

! 車両の損傷につながる危険を喚起する、機材の損傷に関する注意です。

i このマークは、お客様の助けになるような、便利な操作方法や詳細情報を示しています。

▶	このマークは、お客様に従っていただきたい操作を示しています。
▶	連続しているマークは、いくつかのステップがある操作を示しています。
(▷ ページ)	このマークは、項目についての詳細情報がある場所を示しています。
▷▷	このマークは次のページに続く警告または操作を示しています。
画面設定	この表記は、マルチファンクションディスプレイ / COMAND ディスプレイのメッセージを示しています。
(デジタル版取扱説明書マーク)	このマークは、デジタル版取扱説明書に説明があることを示しています。

車両のソフトウェア部品は © 2005 The FreeType Project http://www.freetype.org の著作権により保護されています。 All rights reserved.

メルセデス・ベンツ車をお買い上げいただきありがとうございます。

運転される前に、この取扱説明書をお読みいただき、特に安全面と警告事項についてのご理解を深めてください。お客様自身と周りの人々を危険から守り、お車を最大限に楽しんでいただくことができます。

便利な機能の追加情報は COMAND Online の中の車両のデジタル版取扱説明書に記載されています。

お客様の車両の装備や名称はオプションや仕様により異なる場合があります。

この取扱説明書のイラストは主に左ハンドル車のものを使用しています。右ハンドル車では、車両の部品の配置や位置、そして操作方法が異なる場合がありますので、ご注意ください。

100 km/h 以上の車両の速度での性能に関するデータおよび車両の状態が取扱説明書に記載されています。ただし、公道を走行するときは常に、その場所で適用される法定速度制限に従ってください。

メルセデス・ベンツは車両を最先端にする改良を絶えず行なっています。

そのため、デザイン、装備などが予告なく変更されることがあり、この取扱説明書に含まれる記述やイラストと異なる場合があります。

以下のものは、車両の一部ですので、常に車両に搭載してください。

- デジタル版取扱説明書
- 取扱説明書
- 整備手帳
- 補足版

また次のオーナーに車両をお譲りになる場合は、必ずすべてをお渡しください。

Daimler AG の技術文献チームはお客様が安全で快適な運転をされることを望んでいます。

メルセデス・ベンツ日本株式会社

4635845172

さくいん 4

デジタル版取扱説明書 19

概要 24

各部の名称 27

安全装備 37

開閉 69

シート、ステアリング、ミラー 79

ライト、フロントワイパー 85

エアコンディショナー 95

走行装備 99

ディスプレイ 149

COMAND システム 179

装備と機能 199

メンテナンス / 手入れ 211

万一のとき 223

ホイールとタイヤ 241

サービスデータ 253

あ

アクセスデータのリスト
新しいプロバイダー....................194
アクティブブラインドスポットアシスト
機能/注意....................................130
設定/解除(マルチファンクションディスプレイ)..........................152
ディスプレイメッセージ............152
アダプティブハイビームアシスト
ディスプレイメッセージ............152
アダプティブブレーキ........................66
アダプティブブレーキライト.............63
アドレス帳
デジタル版取扱説明書をご覧ください......................................180
アプローチ/デパーチャアングル....111
荒地の走行
参照 オフロード走行
安全
子供を乗せるとき..........................48
安全装備
チャイルドセーフティシート.......48
アンビエントライト
カラーの設定(マルチファンクションディスプレイ)..................152
照度を設定する(マルチファンクションディスプレイ)..............152
イージーエグジット機能
機能/注意事項................................83
イージーエントリー機能
機能/注意事項................................83
作動/解除...................................152
イージーエントリー機能(車外から). 81
イモビライザー....................................66
インターネット
アクセスデータの選択/設定......190
アクセスの必須条件...................188
カルーセルビュー(マルチウインドウ)を呼び出す......................196
URL を入力する.........................197
ウィンタータイヤ
ウィンタータイヤ.......................244
速度制限(マルチファンクションディスプレイ)..........................152
ウインドウ
清掃...217
デフロスター..................................97
ウインドウウォッシャー
注意...258
補給...215
ウインドウウォッシャー液
参照 ウインドウウォッシャー
ウインドウガラス(日常の手入れ). .219
ウインドウバッグ
機能..42
ディスプレイメッセージ............160
ウォッシャー液
ディスプレイメッセージ..152
ウッドトリム(清掃の説明)..............220
運転席
概要..28
運転席ドア
参照 ドア
運転のヒント
一般...111
オートマチックトランスミッション..105
オフロード走行...........................111
下り坂の傾斜...............................111
障害物の上の走行.......................111
砂地の走行...................................111
スノーチェーン...........................244
タイヤの轍...................................111
ディストロニックプラス............126
冬季の走行...................................111
凍結した路面...............................111
凍結防止剤等が撒かれた路面でのブレーキ性能の制限............111
トレーラーのけん引...................144
濡れた路面の走行.......................111
ハイドロプレーニング現象........111
ブレーキ.......................................111
エアコンディショナー
ウインドウの曇りを取る...............97
オートエアコンディショナー(2 ゾーン).......................................97
オートエアコンディショナーの使用についての注意..................97
オン/オフ.......................................97
温度の設定.....................................97
システムの概要.............................96

重要な安全上の注意..............96, 97
送風口の選択.................................97
送風量の調整.................................97
独立温度設定機能の設定/解除.....97
内気循環モードの作動/解除.........97
表示灯..97
フロントウインドウの霜を取る...97
フロントウインドウヒーター.......97
余熱ヒーターベンチレーションのオン/オフ...............................97
リアデフォッガーの作動/解除.....97
リアデフォッガーの不具合...........97
AC モード......................................97
AC モードの不具合.......................97
AUTO モード................................97

エアコンディショナーシステム
参照 エアコンディショナー
参照 ヒーターおよびエアコンディショナーシステム

エアバッグ
ウインドウバッグ..........................42
作動...39
重要な安全上の注意点..................40
助手席エアバッグオフ表示灯.......50
ディスプレイメッセージ...........152
フロントエアバッグ(運転席、助手席)..42

エアフィルター(ディスプレイメッセージ)..152

エマージェンシーキー
運転席ドアの解錠..........................74
機能/注意.......................................71
車両の施錠.....................................74
全体的な注意事項..........................71
取外し..72

エンジン
エンジン番号...............................254
ジャンプスタート.......................231
停止...110
ディスプレイメッセージ.152, 161
ECO スタートストップ機能......104

エンジンオイル
エンジンオイル量の点検...........213
オイルグレードについての注意...257
温度(マルチファンクションディスプレイ).............................152
充填容量......................................257
ディスプレイメッセージ...........152
添加剤..257
粘度..257
補給..213

エンジン自動始動(ECO スタートストップ機能)..................................104

エンジン自動停止(ECO スタートストップ機能)..................................104

エンジンの始動
キー操作.....................................102
重要な安全上の注意..................102

オートマチックトランスミッション
アイドリング(ECO スタート/ストップ機能)............................104
運転のヒント..............................105
オートマチック走行モード........105
概要..104
シフトポジション表示......................................104, 105
シフトレンジ..............................105
重要な安全上の注意..................104
ステアリングパドルシフト.......105
セレクターレバー......................104
走行モード選択スイッチ...........105
ディスプレイメッセージ...........152
ドライブポジション(ECO スタート/ストップ機能)...............104
ドライブポジションの選択.......104
ニュートラルの選択..................104
パーキングポジション P の選択104
発進..103
マニュアルギアシフト..............105
リバースギアの選択..................104

オートライト
ディスプレイメッセージ...........152
参照 ライト

オーバーヘッドコントロールユニット..34

オドメーター.....................................152
参照 トリップメーター
参照 オドメーター

オフロード
オフロード ABS...........................63
ディファレンシャルロック.......142

オフロードシステム
4MATIC.....................................134

オフロード走行
一般的な注意..............................111

重要な安全上の注意 112
チェックリスト 113
音楽ファイル
デジタル版取扱説明書をご覧ください 180
音声認識機能
参照 別冊取扱説明書
温度
エンジンオイル(マルチファンクションディスプレイ) 152
外気温度 150
冷却水 150
冷却水(マルチファンクションディスプレイ) 152
温度を上げる/下げる(ヒーターおよびエアコンディショナーシステム) 97
オンラインおよびインターネットの機能
携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの手動設定 194
携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの選択 191
接続の確立 196
接続の確立および終了 195

か

カーテシーライト 88
外気温度計 150
解錠
車内から(セントラルロッキングスイッチ) 74
非常時の解錠 74
ガソリン 255
カップホルダー
重要な安全上の注意 208
センターコンソール 208
可変スピードリミッター
機能/注意 117
選択 118
環境保護
注意 24
冠水路の走行
オンロード 111
冠水路の走行(オフロード) 112
冠水路の走行(オンロード) 111
寒冷時の走行
スノーチェーン 244
滑りやすい路面 111
全体的な注意事項 244
キー
異常 73
エマージェンシーキー 71
エンジンの始動 102
概要 70
コンビニエンスオープニング機能 75
重要な安全上の注意 70
設定変更 71
セントラルロックによる施錠/開錠 70
ディスプレイメッセージ 152
電池交換 72
電池点検 72
不具合(異常) 73
紛失 73
キーの位置
キー 102
ギアまたはセレクターレバー (清掃の説明) 220
ギアレンジ 105
救急セット 224
給油
給油のしかた 107
重要な安全上の注意 106
燃料計 150
参照 燃料
許容軸重、許容(トレーラーけん引) 260
クリアスイッチ 188
クルーズコントロール
機能/注意 114
クルーズコントロールレバー 115
選択 115
走行装備 114
ディスプレイメッセージ 152
グローブボックス 201
クローム部品(日常の手入れ) 220
警告灯/表示灯
各部の名称 30
シートベルト 167
車間距離警告 178
助手席エアバッグオフ 50
ディストロニックプラス 178

ブレーキ..168
冷却水...177
ABS..170
ESP®...173
ESP®オフ.......................................174
LIM(可変スピードリミッター)..118
LIM(クルーズコントロール)......115
LIM(ディストロニックプラス)..122
SRS..176
計測(レースタイマー)......................152
携帯電話入れ....................................201
携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータ
項目の作成....................................194
選択する..191
携帯電話のネットワークプロバイダーのリスト
空欄...190
選択したプロバイダー...............191
呼び出す..190
警報システム(ATA)を解除する........67
けん引
ディスプレイメッセージ............152
故障時...236
重要な安全上の注意...................234
フロントおよびリアが接地した状態で......................................235
けん引始動
重要な安全上の注意...................234
けん引フック
フロント..235
リア...235
けん引防止機能....................................67
言語の設定
デジタル版取扱説明書をご覧ください......................................180
コーナリングライト
機能/注意..88
コーナリングライト機能
ディスプレイメッセージ............152
高圧式スプレーガンの使用.............217
故障
参照 パンクしたタイヤ
参照 けん引
故障メッセージ
参照 ディスプレイメッセージ
故障メッセージを表示させる
参照 ディスプレイメッセージ
子供
乗員保護装置.................................48
乗せるとき.....................................48
小物入れ
カップホルダー..........................208
グローブボックス.......................201
重要な安全上の注意...................201
センターコンソール...................201
ディスプレイメッセージ............152
コンパス
ディスプレイメッセージ............152
コンビニエンスオープニング機能.....97
コンビネーションスイッチ................87

さ

サービスデータ
タイヤ/ホイール.........................250
トレーラー荷重..........................260
容量...254
サービスプロダクト
注意...254
燃料...254
ブレーキ液...................................257
サイドウインドウ
開閉...75
開閉(すべて)..................................75
開閉(フロント)..............................75
概要...74
重要な安全上の注意..............74, 75
トラブルの原因と対応..................75
サイドランプ
オン / オフの切り替え..................87
サイドランプ(電球の交換).................91
サスペンション
モードセットアップ画面(マルチファンクションディスプレイ)152
サマータイヤ.....................................244
山間地域の走行
アプローチ/デパーチャアングル111
下り坂走行....................................111
最大登坂能力................................111
坂の頂上.......................................111
シート
運転席のシートポジション...........80
シートヒーターを使用する...........82
シートベンチレーターの使用.......81
重要な安全上の注意......................80

調整(電動式)..................................81
電動ランバーサポートを調整する..81
表面の手入れ.............................220
フロントシートバックレストを前方に倒す(イージーエントリー機能).......................................81
ヘッドレストの調整.....................81
マルチコントロールシートバック...81
メモリー機能(設定の記憶)............83
シートバックレスト
後方へ倒す..................................202
シートベルト
解除..46
警告灯...167
警告灯(機能)..................................46
後席中央で締める..........................44
シートベルト調整の作動/停止(マルチファンクションディスプレイ)..152
シートベルトテンショナー...........47
重要な安全上の注意点..................43
高さ調整..45
着用...44
ディスプレイメッセージ...........152
手入れ...220
フロントで締める..........................44
ベルトフォースリミッター...........47
シートベルトテンショナー
機能..47
作動..39
時刻
参照 別冊の取扱説明書
時刻の設定
デジタル版取扱説明書をご覧ください.....................................180
システム設定(COMAND システム)
デジタル版取扱説明書をご覧ください.....................................180
自宅住所
デジタル版取扱説明書をご覧ください.....................................180
室内センサー.......................................68
指定サービス工場
参照 メルセデス・ベンツ指定サービス工場
自動洗車機の使用............................217
シフトインジケーター(マルチファンクションディスプレイ)...............152
シフトポジション............................105
車外ライト
参照 ライト
車間距離警告信号(警告灯)..............178
車間ディスプレイ(マルチファンクションディスプレイ)...................152
車高(ディスプレイメッセージ)......152
車載工具..225
車台番号
参照 VIN
ジャッキ
収納場所......................................225
使用方法......................................248
ポンプレバー..............................249
車内ライト
消灯遅延機能(マルチファンクションディスプレイ).................152
車両
運搬...236
解錠(キー).......................................70
けん引..234
けん引始動..................................234
ジャッキアップ..........................248
ジャッキダウン..........................250
車両が動き出さないよう固定する...248
車両データ..................................259
施錠(キー).......................................70
装備..24
駐車...111
データ取得.....................................26
ディスプレイメッセージ.152, 165
発進...103
非常時の解錠.................................74
非常時の施錠.................................74
車両データ.......................................259
車両を運搬する................................236
ジャンプスタート(エンジン).........231
住所の入力
デジタル版取扱説明書をご覧ください.....................................180
収納ボックス
アームレスト(下側)....................201
ドア収納ボックス......................201

乗員安全
子供を乗せるとき..........................48
重要な安全上の注意点..................38
消灯遅延機能
車外ライト(マルチファンクションディスプレイ)..................152
車内ライト..................................152
助手席エアバッグオフ表示灯.............50
診断機の接続部....................................25
スキーキャリア.................................208
ステアリング
安全のために.................................83
スイッチ(マルチファンクションディスプレイ)..........................151
調整(電動)......................................83
ステアリング (清掃の説明).............220
ステアリング(ディスプレイメッセージ)...................................152, 165
ステアリングホイール
ステアリングホイールヒーター...83
パドルシフト..............................105
メモリー機能(シート位置の記憶)...83
ストップウォッチ(レースタイマー) 152
スノーチェーン.................................244
スピードメーター
セグメント表示..........................150
表示単位の設定..........................152
メーターパネル内.......................150
参照 メーターパネル
スピードリミッター
可変...117
ディスプレイメッセージ............152
スペアタイヤ
ステンレススチール製スペアタイヤカバー..............................226
注意およびデータ.......................251
取り付け.....................................246
リアのスペアタイヤブラケット225
スペアヒューズ.................................237
スライディングルーフ
開閉..76
重要な安全上の注意......................76
手動操作..76
セーフティネット
解除...207
重要な安全上の注意...................205
取外しと保管..............................208
ラゲッジルーム拡張付き............207
ラゲッジルーム拡張なし............206
制限速度
可変スピードリミッター............117
施錠
車内から(セントラルロッキングスイッチ)....................................74
参照 セントラルロッキングシステム
施錠(ドア)
車内から(セントラルロッキングスイッチ)....................................74
非常時の施錠.................................74
施錠確認シグナル音(マルチファンクションディスプレイ)................152
設定
初期化(マルチファンクションディスプレイ)............................152
マルチファンクションディスプレイ..152
メニュー概要.............................183
セットアップ画面(マルチファンクションディスプレイ)....................152
センサー(日常の手入れ).......217, 220
センターコンソール
概要..32
上部..32
セントラルロッキングシステム
車速感応ドアロック(マルチファンクションディスプレイ). .152
施錠/解錠(キー使用).....................70
セントラルロック
参照 セントラルロッキングシステム
走行安全装備
アダプティブブレーキ..................66
アダプティブブレーキライト.......63
エレクトロニックブレーキフォースディストリビューション...66
概要..61
重要な安全上の注意点..................62
4ETS(エレクトロニック・トラクション・サポート).................64
ABS(アンチロック・ブレーキング・システム)............................62
BAS(ブレーキアシスト)..............63
ESP®(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム).............63
走行距離記録....................................152

走行時の注意
オフロード走行 111
冠水路の走行(オフロード) 111, 112
冠水路の走行(オンロード) 111
走行時の注意点
濡れた路面 111
走行装備
アクティブブラインドスポットアシスト 130
可変スピードリミッター 117
クルーズコントロール 114
ディストロニックプラス 120
ディスプレイメッセージ 152, 162
パークトロニック 135
ブラインドスポットアシスト 127
ホールド機能 133
リアビューカメラ 138
走行モード
オートマチック 105
セットアップ画面(マルチファンクションディスプレイ) 152
表示 104, 105
マニュアル 105
走行モード選択スイッチ 105
操作システム
参照 マルチファンクションディスプレイ
操作に関する安全
オンボードダイアグノシスインターフェース 25
送風口
サイド送風口の調整 97
中央送風口の調整 97
リア 97
送風口の設定 97
送風量の設定 97
速度制限の設定
参照 可変スピードリミッター
速度の制御
参照 クルーズコントロール
ソケット
使用上の注意 208
助手席の足元 208
トランク 208
ソフトトップ
清掃 217

た

タイヤ
ウィンタータイヤ 244
回転方向 247
交換 247
重要な安全上の注意 242
タイヤサイズ(データ) 250
タイヤの交換 246
タイヤの取り付け 247
新品のホイールの取り付け 249
タイヤの取り外し 249
タイヤのトレッド 243
耐用年数 243
ディスプレイメッセージ 152
テクニカルデータ 250
点検 243
保管 247
参照 パンクしたタイヤ
タイヤ空気圧
一覧表(シングルタイヤ)一覧表(シングルタイヤ) 245
指定 244
手動による点検 246
ディスプレイメッセージ 152
タイヤの取り付け
ジャッキアップ 248
車両が動き出さないよう固定する 248
ホイールの装着 249
ホイールの取り外し 249
タコメーター 150
ダッシュボード
参照 メーターパネル
チェックリスト
オフロード走行後 113
オフロード走行前 113
チャイルドセーフティシート
自動検知 50
純正 57
助手席に装着 49
適切な位置 54
テザーアンカー 52
トラブルの原因と対応 54
ISOFIX 51
チャイルドプルーフロック
重要な安全上の注意 60

リアサイドウインドウ..................61
リアドア..61

駐車

重要な安全上の注意....................109
助手席側ドアミラーの位置...........83
参照 駐車
参照 パークトロニック

チルト / スライディングルーフ

参照 スライディングルーフ

データ

参照 サービスデータ

テールゲート

ディスプレイメッセージ............152
開いたときの寸法......................259

テールランプ

ディスプレイメッセージ............152
参照 ライト

停止表示板..224

ディストロニック

ディスプレイメッセージ............152

ディストロニックプラス

運転のヒント...............................126
解除..125
機能/注意.....................................120
クルーズコントロールレバー....122
警告灯..178
作動..122
作動条件......................................122
指定最低距離の設定....................122
重要な安全上の注意....................120
選択する......................................122
ディスプレイメッセージ............152
マルチファンクションディスプレイの表示..............................122

ディスプレイ(日常の手入れ)..........220

ディスプレイメッセージ

安全装備............................152, 154
エンジン............................152, 161
キー..152
車両..................................152, 165
全体的な注意事項.......................152
走行装備............................152, 162
タイヤ..152
非表示(マルチファンクションディスプレイ)............................152
メンテナンスインジケーター画面..215

呼び出し(マルチファンクションディスプレイ)..............152, 153
ランプ..152

デイタイムドライビングライト

ディスプレイメッセージ............152
点灯/消灯(マルチファンクションディスプレイ)..........................152

ディファレンシャルロック.............142

ディファレンシャルロック(ディスプレイメッセージ).......................152

手入れ

ウインドウ.......................217, 219
ウッドトリム...............................220
カーペット..................................220
ギア/セレクターレバー.............220
クローム部品...............................220
高圧式スプレーガン...................217
シート表皮..................................220
シートベルト...............................220
自動洗車機..................................217
車内..220
センサー...........................217, 220
ソフトトップ...............................217
注意..216
ディスプレイ...............................220
塗装面..............................217, 218
トリム部品..................................220
プラスチックトリム...................220
ヘッドライト...................217, 219
ホイール...........................217, 218
マットペイント...............217, 218
マフラー...........................217, 220
リアビューカメラ............217, 220
ルーフライニング.......................220
ワイパーブレード............217, 219

テクニカルデータ

タイヤ..250
ホイール......................................250

テザーアンカー....................................52

デジタルスピードメーター.............152

デジタル版取扱説明書

インストール.................................19
概要..19
取扱説明書.....................................20

テレビ

操作(マルチファンクションディスプレイ)............................152
参照 別冊の取扱説明書

添加剤(エンジンオイル)..................257
天気表示(COMAND Online)
デジタル版取扱説明書をご覧ください.......................................180
電球
参照 電球の交換
電球の交換
サイドランプ.................................91
重要な安全上の注意.......................89
電球の種類の概要..........................90
パーキングランプ(フロント)........91
電池
交換(キー)......................................72
点検(キー)......................................72
電話
着信を受ける...............................152
通話の拒否/終了........................152
ディスプレイメッセージ...........152
デジタル版取扱説明書をご覧ください.......................................180
電話帳からの番号.......................152
リダイアル..................................152
電話帳
デジタル版取扱説明書をご覧ください.......................................180
ドア
(車内から)開く..............................74
オートマチックロッキング(マルチファンクションディスプレイ)...152
概要...73
車速感応ドアロック(スイッチ)....74
重要な安全上の注意..............73, 74
セントラルロックによる施錠/開錠(キー使用)................................70
ディスプレイメッセージ...........152
非常時の解錠..................................74
非常時の施錠..................................74
ドアの操作パネル
各部の名称.....................................35
ドアミラー
格納/展開(電動)............................83
格納/展開(自動)............................83
施錠時の格納(マルチファンクションディスプレイ).................152
外側に曲げられたとき..................83
調整...83
防眩(自動)......................................83
メモリー機能(設定の記憶)............83
リセット...83
リバースポジションの記憶...........83
ドアロック
車速感応...74
盗難防止警報システム
けん引防止機能..............................67
車内センサー.................................68
盗難防止システム
イモビライザー..............................66
ATA(盗難防止警報システム).......67
読書灯..88
塗装コード...254
塗装面(日常の手入れ)..........217, 218
トランスファー
オフロードギア比を解除する....141
オフロードギア比を選択する....140
切り替え......................................140
切り替え(重要な安全上の注意). 140
シフトレンジ..............................139
全体的な注意事項.......................139
ニュートラルの選択..................141
トランスミッション
参照 オートマチックトランスミッション
トリップコンピューター (マルチファンクションディスプレイ)........152
トリップメーター
呼び出し......................................152
トリム部品(清掃の説明)..................220
トレーラー荷重
サービスデータ...........................260
トレーラーのけん引
許容軸重、許容...........................260
電力供給......................................147
取り付け寸法...............................259
トレーラー荷重...........................260
トレーラーけん引ヒッチ...........259
トレーラーのカップリングを外す...146
運転のヒント...............................144
トレーラーの連結.......................146
パークトロニック.......................137
ブラインドスポットアシスト....129
ライトのディスプレイメッセージ...152
7 ピンコネクター.......................147

ESP®......66
LED ライトの電球故障インジケーター......147

な

内気循環モードの作動および解除.....97
ナビゲーション
デジタル版取扱説明書をご覧ください......180
メニュー(マルチファンクションディスプレイ)......152
参照 別冊の取扱説明書
慣らし運転......100
荷物固定具......204
荷物固定用リング......204
荷物の積み方......200
燃費(マルチファンクションディスプレイ)......152
燃料
給油......106
グレード(ガソリン)......255
重要な安全上の注意......255
走行可能距離の表示......152
タンク容量/予備燃料......255
添加剤......256
燃料計......150
燃料消費の表示......152
平均燃費......152
無鉛ハイオク......255
問題があるとき......109
AMG 車......256
燃料 / ウォータセパレーター
サービス......216
燃料および油脂
安全に関する重要な注意......254
ウォッシャー液......258
エンジンオイル......257
冷却水(エンジン)......257
燃料キャップ
参照 燃料給油口
燃料給油口
施錠/解錠......107
非常時の解錠......107
燃料容量
燃料計......150
燃料残量
走行可能距離の呼び出し(マルチファンクションディスプレイ)152
ディスプレイメッセージ......152
燃料タンク
不具合......109
容量......255
燃料フィルター(ディスプレイメッセージ)......152

は

パーキング
パーキングポジションの選択....104
パーキングブレーキ
ディスプレイメッセージ......152
適用......110
パーキングヘルプ
参照 ドアミラー
参照 パークトロニック
パーキングランプ
ディスプレイメッセージ......152
電球の交換......91
点灯/消灯......87
パークトロニック
インジケーター......136
解除/作動......137
機能/注意......135
重要な安全上の注意......135
センサーの感知範囲......135
走行装備......135
トレーラーのけん引......137
不具合(故障)......138
灰皿......208
ハイドロプレーニング現象......111
ハイビームヘッドライト
ディスプレイメッセージ......152
点灯/消灯......87
バックランプ
ディスプレイメッセージ......152
バックランプ(ディスプレイメッセージ)......152
発進
オートマチックトランスミッション......103

バッテリー
重要な安全上の注意(キー)............72
バッテリー (車両)
概要...227
ジャンプスタート......................231
充電...230
重要な安全上の注意事項............227
ディスプレイメッセージ...........152
電圧...259
容量...259
パドルシフト...................................105
パンクしたタイヤ
車両の準備..................................227
ビークルプレート............................254
ヒーター
参照 エアコンディショナー
ヒーターおよびエアコンディショナーシステム
ウインドウの曇りを取る..............97
温度を上げる/下げる....................97
概要..97
重要な安全上の注意.....................97
送風量の設定................................97
内気循環モードの作動/停止.........97
ヒーターシステムのオン/オフ.....97
フロントウインドウの曇りを取る..97
リアデフォッガーの作動/解除.....97
AC モード.....................................97
AC モードの不具合......................97
非常時の解錠
運転席ドア....................................74
車両..74
非常時の車両の施錠............................74
非常点滅灯...................................86, 88
日付/時刻形式の設定
デジタル版取扱説明書をご覧ください.....................................180
ビデオ
デジタル版取扱説明書をご覧ください.....................................180
ビデオ (DVD)..................................152
ヒューズ
交換の前に..................................237
重要な安全上の注意...................237
ダッシュボードのヒューズボックス...237
トランスミッショントンネル内のヒューズボックス...............238
配置表...237
バッテリーケース内..................239
ヒューズ配置表..........................237
ヒューズエキストラクター.............237
ヒューズ配置表................................237
ヒューズボックス
助手席足元.................................238
助手席足元のヒューズボックス 238
ダッシュボード..........................237
トランスミッショントンネル....238
バッテリーケース......................239
ヒルスタートアシスト....................103
フォグライト
点灯/消灯......................................86
ブラインドスポットアシスト
機能/注意....................................127
作動 / 解除.................................152
ディスプレイメッセージ...........152
トレーラーのけん引..................129
参照 アクティブブラインドスポットアシスト
プラスチックトリム(清掃の説明). .220
ブレーキ
運転のヒント.............................111
強化ブレーキシステム..............111
警告灯..168
重要な安全上の注意..................111
ディスプレイメッセージ.152, 154
パーキングブレーキ..................110
ブレーキ液(注意).......................257
ABS..62
BAS..63
ブレーキ液
注意...257
ディスプレイメッセージ.152, 158
ブレーキランプ
アダプティブ................................63
ディスプレイメッセージ...........152
フロアマット...................................208
プログラミング
キー...71
フロントウインドウヒーター............97
フロントフォグランプ
ディスプレイメッセージ...........152
フロントワイパー
不具合...93

ヘッドバッグ
ディスプレイメッセージ............152
ヘッドライト
ウォッシャー(注記)....................258
ウォッシャーシステム(機能)........86
ウォッシャーの補給...................215
くもり..86
洗浄.................................217, 219
ヘッドレスト
調整..81
取り外し/取り付け(リア)..............81
変速...105
ベンチレーション
送風量の設定..................................97
ホールド機能
機能/注意.....................................133
ディスプレイメッセージ............152
ホイール
概要...242
交換/ローテーション.................247
締め付けトルク...........................250
重要な安全上の注意...................242
清掃.................................217, 218
清掃 (警告の注意).......................247
タイヤの交換...............................246
テクニカルデータ.......................250
点検...243
ホイールサイズ/タイヤサイズ..250
保管...247
ホイールボルトの締め付けトルク..250
方向指示灯
ディスプレイメッセージ............152
点灯/消灯.......................................87
補助ベンチレーター
作動 / 解除(センターコンソール上)...97
スイッチオン / オフ......................97
トラブル(ディスプレイメッセージ)...97
ボンネット
重要な安全上の注意...................212
ディスプレイメッセージ......................................152, 165
閉じる...213
開く...212

ま

街の入力
デジタル版取扱説明書をご覧ください.......................................180
マットペイント(日常の手入れ)..217, 218
マフラー(手入れ)..................217, 220
マルチコントロールシートバック.....81
マルチファンクションステアリング
概要..31
マルチファンクションステアリングホイール
マルチファンクションディスプレイの操作...............................151
リターンスイッチ.......................152
マルチファンクションディスプレイ
アシストメニュー.......................152
安全に関する重要事項...............150
機能/注意....................................150
基本画面......................................152
サブメーター...............................152
設定初期化サブメニュー............152
操作...151
ディストロニックプラス............122
ディスプレイメッセージ............152
テレビの操作...............................152
ナビゲーションメニュー............152
ビデオ DVD の操作....................152
メッセージの記憶............152, 153
メッセージメモリーメニュー....152
メニューの概要...........................152
メンテナンスメニュー...............152
ライトサブメニュー...................152
レースタイマー...........................152
AMG メニュー............................152
ミラー
参照 ルームミラー
参照 ドアミラー
メーターパネル
各部の名称..................................150
メーターパネル照明.........................150
メッセージ
参照 ディスプレイメッセージ
メッセージの記憶(マルチファンクションディスプレイ)........152, 153
メモリーカード(オーディオ)..........152
メモリー機能.......................................83

メルセデス・ベンツ指定サービス工場......26
メルセデス・ベンツ純正部品..........254
メンテナンスインジケーター画面
メンテナンスメッセージ............216
メンテナンスメニュー(マルチファンクションディスプレイ)................152

や

余熱ヒーターベンチレーション
作動と停止......................................97
予備(燃料タンク)
参照 燃料

ら

ライセンスランプ
ディスプレイメッセージ............152
ライセンスランプ(ディスプレイメッセージ).......................................152
ライター..208
ライト
アンビエントライトのカラーの設定(マルチファンクションディスプレイ).............................152
アンビエントライトの照度を設定する(マルチファンクションディスプレイ)..........................152
カーテシーライト..........................88
車外ライト消灯遅延機能の作動/解除(マルチファンクションディスプレイ).............................152
車内ライト消灯遅延機能の作動/解除.......................................152
デイタイムドライビングライトの点灯/消灯(マルチファンクションディスプレイ).................152
フォグライト.................................86
ヘッドライトのパッシング...........87
方向指示灯.....................................87
ロケイターライティングのオン/オフの切り替え(マルチファンクションディスプレイ)..........152
参照 電球の交換
ラゲッジネット................................201
ラゲッジルーム................................201
ラゲッジルームカバー
開閉...205
機能/注意....................................204
取付け / 取外し..........................205
ラゲッジルームの拡大
重要な安全上の注意...................201
ラジオ
放送局の選択...............................152
参照 別冊の取扱説明書
ラジオモード
デジタル版取扱説明書をご覧ください.......................................180
ラップタイム(レースタイマー)......152
ランバーサポート
電動ランバーサポートの調整.......81
ランプ
コーナリングライト......................88
車幅灯..87
パーキングランプ..........................87
ハイビームヘッドライト..............87
非常点滅灯..............................86, 88
ランプスイッチ.............................86
リアフォグランプ..........................87
ロービームヘッドライト..............86
ランプセンサー(ディスプレイメッセージ)...152
リア
送風口の調整.................................97
リアシート
ディスプレイメッセージ............152
リアシートバックレストを倒す/起こす...202
リアデフォッガー
オン/オフの切り替え....................97
トラブル(故障)...............................97
リアドア
重要な安全上の注意......................74
ディスプレイメッセージ............165
閉じる..74
開く..74
リアビューカメラ
機能/注意....................................138
清掃の説明..................................217
リアビューカメラ(日常の手入れ). .220
リアフォグライト
点灯/消灯.......................................87
リアフォグランプ
ディスプレイメッセージ............152

リアベンチシート
起こす...203
前にたおす..................................203
リアランプ
参照 ライト
リアワイパー
オン/オフの切り替え....................92
リターンスイッチ............................188
ルート(ナビゲーション)
参照 ルート案内（ナビゲーション）
ルート案内
デジタル版取扱説明書をご覧
ください.......................................180
ルート案内(ナビゲーション)..........152
ルーフ
ディスプレイメッセージ...........152
ルーフの重量(最大).........................259
ルーフライニングとカーペット
(清掃の説明)....................................220
ルームミラー
防眩(自動).......................................83
防眩(手動).......................................83
ルームライト
アンビエントライトのカラー
の設定(マルチファンクション
ディスプレイ).............................152
アンビエントライトの照度を
設定する(マルチファンクショ
ンディスプレイ)..........................152
概要..88
ルームランプ
自動点灯...88
手動点灯...88
ルームライト
読書灯...88
レースタイマー(マルチファンク
ションディスプレイ).......................152
レーダーセンサー
概要..261
レーダーセンサーシステム
オン/オフ....................................152
ディスプレイメッセージ...........152
冷却水(エンジン)
温度(マルチファンクション
ディスプレイ).............................152
温度計..150
警告灯..177
注意..257
ディスプレイメッセージ.152, 161
量の点検.....................................214
冷房
参照 エアコンディショナー
レベルコントロール(ディスプレ
イメッセージ)..................................152
ロービームヘッドライト
ディスプレイメッセージ...........152
ロービームヘッドライド
点灯/消灯.......................................86
ローレンジ
ディスプレイメッセージ...........152
ロケイターライティング(マルチ
ファンクションディスプレイ)........152

わ

ワイパー
リアワイパー.................................92
ワイパーの操作.............................92
ワイパーブレードの交換..............92
ワイパーブレード
交換..92
重要な安全上の注意......................92
清掃.................................217, 219

英字

4ETS(エレクトロニック・トラク
ション・システム)
機能/注意.......................................64
4MATIC(オフロードシステム).....134
4MATIC (フルタイム 4 輪駆動)...134
4WD
トランスファー..........................139
12V ソケット
参照 ソケット
ABS(アンチロック・ブレーキン
グ・システム)
機能/注意.......................................62
警告灯..170
重要な安全上の注意......................62
ディスプレイメッセージ.152, 154
AdBlue®
ディスプレイメッセージ...........152
AMG メニュー(マルチファンク
ションディスプレイ).......................152
ATA(盗難防止警報システム)
機能..67

警報の解除....................................67
作動/解除......................................67
BAS(ブレーキアシスト)..................63
Bluetooth®
デジタル版取扱説明書をご覧ください......................................180
CD
デジタル版取扱説明書をご覧ください......................................180
CD プレーヤー/CD チェンジャー(マルチファンクションディスプレイ)..152
COMAND コントローラー...........187
COMAND コントローラーのスイッチ...187
COMAND コントロールパネル.....185
COMAND システム
メニュー概要...............................183
COMAND Online
操作の例......................................187
ディスプレイ...............................182
COMAND Online およびインターネット
参照 オンラインおよびインターネットの機能
DSR(ダウンヒル・スピード・レギュレーション)
ディスプレイメッセージ...........152
DVD オーディオ
操作(マルチファンクションディスプレイ).............................152
デジタル版取扱説明書をご覧ください......................................180
DVD ビデオ
操作(マルチファンクションディスプレイ).............................152
デジタル版取扱説明書をご覧ください......................................180
EBD(エレクトロニックブレーキフォースディストリビューション)
機能/注意.......................................66
ディスプレイメッセージ.152, 158
ECO スタートストップ機能
一般的な注意...............................104
作動/解除....................................104
ESP®(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)
機能/注意.......................................63
警告灯...173
作動/解除.......................................65
重要な安全上の注意......................63
ディスプレイメッセージ.152, 154
トレーラー.....................................66
AMG メニュー(マルチファンクションディスプレイ)..............152
Google™ ローカル検索
デジタル版取扱説明書をご覧ください......................................180
iPod
デジタル版取扱説明書をご覧ください......................................180
ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート..51
LIM 表示灯
可変スピードリミッター...........118
クルーズコントロール...............115
ディストロニックプラス...........122
LOW RANGE オフロードギア......140
M+S タイヤ....................................244
mbrace
ディスプレイメッセージ...........152
MP3
操作..152
デジタル版取扱説明書をご覧ください......................................180
参照 別冊の取扱説明書
SD メモリーカード
デジタル版取扱説明書をご覧ください......................................180
SRS(乗員保護補助装置)
警告灯...176
警告灯(機能)..................................39
ディスプレイメッセージ.152, 159
まえがき...39
USB 機器の接続
デジタル版取扱説明書をご覧ください......................................180
VIN..254

概要

印刷版取扱説明書の他に、ブックケースには以下の取扱説明書が含まれています。

- デジタル版取扱説明書の CD
- 整備手帳
- 補足版

印刷版取扱説明書は、車両の主要な機能の概要を、簡単にご理解いただくために作成されました。

また、COMAND システムを使用してデジタル版取扱説明書にアクセスしてもご利用になれます。 印刷版取扱説明書に記載されていないご質問がある場合は、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

ℹ デジタル版取扱説明書のご利用に当たり、お客様には一切費用はかかりません。 呼び出しはインターネットに接続せずに行なわれます。

以下の項目に詳しい情報が記載されています：

- COMAND システムへのデジタル版取扱説明書のインストール方法 (▷ 19 ページ)
- デジタル版取扱説明書のアクセスおよび操作方法
- 基本メニューからのさまざまなアクセス方法

デジタル版取扱説明書の基本メニューを用いたアクセスには、以下の 3 つの方法があります。

- 画像検索
- キーワード検索
- 目次

インストール

デジタル版取扱説明書がすでにインストールされているかどうかを確認してください。 そのためには、以下のようにして COMAND システム経由でデジタル版取扱説明書を呼び出します。

▶ COMAND コントローラーを使用して、COMAND ディスプレイのメニューバーからアイコン 🌐 を選択し、押して ⊛ 確定します。

▶ "取扱説明書"を選択し確定します ⊛ 。

2 つの可能性があります。

1. デジタル版取扱説明書がインストールされています。 デジタル版取扱説明書の基本メニューが開きます。

2. デジタル版取扱説明書がインストールされていません。 以下のメッセージが表示されます：取扱説明書はインストールされていません。対応するディスクを入れてください。

デジタル版取扱説明書がまだインストールされていない場合は、ご自身でインストールするオプションがあります。 必要なインストール用 CD はブックケースに入っています。

インストール処理の時間は異なることがあります。

インストール処理には約 5 分かかります。 この時間は、車両が停止していて、そのときに COMAND システムの他の機能が使用されていない間にデジタル版取扱説明書をインストールする場合にのみ当てはまります。 インストール処理の時間は、そのときにナビや電話機能のような COMAND システムの他の機能を同時に使用していると増加することがあります。

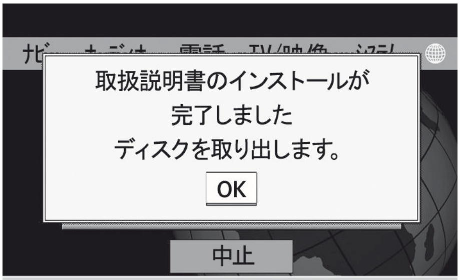
インストール中に何か問題が生じた場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

▶ **デジタル版取扱説明書をインストールする：** 車両を安全に停止し、道路と交通状況に注意してください。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

- ▶ COMAND システムをオンにします。
- ▶ インストール用 CD を CD / DVD ドライブに挿入します。
- ▶ COMAND ディスプレイのインストール手順に従います。

ℹ チェックに失敗すると、例えば この取扱説明書ディスクは本システムには対応していません。ディスクを取り出します。 というメッセージが表示されます。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。



P82.87-7805-31

- ▶ **インストールが完了した場合：** COMAND コントローラーを使用して、インストール用 CD の取り出しを確定します。

ℹ **インストールのキャンセル：** インストール作業中にデジタル版取扱説明書のインストールをキャンセルできます。 後でインストールを続行することができます。 続行するには、インストール用 CD を CD / DVD ドライブに再び挿入し、上記のインストール指示にしたがって実行するだけです。

操作

デジタル版取扱説明書を呼び出す

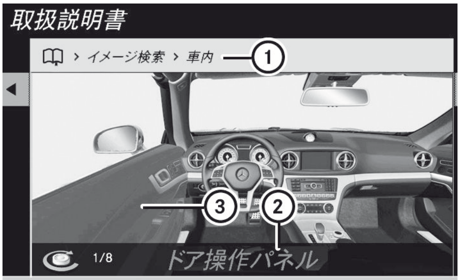
- ▶ COMAND システムのコントロールノブ ON を押します。

  COMAND システムがオンになります。 以前選択したメニューが警告メッセージの後に表示されます。
- ▶ COMAND コントローラーを使用して、メニューバーのアイコンを選択し 🌐 、確定します 🖱 。
- ▶ "取扱説明書"を選択し確定します 🖱 。

  デジタル版取扱説明書の基本メニューが開きます。

画像検索

画像検索により、車両を"システム上で"調べることができます。 車両のエクステリアあるいはインテリアの図のいずれかから開始し、取扱説明書に記載されているさまざまなトピックにアクセスすることができます。 インテリア項目にアクセスするには、項目さくいんページの"インテリア"を選択してください。



P82.87-7809-31

① トピックバー

② 選択した項目さくいん

③ 作動している車両構成部品

▶ COMAND コントローラーを回して 〔◎〕、個別の車両構成部品を選択します。
個別の車両構成部品が赤いライトで強調されます。 表示につき 1 個の構成部品のみが強調されます。

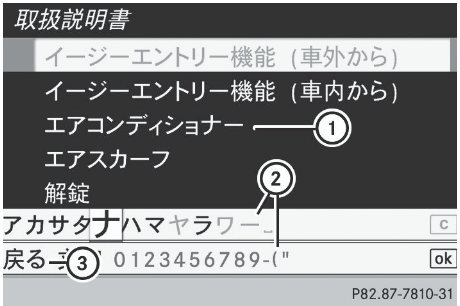
▶ 今選択されている項目を確定するには、COMAND コントローラーを押します ◎。

項目を選択した後、以下のいずれかが続いて表示されます。

- デジタル版取扱説明書の該当する項目に直接進みます。
- さらに詳細なさくいんが記載されたリストが開きます。COMAND コントローラーを使用して選択できます。
- 画像検索の階層に下がります。 ここでは COMAND コントローラーをまわし、赤色 ③ で強調されている個別の車両構成部品を選択して、より特定して検索することができます。

キーワード検索

キーワード検索では、文字入力を使用してキーワード検索を行なうことができます。 文字入力の詳しい説明は、"COMAND システム" のさくいん "ナビ - 文字入力（文字バー）"をご覧ください。



① 使用できるキーワードの選択リスト

② 文字バー

③ [↩] リターンスイッチ

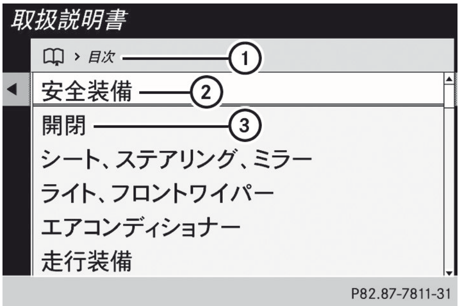
▶ **キーワードを入力する：** COMAND コントローラーを回す 〔◎〕、またはスライドさせて ↑◎↓←◎→、文字を選択します。

▶ 文字を確定するには、COMAND コントローラーを押します ◎。
選択リスト ① がフィルタにかけられます。

▶ COMAND システムが自動的に選択リスト ① にジャンプするまで、同様に文字を選択します。
代わりに、OK を押して選択リスト ① を呼び出すことができます。

目次

目次には、トピックが印刷版取扱説明書と同じ順序で記載されています。 項目を選択した後に、小項目を選択することができます。



① トピックバー

② 目次の中で今選択されている項目

③ 目次の中で今選択されていない項目

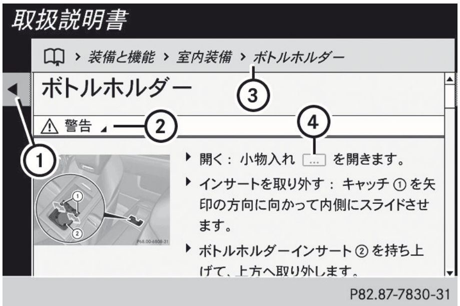
▶ COMAND コントローラーをまわすか ⟲◎⟳、またはスライドして ↑◎↓←◎→、希望する項目を選択します。

▶ 項目を確定するには、COMAND コントローラーを押します ◎。

さらに該当する小項目を含む選択リストが開きます。

▶ 該当する小項目を同じように選択します。

操作



例：ページの表示

① リターンスイッチ

② 非表示の警告

③ トピックバー

④ 続きの章へのリンク

▶ **ページ内を移動する：** COMAND コントローラーをまわして ⟲◎⟳、文字を上または下にスクロールします。

▶ **ページから移動する：** COMAND コントローラーを左にスライドして ←◎、リターンスイッチ ① を選択します。

前のページが開きます。

または

▶ COMAND コントローラーを上方へスライドさせて ↑◎ 、トピックバー ② を選択します。

▶ COMAND コントローラーを回す ⟲◎⟳ 、またはスライドさせて ↑◎↓←◎→ 、希望する項目または小項目を選択します。

選択したトピックバーがすべての小項目を含めて開きます。

▶ **リンク ④ を選択する：** テキストをスクロールすると、カーソルが自動的にリンクにジャンプします。 リンクを選択しているときは、COMAND コントローラーを押します ◎ 。

希望する目次のページが開きます。

▶ **警告、注意、環境関連の注意および故障情報を開く：** テキストをスクロールすると、カーソルが自動的に警告、環境情報や故障情報のドロップダウン表示にジャンプします。 注意を選択した場合は、COMAND コントローラーを押します ◎ 。

警告、注意、環境関連の注意や故障情報は、同じページで開きます。

▶ **デジタル版取扱説明書を終了する：** ⮌ スイッチを押します。

デジタル版取扱説明書の基本メニューが開きます。

▶ [↩] スイッチを再度押します。

または

▶ COMAND コントローラーを下にスライドして ↓◎、中止 フィールドを選択し、押して ◎ 確定します。

COMAND システム機能の概要が開きます。

▶ **機能スイッチを使用してデジタル版取扱説明書から COMAND システムに機能を切り替える：** COMAND システムのスイッチ RADIO、TEL、DISC または NAVI を押します。

希望するメニューが開きます。

▶ **デジタル版取扱説明書に戻る：** COMAND コントローラーを使用して、メニューバーのアイコンを選択し 🌐 、押して確定します ◎ 。

前回表示されていたデジタル版取扱説明書のページが開きます。

ℹ 安全上の理由から、"デジタル版取扱説明書"機能は、走行中はオフになります。

環境保護

全体的な注意事項

環境保護に関する注意

Daimler AG は、包括的な環境保護の一つとして対策を明確にしています。

それは、地球上で少しずつ使われ、自然と人間双方の要求に注意を促す、我々の存在の源となる自然資源のためです。

環境的に配慮のある方法で車両を操作することも、環境を保護する一助になります。

燃費やエンジン回転、トランスミッション、ブレーキ、タイヤの摩耗具合は、以下の要因に左右されます。

- お客様の車両の操作状況
- お客様の個人的な運転スタイル

お客様は、いずれの要因にも影響を及ぼしています。 以下のことにご留意ください。

操作状況

- 消費燃料が増えますので、短距離の走行は避けてください。
- タイヤの空気圧が常に適正であることを確認してください。
- 不要な重量物は積載しないでください。
- 車両の燃費に注意してください。
- 必要でない場合は、ルーフラックを取り外してください。
- 定期的な車両の整備は、環境保護に貢献します。 整備の間隔を守ってください。
- 点検整備は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

個人的な運転スタイル

- エンジンを始動する際は、アクセルペダルを踏まないでください。
- 車両を停止したままのエンジン暖機は行なわないでください。
- 注意して運転し、前方の車両との適切な距離を保持してください。
- 頻繁な、または急な加速は避けてください。
- 適切なタイミングでギアを変え、それぞれのギアの使用は、エンジン最高回転数の ⅔ までにとどめてください。
- 渋滞している時は、エンジンを停止してください。

取扱説明書

全体的な注意事項

最初に車をご使用になる前に、本取扱説明書をお読みになり、車両についての理解を深めてください。

お客様ご自身の安全とより長い期間車両をご使用いただくために、本説明書の指示と警告に関する項目に従ってください。 それらに従わないと、車両を損傷したり、けがをするおそれがあります。

車両の装備

車両の標準およびオプション装備については、別添をご覧ください。

装備や操作について不明点があるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

取扱説明書と整備手帳は重要な書類ですので、車内に保管してください。

使用に関する安全

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

車両へのあらゆる作業、特に安全や安全に関連したシステムに関する作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。 専門工場は、作業に要求される必要かつ専門的な知識と工具を備えていなければなりません。 メルセデス・ベンツではメルセデス・ベンツ指定サービス工場をご利用いただくことをお勧めします。

⚠ **警告**

いくつかの安全システムはエンジンがかかっているときにのみ機能します。そのため、走行しているときはエンジンを停止しないでください。車両の安全システムが適切に機能しなくなり、その結果、想定したようにお客様や他の方を保護できなくなります。さらに、車両のコントロールを失い、事故の原因になる危険性があります。

⚠ **警告**

不適切に行なわれた作業、またはカバー内のケーブルの再配線などの車両への変更は、車両の安全システムが適切に作動しなくなる原因になります。そして、安全システムは、想定したようにお客様や他の方を保護しなくなります。さらに、車両のコントロールを失い、事故の原因になる危険性があります。

装着や改造など、車両へのあらゆる作業や変更は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ **警告**

電気装備やそのソフトウェアへの作業が不適切に行なわれたときは、これらの装備が作動しなくなるおそれがあります。電気装備は、インタフェースを通じてネットワークされています。電気装備の変更は、改造を施していないシステムの誤作動の原因になります。これらの誤作動は、車両の安全な操作、さらにお客様自身の安全を著しく損なうおそれがあります。

電気構成部品へのあらゆる作業や改造は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ **警告**

速い速度で障害物を乗り越えたり、悪路で車両の底部をぶつけることは、車両のボディ下部やタイヤ、またはホイールに大きな衝撃を与える原因になります。これらは、結果的に事故につながるような車両の損傷の原因になります。保護用のアンダーボディが装着されている車両にも、このことは当てはまります。

障害物を乗り越えるときは、ゆっくり走行してください。 悪路を走行するときは、車両の底部をぶつけないようにし、必要であれば、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で車両の点検を受けてください。

オンボードダイアグノシスインターフェース

⚠ **警告**

装備を診断機の接続部に接続すると、車両システムの操作に影響を与える場合があります。 これは走行中の車両の操作安全性に影響を及ぼすおそれがあります。事故の危険性があります。

いかなる装備品も診断機の接続部に接続しないでください。

⚠ **警告**

診断機の接続部に接続されている装備品やケーブルをゆるめると、ペダル付近の空間の邪魔になることがあります。 急ブレーキ時や急加速時に、装備品やケーブルがブレーキペダルやアクセルペダルに引っかかるおそれがあり危険です。 ペダルの動作に影響をあたえるおそれがあります。 事故の危険性があります。

運転者の足元に装備品やケーブルを装着しないでください。

! エンジンが停止しているときに診断機の接続部の装備品を使用すると、スターターバッテリーが放電することがあります。

診断機の接続部は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で診断機器のみを接続するように想定されています。

診断機器を診断機の接続部に接続すると、例えば排出ガスモニター情報のリセットにつながります。 これにより、次回の主要な点検の際の排出ガス試験の要

件に適合しなくなることにつながります。

日常点検および点検整備

お客様自身の責任において日常点検と定期検査を行なうことが法律で定められています。 それぞれの検査手順についての詳細情報は、整備手帳をご覧ください。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場

メルセデス・ベンツ指定サービス工場は、車両に必要とされる適切な作業を行なうための、必要とされる専門的な知識、工具および資格があります。これは特に安全に関する作業に当てはまります。

整備手帳にある注意に従ってください。

以下の作業については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

- 安全に関する作業
- 整備やメンテナンス作業
- 修理作業
- 改造、装着、交換
- 電子部品の作業

メルセデス・ベンツではメルセデス・ベンツ指定サービス工場をご利用いただくことをお勧めします。

車両に記憶されているデータ

故障データ

車両操作で重要となる部品には、故障データメモリーが標準で装備されています。 特定の走行状況（エアバックの作動または ESP® の介入など）で車両の部品がどのように反応したかを記録するデータ保存機器もあります。

これらのデータは以下のことにのみ使用されます。

- 故障や不具合の改良の支援
- メルセデス・ベンツが車両の機能の改良および開発を行なうときの支援

データを使用して、車両の動きをたどることはできません。

お客様の車両がメルセデス・ベンツ指定サービス工場で整備を受けたときは、この技術情報が故障メモリーから読み出されます。 この作業は、特別な診断コンピューターを使用して、メルセデス・ベンツ指定サービス工場の認定された従業員により行なわれます。

故障が解決されたあと、情報はメモリーから消去されます。 そのほかのメモリーデータは、絶えず上書きされています。

データを保存する他の機器

装備状況に応じて、お客様の車両にはコミュニケーションやエンターテインメントシステム（ナビゲーション機器や電話システムなど）が装備されています。 お客様は、これらの機器を操作する上で必要となるデータの保存や編集を行なうことができます。

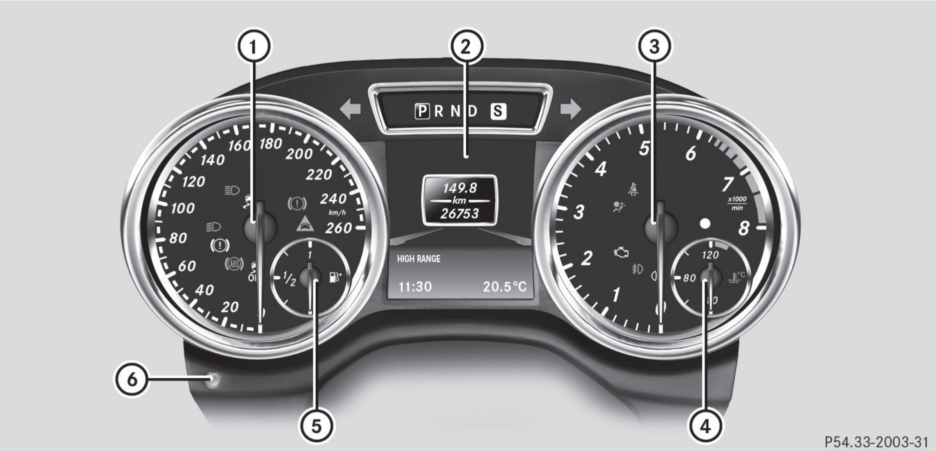
操作（データの消去など）についての詳細情報については、別冊の取扱説明書をご覧ください。

運転席 28
メーターパネル 29
マルチファンクションステアリング 31
センターコンソール 32
ルーフオペレーティングユニット . 34
ドア操作パネル 35

運転席

メーターパネル

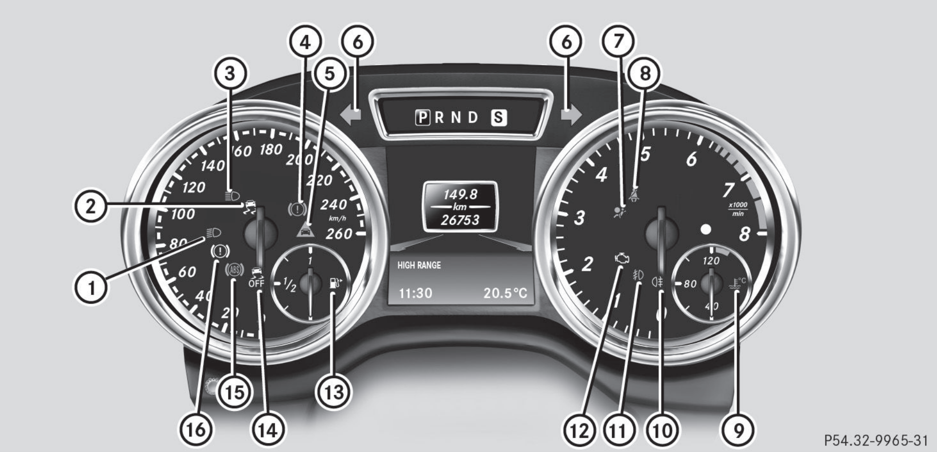
ディスプレイおよび操作



P54.33-2003-31

	機能	ページ
①	セグメント付きスピードメーター	150
②	マルチファンクションディスプレイ	150
③	タコメーター	150
④	エンジン冷却水温度計	150
⑤	燃料計	
⑥	メーターパネル照度調整	150

警告灯と表示灯

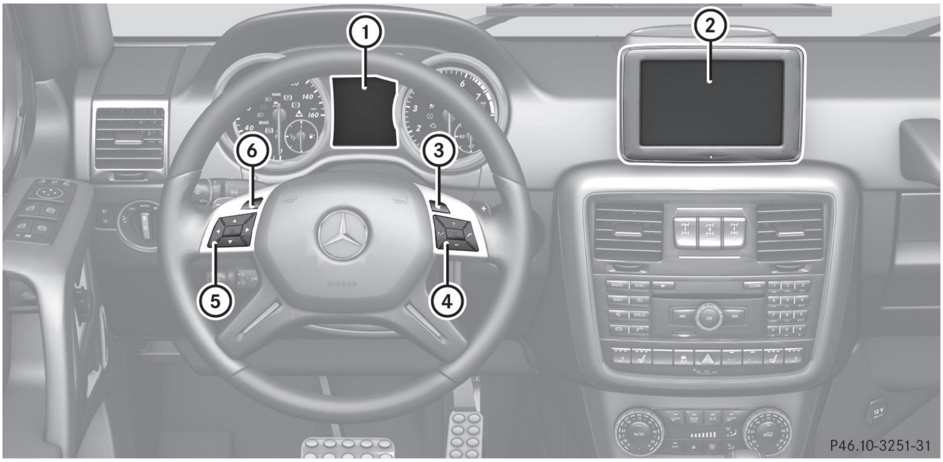


P54.32-9965-31

	機能	ページ
①	ヘッドライト表示灯	86
②	ESP®表示灯	173
③	ハイビーム表示灯	87
④	ブレーキ警告灯（黄色）	168
⑤	車間距離警告灯	178
⑥	方向指示灯	87
⑦	SRS 警告灯	176
⑧	シートベルト警告灯	167

	機能	ページ
⑨	冷却水警告灯	177
⑩	リアフォグランプ表示灯	87
⑪	フロントフォグランプ表示灯	86
⑫	エンジン警告灯	
⑬	燃料残量警告灯	
⑭	ESP® オフ表示灯	173
⑮	ABS 警告灯	170
⑯	ブレーキ警告灯（赤色）	168

マルチファンクションステアリング

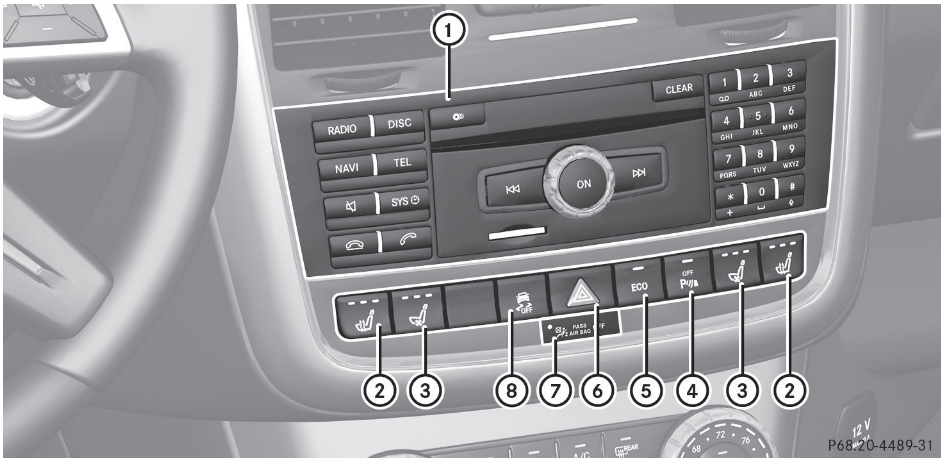


	機能	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	
②	COMAND ディスプレイ	
③	音声認識のオン：別冊の取扱説明書をご覧ください	
④	通話を拒否する、または終了する 電話帳 / 発信履歴を終了する 発信する、または受ける リダイアルメモリーに切り替える + − 音量の調整 ミュート	

	機能	ページ
⑤	◀ ▶ メニューを選択する ▲ ▼ サブメニューの選択またはリストのスクロール OK 選択を確定して、メッセージを非表示にする	
⑥	前の画面に戻る 音声認識のオフ：別冊の取扱説明書をご覧ください	

センターコンソール

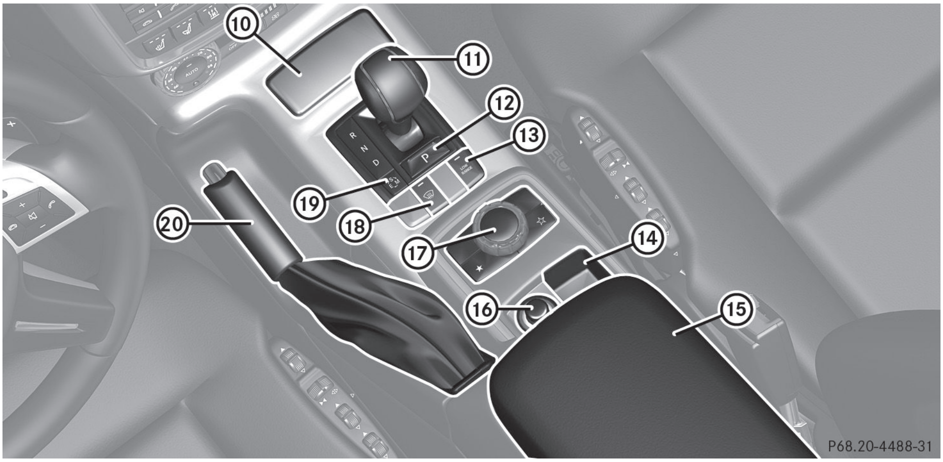
センターコンソール、上部



	機能	ページ
①	オーディオシステムについては、別冊の取扱説明書をご覧ください。 COMAND システム	
②	シートヒーター	82
③	シートベンチレーター	81
④	パークトロニック	135

	機能	ページ
⑤	ECO ECO スタート / ストップ機能	104
⑥	非常点滅灯	86
⑦	PASS AIR BAG OFF 表示灯	
⑧	OFF ESP®表示灯	63

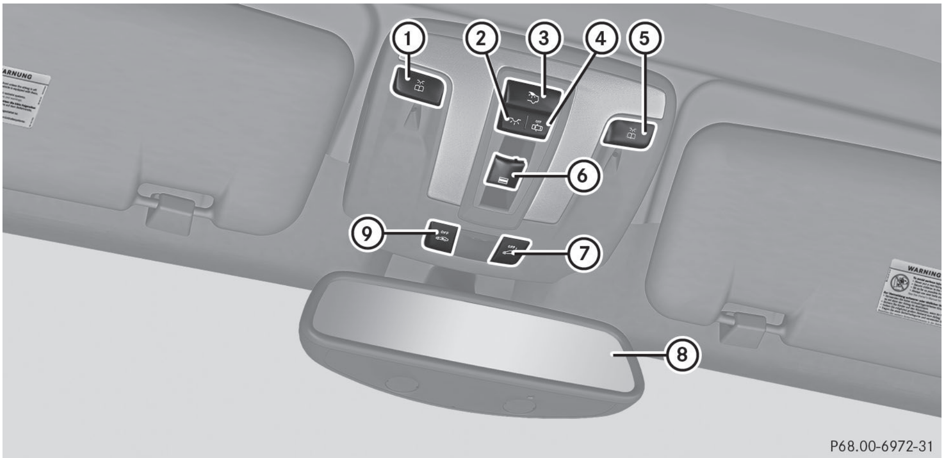
センターコンソール、下部



	機能	ページ
⑩	小物入れ / 灰皿	208
⑪	オートマチックトランスミッションセレクターレバー	104
⑫	パーキングポジションを選択する	104
⑬	LOW RANGE LOW RANGE オフロードギヤの選択 / 解除	140
⑭	小物入れ	
⑮	小物入れの開閉	201

	機能	ページ
⑯	ライター	208
⑰	オーディオコントローラーについては、別冊の取扱説明書をご覧ください。 COMAND コントローラー	
⑱	ウインドウガラスヒーターオン / オフ切り替え	97
⑲	S E M 走行モード選択	105
⑳	パーキングブレーキ	110

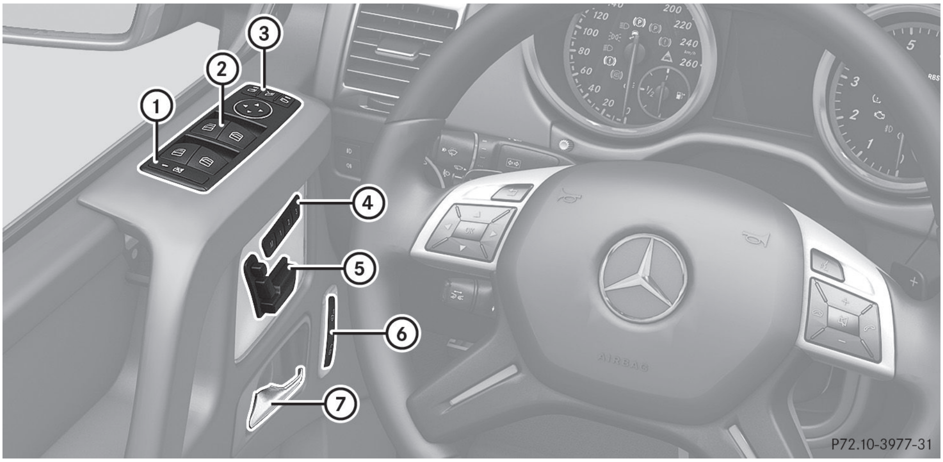
ルーフオペレーティングユニット



P68.00-6972-31

	機能	ページ
①	左側読書灯点灯/消灯の切り替え	88
②	フロントルームライト点灯	88
③	リアルームライト点灯 / 消灯の切り替え	88
④	フロントルームライト消灯 / ルームライト自動コントロールのオフ	88
⑤	右側読書灯点灯/消灯の切り替え	88
⑥	スライディングルーフの開閉	76
⑦	けん引防止機能の解除	67
⑧	ルームミラー	83
⑨	室内センサーの解除	68

ドア操作パネル



	機能	ページ
①	[記号] 後席のサイドウインドウのオーバーライド機能の設定 / 解除	61
②	[記号] サイドウインドウの開閉	75
③	[記号] 左側ドアミラー選択スイッチ [記号] ドアミラー格納 / 展開スイッチ [記号] 右側ドアミラー選択スイッチ [記号] ドアミラーを電動で調整する	83

	機能	ページ
④	M 1 2 3 シート、ドアミラーおよびステアリングの設定の保存（メモリー機能）	83
⑤	シートの調整	81
⑥	[記号] [記号] 車両の施錠/解錠	74
⑦	ドアレバー	74

役に立つ情報 38
乗員安全装備 38
子供を乗せるとき 48
走行安全システム 61
盗難防止システム 66

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国により、仕様が異なる場合があります。 お買い上げいただいた車両には、記載されているすべての内容が備わっていないことがあります。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 26 ページ).

乗員安全装備

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

整備作業が適切に行なわれていない場合は、車両の走行安全性が損なわれるおそれがあります。 その結果、車両のコントロールを失い、事故を起こす原因になります。また、安全装備が本来の機能を発揮しなくなり、運転者や同乗者を保護することができなくなるおそれがあります。

点検整備や修理などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

⚠ **警告**

乗員保護装置の以下の構成部品を改造したり、不適切な作業を行なわないでください。正常に作動しなくなったり誤作動し、傷害を負うおそれがあります。

- シートベルトとベルトアンカー、シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター、エアバッグを含む乗員保護装置
- 配線
- 車載ネットワークで接続された電子制御部品

不適切な作業を行なうと、衝突の際に車両の減速度がシステムを作動させるのに十分な高いレベルに達しても、エアバッグやシートベルトテンショナーが正常に作動しなくなったり、誤作動するおそれがあります。 決して乗員保護装置を改造しないでください。

また、決して車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。

シートベルトは乗員保護補助装置、SRS (▷ 39 ページ)とともに補足し合い、一緒に作動する保護システムです。 これらは、あらかじめ定義された種類の事故の状況においてけがの危険性を低減し、乗員の安全性を高めます。 ただし、シートベルトとエアバッグは外側から車両に侵入した物に対する保護は一般的には行ないません。

エアバッグは、シートベルトを着用した乗員の保護機能を高めます。 そのため、エアバッグはシートベルトの効果を補助する乗員保護装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。 車両にエアバッグが装備されていても、乗員全員が常に正しくシートベルトを着用する必要があります。 エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。 たとえば、エアバッグの作動が正しく着用したシートベルトの保護効果を高めると判断されない場合、エアバッグは作動しません。

エアバッグはシートベルトを正しく着用している場合にのみ、シートベルトの保護機能を高めることができます。1 つ目は、 シートベルトを着用することで、乗員とエアバッグの間に適切な距離を保つことができます。 2 つ目に、正面衝突などの際に、シートベルトは乗員が衝撃を受けた方向に投げ出されるのを防ぐことができます。

SRS（乗員保護補助装置）

概要

SRS は、事故の際に乗員が車室内の部品にぶつかる危険性を低減します。 また事故の際に乗員が受ける衝撃を緩和させます。

SRS は、以下のシステムで構成されています。

- SRS 警告灯
- エアバッグ
- エアバッグコントロールユニット（クラッシュセンサー付き）
- シートベルトテンショナー
- ベルトフォースリミッター

SRS 警告灯

⚠ 警告

SRS に異常が発生すると、各システムが偶発的に作動したり、減速度が大きい事故が起きても正常に作動しなくなるおそれがあります。

以下のときは、異常が発生しています。

- エンジンスイッチをオンにしても SRS 警告灯 が点灯しないとき
- エンジンを始動して数秒間経過しても SRS 警告灯 が消灯しないとき
- エンジンをかけた状態で SRS 警告灯 が再び点灯するとき

このような場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で SRS の点検を受けてください。

SRS の機能は、エンジンスイッチをオンにしたときやエンジンの作動中に定期的に診断されています。 そのため、異常が発生するとただちに検出することができます。

メーターパネルの SRS 警告灯 は、イグニッションをオンにすると点灯します。 エンジンが始動した後、数秒以内に消灯します。

シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター、エアバッグの作動

衝突の初期段階で、エアバッグコントロールユニットは、以下のような車両の減速度または加速度に関する重要な物理的データを判断します。

- 衝撃の作用した時間
- 方向
- 衝撃の強さ

これらのデータを判断して、エアバッグコントロールユニットは衝突の初期段階でシートベルトテンショナーを事前に作動させます。

ⓘ シートベルトテンショナーは、シートベルトのプレートが正しくバックルに差し込まれている場合にのみ作動させることができます。

車両の縦方向の減速度または加速度がさらに大きくなると、フロントエアバッグも作動します。

お客様の車両にはデュアルステージ運転席エアバッグおよびシングルステージ助手席エアバッグが装備されています。 エアバッグコントロールユニットは、衝突の際に車両の減速度または加速度を評価します。 最初の作動段階では、運転席エアバッグはけがの危険性を減少させるために十分な火薬ガスで満たされます。 数ミリ秒以内に 2 番目の作動規定値を超えた場合は、フロントエアバッグは完全に作動します。 助手席エアバッグは、衝突の瞬間の 1 段階で最大量の火薬ガスで満たされます。

シートベルトテンショナーとエアバッグの作動基準値は、車両の減速度または加速度に応じて適切に設定されます。 このプロセスは事前に実行されます。 作動決

定プロセスは、衝突の初期段階で早い時期に行なわれる必要があります。

ℹ エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。 さらに、事故ですべてのエアバッグが一緒に作動するわけでもありません。各エアバッグシステムは、それぞれ独立して作動します。

エアバッグシステムがどのように作動するかは、検知された衝突の激しさ、とくに車両の減速度または加速度、および以下の事故の形態で決定されます。

- 正面衝突
- 側面衝突
- 横転
- 後面衝突（追突）

車両の減速度や加速度、衝撃の方向は、基本的に以下の要素によって決まります。

- 衝突時の衝撃エネルギーの分散度
- 衝撃の角度
- 車体の変形状態
- 車両と衝突した物体の特性

衝突の発生後に検知される要素は、エアバッグの作動条件とは必ずしも一致しません。また、エアバッグを展開させる基準とはなりません。

衝突時にボンネットやフェンダーなど車体が著しく変形していながら、エアバッグが作動しない場合があります。 変形しやすい衝撃吸収部品のみが衝突の影響を受け、エアバッグを作動させるのに十分な減速度に達していない場合です。 反対に、車体の変形状態が軽度であってもエアバッグが作動することがあります。 縦方向のボディメンバーなど高剛性の部品が衝撃を受けたため車両の減速度が十分高いレベルに達した場合などです。

エアバッグ

重要な安全上の注意

⚠ 警告

エアバッグは補助的な乗員保護装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。

エアバッグの作動により重大なけがをしたり死亡したりする危険性を軽減するため、以下の注意事項をお守りください。

- 妊娠中の女性も含めて、乗員全員が常にシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直にしてシートに深く腰かけてください。 ヘッドレストは、中央部が目の高さになるように調整してください。
- 身長約 150 cm 未満および 12 歳未満の子供は、適切なチャイルドセーフティシートに乗せて身体を固定してください。
- 乗員全員がシート位置を正しく調整し、エアバッグとの間隔をできるだけ確保してください。 運転席シートの位置は、安全運転を妨げないように調整してください。 運転者の胸と運転席エアバッグの距離をできるだけ確保してください。
- 助手席シートはできるだけ後方に移動してください。 特に、助手席にチャイルドセーフティシートを装着して子供を乗せるときは助手席シートを後方に移動することが大切です。
- 車両乗員 ― 特に子供 ― はウインドウバッグが作動するウインドウの範囲に頭部をもたれさせないでください。
- 助手席フロントエアバッグが無効になっている場合を除いて、後ろ向きのチャイルドセーフティシートを助手席シートに装着しないでください。 助手席シートでは、チャイルドセーフティシート自動検知装備のチャイルドセーフティシートがチャイルドセーフティシート自動検知装備車両の助手席シートに装着されている場合は、助手席エアバッグは無効になります。助手席エ

アバッグオフ表示灯 [icon] が点灯し続けなければなりません。

車両の助手席シートにチャイルドセーフティシート自動検知がない場合、または後ろ向きチャイルドセーフティシートにチャイルドセーフティシート自動検知がない場合は、後席の適切なシートのチャイルドセーフティシートに子供を固定しなければなりません。助手席シートに前向きのチャイルドセーフティシートを固定する場合は、助手席シートをできるだけ後方に移動しなければなりません。

- 衣服のポケットに重い物やとがった物を入れないでください。
- 特に走行中は、運転席フロントエアバッグ / 助手席エアバッグの格納部にもたれかかったりしないでください。
- ダッシュボードの上に足をのせないでください。
- ステアリングは必ず外側を握ってください。 それにより、エアバッグを十分に膨らませることができます。 ステアリングの内側を握った状態でエアバッグが作動すると、運転者がけがをするおそれがあります。
- ドアに寄りかからないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間にペットや荷物を置かないでください。
- バックレストとドアの間に物を置かないでください。
- アシストグリップやコートフックに、コートハンガーなどのかたい物をかけないでください。
- ドアにカップホルダーなどのアクセサリーを取り付けないでください。

エアバッグは瞬時に作動する必要があるため、エアバッグの作動によりけがをする危険性を排除することは不可能です。

⚠ 警告

エアバッグを確実に機能させるため、以下のエアバッグ格納部には、バッジ、ステッカーなどを取り付けないでください。

- ステアリングパッド部
- 助手席フロントエアバッグカバー

⚠ 警告

エアバッグが作動すると、少量の白煙が発生することがあります。 この白煙を吸い込むと、ぜんそくや肺疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがあります。

呼吸障害を防止するため、安全を確認のうえただちに車外に出てください。 または、ウインドウを開いて新鮮な空気を車内に取り込んでください。 この白煙は、人体への影響はありません。また、火災の心配はありません。

⚠ 警告

エアバッグが作動した直後は、エアバッグの構成部品が熱くなっています。 やけどの原因となりますので、エアバッグの構成部品には触れないでください。

作動したエアバッグは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。 交換しないと、次に事故が起こった際にエアバッグで乗員を保護できません。

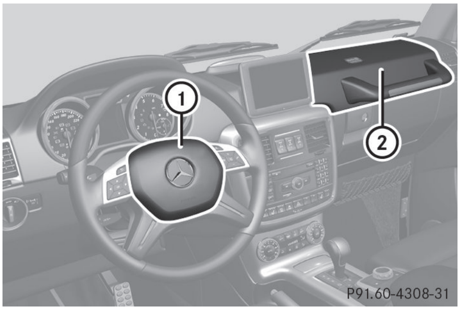
衝突の際にエアバッグが作動すると、乗員の身体の移動を抑えて拘束します。

エアバッグが作動するときに、作動音が聞こえ、空中に少量の白煙が発生することがあります。 作動音は、ごくまれに聴力に影響を与えることがあります。 放出される白煙は人体への影響はありません。 SRS 警告灯 [icon] が点灯します。

エアバッグの格納場所には、エアバッグのマークが付いています。

フロントエアバッグ

! 助手席シートには重い物を置かないでください。 助手席シートに乗員が座っているとシステムが誤って判断する原因になり、衝突の際に助手席エアバッグが作動するおそれがあります。作動したエアバッグは新品と交換してください。



運転席エアバッグ ① はステアリング正面で膨らみ、助手席エアバッグ ② はグローブボックスの正面と上部で膨らみます。

フロントエアバッグは、運転者と助手席乗員の頭部、頸部および胸部の保護を高めます。

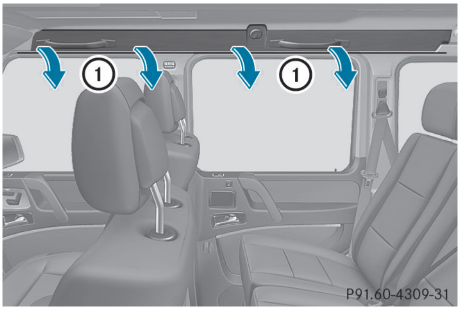
ヘッドバッグは以下のときに作動します。

- 衝突の初期段階で、車両の縦方向に一定以上の高い加速度または減速度を検知したとき
- エアバッグの作動が、シートベルトの乗員保護機能を高めるとシステムが判断したとき
- 車内の他のエアバッグの作動に関係なく作動します。
- シートベルト着用の有無に応じて作動します。

車両が横転または転覆したときは、フロントエアバッグは通常作動しません。 システムが車両の縦方向に一定以上の減速度を検知したときに、フロントエアバッグは作動します。

助手席エアバッグ ② は、助手席に乗車しているとシステムが検知したときにのみ作動します。 センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯 は点灯しません(▷ 50 ページ)。 これは、チャイルドセーフティシート自動検知非装備のチャイルドセーフティシートが助手席シートに装着されているか、またはチャイルドセーフティシート自動検知装備のチャイルドセーフティシートが不適切に装着されていることを意味します。

ウインドウバッグ



G クラス オフロード車両、ロングホイールベースバージョンにはウインドウバッグが装備されています。

ウインドウバッグ ① は、車両の衝撃が発生した側の乗員の胸部や腕ではなく、頭部の保護レベルを高めます。

ウインドウバッグ ① はルーフフレーム側面に内蔵され、フロントドア（A ピラー）からリアドア（C ピラー）にわたる範囲で作動します。

ウインドウバッグ ① は以下で作動します。

- 衝撃を受けた側
- 側面衝突などの初期段階で、車両の横方向の加速度または減速度が高くなったとき
- 助手席乗員の有無に関わらず作動します。

- シートベルトの着用に関わらず作動します。
- 車両が横転または転覆した際に、ウインドウバッグの作動がシートベルトによる乗員保護効果を高めることができるとシステムが判断したとき
- フロントエアバッグの作動に連動しません。

シートベルト

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、シートベルトの本来の保護機能が十分に発揮されません。 事故のとき、状況によっては乗員が致命的なけがをするおそれがあります。

妊娠中の女性も含めて、乗員全員が常にシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直にしてシートに深く腰かけてください。ヘッドレストは、中央部が目の高さになるように調整してください。

- シートベルトは身体に密着させ、ねじれのないように着用してください。コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。 肩ベルトは肩の中央にかけてください。絶対に首や脇の下には通さないでください。また、シートベルトを引き上げて上半身に密着させてください。 腰ベルトは、腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。 必要であれば、ベルトを少し押し下げた後、再び引き戻してたるみを取ってください。
- とがった物やこわれやすい物にベルトストラップをかけないでください。これは特に、メガネ、ペン、鍵などが衣類の中、または表面にあるときがそうです。事故の際にシートベルトが損傷して裂け、運転者や他の乗員がけがをするおそれがあります。
- 各シートベルトは必ず 1 人の乗員が使用します。 絶対に子供を膝の上に座らせて走行しないでください。 急な進路変更時やブレーキ時、衝突時に子供を保護することができなくなります。 その結果、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。
- 身長約 150 cm 未満の乗員は、シートベルトを正しく着用することができません。 そのため身長約 150 cm 未満の乗員は、体格に応じた専用の乗員保護装置を使用してください。
- 身長約 150 cm 未満または 12 歳未満の子供は、シートベルトを正しく着用することができません。 そのため、適切なシートの適切なチャイルドセーフティシートに常に固定してください。 さらなる情報は、本取扱説明書安全装備の章にある"子供を乗せるとき"をご覧ください。 チャイルドセーフティシートを装着するときは、メーカーの装着指示に従ってください。
- 乗員が着用しているシートベルトで荷物などを固定しないでください。

⚠ **警告**

バックレストをできるだけ垂直に近い位置にしないと、シートベルトの保護機能が十分に発揮できません。 衝突の際に、乗員が致命的なけがをするおそれがあります。

走行する前に、シートが正しい位置に調整され、バックレストがほぼ垂直になっていることを確認してください。

⚠ **警告**

汚れたり損傷しているシートベルトや、改造されたシートベルト、事故で衝撃を受けたシートベルトは、本来の保護機能を発揮することができません。 事故のとき、状況によっては乗員が致命的なけがをするおそれがあります。

シートベルトに汚れや損傷がないか定期的にチェックしてください。

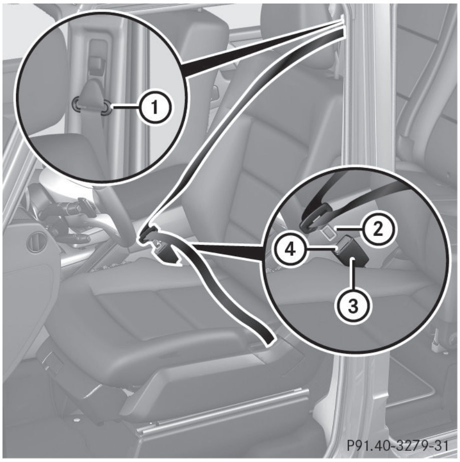
損傷したシートベルトや事故で衝撃を受けたシートベルトはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

安全のため、必ず車両に適合するメルセデス・ベンツ純正のシートベルトを使用してください。

シートベルトは、衝突の際に乗員の身体の移動を最も効果的に抑えることができる拘束装置です。 乗員を拘束することにより、乗員が車内の部品にぶつかるのを防ぎます。

シートベルトの着用

3 点式シートベルト、フロント



▶ シートを調整し、バックレストをほぼ垂直の位置に動かします。 (▷ 80 ページ)

▶ シートベルトをベルトアンカー ① からゆっくり引き出します。

▶ ねじれないようにして、シートベルトの肩の部分が肩の中央にかかるように、腰の部分が臀部にかかるように通します。

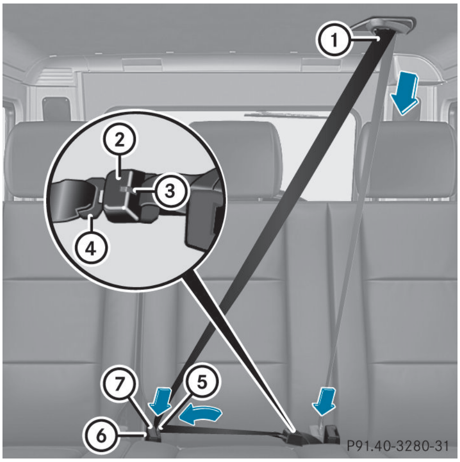
▶ プレート ② をバックル ③ に差し込みます。

▶ 必要であれば、シートベルトを適切な高さに調整します(▷ 45 ページ)。

▶ 必要であれば、肩ベルトを上方に引いて、シートベルトを身体に密着させます。

解除スイッチ ④ でのシートベルトの解除に関するさらなる情報(▷ 46 ページ)。

リア、中央の 3 点式シートベルト



① シートベルトプレートのブラケット

② 固定式ベルトプレートのベルトバックル

③ 固定式ベルトプレートの解除スイッチ

④ 固定式ベルトプレート

⑤ 可動式ベルトプレートのベルトバックル

⑥ 可動式ベルトプレートの解除スイッチ

⑦ 可動式ベルトプレート

- シートベルトプレート ④ および ⑦ 両方をブラケット ① から引きます。

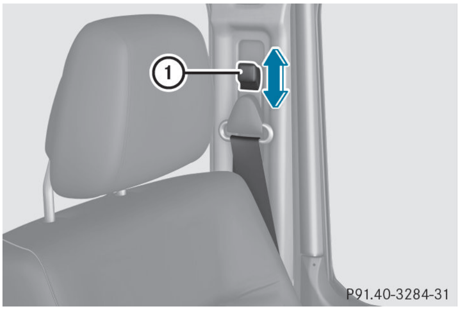
- リトラクターからシートベルトを引き出します。
- 固定式シートベルトプレート ④ をバックル ② に固定します。

- 可動式シートベルトプレート ⑦ を引き、シートベルトを身体にかけます。ねじれがないように、シートベルトの肩の部分が肩の中央にかかるように、腰の部分が臀部にかかるように通します。
- 可動式シートベルトプレート ⑦ をバックル ⑤ に固定します。
- 必要であれば、肩ベルトを上方に引いて、シートベルトを身体に密着させます。

解除スイッチ ⑥ および ③ でのシートベルトの解除に関するさらなる情報 (▷ 46 ページ)。

シートベルトの高さ調整

運転席および助手席シートならびに外側リアシートのベルトの高さを調整することができます。

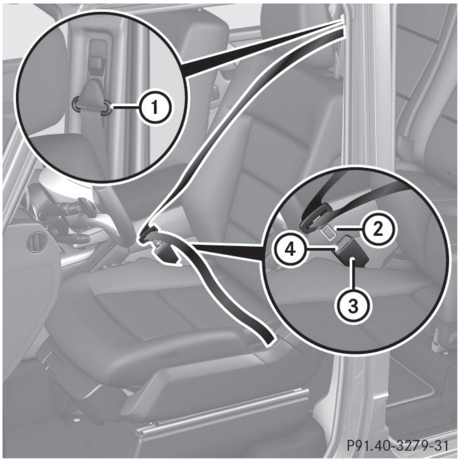


肩ベルトが肩の中央にかかるように高さを調整してください。

- ▶ **上げる：** ベルトアンカーをそのまま引き上げます。
  ベルトアンカーはお好みの位置に調整できます。
- ▶ **下げる：** ベルトガイドのロック解除 ① を前方に引いて保持します。
- ▶ そのままベルトアンカーを下にスライドさせます。
- ▶ ベルトガイドのリリース ① をはなし、ベルトガイドがロックされていることを確認します。

シートベルトの解除

! シートベルトが完全に巻き取られていることを確認してください。 ベルトが完全に収納されていないと、シートベルトやプレートがドアに挟まれたりシート機構に引っかかることがあります。 その結果、ドアやドアトリムパネル、シートベルトを損傷するおそれがあります。 損傷したシートベルトは保護機能を果たすことができなくなるため、必ず新品と交換してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。



- ▶ バックル ③ の解除スイッチ ④ を押して、ベルトプレート ② をベルトガイド ① に向かって戻します。

運転席および助手席のシートベルト着用警告

メーターパネルのシートベルト警告灯 [icon] は、乗員にシートベルトの着用を促します。 警告灯は点灯し続けるか点滅します。 また、警告音が鳴る場合もあります。

運転者と助手席乗員がシートベルトを着用すると、シートベルト警告灯 [icon] が消灯し、警告音が鳴り止みます。

特定の国のみ： 運転者および助手席乗員がシートベルトを着用しているかどうかに関わらず、エンジン始動後にシートベルト警告灯 [icon] が約 6 秒間点灯します。運転者と助手席乗員がシートベルトを着用した場合は消灯します。

i シートベルト警告灯 [icon] に関するさらなる情報(▷ 167 ページ)。

シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター

⚠ 警告

ベルトバックルが妨げられることなく引き下げることができる場合にのみ、後席のシートベルトテンショナーは作動します。いずれにしてもそれらは制限されてはいけません。そのため、ベルトバックルをつかんだり、ベルトバックルの下に物を置かないでください。さもないと、バックルによるベルトの張力が制限されたり、または作動せず、補助的な保護をもたらしません。

⚠ 警告

シートベルトテンショナーは一度作動すると、保護機能がなくなり再使用できません。 したがって、作動したシートベルトテンショナーはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

シートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄規則をお守りください。 この規則について詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 助手席に乗車していない場合は、助手席シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。 衝突の際にシートベルトテンショナーが作動することがあります。

▶ 火薬式シートベルトテンショナーが作動していないことを確認するために、事故の後は必ずシートベルトを点検してください。
シートベルトテンショナーが作動していた場合は、それらを交換しなければなりません。

フロントシートベルトとリア外側のシートベルトには、シートベルトテンショナーとベルトフォースリミッターが装備されています。

シートベルトテンショナーは、衝突時にシートベルトを瞬時に巻き上げ、乗員の身体に密着させる働きをします。

ただし、シートベルトテンショナーは、適切でないシート位置や正しく着用していないシートベルトを補正することはできません。

シートベルトテンショナーは、乗員の上体をバックレストに引き寄せるためのものではありません。

ベルトフォースリミッター付きシートベルトでは、ベルトフォースリミッターが作動して衝突時に巻き上げたベルトの拘束力を緩め、乗員の身体を加わる負担を軽減します。

フロントシートのベルトフォースリミッターは、フロントエアバッグに連動して作動し、乗員の身体に加わる減速力を軽減します。 その結果、乗員の身体にかかる力は広い範囲に分散されます。

シートベルトテンショナーは、以下の場合にのみ作動します。

- エンジンスイッチのキーが **1** または **2** の位置にある。
- 保護システムが作動可能である。"SRS 警告灯" (▷ 39 ページ)をご覧ください。
- フロントの各 3 点式シートベルトおよび外側のリアシートでは、シートベルトプレートがベルトバックルに固定されている。
- 助手席シートに乗車していて、助手席側のベルト先端がバックルに固定されているとき

シートベルトテンショナーは、事故の形態や大きさに応じて次のような場合に作動します。

- 正面衝突または追突の際に、衝突の初期段階で車両の縦方向の減速度または加速度が急激に大きくなった場合
- 側面衝突の際に、衝撃を受けた反対側で車両の横方向の加速度または減速度が急激に大きくなった場合
- 車両が横転または転覆した状況で、シートベルトテンショナーが保護機能を高めるとシステムが判断した場合

エアバッグが作動するときに、作動音が聞こえ、空中に少量の白煙が発生することがあります。 作動音は、ごくまれに聴力に影響を与えることがあります。 放出される白煙は人体への影響はありません。 SRS 警告灯 が点灯します。

子供を乗せるとき

チャイルドセーフティシート

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

急な進路変更時やブレーキ時、衝突時などに子供が致命的なけがをするのを防ぐため、以下の点に注意してください。

- 身長約 1.50 m 未満および 12 歳以下の子供は、適切なシートに装着した専用のチャイルドセーフティシートに乗せて確実に身体を固定してください。 シートベルトは子供向けに設計されていないため、チャイルドセーフティシートの使用が必要となります。
- 身長約 1.50 m 未満または 12 歳以下の子供は、助手席に乗せないでください。 ただし、チャイルドセーフティシートセンサーが助手席に装備されている車両で、子供がセンサー付き純正チャイルドセーフティシートに固定されている場合を除きます。
- やむを得ず助手席に前向きのチャイルドセーフティシートを装着する場合は、助手席シートをもっとも後ろの位置に調整してください。
- 絶対に子供を膝の上に座らせて走行しないでください。 急な進路変更時や急ブレーキ時、衝突時に発生する力により、子供を保護することができなくなります。 子供が車内の部品に激しくぶつけられ、致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ **警告**

チャイルドセーフティシートは、適切なシートに正しく装着されていないと、保護機能を発揮することができません。 衝突時、急ブレーキ時、急な進路変更時に子供の身体を拘束することができなくなります。 その結果、子供が致命的なけがをするおそれがあります。 そのため、チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取付説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。

チャイルドセーフティシートはリアシートに装着してください。 子供の安全性が高くなります。

チャイルドセーフティシートの底面全体をシートクッションに接触させる必要があります。 そのため、チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。

チャイルドセーフティシートには、必ずこのシート専用の純正のシートカバーを使用してください。 シートカバーが損傷した場合は、必ずメルセデス・ベンツ純正のカバーと交換してください。

必ず純正品のチャイルドセーフティシートを使用してください。

⚠ 警告

車両を離れるときは、ホールド機能によりブレーキを利かせているにも関わらず、以下のときに発進するおそれがあります。

- システムまたは電圧の供給に不具合がある
- 例えば車両乗員によってアクセルペダルが踏まれることによりホールド機能が解除される
- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造される
- バッテリーの接続が外された

事故の危険性があります。

車両を離れる前には常にホールド機能を解除し、発進しないように車両を固定してください。

⚠ 警告

荷物が固定されていなかったり適切な位置に置かれていないと、以下のような場合に子供や他の乗員がけがをする危険性が高くなります。

- 事故のとき
- ブレーキ時
- 急な進路変更時

車内に重い荷物やかたい荷物を積むときは、確実に固定してください。 詳しくは、さくいんにある"荷物を積むときの注意点"をご覧ください。

子供が同乗するときは、子供の身長、年齢、体重に合った純正品のチャイルドセーフティシートを使用して、子供の身体を固定してください。 乗員保護装置はできるだけ適切なリアシートに装着してください。 走行中は常に子供をチャイルドセーフティシートに乗せて固定してください。

メルセデス・ベンツは、(▷ 57 ページ)に挙げられているチャイルドセーフティシートのみを使用することをお勧めします。

適切なチャイルドセーフティシートについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ににご相談ください。

ℹ チャイルドセーフティシートを清掃するときは、メルセデス・ベンツ純正のカーケア用品のご使用をお勧めします。 詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

チャイルドセーフティシート（助手席）

⚠ 警告

助手席フロントエアバッグの機能が解除されていないときは、以下のように対処してください。

- 助手席エアバッグの展開により、助手席シートのチャイルドセーフティシートに固定されている子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。展開したときに子供が助手席エアバッグのすぐそばにいる場合は、特に危険です。
- 後ろ向きで装着するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席に装着して、子供を乗せないでください。 後ろ向きのチャイルドセーフティシートは、必ず適切なリアシートに装着してください。
- 前向きのチャイルドセーフティシートを助手席に装着して子供を乗せるときは、必ず助手席シートをできるだけ後方に下げてください。

次のような場合、助手席フロントエアバッグの機能は解除されません。

- 助手席シートにチャイルドセーフティシートセンサーが装備されていない車両
- 助手席シートにチャイルドセーフティシート自動検知が装備されている車両で、チャイルドセーフティシート自動検知用トランスポンダー付きチャイルドセーフティシートが助手席シートに装着されていない場合
- 助手席シートにチャイルドセーフティシート自動検知が装着されている車両

▷▷

で、助手席エアバッグオフ表示灯 [icon] が点灯しない場合

このような危険に注意を促すため、ダッシュボードと助手席側サンバイザーの両側に警告ステッカーが貼られています。

純正のチャイルドセーフティシートについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

例：助手席側サンバイザーの警告告知

後ろ向きで装着するタイプのチャイルドセーフティシートの警告マーク

前方に装着されたエアバッグによって保護されているシートでは、後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用しないでください。

チャイルドセーフティシートセンサー（助手席）

⚠ **警告**

チャイルドセーフティシートを装着していても助手席エアバッグオフ表示灯 [icon] が点灯しないときは、助手席エアバッグの機能は解除されていません。 助手席エアバッグが作動した場合、子供が致命的なけがをするおそれがあります。

以下のように対処してください。

- 後ろ向きのチャイルドセーフティシートは助手席に装着しないでください。
- 後ろ向きのチャイルドセーフティシートは適切なリアシートに装着してください。

または

- 助手席には必ず前向きのチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートを最後部に移動してください。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場でチャイルドセーフティシートセンサーの点検を受けてください。

助手席のチャイルドセーフティシートセンサーが正しく機能し、通信を行なうことができるように、チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。 チャイルドセーフティシートの底面全体がシートクッションに接触するようにしてください。 チャイルドセーフティシートが適切に装着されていないと、事故の際に保護機能を発揮することができなくなり、傷害を受けるおそれがあります。

⚠ **警告**

助手席シートには、以下のような電子機器を置かないでください。

- 電源の入ったノートパソコン
- 携帯電話
- IC カードや磁気カード

電子機器からの信号がチャイルドセーフティシート自動検知センサーシステムへの干渉の原因になることがあります。 システムの故障につながります。 チャイルドセーフティシート自動検知用のトランスポンダーがチャイルドセーフティシートに装着されていなくても、助手席エアバッグオフ表示灯 [icon] が点灯する原因になることがあります。 事故の間に助手席エアバッグが作動しなくなります。 エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわ

したときに、SRS 警告灯 が点灯したり、助手席エアバッグオフ表示灯 が少しの間点灯しなくなる可能性もあります。

P00.30-2040-31

車両の助手席にチャイルドセーフティシート自動検知がない場合は、特別なステッカーによって示されます。 ステッカーは、助手席側ダッシュボードの側面に貼られています。 助手席ドアを開くと、このステッカーが見えます。

助手席チャイルドセーフティシート自動検知非装備車両： エンジンスイッチのキーを 2 の位置にまわした場合は、助手席エアバッグオフ表示灯 が短時間点灯しますが、機能はありません。助手席にチャイルドセーフティシート自動検知があることは示していません。

P68.10-4484-31

助手席のチャイルドセーフティシート自動検知センサーシステムは、チャイルドセーフティシート自動検知装備の専用メルセデス・ベンツチャイルドセーフティシートがそこに装着されているかどうかを検知します。 そのような場合は、助手席エアバッグオフ表示灯 ① が点灯します。 助手席エアバッグが無効になります。

ℹ チャイルドセーフティシートセンサーにより助手席フロントエアバッグの機能が解除されている場合でも、助手席側の以下の装置は通常どおりに作動します。

- ウインドウバッグ
- シートベルトテンショナー

リアシート用の ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

⚠ **警告**

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置により固定されているチャイルドセーフティシートは、体重約 22 kg 以上の子供には十分な保護機能を発揮することができません。 そのため、体重約 22 kg 以上の子供は、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置で固定されたチャイルドセーフティシートで固定しないでください。 同様に子供の体重が 22 kg 以上の場合は、チャイルドセーフティシートを車両のシートベルトで固定します。さらに、チャイルドセーフティシートを装着するときは、メーカーの取扱説明書およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法の説明を遵守してください。

⚠ **警告**

チャイルドセーフティシートは、車両の適切なシートに正しく装着されていないと、保護機能を発揮することができません。 事故、急ブレーキまたは突然の進路変更のときに、子供を保護することができなくなります。子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。このため、チャイルドセーフティシートを装着するときは、メーカーの取扱説明書およびチャイルドセーフティシートの

正しい使用方法の説明を遵守してください。

安全上の理由で、チャイルドセーフティシートをリアシートに装着するときは、メルセデス・ベンツ車のために特別にテストおよび承認された ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置付きのチャイルドセーフティシートのみを使用してください。

正しく装着されていないと、チャイルドセーフティシートが外れ、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。 チャイルドセーフティシートを装着したら、左右の固定リングに確実に固定されているか必ず確認してください。

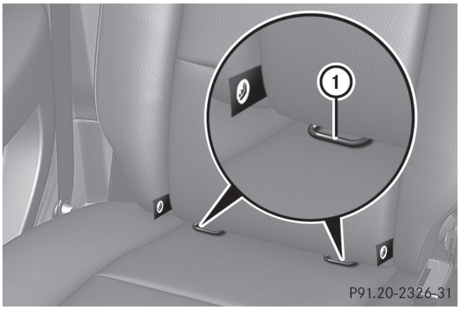
⚠ 警告

チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、保護機能が得られなくなるおそれがあります。 その結果、衝突時、急ブレーキ時、急な進路変更時に、この装置で固定された子供が致命的なけがをするおそれがあります。

そのため、事故で損傷したり強い負荷を受けたチャイルドセーフティシートや固定装置は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! チャイルドセーフティシートを装着するときは、中央リアシートのシートベルトを挟み込まないように注意してください。 シートベルトが損傷するおそれがあります。

ISOFIX は、専用設計されたチャイルドセーフティシートのリアシートへの規格化された固定システムです。 リアシートの左および右に、2 つの ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート用固定リングが装着されています。



① 固定リング

▶ ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置を取り付けます。 ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置を装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示に従ってください。

▶ ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定システムが取り付けられているときは、後席の中央シートベルトが十分に機能していて、自由に動くことを確認してください。

テザーアンカー

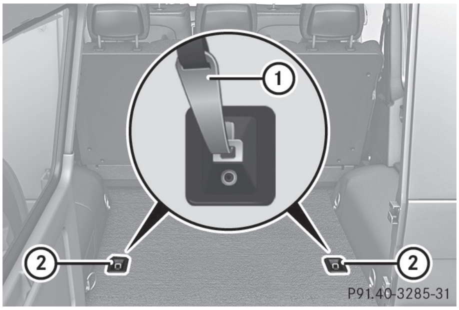
⚠ 警告

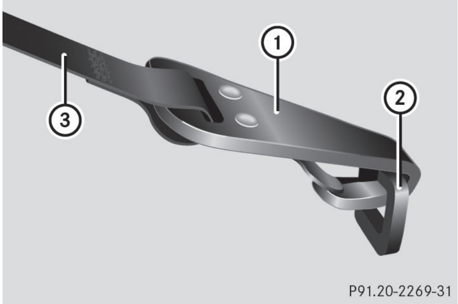
各チャイルドセーフティシートは、適切な位置のテザーアンカーのみを使用してください。他のテザーアンカーは事故の際に引きちぎられることがあります。子供が重大なけがをするおそれがあります。

以下のことを確認してください。

- 締め付けストラップが互いに交差していない、およびねじれていない。
- フックが正しくかかり、閉じている。

テザーアンカーは、ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートとリアシートを接続するための補助的な固定装置です。 この装置は、傷害の危険性をさらに低減します。





▶ セーフティネット (▷ 208 ページ)を取り外します。

▶ ラゲッジルームカバー (▷ 205 ページ)を取り外します。

▶ ヘッドレストを上方に動かします。

▶ テザーアンカーを使用して、ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートを装着します。 装着時はチャイルドセーフティシートに付属の取扱説明書の指示に従ってください。

▶ ヘッドレストの下の 2 本のヘッドレストの支柱の間にテザーアンカーベルト③を通します。

▶ テザーアンカーフック ① をラゲッジルームフロアのテザーアンカー ② に取り付けます。

▶ テザーアンカーベルト ③ のテザーアンカーフック ①を テザーアンカー②に掛けます。

以下のことを確認してください。

- 示すように、テザーアンカーフック①がテザーアンカー②に掛かっていること
- テザーアンカーベルト③がねじれていないこと

▶ テザーアンカーベルト ③ にねじれがないことを確認します。

▶ テザーアンカーベルト ③ を張ります。 そうするときは、メーカーの装着指示に従ってください。

▶ 必要であれば、ヘッドレストを再度下に少し動かして戻します。 (▷ 81 ページ) テザーアンカーベルト ③ の正しい取り回しを妨げていないことを確認してください。

チャイルドセーフティシートセンサーのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
センターコンソールの 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯する。	助手席シートに、チャイルドセーフティシートセンサー用トランスポンダーを内蔵するメルセデス・ベンツ純正チャイルドセーフティシートが装着されている。 そのため、助手席エアバッグの機能が解除されている。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
センターコンソールの 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯する。 または イグニッションをオンにすると警告灯 が点灯し、さらに／または助手席エアバッグオフ表示灯 が短時間点灯しない。	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートにチャイルドセーフティシートが装着されていない。 チャイルドセーフティシートセンサーが故障している。 ▶ 助手席シートの座面に以下のような電子機器が置いてあるときは取り除いてください。 • ノートパソコン • 携帯電話 • IC カードや磁気カード 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままのとき ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

チャイルドセーフティシートの適切な装着位置

▶ **助手席にチャイルドセーフティシートを装着する：** 助手席を最も後方および最も低い位置に移動し、ベルトの高さを最も低い位置に調整します。

下表の記号説明

X この重量カテゴリーの子供に適さないシート

U この体重カテゴリーでの使用が承認された"ユニバーサル"カテゴリーのチャイルドセーフティシートに適合

L 推奨チャイルドセーフティシートに適合"純正チャイルドセーフティシート"の以下の表(▷ 57 ページ)をご覧ください。

助手席シート

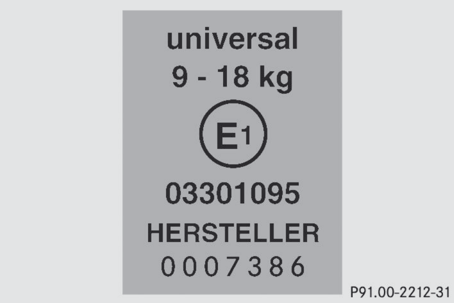
カテゴリー（適応体重）	助手席エアバッグの機能は解除されていない	助手席フロントエアバッグが無効である
カテゴリー 0： 10 kg 以下	X	L
グループ 0+： ～ 13 kg	X	L
カテゴリー I： 9 ～ 18 kg	L	U
カテゴリー II： 15 ～ 25 kg	L	U
グループ III：22 ～ 36 kg	L	U

助手席チャイルドセーフティシート自動検知装備車：助手席エアバッグが作動しない場合、チャイルドセーフティシート自動検知用トランスポンダー付きの"ユニバーサル"カテゴリーのチャイルドセーフティシートを装着しなければなりません。 助手席エアバッグオフ表示灯 が点灯していなければなりません。

リアシート

カテゴリー（適応体重）	リアシート左、右
カテゴリー 0： 10 kg 以下	U
グループ 0+： ～ 13 kg	U
カテゴリー I： 9 ～ 18 kg	U
カテゴリー II： 15 ～ 25 kg	U
グループ III：22 ～ 36 kg	U

"ユニバーサル" のチャイルドセーフティシートは、オレンジ色の認証ラベルが目印です。



例：純正チャイルドセーフティシートの認証ラベル

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートの装着のための後席の適合性

下表の記号説明

X　この体重やサイズのカテゴリーで ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートに適さない ISO-FIX のポジション

IUF　この体重カテゴリーでの使用が承認された"ユニバーサル"カテゴリーに属している ISO-FIX 対応前向きチャイルドセーフティシートに適合

IL　推奨しているような ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートに適合。以下の表"推奨チャイルドセーフティシート" (▷ 57 ページ) をご覧ください。

幼児用ベッドカテゴリー（適応体重）

サイズ等級	装着器具タイプ	左右リアシート
F	ISO/L1	X
G	ISO/L2	X

重量カテゴリー 0： 約 10 kg 以下、約 6 カ月以下

サイズ等級	装着器具タイプ	左右リアシート
E	ISO/R1	IL

重量カテゴリー 0+： 約 13 kg 以下、約 15 カ月以下

サイズ等級	装着器具タイプ	左右リアシート
E	ISO/R1	IL
D	ISO/R2	IL
C	ISO/R3	IL

重量カテゴリー I： 約 9 ～ 18 kg、約 9 カ月 ～ 4 歳

サイズ等級	装着器具タイプ	左右リアシート
D	ISO/R2	IL
C	ISO/R3	IL
B	ISO/F2	IUF
B1	ISO/F2X	IUF
A	ISO/F3	IUF

純正チャイルドセーフティシート

重量カテゴリー 0： 約 10 kg 以下、約 9 カ月以下

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	ベビーセーフプラス	ベビーセーフ ISO-FIX プラス
型式認証番号	E1 03 301146 E1 04 301146	E1 03 301146 E1 04 301146
注文番号	A 000 970 10 00	B6 6 86 8224
チャイルドセーフティシート検知システム	対応	非対応 チャイルドセーフティシートは左側または右側リアシートにのみ装着できます。

重量カテゴリー 0+： 約 13 kg 以下、約 18 カ月以下

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	ベビーセーフプラス	ベビーセーフ ISO-FIX プラス
型式認証番号	E1 03 301146 E1 04 301146	E1 03 301146 E1 04 301146

注文番号	A 000 970 10 00	B6 6 86 8224
チャイルドセーフティシート検知システム	対応	非対応 チャイルドセーフティシートは左側または右側リアシートにのみ装着できます。

重量カテゴリー I： 約 9 ～ 18 kg、約 8 カ月 ～ 4 歳

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	デュオプラス	デュオプラス
型式認証番号	E1 03 301133 E1 04 301133	E1 03 301133 E1 04 301133
注文番号	A000 970 11 00	A 000 970 16 00
チャイルドセーフティシート検知システム	対応	非対応 トランスポンダー非装備のチャイルドセーフティシートでは、助手席シートを最も後方の位置に動かします。

重量カテゴリー II/III： 約 15 ～ 36 kg、約 4 ～ 12 歳

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	キッド	キッド
型式認証番号	E1 03 301148 E1 04 301148	E1 03 301148 E1 04 301148

注文番号	A 000 970 12 00	A 000 970 17 00
チャイルドセーフティシート検知システム	対応	非対応 トランスポンダー非装備のチャイルドセーフティシートでは、助手席シートを最も後方の位置に動かします。

推奨 "ユニバーサル" ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート：
幼児用ベッドカテゴリー（適応体重）

サイズ等級	F、G
メーカー	–
タイプ	–
認証番号 （E1 ...）	–
注文番号	–
チャイルドセーフティシート検知システム	–

カテゴリー 0： 10 kg 以下

サイズ等級	E
メーカー	–
タイプ	–
認証番号 （E1 ...）	–
注文番号	–
チャイルドセーフティシート検知システム	–

グループ 0+： ～ 13 kg

サイズ等級	E	D, C
メーカー	Britax Römer	–

タイプ	ベビーセーフ ISO-FIX プラス	–
認証番号 （E1 ...）	04 301146	–
注文番号	B6 6 86 8224	–
チャイルドセーフティシート検知システム	非対応	–

カテゴリー I： 9 ～ 18 kg

サイズ等級	D、C、B、A
メーカー	–
タイプ	–
認証番号 （E1 ...）	–
注文番号	–
チャイルドセーフティシート検知システム	–

サイズ等級	B1
メーカー	Britax Römer
タイプ	デュオプラス
認証番号 （E1 ...）	03 301133 04 301133
注文番号	A000 970 11 00
チャイルドセーフティシート検知システム	対応

チャイルドプルーフロック

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

子供が同乗しているときは、リアドアとリアウインドウのチャイルドプルーフロックを設定してください。 走行中に子供がドアやサイドウインドウを開き、子供や他の乗員がけがをするおそれがあります。

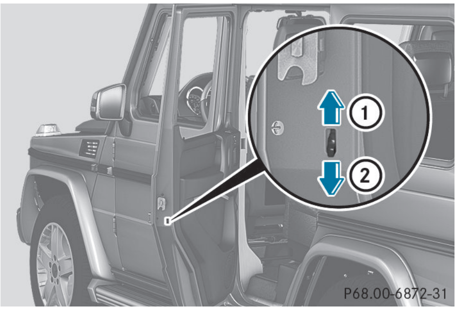
⚠ **警告**

子供をチャイルドセーフティシートに乗せて固定している場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。 子供が車両の各部に触れてけがをするおそれがあります。 また、車内が高温

または低温になった状態では、命に関わります。
チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。 チャイルドセーフティシートの各部が高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
子供が誤ってドアを開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。 子供が車外に出てけがをしたり、通りかかった車にはねられ致命的なけがをするおそれがあります。

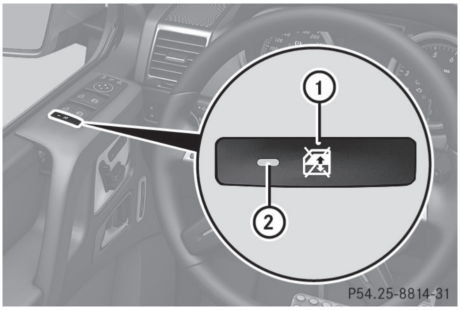
リアドアのチャイルドプルーフロック

リアドアのチャイルドプルーフロックを使用して、各ドアを個別にロックできます。 チャイルドプルーフロックを設定すると、車内のドアレバーを引いてもリアドアが開かなくなります。 車が解錠されているときは、車外のドアハンドルを操作してドアを開くことができます。



- **作動させる：** チャイルドプルーフロックレバーを矢印 ②の方向に下に押します。
- チャイルドプルーフロックが正常に設定されていることを確認します。
- **解除する：** チャイルドプルーフロックレバーを矢印の方向 ①に上方に押します。

リアサイドウインドウのチャイルドプルーフロック



- **設定 / 解除する：** スイッチ ① を押します。
  表示灯 ② が点灯する場合は、リアサイドウインドウの操作はできません。 運転席ドアのスイッチでは、リアサイドウインドウを操作できます。 表示灯 ② が消灯しているときは、後席のスイッチを使用しての操作が可能です。

走行安全システム

走行安全装備の概要

この章では、以下の走行安全装備に関する情報を記載しています。

- ABS(**A**nti-lock **B**raking **S**ystem)（アンチロック・ブレーキング・システム）
- BAS(**B**rake **A**ssist **S**ystem)（ブレーキアシスト）
- アダプティブブレーキライト
- ESP®(**E**lectronic **S**tability **P**rogram)（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）
- EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）（**E**lectronic **B**rake-force **D**istribution）
- アダプティブブレーキ
- トレーラースタビライゼーション

重要な安全上の注意

運転者が状況に応じた適切な運転操作を行なわないと、走行安全装備は、事故の危険性を低減することができません。また、各システムの機能には物理的な限界があります。 走行安全装備は、運転の補助のために設計された支援のみを行なうシステムです。 先行車との距離や車両の速度、適切なブレーキ操作の責任は運転者にあります。 必ず路面や天候の状況に合わせて運転スタイルを調整してください。また、周囲の交通状況に注意しながら、先行車との間に安全な車間距離を維持してください。 注意して運転してください。

ℹ タイヤと路面の間に十分な接触があるときにのみ、記載されている走行安全装備は可能な限り効果的に作動することに注意してください。"タイヤとホイール"(▷ 242 ページ)のタイヤ、推奨されるタイヤトレッドの最小深さなどに関する情報に特に注意してください。

冬の走行状況では、常にウィンタータイヤ (M+S tyres) を、必要であればスノーチェーンを使用してください。 このようにすることでのみ、本章に記載されている走行安全装備が可能な限り効果的に作動します。

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）

重要な安全上の注意

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 62 ページ)

⚠ **警告**

ABS に異常があるときは、ブレーキ時に車輪がロックすることがあります。 ステアリングでの操縦性およびブレーキ性能が著しく損なわれることがあります。

さらに、走行安全装備が解除されます。横滑りや事故の危険が高まります。

注意して運転してください。 ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で ABS の点検をしてください。

ABS が故障している場合は、走行安全装備を含めた他のシステムも作動しません。 ABS 警告灯 (▷ 170 ページ)、およびメーターパネルに表示されることがあるあらゆるディスプレイメッセージ (▷ 152 ページ) に関する情報を遵守してください。

ABS は、ブレーキ圧をコントロールすることで、ブレーキ時の車輪のロックを防ぐ装置です。 そのため、ブレーキをかけながら、ステアリング操作を続けることができます。

ABS は路面の状況に関わらず、約 8 km/h 以上の速度から作動します。 滑りやすい路面では、軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでも ABS は作動します。

イグニッションがオンのときに、メーターパネルの黄の ABS 警告灯 [ABS] は点灯します。 エンジン作動中は消灯します。

ブレーキ操作

ブレーキ時に ABS が作動した場合は、ブレーキペダルに振動を感じます。

▶ **ABS が作動したとき：** 必要なだけ、そのままブレーキペダルを踏み続けてください。

▶ **強い制動力が必要なとき：** ブレーキペダルをいっぱいに踏み込んでください。

ブレーキペダルの振動は、危険な道路状況を知らせることができ、走行中に特別な注意を喚起させるものとして機能します。

オフロード ABS

LOW RANGE のギアレンジがトランスファーケースで選択されている場合は、(▷ 140 ページ), オフロード地形に特に適した ABS システムが自動的に作動します。

約 60 km/h 以下の速度では、ブレーキ中は前輪が周期的にロックします。 作動中に発生した地面を掘る効果により、オフロード走行時は制動距離を減少させます。 これにより操舵能力が制限されます。

BAS（ブレーキアシスト）

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 62 ページ)

> ⚠ **警告**
>
> BAS が故障している場合は、緊急ブレーキの状況での制動距離が長くなります。事故の危険性があります。
>
> 緊急ブレーキの状況では、ブレーキペダルを思いっきり踏んでください。ABS が車輪のロックを防ぎます。

BAS は、緊急ブレーキ状態で作動します。 ブレーキペダルを素早く踏み込むと、BAS が自動的に制動力を高めて制動距離を短縮します。

▶ 緊急ブレーキ状態から脱するまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
ABS が車輪のロックを防ぎます。

ブレーキペダルから足を放すと、ブレーキは通常の作動状態に戻ります。 BAS の機能が解除されます。

アダプティブブレーキライト

約 50 km/h 以上の速度から車両に急ブレーキを利かせた場合、または BAS によりブレーキ操作が支援された場合は、ブレーキランプが素早く点滅します。 このようにして、より注意を引きやすい方法で後方の車両に警告を行ないます。

約 70 km/h 以上の速度で停止するまで急ブレーキを利かせた場合は、非常点滅灯が自動で作動します。 再びブレーキをかけると、ブレーキランプが点灯し続けます。 非常点滅灯は、約 10 km/h より速く走行すると自動的に消灯します。 非常点滅灯スイッチ (▷ 86 ページ) を使用して非常点滅灯を消灯することもできます。

ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）

重要な安全上の注意

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 62 ページ)

> ⚠ **警告**
>
> ESP®が故障している場合は、ESP®は車両を安定させることはできません。さらに、他の走行安全装備はオフになります。これにより、横滑りや事故の危険性が高くなります。
>
> 注意して運転してください。 メルセデス・ベンツ指定サービス工場で ESP®の点検を受けてください。

! ブレーキダイナモメーターでは最大 10 秒間のみ車両を操作してください。 イグニッションをオフにしてください。

ESP® によるブレーキの適用により、ブレーキシステムを損傷することがあります。

! 機能テストや性能テストを行なうには、必ず 2 軸式ダイナモメーターを使用してください。 このようなダイナモメーターで車両を作動させる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。 お守りいただかないと、駆動装

置やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

ESP® は走行安定性およびトラクションをモニターします。トラクションはタイヤから路面への力の伝達です。

エンジンをかけた状態でメーターパネルの 表示灯が点灯し続けるときは、ESP® の機能が解除されています。

警告灯 および警告灯 が点灯し続ける場合は、故障により ESP® は作動していません。

警告灯 (▷ 173 ページ) およびメーターパネル (▷ 152 ページ) に表示されるディスプレイメッセージに関する情報を遵守してください。

ESP® は、車の走行ラインが運転者の望む進行方向から外れていると判断すると、1 本以上のタイヤにブレーキをかけ、車の走行姿勢を安定させます。 必要な場合は、エンジン出力を調整して、物理的限界内で運転者の意志に沿った方向に車の向きを保つように作動します。ESP® は、濡れた路面や滑りやすい路面での発進操作をアシストします。 また、ESP® はブレーキ時の車の姿勢も安定させることができます。

ESP® が作動すると、メーターパネルの警告灯 が点滅します。

ESP® が作動する場合

▶ どのような状況でも ESP® を解除しないでください。

▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。

▶ 実際の道路や天候の状況に適するように運転スタイルを合わせてください。

以下のときは、エラーおよび警告メッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されることがあります。

- エンジンをかけた状態で、立体駐車場のターンテーブルで車を回転させたとき
- 立体駐車場の狭くて長いらせん状のアプローチを走行しているとき

以下のような警告灯 / 表示灯も点灯することがあります。

- ESP® 表示灯
- ESP® オフ表示灯
- ABS 警告灯

▶ 道路や交通状況に注意しながら、車両を停止します。

▶ エンジンを停止します。

▶ イグニッションをオフにします。

▶ エンジンを再始動してください。
しばらくすると、メッセージが消え、警告灯 / 表示灯が消灯します。 消灯しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因を調査してください。

ℹ 必ず指定サイズのタイヤを使用してください。 指定サイズのタイヤを装着した場合のみ、ESP® は正しく機能します。

ℹ ディファレンシャルロックがオンの場合は、ABS、BAS および ESP® が自動的にオフになります。

4ETS（エレクトロニック・トラクション・システム）

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 62 ページ)

ESP® の機能を解除しても、トラクションコントロールは作動します。

▶ 走行状況に適している場合は、オフロードギア **LOW RANGE** に入れてください(▷ 140 ページ)。

トラクションコントロールは ESP® の機能の一部です。

トラクションコントロールは、駆動輪が空転したときに、各駆動輪に個別にブレーキを効かせます。 これにより駆動輪の空転を防ぎ、片側が滑りやすい路面などで発進や加速を可能にします。 さらに、車輪または駆動力のある車輪にさらなる走行トルクが伝達されます。

ESP® の機能を解除しても、トラクションコントロールは作動します。

トラクションコントロールは約 60 km/h 以上の速度で作動しなくなります。

トラクションコントロールは、駆動輪が空転したときに、各駆動輪に個別にブレーキを効かせます。 これにより駆動輪の空転を防ぎ、片側が滑りやすい路面などで発進や加速を可能にします。 さらに、車輪または駆動力のある車輪にさらなる走行トルクが伝達されます。

ESP® の解除 / 作動

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 62 ページ)

⚠ **警告**

ESP®を解除すると、ESP® は車両を安定させせなくなります。横滑りや事故の危険が高まります。

以下に記載された状況でのみ ESP® を解除してください。

▶ **解除する：** メーターパネルの警告灯 [OFF] が点灯するまで、スイッチ ① を押します。

▶ **作動させる：** メーターパネルの警告灯 [OFF] が消灯するまで、スイッチ ① を押します。

エンジンを始動すると、ESP® は自動的に待機状態になります。

ℹ **ECO スタート/ストップ機能装備車両：** 車両が停止すると、ECO スタート/ストップ機能が自動的にエンジンを停止します。 再度発進したときは、自動的にエンジンが始動します。 ESP® は、以前の選択状況のままになります。 例：エンジンを停止する前に ESP® が解除されていた場合は、エンジンを再始動しても ESP® は解除されたままになります。

以下のような状況では、ESP® を解除したほうが良いことがあります。

- スノーチェーンを装着しているとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂地や砂利道を走行するとき

ESP® を解除したとき

- ESP® は作動せず、走行安全性を高めることはできなくなります。
- エンジンのトルクが制限されなくなり、駆動輪が空転するおそれがあります。駆動輪の空転は掘る動作につながり、より良いグリップをもたらします。

- トラクションコントロールは引き続き作動します。
- ブレーキを利かせた場合はまだ、ESP® がサポートします。
- そして約 60 km/h 以上で走行していてオフになっていても、1 つの車輪がグリップの限界に達したときは ESP® が作動します。

i ESP® が解除されている場合に 1 本以上の車輪が空転し始めると、メーターパネルの警告灯 が点滅します。 このような状況では、ESP® は車両を安定させることはできません。

トレーラースタビライゼーション

⚠ **警告**

道路および天候の状況が悪い場合は、トレーラースタビライゼーションは車両/トレーラーの連結が急に逸脱することを防ぐことはできません。重心の高いトレーラーは、ESP®がこれを検知する前に横転することがあります。事故の危険性があります。

常に路面や天候の状況に合わせて慎重に運転してください。

故障のために ESP® が解除されるか、または使用できなくなると、トレーラースタビライゼーションは作動しません。

車両/トレーラー連結が急に傾き始めた場合は、ブレーキをしっかりと踏むことのみにより、車両/トレーラー連結を安定させることができます。

このような状況では、車両/トレーラー連結が急に傾き始めた場合は、ESP®は運転者を補助しそれを検知することができます。 ESP®は車両/トレーラー連結が安定するまでブレーキを利かせ、エンジン出力を制限することにより、車両を減速させます。

トレーラースタビライゼーションは約 60 km/h 以上の速度で作動します。

EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）

i "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 62 ページ)

⚠ **警告**

EBD が誤作動すると、急ブレーキ時などには後輪がロックすることがあります。これにより、横滑りして事故が起きる危険性が高くなります。

操縦性の変化に応じて慎重に運転してください。 メルセデス・ベンツ指定サービス工場でブレーキシステムの点検を受けてください。

表示および警告灯 (▷ 170 ページ) およびディスプレイメッセージ (▷ 152 ページ) に関する情報を遵守してください。

EBD は、後輪のブレーキ圧を監視してコントロールし、ブレーキ時の走行安全性を高めます。

アダプティブブレーキ

アダプティブブレーキはブレーキの安全性を向上させます。ブレーキ機能に加えて、アダプティブブレーキはホールド機能 (▷ 133 ページ) およびヒルスタートアシスト機能 (▷ 103 ページ) も備えています。

盗難防止システム

イモビライザー

▶ **作動させる：** エンジンスイッチからキーを取り外します。

▶ **解除する：** エンジンをかけます。

イモビライザーは、正規のキー以外ではエンジンを始動させない盗難防止装置です。

i イモビライザーは、エンジンを始動すると解除されます。

ATA（盗難防止警報システム）

P54.32-9680-31

▶ **待機状態にする：** キーで車両を施錠します。
表示灯 ① が点滅します。 盗難防止警報システムが約 15 秒後に待機状態になります。

▶ **解除する：** キーで車両を解錠します。

ⓘ その後ドアまたはリアドアを開かない場合は、約 40 秒後に警報システムが再度オンに戻ります。

▶ **警報を停止させる：** エンジンスイッチにキーを差し込みます。
警報が停止します。

または

▶ キーの [解錠] または [施錠] スイッチを押します。
警報が停止します。

システムが待機状態にあるときに以下の部分を開くと、サイレンが鳴り、非常点滅灯が点滅します。

- ドア
- エマージェンシーキーを使用してドア
- テールゲート/テールゲート
- ボンネット

以下の場合も警報は作動します。

- 車両の位置が変わったとき
- ウインドウが割れたとき
  例えば、作動させた開いたドアを閉じても、警報は停止しません。

けん引防止機能

機能

けん引防止機能が待機状態のときに車両の傾きを感知すると、サイレンが鳴り非常点滅灯が点滅します。 この警報は、ジャッキアップにより車両が斜めにが持ち上げられたときなどに作動します。

設定スイッチ

▶ **待機状態にする：** キーで車両を施錠します。
約 30 秒後にけん引防止機能が待機状態になります。

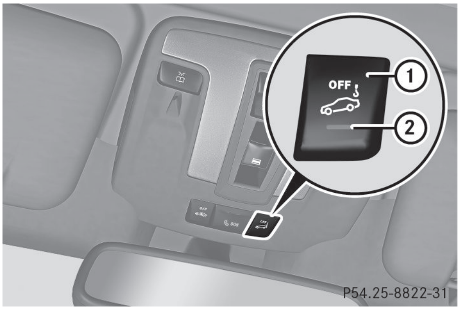
解除スイッチ

▶ **解除する：** キーで車両を解錠します。
けん引防止機能は自動的に解除されます。

ⓘ 誤作動を防止するため、以下のような状況ではけん引防止機能を解除してください。

- けん引されるとき
- カーフェリーや車両運搬車で運ばれるとき
- 立体駐車場などのターンテーブルに駐車するとき

解除する



P54.25-8822-31

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が短く点灯します。

▶ リモコン操作で、車を施錠します。

車両が解錠され、再度施錠されるまでけん引防止機能は解除されたままになります。

室内センサー

機能

室内センサーを待機状態にしたときは、車内で物体の動きを感知すると、サイレンが鳴り、非常点滅灯が点滅します。 たとえば、車内に人が侵入したときなどに警報が作動します。

設定スイッチ

▶ 以下のことを確認してください。

- サイドウインドウが閉じていること
- スライディングルーフが閉じていること
- ルームミラーやルーフトリムのグリップハンドルにマスコットなどをかけていないこと

以上のことは、警報の誤作動を防ぎます。

▶ リモコン操作で、車を施錠します。

室内センサーが約 30 秒後に待機状態になります。

解除スイッチ

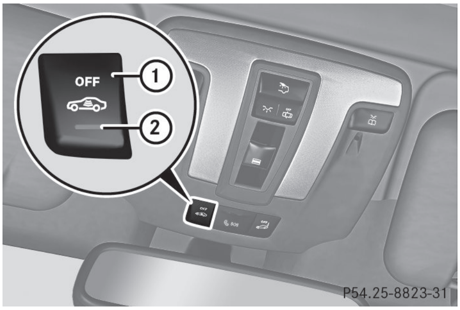
▶ リモコン操作で、車を解錠します。

室内センサーが自動的に解除されます。

ℹ 誤作動を防止するため、以下のような状況で車を施錠する場合は、室内センサーを解除してください。

- 車内に人や動物が残るとき
- サイドウインドウが開いているとき
- スライディングルーフが開いているとき

解除スイッチ



▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が短く点灯します。

▶ リモコン操作で、車を施錠します。

車両が解錠され、再度施錠されるまで室内センサーは解除されたままになります。

役に立つ情報 70
キー 70
ドア 73
リアドア 74
サイドウインドウ 74
スライディングルーフ 76

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国により、仕様が異なる場合があります。 お買い上げいただいた車両には、記載されているすべての内容が備わっていないことがあります。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 26 ページ).

キー

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

子供だけを残して車から離れないでください。

- ドアを開けることによって、他の人々や道路利用者を危険にさらすおそれがあります。
- 車両から降りて、通過する車にぶつかるおそれがあります。
- 車両の装備品を操作してしまうおそれがあります。

さらに以下のような場合に、子供が車両を動かしてしまうおそれもあります。

- パーキングブレーキを解除する。
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション P からシフトする。
- マニュアルトランスミッションをニュートラルにシフトする。
- エンジンを始動する。

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。 保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。 キーは必ずは子供の手の届かないところに保管してください。

⚠ **警告**

正しく固定されていない場合は、重い、またはかたいものを車内またはラゲッジールームで運搬しないでください。

荷物が固定されていないときや適切に収納されていないときは、以下の状況で荷物が放り出されて、子供などがけがをするおそれがあります。

- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故のとき

⚠ **警告**

キーに、重い物や大きなアクセサリー等を付けていると、キーが突然エンジンスイッチ操作してしまうおそれがあります。 そのため、エンジンが停止するおそれがあります。 事故の危険性があります。

キーには重い物や大きなアクセサリー等を付けないでください。 操作の邪魔になるアクセサリー等は、エンジンスイッチにキーを差し込む前に取り外してください。

キーの機能

⚠ **警告**

子供だけを残して車から離れないでください。

- ドアを開けることによって、他の人々や道路利用者を危険にさらすおそれがあります。
- 車両から降りて、通過する車にぶつかるおそれがあります。
- 車両の装備品を操作してしまうおそれがあります。

さらに以下のような場合に、子供が車両を動かしてしまうおそれもあります。

- パーキングブレーキを解除する。
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション P からシフトする。
- マニュアルトランスミッションをニュートラルにシフトする。
- エンジンを始動する。

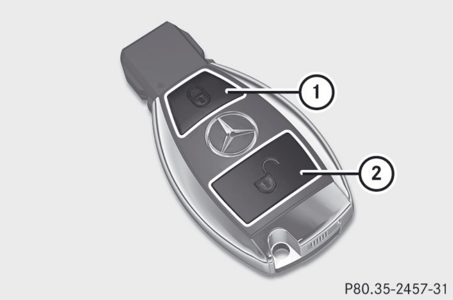
事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。 保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。 キーは必ずは子供の手の届かないところに保管してください。

⚠ 警告

キーに、重い物や大きなアクセサリー等を付けていると、キーが突然エンジンスイッチ操作してしまうおそれがあります。 そのため、エンジンが停止するおそれがあります。 事故の危険性があります。

キーには重い物や大きなアクセサリー等を付けないでください。 操作の邪魔になるアクセサリー等は、エンジンスイッチにキーを差し込む前に取り外してください。



① 🔒 施錠ボタン

② 🔓 解錠ボタン

▶ **すべてを解錠する：** 🔓 ボタンを押します。

解錠操作をした後、約 40 秒以内にドアなどを開けないと、以下の状態になります。

- 車を再び施錠する
- 盗難防止警報システムが再び待機状態になります。

▶ **すべてを施錠する：** 🔒 ボタンを押します。

キーで以下のすべての施錠 / 解錠操作ができます。

- ドア
- リアドア
- 燃料給油口

ℹ 解錠操作を行なうと、方向指示灯が 1 回点滅します。 施錠操作を行なうと、3 回点滅します。

また、施錠時に確認音が鳴るキーアンサーバック機能を設定することもできます。 キーアンサーバック機能の設定と解除は、マルチファンクションディスプレイで行ないます。 (▷ 152 ページ)

マルチファンクションディスプレイでロケイターライティング機能を設定しておくと、周囲が暗いときに車外ランプを点灯させることができます。(▷ 152 ページ)

ロックシステムの設定変更

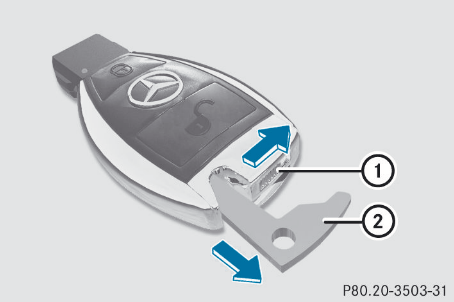
これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

エマージェンシーキー

全体的な注意事項

キーで車を解錠できなくなったときは、エマージェンシーキーを使用します。

エマージェンシーキーの取り外し



P80.20-3503-31

▶ ストッパー ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② をキーから矢印の方向に抜きます。

キーの電池

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。 電池を飲み込んでしまうと、深刻な健康上の問題を引き起こすことがあります。 致命的なけがをするおそれがあります。

電池は子供の手の届かないところに置いてください。 電池を飲み込んでしまった場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

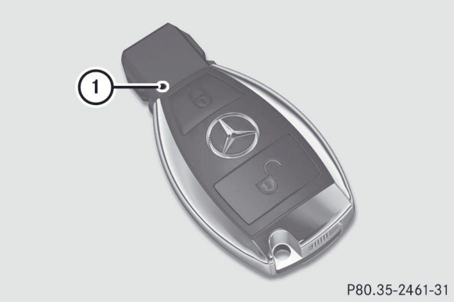
環境保護に関する注意

電池には環境汚染物質が含まれています。 電池を家庭用ゴミとして廃棄することは法律で禁じられています。 使用済みの電池は個別に回収し、環境に適合するリサイクル方法で処分してください。

電池は環境に配慮した方法で廃棄してください。 使用済みの電池は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお持ちいただくか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

バッテリーの交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

電池点検



P80.35-2461-31

▶ [🔒] または [🔓] スイッチを押します。
キーの表示灯 ① が軽く点灯すれば、電池は正常です。
キーの表示灯 ① がテスト中に点灯しない場合は、電池は切れています。

▶ 電池を交換します。 (▷ 72 ページ)

ℹ 電池はメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお求めください。

ℹ 電池の交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

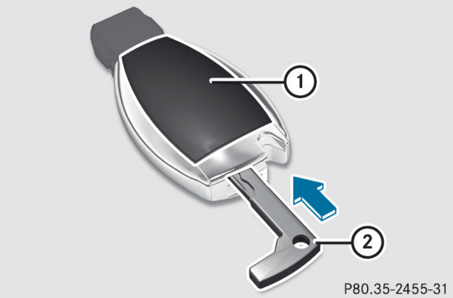
ℹ 信号の到達範囲内でキーの電池を点検したときは、[🔒] または [🔓] ボタンを押すと、

- 車の施錠
- 車の解錠

電池交換

CR 2025 3 V の電池が必要です。

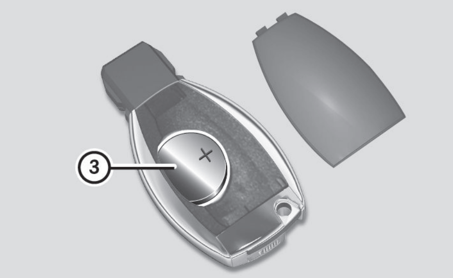
▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▷ 72 ページ) 。



P80.35-2455-31

▶ エマージェンシーキー ② をキーの開口部に差し込み、電池カバー ① が開くまで矢印の方向に押します。 このとき、指でカバーを押さえないでください。

▶ 電池カバー ① を取り外します。



P80.35-2452-31

▶ キーを裏返して手の平に載せ、電池 ③ が外れるまでキーを軽くたたきます。

▶ 電池のプラス（+）面を上にして、新しい電池を取り付けます。 このとき、毛羽立ちのない布で電池を持つようにしてください。

▶ 電池の表面に糸くず、脂分、汚れが付着していないことを確認してください。

▶ 電池カバー ① の前側にある凸部をキーに差し込んでから、カバーを押して閉じます。

▶ エマージェンシーキーをキーに収納します。

▶ キーのすべてのボタンが正常に機能することを確認します。

キーの不具合

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

ドア

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

子供だけを残して車から離れないでください。

- ドアを開けることによって、他の人々や道路利用者を危険にさらすおそれがあります。
- 車両から降りて、通過する車にぶつかるおそれがあります。
- 車両の装備品を操作してしまうおそれがあります。

さらに以下のような場合に、子供が車両を動かしてしまうおそれもあります。

- パーキングブレーキを解除する。
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション P からシフトする。
- マニュアルトランスミッションをニュートラルにシフトする。
- エンジンを始動する。

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。 保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。 キーは必ずは子供の手の届かないところに保管してください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 車内からドアを解錠して開く
- 車内からのリモートトロールセントラルロック
- 車速感応ドアロック
- クロージングサポーター
- 運転席ドアの解錠（エマージェンシーキー）
- 車両の施錠（エマージェンシーキー）
- リアドア（G クラス ロングホイールベースバージョン）の開閉
- テールゲートの開閉（G クラス カブリオレ）

リアドア

重要な安全上の注意

⚠ 警告

燃焼型エンジンは、一酸化炭素などの有毒な排気ガスを排出します。 エンジン作動中、とくに走行中にリアドアが開いていると、排気ガスが車内に入るおそれがあります。 中毒を起こすおそれがあります。

リアドアを開く前に、エンジンをオフにしてください。 リアドアを開いたまま走行しないでください。

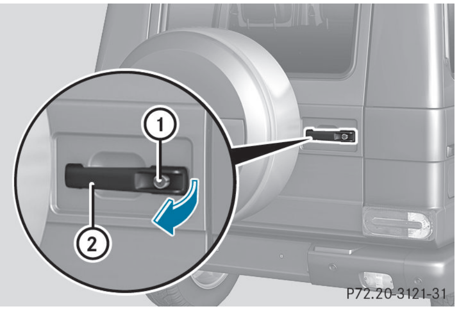
! テールゲートは、開くと片側に回転します。 したがって、十分なスペースが確保されているか確認してください。

i ラゲッジルーム内にキーを置き忘れないようにしてください。 不注意で締め出されるおそれがあります。

開く

まずロック解除してからでないと、リアドアは開けません。

▶ キーの 🔓 ボタンを押します。



▶ ロック解除ボタン ① を押して、ドアハンドル ② を引きます。

▶ リアドアを開きます。

閉じる

▶ リアドアを車外から押して閉じます。

▶ 必要な場合は、キーの 🔒 スイッチを使って車両をロックします。

サイドウインドウ

重要な安全上の注意

⚠ 警告

サイドウインドウを開けているときに、サイドウインドウが動くにつれて、身体などがサイドウインドウとドアフレームの間に引き込まれて挟まるおそれがあります。 けがをするおそれがあります。

開けている最中は、誰もサイドウインドウに触れないようにしてください。 誰かが挟まれてしまった場合は、スイッチを放すか、あるいはスイッチを引いてもう一度サイドウインドウを閉じます。

⚠ 警告

閉じる部分に身体を近づけていると、サイドウインドウを開く際に挟まれるおそれがあります。けがをする危険があります。

閉じる手順の間は、閉じる部分に身体を近づけないようにしてください。 誰かが挟まれたら、スイッチを放すか、あるいはスイッチを引いてサイドウインドウをもう一度開きます。

⚠ 警告

とくに保護者のいない子供を車内に残すと、サイドウインドウを操作して挟まれるおそれがあります。 けがをするおそれがあります。

リアサイドウインドウのチャイルドプルーフロックを作動させます。 車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。 保護者のいない子供を車内に残さないでください。

⚠ 警告

子供だけを残して車から離れないでください。

- ドアを開けることによって、他の人々や道路利用者を危険にさらすおそれがあります。
- 車両から降りて、通過する車にぶつかるおそれがあります。
- 車両の装備品を操作してしまうおそれがあります。

さらに以下のような場合に、子供が車両を動かしてしまうおそれもあります。

- パーキングブレーキを解除する。
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション P からシフトする。
- マニュアルトランスミッションをニュートラルにシフトする。
- エンジンを始動する。

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。 保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。 キーは必ず子供の手の届かないところに保管してください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- サイドウインドウの開閉
- すべてのサイドウインドウの開閉

サイドウインドウの不具合

⚠ 警告

挟み込み防止機能が作動しない状態で、またはより強い力でサイドウインドウが閉じると、重傷または致命的な傷害を受けるおそれがあります。 サイドウインドウを閉じるときは、身体などを挟まないように注意してください。

トラブル：サイドウインドウとドアフレームの間に障害になる物が挟まっている

▶ 障害物を取り除いてください。

▶ サイドウインドウを閉じます。

トラブル：サイドウインドウが全閉しない。原因が分からない。

サイドウインドウを閉じているとき、ウインドウが障害物を検知して停止し、その位置から少し下降した場合は、以下の操作を行なってください。

▶ その状態からただちに再度スイッチを引き続けて、サイドウインドウを閉じます。

サイドウインドウを閉じているときに、ウインドウが再度障害物を検知して停止し、その位置から少し下降した場合は、以下の操作を行なってください。

▶ その状態からただちに再度スイッチを引き続けて、サイドウインドウを閉じます。

ℹ 故障のためにサイドウインドウを開閉できなくなった場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

スライディングルーフ

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

スライディングルーフを開閉するときに、ルーフの移動範囲に身体を近づけると、はさまれるおそれがあります。 けがをするおそれがあります。

開閉操作中は身体を近づけすぎないようにしてください。

はさまれた場合：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動操作中に、どの方向でもスイッチを短時間押します。

開閉手順が中断されます。

⚠ **警告**

とくに保護者のいない子供を車内に残すと、スライディングルーフを操作して挟まれるおそれがあります。 けがをするおそれがあります。

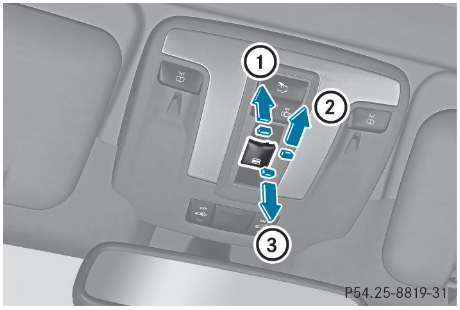
車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。 保護者のいない子供を車内に残さないでください。

! パノラミックスライディングルーフに雪や氷が付着した状態で操作しないでください。 スライディングルーフが故障する原因になります。

スライディングルーフの開口部から物を出さないようにしてください。 スライディングルーフのシール部が損傷するおそれがあります。

ⓘ スライディングルーフが開いているときは、通常の風切り音に加えて空気の振動が発生する可能性があります。 これらは、車内の圧力変動が原因で発生します。 これらを低減または除去するには、スライディングルーフの調整位置を変更するか、サイドウインドウを少し開いてください。

スライディングルーフの開閉



ルーフオペレーティングユニット

① チルトアップ

② 開く

③ 閉じる / チルトダウン

▶ イグニッションのキーをポジション **1** または **2**(▷ 102 ページ) に回します。

▶ [スイッチ] スイッチを対応する方向へ押すか、または引きます。

▶ **自動で開く：** [スイッチ] スイッチを短時間、抵抗を感じるポイントを越えて矢印の方向 ② に押します。

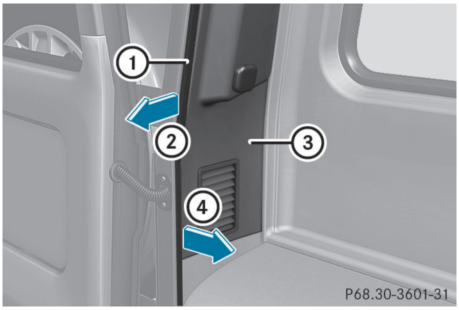
スライディングルーフが完全に開きます。

▶ **自動操作を中断する：** [スイッチ] スイッチを再度押すか、引きます。

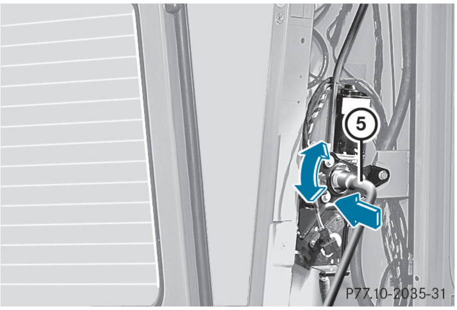
ⓘ 自動操作は、開くときしか使用できません。

スライディングルーフの手動操作

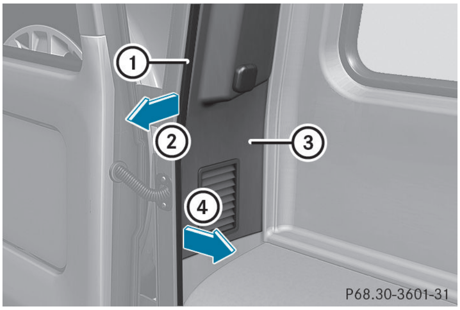
アクチュエーターは、ラゲッジルーム内、リアウォールトリム裏の左側にあります。

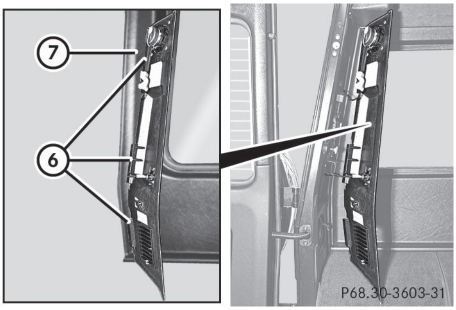


▶ リアドアを開きます。
▶ ドアピラーからエッジプロテクション ① を矢印の方向 ② に取り外します。
▶ リアパネルトリム ③ を矢印の方向 ④ に電気コネクターに手が届くように必要な分だけ取り外します。
▶ 電気コネクターの接続を切ります。
▶ リアパネルトリム ③ を完全に取り外します。



▶ ホイールレンチ ⑤ を車載工具 (▷ 225 ページ)から取り出します。
▶ ホイールレンチ ⑤ をアクチュエーターのヘキサゴンナットに当てます。
▶ **開く：**ホイールレンチ ⑤ を反時計回りに回します。
▶ **閉じる：** ホイールレンチ ⑤ を時計回りに回します。





▶ 電気コネクタを再度接続します。
▶ リアパネルトリム ③ を再び取り付けます。
取り付けているときに、リアパネルトリム ③ の突起 ⑥ を車両のサイドウォール ⑦ に掛けます。
▶ エッジプロテクション ① を再び取り付けます。
▶ リアドアを閉じます。

役に立つ情報 80
運転席のシートポジション 80
シート 80
ステアリング 83
ミラー 83
メモリー機能 83

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国により、仕様が異なる場合があります。 お買い上げいただいた車両には、記載されているすべての内容が備わっていないことがあります。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 26 ページ).

運転席のシートポジション

運転席シートの位置については、以下のテーマに関する安全上の注意を守ってください。

- シート(▷ 80 ページ)
- ステアリング(▷ 83 ページ)
- シートベルト(▷ 43 ページ)

以下に関する情報は、デジタル版取扱説明書に記載されています。

- シートおよびステアリングの調整
- シートベルトの着用

シート

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

シートは、キーを抜いても位置の調整ができます。そのため、子供だけを車内に残して車両から離れないでください。シートを調整することで身体を挟まれるおそれがあります。

⚠ **警告**

走行中は運転席シートを調整しないでください。運転に集中できなくなったり、シートが動いて車両のコントロールを失うことがあります。その結果、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **警告**

シートの高さは慎重に調整しないと、挟み込んで負傷するおそれがあります。 とくに子供は、電動シート調整スイッチを誤って押してしまい、挟み込まれるおそれがあります。

注意：

- シートを動かしている間は、シート調整システムのレバー部品の下に手を入れないでください。
- 車内の子供が機械部分の下に手を入れないようにしてください。

⚠ **警告**

シートを調整するときは、挟み込みがないことを確認してください。

エアバッグに関する注意事項をご覧ください。

子供は安全に乗車させてください。"子供を乗せるとき"をご覧ください。

⚠ **警告**

ヘッドレストの中央が目の高さにあり、後頭部が支えられていることを確認してください。頭部がヘッドレストによって正しく支えられていないと、事故のとき、首に重大な負傷をするおそれがあります。ヘッドレストが装着されていないときや正しく調整されていないときは、決して走行しないでください。

⚠ **警告**

リアシートに乗車するときは必ずヘッドレストを取り付けてください。 シートに着座するときは、ヘッドレストを直立位置まで動かしてください。 これにより、事故のときに乗員が重大なけがをする危険性を低くします。

⚠ **警告**

シートベルトはバックレストがほぼ垂直で、乗員がまっすぐに座っているときのみ、想定された保護の効果を発揮することができます。シートの位置はシートベルトが正しく装着できるようにしてください。バックレストをできるだけ垂直に調整してください。バックレストを後方に寝かせた状態で絶対に走行しないでください。事故のとき、または急ブレーキ時などに重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

! シートとシートヒーターの損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- シートに液体をこぼさないでください。 シートに液体をこぼしたときは、すみやかに乾燥させてください。
- シートカバーが濡れたときは、シートヒーターを使用しないでください。 シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。
- シートカバーを清掃してください。"日常の手入れ"をご覧ください。
- シートの上に重い物を載せないでください。 また、シートクッションの上にナイフやくぎ、工具などの鋭利な物を置かないでください。 シートはできるだけ人を乗せるためだけに使用してください。
- シートヒーターの使用中は、ブランケットやコート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシート、補助シートなどにより、シートを覆わないでください。

! シートの前後位置を調整するときは、足元やシート後方に物がないことを確認してください。 シートや物を損傷するおそれがあります。

! リアシートを前方に倒しているときは、フロントシートを最後方位置に動かすことはできません。 シートとリアシートを損傷するおそれがあります。

! バックレストとヘッドレストの高さを調整する前に、サンバイザーが格納されていることを確認してください。 ヘッドレストを完全に引き出した場合、ヘッドレストとサンバイザーが接触するおそれがあります。

ℹ フロントドアが開いているときは、イグニッションをオフにしてから約 30 分間シートを調整できます。

ℹ リアコンパートメントのヘッドレストは取り外せます。(▷ 81 ページ)

詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

ℹ ラゲッジルームの拡張（リアシートを前方に倒す）について、詳細は(▷ 203 ページ)をご覧ください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- シートの調整
- ヘッドレストの調整
- リアヘッドレストの脱着

- マルチコントロールシートバックの調整
- 電動ランバーサポートの調整
- フロントシートを前方に倒す（イージーエントリー G-Class カブリオレ）
- シートベンチレーターのオン / オフ

シートヒーターの使用

全体的な注意事項

⚠ 警告

シートヒーターをレベル **3**（強）で連続して使用すると、シートが異常に過熱するおそれがあります。高温により乗員の健康に悪影響を与えたり、低温火傷を起こすおそれがあります。したがって、レベル **3**（強）を連続して使用しないでください。

スイッチの赤い表示灯は、選択したレベルを表します。

▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。

ℹ バッテリー電圧が低くなると、シートヒーターが停止することがあります。

フロントシートヒーターのオン / オフの切り替え

▶ **オンにする：**お好みのヒーターレベルになるまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

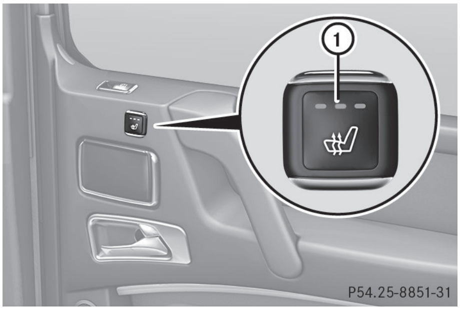
▶ **オフにする：**表示灯が消灯するまで、シートベンチレータースイッチ ① を繰り返し押します。

ℹ システムは約 8 分後にレベル **3** からレベル **2** へ自動的に切り替わります。

システムは約 10 分後にレベル **2** からレベル **1** へ自動的に切り替わります。

レベル **1** に設定してから約 35 分後に、システムは自動的に停止します。

リアシートヒーターのオン / オフの切り替え



▶ **オンにする：**お好みのヒーターレベルになるまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

▶ **オフにする：**表示灯が消灯するまで、シートベンチレータースイッチ ① を繰り返し押します。

ℹ システムは約 8 分後にレベル **3** からレベル **2** へ自動的に切り替わります。

システムは約 10 分後にレベル **2** からレベル **1** へ自動的に切り替わります。

レベル **1** に設定してから約 35 分後に、システムは自動的に停止します。

シートヒーターが作動しないとき

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

ステアリング

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

ステアリングの調整は停車中にのみ行なってください。走行中にステアリングの調整を行なうと、車両のコントロールを失うおそれがあります。

電動調整式ステアリングは常時調整することができます。そのため、子供だけを車内に残したり、施錠していない車に子供を近づけないでください。子供が誤って車両に近づくと思わぬ事故や重大なけがをする原因となります。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ステアリングの調整
- ステアリングヒーター
- イージーエントリー機能

ミラー

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ルームミラー
- ドアミラー
- 自動防眩ルームミラー＆ドアミラー（運転席側）
- リバースポジション機能付ドアミラー（助手席側）

メモリー機能

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- メモリーの設定
- 記憶した位置を呼び出す

役に立つ情報 86
ライト 86
ルームライト 88
電球の交換 89
フロントワイパー 92

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国により、仕様が異なる場合があります。 お買い上げいただいた車両には、記載されているすべての内容が備わっていないことがあります。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 26 ページ).

ライト

重要な安全上の注意

日中にライトなしで走行したい場合は、マルチファンクションディスプレイで"デイタイムドライビングライト"機能をオフにしてください (▷ 152 ページ)。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 非常点滅灯
- ヘッドライトウォッシャー
- ヘッドライト内側の曇り

ランプスイッチ

操作

! 車両を離れるときは、車幅灯およびロービームヘッドライトをオフにしてください。これにより、バッテリーを放電から防ぎます。

! バッテリーが過放電すると、次回のエンジン始動を可能にするために、車幅灯またはパーキングランプが自動的に消灯します。法的基準にしたがって車両を安全で十分な明るさのところに常に駐車してください。車幅灯 [車幅灯] を何時間も連続してご使用にならないでください。可能であれば、[P右] 右側または [P左] 左側パーキングランプを点灯してください。

車から離れるときに警告音が鳴る場合は、ライトがまだ点灯している可能性があります。

▶ ライトスイッチを AUTO にまわします。

方向指示灯、ハイビームヘッドライト、ヘッドライトのパッシングは、コンビネーションスイッチを使用して操作します。 (▷ 87 ページ)

車外ライト（車幅灯 / パーキングライト以外）は、以下の操作を行なうと自動的に消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜き取ったとき
- キーを 0 の位置にして運転席ドアを開きます

ヘッドライト

▶ **ロービームヘッドライトを点灯する：**
エンジンスイッチのキーを 2 の位置にするか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチを [ロービーム] にまわします。
メーターパネルの表示灯 [ロービーム] が点灯します。

フォグランプ（AMG 車両以外）

> ⚠ **警告**
> 走行状況が霧になると思われる場合は、運転を開始する前にライトスイッチを [ロービーム] にまわしてください。車両が視認できなくなり、運転者や他の人に危険をおよぼすおそれがあります。

▶ **フォグランプを点灯する：** エンジンスイッチのキーを **2** の位置にするか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチを ［車幅灯］、［ヘッドライト］ または ［AUTO］ にまわします。

▶ ［フロントフォグランプ］ スイッチを押す。
メーターパネルの緑色の ［フロントフォグランプ］ 表示灯が点灯します。

▶ **フロントフォグランプを消灯する：** ［フロントフォグランプ］ スイッチを押します。
メーターパネルの緑色の ［フロントフォグランプ］ 表示灯が消灯します。

フロントフォグランプ装備車両のみに"フォグランプ" 機能があります。

フォグランプは霧の中を走行するときおよび視界が悪いときにのみ使用してください。 対向車や前方を走行している車両の迷惑になります。

リアフォグランプ

▶ **リアフォグランプを点灯する：** エンジンスイッチのキーを **2** の位置にするか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチを ［ヘッドライト］ または ［AUTO］ にまわします。

▶ ［リアフォグランプ］ スイッチを押す。
メーターパネルの黄色の ［リアフォグランプ］ 表示灯が点灯します。

▶ **リアフォグランプを消灯する：** ［リアフォグランプ］ スイッチを押します。
メーターパネルの黄色の ［リアフォグランプ］ 表示灯が消灯します。

車幅灯

▶ **オンにする：** ライトスイッチを ［車幅灯］ にまわします。

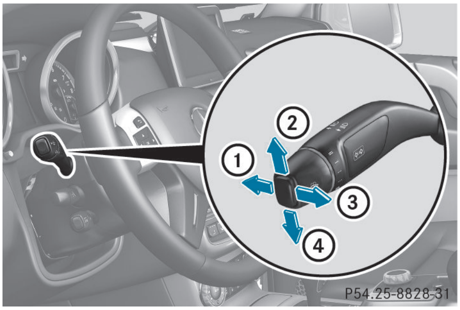
パーキングランプ

パーキングランプをオンにすると、対応する車両の側面が点灯します。

▶ **パーキングランプをオンにする：** キーがエンジンスイッチに差し込まれていないか、または **0** の位置にあります (▷ 102 ページ)。

▶ ライトスイッチを ［←P］ （車両の左側）または ［P→］ （車両の右側）にまわします。

コンビネーションスイッチ



① ハイビームヘッドライト
② 右側の方向指示灯
③ パッシングライト
④ 左側の方向指示灯

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 方向指示灯
- ハイビームヘッドライト
- パッシングライト

非常点滅灯

P54.25-8829-31

▶ **非常点滅灯の点灯：**スイッチ ①を押します。
すべての方向指示灯が点滅します。 このときにコンビネーションスイッチを使用して方向指示灯を作動させたときは、車両の対応する側の方向指示灯のみが点滅します。

▶ **非常点滅灯の消灯：** スイッチ ①を再度押します。

非常点滅灯は、以下のときに自動的に点滅します。

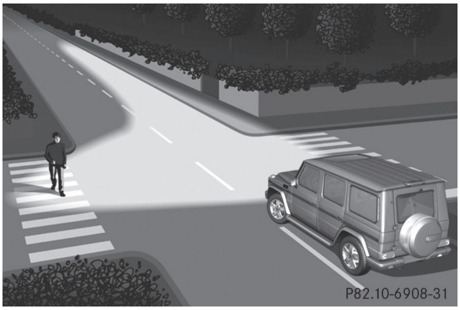
- エアバッグが作動したとき
- シートベルトテンショナーが作動したとき、または
- 約 70 km/h 以上の速度から車両が急減速して停止したとき

エアバッグまたはシートベルトテンショナーが作動して、エンジンスイッチのキーが 1 の位置にある場合は、非常警告灯は自動的にオンになります。

フルブレーキを利かせた後に車両が再度約 10 km/h 以上の速度に達すると、非常点滅灯は自動的にオフになります。

ⓘ 非常点滅灯は、イグニッションがオフのときも点滅させることができます。

コーナリングライト


P82.10-6908-31

コーナリングライト機能は、例えば曲がる方向の広い角度にわたる道路の照明を向上させ、きついカーブでの視認性をより良くします。ロービームヘッドライトがオンでフォグランプがオフの場合にのみコーナリングライト機能を作動させることができます。

作動： 約 40 km/h 以下の速度で走行していて、方向指示灯をオンにするか、またはステアリングをまわした場合

非作動：約 40 km/h 以上の速度で走行しているか、または方向指示灯をオフにするか、またはステアリングを直進位置にまわした場合

コーナリングライトは短時間点灯したままになりますが、約 3 分後に自動的に消灯します。

ルームライト

ルームライトとオーバーヘッドコントロールユニットの概要は"はじめに"をご覧ください。

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ルームライトの自動点灯
- ルームライトの手動点灯
- フロントドアのカーテシーライト

電球の交換

重要な安全上の注意

キセノンライト

⚠ 危険

キセノンバルブには高電圧が発生しています。 キセノンバルブの電気端子に触れると、感電して、重大な傷害または致命傷を負うおそれがあります。 そのため、キセノンバルブのカバーを取り外さないでください。

キセノンバルブはご自身で交換せず、資格のある工場で交換してください。

キセノンバルブが装備されているときは、以下のように確認することができます。エンジンを始動したときに、キセノンバルブからの光の円錐が上から下に動き、元に戻ります。 この動きを確認するには、エンジンを始動する前にヘッドライトを点灯させなければなりません。

バルブやライトは、車両の安全性の重要な装備です。 そのため、これらの機能が適切であることを常に確認してください。 ヘッドライトの設定は、定期的に点検してください。

LED ライト

キセノンバルブも LED 電球も交換することはできません。 LED 電球はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

バルブやライトは、車両の安全性の重要な装備です。 そのため、これらの機能が適切であることを常に確認してください。 ヘッドライトの設定は、定期的に点検してください。

その他の電球の取り扱い

⚠ 警告

電球とライトは非常に熱くなります。そのため、これらの交換を行なう前に冷ましてください。 触れると火傷をするおそれがあります。

電球は子供の手の届かないところに保管してください。 電球を壊すなどして、子供がけがをするおそれがあります。

落下した電球を使用しないでください。電球が破裂してけがをすることがあります。

ハロゲンバルブには圧力がかかっているため、特に高温になっているときは交換するときに破裂するおそれがあります。交換するときは保護メガネや手袋を着用してください。

キセノンバルブ以外にも交換できない電球があります。 挙げられている電球のみを交換してください (▷ 90 ページ)。

お客様自身で交換できない電球は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

電球交換の補助が必要なときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

新しい電球のガラス管には素手で触れないようにしてください。 少しの汚れでもガラス表面で溶けて、電球の寿命が短くなります。 電球を取り付けるときは常に、柔らかい布を使用するか、バルブ底部にのみ触れるようにしてください。

適切な種類の電球のみを使用してください。

新しい電球も点灯しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

バルブやライトは、車両の安全性の重要な装備です。 そのため、これらの機能が適切であることを常に確認してください。 ヘッドライトの設定は、定期的に点検してください。

電球を交換する前

以下の電球はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

- ドアミラーの追加方向指示灯
- ハイマウントストップランプ
- ハイビーム/ロービームヘッドライト（キセノンバルブ）
- デイタイムドライビングライト
- ライセンスプレートライト

ℹ ライセンスプレートライトの LED の個々のセグメントは、マルチファンクションディスプレイにディスプレイメッセージを表示せずに故障することがあります。ライセンスプレートライトは定期的に点検してください。必要であれば、メルセデス・ベンツ指定サービス工場をたずねてください。

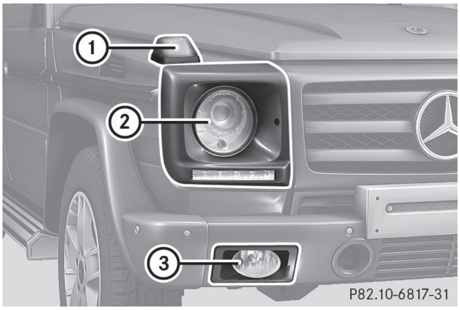
以下の電球を交換することができます。

- フォグランプ/フォグランプ機能付きコーナリングライト
- 方向指示灯（フロント）
- ブレーキ/テールランプ
- 方向指示灯（リア）
- テールランプ/パーキングランプ
- バックランプ
- リアフォグランプ

電球の交換 / 種類の概要

フロントライト

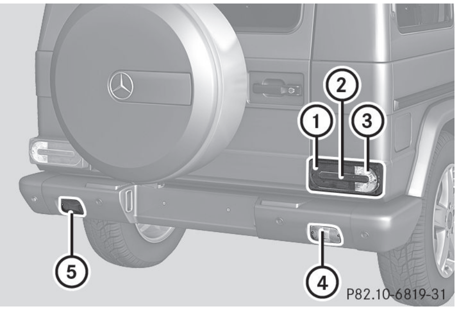
以下の電球を交換できます。 電球の種類の詳細は凡例をご覧ください。



① 方向指示灯：P 21 W（白色レンズ装備車両：PY 21 W （黄））
② パーキングライト/車幅灯：W 5 W 青
③ フォグランプ機能付きコーナリングライト機能：H11 55 W（AMG 車両以外）

リアランプ

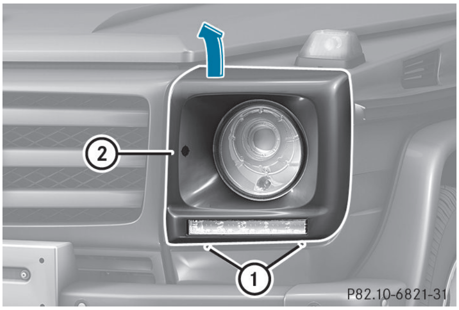
以下の電球を交換できます。 電球の種類の詳細は凡例をご覧ください。



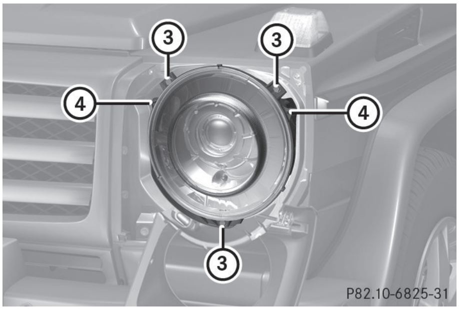
① テールランプ/パーキングランプ：R 5 W
② ブレーキランプ/テールランプ：P 21/5 W
③ 方向指示灯：PY 21 W（黄）
④ バックランプ：P 21 W
⑤ リアフォグランプ：P 21 W

フロントライトの電球交換

車幅灯/パーキングランプ

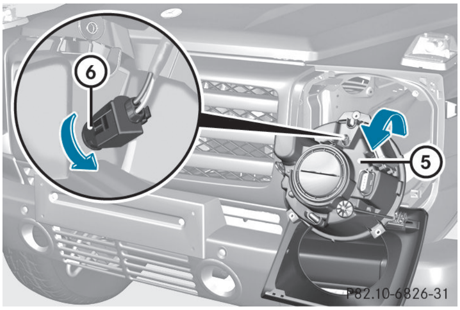


- ライトを消灯します。
- ネジ ① を緩めますが、取り外さないでください。
- パネル ② を矢印の方向に上方に取り外します。

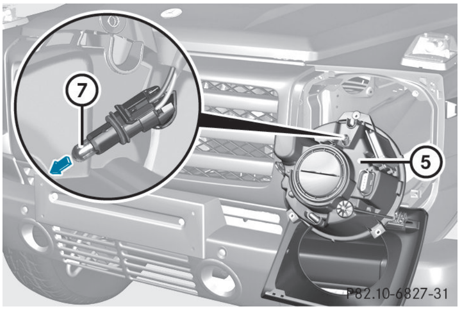


- スクリューを外します ③。

ℹ ネジ ③ のみを取り外してください。調整ネジ ④ をまわさないでください。調整ネジ ④ がまわってしまった場合は、ヘッドライトの調整をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。



- ヘッドライト ⑤ を取り外します。
- 電球ホルダー ⑥ を軽く押して、同時に反時計回りにまわして引き出します。



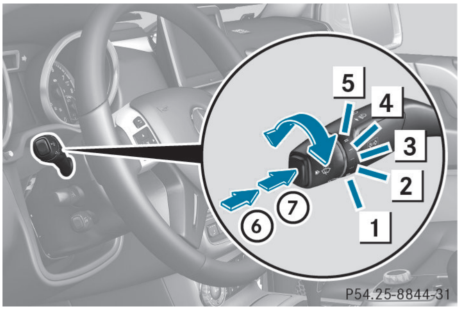
- 電球 ⑦ を電球ホルダー ⑥ から取り出します。
- 新しい電球を電球ホルダー ⑥ に差し込みます。
- ソケット ⑥ をランプに差し込み、時計回りにまわします。
- ヘッドライト ⑤ を差し込みます。
- スクリュー ③ を交換し締め付けます。
- カバー ② を合わせます。
- スクリュー ① を交換し締め付けます。

フロントワイパー

フロントワイパーのオン / オフ

⚠ 警告

ワイパーブレードが劣化すると、ウインドウの水滴を十分に拭き取ることができません。視界を妨げて周囲の交通状況を把握できず、事故の原因になります。ワイパーブレードは春季と秋季に 1 回ずつ交換してください。



コンビネーションスイッチ

1. [0] ワイパー停止
2. [•••] 低速間欠モード（レインセンサーは低感度に設定）
3. [••••] 高速間欠モード（レインセンサーは高感度に設定）
4. [—] 低速作動モード
5. [═] 高速作動モード

⑥ [ワイパー記号] 1 回のワイパー作動

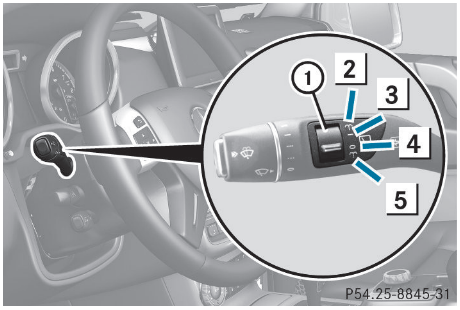
⑦ [ウォッシャー記号] ウォッシャー液付きワイパー

▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。

▶ コンビネーションスイッチを作動の位置にします。

[•••] または [••••] の位置では、雨滴量に応じてワイパーの作動が自動的に調整されます。 [••••] の位置では、レインセンサーは [•••] の位置よりも高感度となり、ワイパーはより短い間隔で作動します。

リアワイパーのオン / オフ



コンビネーションスイッチ

① [リアワイパー記号] スイッチ

2. [ウォッシャー記号] ウォッシャー液付きワイパー
3. **I** 間欠ワイパーの位置
4. **0** 間欠ワイパー停止の位置
5. [ウォッシャー記号] ウォッシャー液付きワイパー

▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。

▶ コンビネーションスイッチのスイッチ ① を対応する位置にまわします。

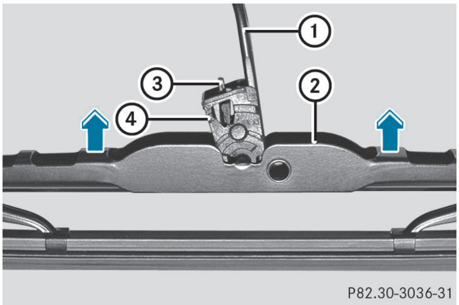
リアワイパーがオンのときは、マークがメーターパネルに表示されます。

ℹ フロントウインドウのワイパーがオンの間にセレクターレバーを **R** にシフトした場合は、リアウインドウのワイパーが自動的に作動します。

ワイパーブレードの交換

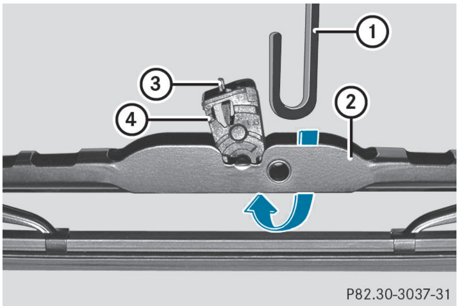
重要な安全上の注意

ワイパーブレードを取り外す



- エンジンスイッチからキーを抜きます。
- 固定されるまでワイパーアーム ① をフロントウインドウから離して倒します。
- ワイパーブレード ② を水平の位置にします。
- ロックバネ ③ を押します。
- ワイパーブレード ② をヒンジ部品 ④ と一緒にワイパーアーム ① からスライドします。

ワイパーブレードを取り付ける



- 新しいワイパーブレード ② を凹部でワイパーアーム ① の上にスライドします。
- ロックバネ ③ をワイパーアームの端に固定します。
- ワイパーブレード ② が正しく位置していることを確認します。
- ワイパーアーム ① をフロントウインドウの上に倒して戻します。

フロントワイパーの故障

これに関する情報は、デジタル版取扱説明書に記載されています。

役に立つ情報 96
エアコンディショナーシステムの概要 96
エアコンディショナーシステムの操作 97

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国により、仕様が異なる場合があります。 お買い上げいただいた車両には、記載されているすべての内容が備わっていないことがあります。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 26 ページ).

エアコンディショナーシステムの概要

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

以下のページで推奨されている設定に注意してください。停止したままにすると、ウインドウがくもりやすくなります。視界が妨げられて周囲の交通状況を把握できず、事故の原因になります。

オートエアコンディショナー（2 ゾーン）は車内の温度と湿度を制御し、空気から望ましくない物質をろ過します。

オートエアコンディショナー（2 ゾーン）はエンジンがかかっているときのみ作動可能です。サイドウインドウおよびスライディングルーフを閉じて走行している場合にのみ、最適な作動が得られます。

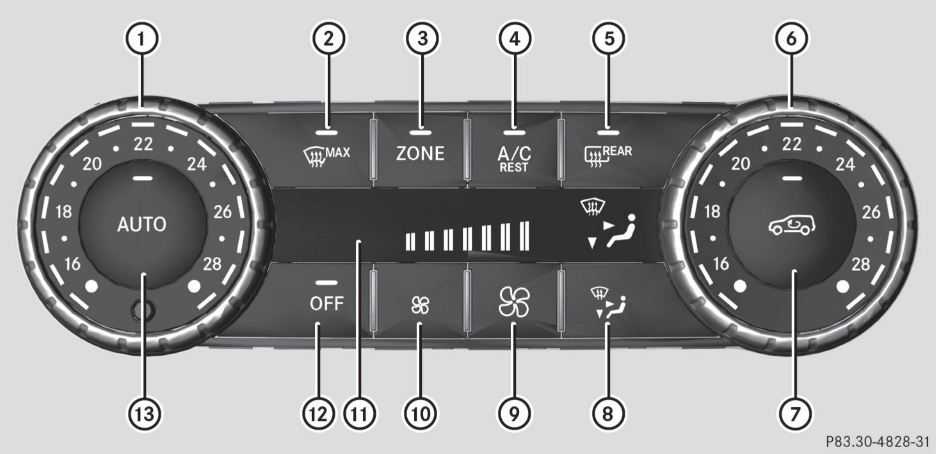
スライディングルーフが開いている間は、気候の快適さは低下します。スライディングルーフが開いていると、オートエアコンディショナーは設定した温度を保つことはできません。エアコンディショナーを手動で調整しなければなりません。

ℹ 余熱ヒーターベンチレーションは、エンジン停止中のみ作動または停止することができます。

ℹ 暖かい気候の間は、例えば、コンビニエンスオープニング機能を使用して少しの間車両を換気します(▷ 75 ページ)。それにより、冷却処理が早くなり、より早く希望の車内温度に達します。

ℹ 内蔵フィルターは、ほこりの大部分の粒子をろ過し、花粉をろ過することができます。 詰まったフィルターは車内に供給される空気の量を減らします。 このため、整備手帳で規定されているフィルターの交換間隔を必ず遵守してください。 重度の大気汚染のような環境の状況によるので、間隔は整備手帳に記述されているよりも短くなることがあります。

オートエアコンディショナー（2 ゾーン）の操作パネル



① 温度設定、左
② フロントウインドウの曇りを取る
③ 独立温度設定機能のオン / オフの切り替え
④ AC モードの設定 / 解除
⑤ リアデフォッガーの作動と停止の切り替え
⑥ 温度設定、右
⑦ 内気循環モードの設定 / 解除
⑧ 送風口の設定
⑨ 送風量を上げる
⑩ 送風量を下げる
⑪ ディスプレイ
⑫ エアコンディショナーのオン / オフの切り替え
⑬ エアコンディショナーを AUTO モードに設定

エアコンディショナーシステムの操作

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- エアコンディショナーのオン / オフ
- AC モードのオン / オフ
- エアコンディショナーを AUTO モードに設定する
- 温度の設定
- 送風口の設定
- 送風量の設定
- 独立温度設定機能のオン / オフ
- ウインドウデフロスター
- デフロスターモード

- リアデフォッガーの作動と停止の切り替え
- 内気循環モードの作動 / 解除
- 内気循環付きコンビニエンスオープニングスイッチ
- 余熱ヒーターベンチレーションのオン / オフ
- 送風口の調整

役に立つ情報 100
慣らし運転 100
走行 101
オートマチックトランスミッション 104
給油 106
駐車 109
運転のヒント 111
走行装備 114
オフロード走行装備 139
トレーラーのけん引 144

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国により、仕様が異なる場合があります。お買い上げいただいた車両には、記載されているすべての内容が備わっていないことがあります。このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 26 ページ).

慣らし運転

重要な安全上の注意

新品のブレーキパッド / ディスクは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは最適な制動性能を発揮できません。この期間は、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んで制動力を補ってください。

最初の約 1,500 km まで

新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって優れたエンジン性能を確保することができます。

- 最初の約 1,500 km までは、速度と回転数を変化させて走行してください。
- アクセルをいっぱいに踏み込むなど、エンジンに過度の負担がかかる運転は避けてください。
- エンジン回転数がタコメーターのレッドゾーン（許容限度）の ⅔ を超えないように、適切にギアシフトしながら運転してください。
- エンジンブレーキをかけるためにマニュアルギアシフトでギアをシフトダウンしないでください。
- 走行中にアクセルペダルを限界以上にいっぱいまで踏み込むこと（キックダウン）は避けてください。
- シフトポジション **3**、**2** または **1** は、山道などを低速で走行するときだけに使用してください。

走行距離が約 1,500 km を超えたら、エンジン負荷および回転数を徐々に上げてください。

AMG 車の慣らし運転に関する注意事項

- 最初の約 1,500 km までは、走行速度が約 140 km/h を超えないように運転してください。
- エンジン最高回転数が約 4,500 rpm を超えた状態で長時間運転しないでください。
- 走行距離が約 3,000 km に達した時にディファレンシャルオイルの交換を行なうまでは、オフロード走行を避けてください。
- 最初の約 1,500 km までは、主に走行モード **C** で車両を運転してください。

i エンジンや駆動系部品の交換を行なったときも、上記の注意事項を守って慣らし運転を行なってください。

リアディファレンシャルロック装備車（AMG）

ディファレンシャルを保護するために、新車時から約 3,000 km の慣らし運転後を目安にディファレンシャルオイルを交換してください。このオイル交換を行なうことにより、ディファレンシャルの使用寿命を延ばすことができます。オイ

ル交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

走行

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

運転席の足元にあるものは、ペダルの動きを制限したり、踏んだペダルを妨げることがあります。車両の操作および道路の安全性がおびやかされます。 事故の危険性があります。

すべてのものが車内に正しく収納され、運転席の足元に入り込むことができないことを確認してください。ペダルとの十分な隙間を確保するために、記載されているようにフロアマットを確実に装着します。固定していないフロアマットを使用しないでください。

⚠ **警告**

以下のような適していない履物は、ペダルの正しい作動を妨げることがあります。

- 薄いソールの靴
- 高いヒールの靴
- スリッパ

事故の危険性があります。

適した履物を着用し、ペダルの正しい作動を確保します。

⚠ **警告**

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

⚠ **警告**

走行時にパーキングブレーキが完全に解除されていない場合は、パーキングブレーキは以下のようになることがあります。

- オーバーヒートおよび火災の原因
- ホールド機能の損失

火災と事故の危険性があります。発進する前に、パーキングブレーキを完全に解除してください。

! 走行する前に、パーキングブレーキを確実に解除してください。 パーキングブレーキの加熱、誤作動や早期摩耗の原因となります。

! 素早く暖機運転します。 エンジンが暖まっていないときは、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。

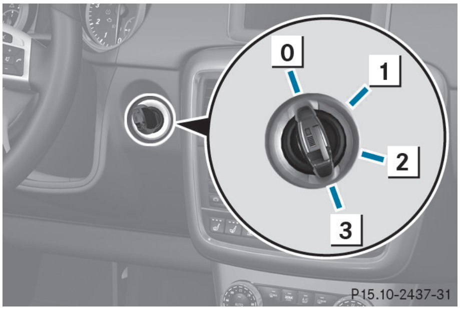
オートマチック車のシフト操作は、完全に停車して行なってください。

滑りやすい路面で発進するときは、駆動輪を空転させないように穏やかにアクセルペダルを操作してください。 駆動系部品が損傷するおそれがあります。

! エンジンが冷えているときは、エンジン回転数を高くしないでください。 エンジンの使用寿命が大幅に短くなる可能性があります。 エンジンが作動温度に達していないうちは、エンジン性能をフルに発揮させないでください。

! **AMG 車：**エンジンオイル温度が約 +20 ℃以下のときなどエンジンが暖まっていない場合は、エンジン保護のためにエンジン回転数が制限されることがあります。 エンジンを保護し、スムーズに作動させるため、エンジンが冷えているときはアクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。

キーの位置



0 キーを差し込む / 抜く位置

1 エンジン停止時にワイパーなどの電気装備が使用できる位置

2 イグニッション（すべての電気装備への電源供給）および運転するときの位置

3 エンジンを始動する

i イグニッションをオンにすると、メーターパネルのすべての表示灯が点灯します。 エンジンをかけると消灯します。 これは、各システムの表示灯および警告灯が正常に作動していることを示します。

i キーは、以下のときのみ抜き取ることができます。

• エンジンスイッチが **0** の位置のとき
• セレクターレバーが **P** に入っているとき

エンジンを始動する

重要な安全上の注意

⚠ **警告**
エンジンの燃焼は、一酸化炭素のような有毒な排気ガスを排出します。これらの排気ガスを吸い込むと中毒につながります。致命的なけがの危険性があります。従って、十分な換気がない閉じた空間でエンジンを作動させたままにしないでください。

⚠ **警告**
排気システム、または熱くなっているエンジンの部品に接触すると、環境の影響または動物によってもたらされた可燃性の素材が発火するおそれがあります。火災のおそれがあります。

定期的な点検を行ない、エンジンルーム、または排気システムに可燃性の異物がないことを確認してください。

! エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。

スタートプロセス

▶ シフトポジションを **P** にします。
マルチファンクションディスプレイにシフトポジション **P** が表示されます。

i エンジンは、シフトポジションが **N** のときも始動できます。

i オートマチックトランスミッションについて、詳しくは (▷ 104 ページ)をご覧ください。

i エンジン始動時にブレーキを踏むと、ペダルの踏み代が通常より長くペダルの抵抗が小さくなります。

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認してください。

▶ エンジンスイッチのキーを **3** の位置 (▷ 102 ページ) にまわして、エンジンがかかったらすぐに手を放します。

▶ 余熱表示灯 [00] が消灯したら、キーを **3** (▷ 102 ページ) の位置までまわし、エンジンがかかったらすぐに手を放します。

i タッチスタート機能でエンジンを始動することもできます。 キーを **3** の位置までまわして、すぐに手を放します。

(▷ 102 ページ) エンジンが自動的に始動します。

発進

オートマチックトランスミッション

⚠ 警告

エンジン回転数がアイドリング回転数以上で、トランスミッションをポジション D または R に入れると、車両は突然発進することがあります。事故の危険性があります。

トランスミッションをポジション D または R に入れるときは、常にブレーキペダルをしっかりと踏み、同時に加速しないでください。

! リバースギア R またはパーキングポジション P にするときは、完全に停車してください。 オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

! 警告音が鳴り、パーキングブレーキ解除してくださいというメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されている場合には、パーキングブレーキがまだ作動している状態です。 パーキングブレーキを解除します。

▶ ブレーキペダルをしっかりと踏みます。

▶ シフトポジション D または R にします。

ℹ 発進する前に、シフトチェンジが完了するまで待ちます。

▶ パーキングブレーキを解除します。(▷ 110 ページ)

▶ ブレーキペダルを徐々に戻します。

▶ アクセルペダルを注意しながら踏み、発進します。

ℹ ブレーキペダルを踏んだ状態でのみ、シフトポジションを P から他のポジションにすることができます。 その場合のみ、セレクターレバーが解除されます。

ℹ 発進すると、車が自動的に施錠されます。 ドアのロックノブが下がります。

ドアは車内からいつでもロックを解除して開くことができます。

また、車速感応ドアロックを解除することもできます。 (▷ 152 ページ)

ℹ エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。 これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正な作動温度に達します。

ヒルスタートアシスト

⚠ 警告

しばらくすると、ヒルスタートアシストは車両にブレーキを効かせなくなり、動き出すおそれがあります。 事故やけがの危険性があります。

従って、すばやくブレーキペダルからアクセルペダルに足を動かします。ヒルスタートアシストで車が停止しているときは、絶対に車から離れないでください。

ヒルスタートアシストは、坂道発進時に車が後退または前進するのを防ぎ、運転者の発進操作を補助します。 ブレーキペダルから足を放しても、ヒルスタートアシストが車を停止したまま保持します。そのため、車が動き出す前に、ブレーキペダルからアクセルペダルへ余裕を持って踏みかえることができます。

▶ ブレーキペダルから足を放します。

ℹ ブレーキペダルから足を放しても、ヒルスタートアシストが約 1 秒間ブレーキを効かせます。

▶ 発進します。

ただし、ヒルスタートアシストは以下のような状況では作動しません。

- 傾斜していない路面や下り坂で発進するとき
- シフトポジションを **N** にしたとき
- パーキングブレーキが効いているとき
- ESP® が故障しているとき

ECO スタート/ストップ機能（AMG 車両）

デジタル版取扱説明書には、全体的な注意事項と情報が記載されています。

- ECO スタート / ストップ機能の作動 / 作動解除
- 自動エンジン停止 / エンジン始動

オートマチックトランスミッション

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

エンジン回転数がアイドリング回転数以上で、トランスミッションをポジション **D** または **R** に入れると、車両は突然発進することがあります。事故の危険性があります。

トランスミッションをポジション **D** または **R** に入れるときは、常にブレーキペダルをしっかりと踏み、同時に加速しないでください。

ⓘ エンジンを停止した状態では、エンジンとトランスミッションの間の動力伝達が遮断されています。 そのため、エンジンを停止し停車するときは、車が動き出すのを防止するため、シフトポジションを **P** にしパーキングブレーキを確実にかけてください。

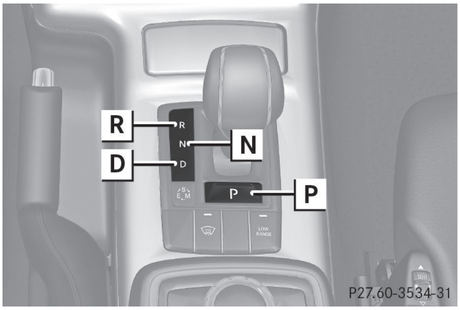
セレクターレバー

シフトポジションの概要

! エンジン回転数が高すぎるときや走行中は、 **D** から直接 **R**、または **R** から直接 **D** か **P** にシフトしないでください。

走行中には運転席ドアを開かないでください。 開いていると、シフトポジション **D** または **R** で低速のときに、パーキングポジション **P** に自動的にシフトします。

トランスミッションが損傷するおそれがあります。



セレクターレバー

P パーキングポジション

R リバースギア

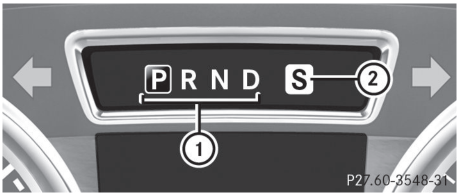
N ニュートラル

D ドライブ

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- パーキングポジション **P** の選択
- リバースギア **R** の選択
- ニュートラル **N** の選択
- ECO スタート / ストップ機能使用時のニュートラル **N** の選択（AMG 車）
- シフトポジション **D** の選択
- ECO スタート / ストップ機能使用時のニュートラル **D** の選択（AMG 車）

シフトポジションと走行モード表示



① シフトポジション

② 走行モード

現在のシフトポジション ① と走行モード ② がマルチファンクションディスプレイに表示されます。

セレクターレバーが D に入っているときは、以下の方法でオートマチックトランスミッションによるギアシフトに影響を与えることができます。

- ギアレンジの選択
- 手動によるシフトチェンジ

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- シフトポジション表示と走行モード表示
- シフトポジション
- ギアチェンジ
- 運転のヒント
- 走行モード選択スイッチ
- ステアリングパドルシフト
- 自動走行モード
- マニュアルギアシフト
- シフトレンジ
- トランスミッションの不具合

マニュアルギアシフト

概要

走行モード M では、ステアリングのパドルを操作して手動でギアを変更できます。 そのためには、セレクターレバーが D に入っている必要があります。 現在選択され、実際に締結しているギアがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

マニュアルギアシフト M は、シフトチェンジの自発性、応答性および滑らかさの点で、走行モード E および S+ と異なります。

マニュアルギアシフトの選択

▶ マルチファンクションディスプレイに M が表示されるまで、走行モード選択スイッチを繰り返し押します。詳しくはデジタル版取扱説明書をご覧ください。

シフトアップ（AMG 車以外）

▶ 右側のパドル (▷ 105 ページ) を引きます。

右側のパドルを引きます。詳しくはデジタル版取扱説明書をご覧ください。

1 段高いギアに変速します。

シフトアップ（AMG 車）

! マニュアルギアシフト M では、現在のギアでのエンジン許容回転数に達しても、自動的にシフトアップしません。 エンジンの許容回転数に達すると、エンジンの過回転を防ぎエンジンを保護するため、燃料供給が停止します。 エンジン回転数が許容回転数を超えて、タコメーターのレッドゾーンに入らないように注意してください。 エンジンが損傷するおそれがあります。

▶ 右側のパドル (▷ 105 ページ) を引きます。

右側のパドルを引きます。詳しくはデジタル版取扱説明書をご覧ください。1 段高いギアにシフトします。

エンジン回転数がレッドゾーンに達する前に、シフトアップインジケーターがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

▶ スピードメーターのマルチファンクションディスプレイの色が赤色に変わり、ディスプレイメッセージ UP が表示される場合は、ギアをシフトアップします。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- シフトダウン
- 最大限の加速を得るため最適なギアを選択する
- キックダウン
- マニュアルギアシフトの解除

給油

重要な安全上の注意

⚠ 警告

燃料は可燃性の高いものです。 燃料を不適切に扱った場合は、火災および爆発の危険性があります。

火気、裸火、火花の発生および喫煙は避けてください。給油の前にはエンジン、当てはまる場合は補助ヒーターを停止します。

⚠ 警告

燃料は健康に有毒で危険です。けがの危険性があります。

燃料が肌、目または衣服と接触しておらず、飲み込まれていないことを確認しなければなりません。燃料の気体を吸い込まないでください。燃料は子供から離してください。

お客様または他の方が燃料に触れた場合は、以下に従ってください。

- 石鹸および水道水を使用して、ただちに肌から燃料を洗い流してください。
- 燃料が目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。ただちに医療補助を求めてください。
- 燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医療補助を求めてください。吐かせないでください。
- 燃料が付着した衣服はただちに替えてください。

! 誤って指定以外の燃料を給油してしまった場合は、決してエンジンを始動しないでください。 誤った燃料が燃料系部品全体にまわるおそれがあります。 誤って指定以外の燃料を給油した場合は、燃料タンクや燃料装置から燃料を完全に抜き取る必要があるため、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! 給油ノズルの自動停止後は、それ以上補給しないでください。燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。

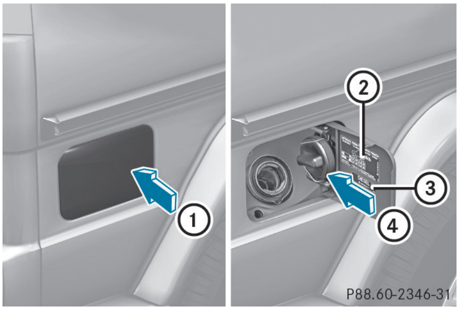
! 給油中に燃料を塗装面にこぼさないよう注意してください。 塗装面が損傷するおそれがあります。

! 燃料携行缶から燃料を補給するときは、フィルターを使用してください。 燃料携行缶に付着した微粒子によって、フューエルラインや燃料噴射システムの部品が詰まるおそれがあります。

燃料および燃料の品質について、詳しくは (▷ 254 ページ)をご覧ください。

給油

燃料給油口



例： G 500 の燃料給油口
① 燃料給油口を開く
② タイヤ空気圧ラベル
③ 使用燃料表示
④ キャップをはめる

キーで車両を開閉すると、燃料給油口も自動的に施錠 / 解錠されます。

メーターパネル内には、給油口の位置を示す が表示されています。 給油ノズルの横の矢印は、給油口の取り付け位置を示しています。 燃料給油口は車両の右側後方にあります。

開く

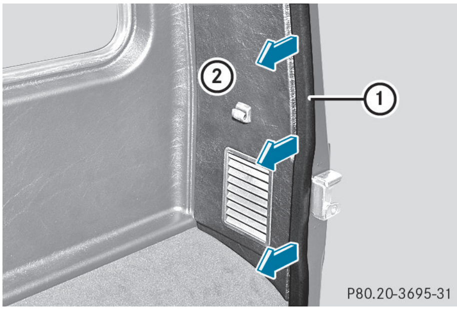
▶ 燃料給油口 ①の矢印の位置を押します。
燃料給油口が浮きます。
▶ 燃料給油口を開きます。
▶ キャップを反時計回りにまわして取り外します。
▶ 外したキャップを燃料給油口 ④ の裏側にあるホルダーにかけます。
▶ 給油ノズルを奥まで差し込み、給油を開始します。

ℹ 給油ノズルの自動停止後は、追加補給しないでください。 燃料があふれるおそれがあります。

閉じる

▶ キャップを取り付けて時計回りにまわします。 カチッと音がするまでキャップを締め付けます。
▶ 燃料給油口がはまるまで手で押さえつけます。

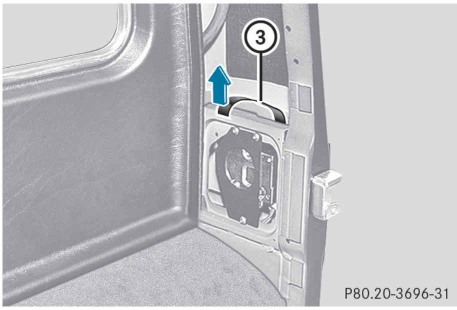
燃料給油口の非常時の解錠



燃料給油口のリリースグリップは、ラゲッジルーム右側（進行方向）のリアパネルトリムの裏側にあります。

ℹ リリースグリップのある車体部位には鋭利な部分があります。 けがをするおそれがあります。 車体の内側の鋭利な部分に触れないでください。

▶ リアドアを開きます。
▶ エッジプロテクション ①を取り外します。
▶ リアトリムパネル ②を取り外します。



- リリースグリップ ③ を矢印の方向に引きます。
  燃料給油口が解錠されます。
- 燃料給油口を開きます。

燃料および燃料タンクの不具合

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
燃料が漏れている。	⚠ 火災や爆発のおそれがあります。 燃料供給システムまたは燃料タンクに問題がある。 ▶ ただちにエンジンスイッチのキーを 0 (▷ 102 ページ) の位置にし、キーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
燃料給油口が開かない。	燃料給油口が解錠されていない。 または キーの電池が消耗している。 ▶ 車を解錠してください。 (▷ 70 ページ) または ▶ エマージェンシーキーで車を解錠してください。 (▷ 71 ページ) ▶ リアドアを開いてください。 ▶ エマージェンシーリリースを使用して、燃料給油フラップを手動で解錠してください。 (▷ 107 ページ)
	燃料給油口の開閉機構に異常がある。 ▶ エマージェンシーリリースを使用して、燃料給油フラップを手動で解錠してください。 (▷ 107 ページ) ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

駐車

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

保護者のいない子供を車両に残すと、例えば以下のようにして動かし始めるおそれがあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションのパーキングポジション P からのシフト
- エンジンの始動

彼らは車両装備を操作するおそれもあります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。 子供だけを車内に残して車両から離れないでください。

⚠ **警告**

葉、草または小枝のような可燃性の素材が熱くなった排気システムの部品にさらされて長く接触すると、発火するおそれがあります。火災のおそれがあります。

可燃性の素材が熱い車両の部品に接触しないように車両を駐車します。乾燥した草原、または収穫した穀物畑に駐車しないように特に注意してください。

⚠ **警告**

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

車が不意に動き出さないように、以下の方法で車を確実に固定してください。

- パーキングブレーキを確実にかけてください。
- 必ずシフトポジションを P にして、エンジンスイッチからキーを抜き取ります。
- トランスファーが N に入っていないことを確認します。
- 坂道で駐車するときは、前輪を歩道方向に向けてください。

エンジンの停止

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

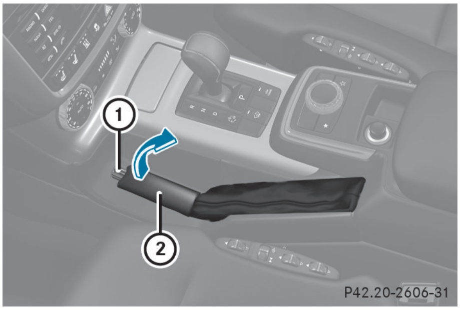
走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

デジタル版取扱説明書の情報

エンジンの停止方法はデジタル版取扱説明書にも記載されています。

パーキングブレーキ



ℹ 車両の制動のためパーキングブレーキ ② を使用しているとき、ブレーキランプは点灯しません。

▶ **作動させる：** パーキングブレーキ ② を確実に引き上げます。
パーキングブレーキ ② がかかります。

エンジンスイッチが 1 または 2 の位置にあるときは、メーターパネルの警告灯 (P) が点灯します。

▶ **解除する：** ブレーキペダルを踏んだまま保持します。
セレクターレバーロックが解除されます。

▶ パーキングブレーキ ② を確実に引き上げます。

▶ パーキングブレーキ ② のロック解除ボタン ① を押して、パーキングブレーキ ② を完全に下ろします。
メーターパネルの警告灯 (P) が消灯します。

ℹ パーキングブレーキ ② をかけたまま発進すると警告音が鳴ります。

駐車

車を 4 週間以上使用しないと、バッテリーが完全にあがって、損傷するおそれがあります。

▶ バッテリーの接続を切り離します。

または

▶ バッテリーを充電器に接続します。

ℹ 充電器についてはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

車を 6 週間以上使用しないと、車に不具合が発生するおそれがあります。

▶ 対応については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

運転のヒント

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 全般的な運転のヒント
- ブレーキ
  - 重要な安全上の注意
  - 下り坂
  - 高負荷 / 低負荷
  - 濡れた路面
  - 凍結防止剤等が撒かれた路面でのブレーキ性能の制限
  - AMG セラミック強化ブレーキシステム
- 濡れた路面の走行
- 寒冷時の走行
  - 全体的な注意事項
  - サマータイヤでの走行
  - 滑りやすい路面
- オフロード走行
  - 全体的な注意事項
  - 砂地の走行
  - わだちや砂利道
  - 障害物を越える走行
- 上り坂の走行
  - アプローチ / デパーチャーアングル
  - 登坂能力
  - 丘の頂上
  - 下り坂の走行

濡れた路面の走行

ハイドロプレーニング現象

路面に特定の深さまで水がたまると、以下の状況でもハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

- 低速で走行しているとき
- タイヤの溝が十分にあるとき

わだちなどの水のたまりやすい場所を避けて走行し、慎重にブレーキをかけてください。

冠水路の走行

! 前車や対向車も波を発生させていることに注意してください。 車が通ることにより、許容最大水深を超える可能性があります。

これらの注意事項は、どのような状況でも守ってください。 そうしないと、エンジン、電気装備およびトランスミッションを損傷するおそれがあります。

冠水路を走行するときは、以下の点に注意してください。

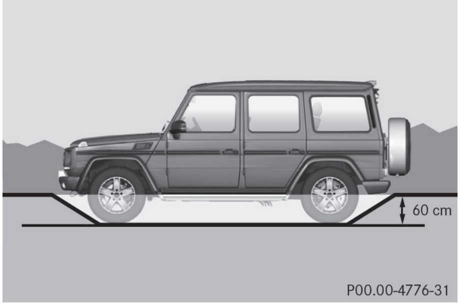
- 静水における許容水深値は約 60 cm です。
- 歩行速度以下でゆっくり走行してください。

河川を渡るとき

! 許容されている最大水深値は約 60 cm 以下です。 流れのあるところでは最大許容水深値が低下することに注意してください。

! どのような状況でも、水に入る前に加速しないでください。立った波は、水の浸入やエンジンまたは他の部品の損傷の原因になることがあります。

! 河川を渡っているときは車両のドアを開かないでください。 ドアを開くと、水が車内に浸入し車両の電子部品や車内の装備を損傷するおそれがあります。



車両に荷物を積載し運行可能な状態で、許容水深値は約 60 cm 以下です。

荷物を積載し運行可能な状態とは、燃料は満タン、フルード類を全量入れ、運転者が乗車した状態をいいます。

i 淡水以外の水を渡ることはできません。

- オフロード走行に関する安全上の注意 (▷ 112 ページ) および全体的な注意事項 (▷ 111 ページ) をお守りください。
- 走行前に水深を計り水域の状態を把握しておきます。
- エアコンディショナーを停止します。
-
- トランスファーを **LOW RANGE** に切り替えます。 (▷ 139 ページ)
- 必要に応じてディファレンシャルロックを使用します。(▷ 142 ページ)
- ギアレンジを **1** または **2** に制限します。(▷ 105 ページ)
- 高いエンジン回転数を避けます。
- 平坦な場所および一定の歩行ペースで水に入り、そして出ます。
- 水を渡るときはゆっくり一定速度で走行します。
- 停車したり、エンジンを停止したりしないでください。
- 水中では抵抗が高くなり、地面が滑りやすく不安定になることがあります。そのため、水中で発進することは困難で危険です。
- 走行中に波が発生していないことを確認してください。
- 河川を渡った後はタイヤ接地面に付着した泥を落します。
- 河川を渡った後はブレーキをかけて乾燥させます。
- 水中では抵抗が高くなり、地面が滑りやすく不安定になることがあります。そのため、水中で発進することは困難で危険です。
- 走行中に波が発生しないことを確認してください。
- 河川を渡った後に、タイヤと接地面に付着した泥を落します。
- 河川を渡った後はブレーキをかけて乾燥させます。

オフロード走行

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

急な斜面で斜めに走行している、または斜面で走行しているときに曲がる場合は、車両が横に滑り、傾き、横転することがあります。事故の危険性があります。

急な斜面では常に落下線（直進での登りまたは下り）内を走行し、車両を旋回させないでください。

オフロード走行時は、砂や泥、水がオイルなどと混ざってブレーキに混入するおそれがあります。 そのため、摩耗が進行して制動性能が低下したりブレーキがまったく効かなくなるおそれがあります。 ブレーキ特性の変化は、ブレーキに混入した物質によって異なります。 オフロード走行後は、ブレーキを清掃してください。 擦れる音または制動性能の低下が認められた場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でブレーキシステムの点検を受けてください。 ブレーキ特性の変化に応じて運転スタイルを合わせてください。

オフロード走行を行なうと、車両を損傷させる可能性が高くなり、アッセンブリやシステムの故障を招く原因になります。 オフロードの地形の状態に応じて運転スタイルを合わせてください。 慎重に運転してください。 車両が損傷した場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に修理を依頼してください。

丘陵地を走行するときは以下の事項を守ってください。

- シフトポジションを N にしないでください。
- 車両にとって勾配が非常に急でこれ以上進めないときは、リバースギアで後退してください。
- 車両のコントロールを失うおそれがあるので、ブレーキペダルを踏み続けないでください。

オフロード走行前のチェックリスト

! 車両が動いている間にエンジンオイル警告灯が点灯する場合は、車両をできるだけ安全な場所で停止してください。エンジンオイルレベルを点検します。エンジンオイル警告灯による警告は無視することはできません。マークを表示させた状態で走行を続けると、エンジンの損傷につながるおそれがあります。

▶ **エンジンオイル量：** エンジンオイル量を点検し、必要に応じて補充します。急な斜面では、エンジンオイル量が不足しているとエンジンに十分なエンジンオイルを供給することができません。

▶ **タイヤ交換工具キット：** ジャッキが作動することを点検し、車両に輪止め、頑丈なけん引ケーブルおよび折りたたみ式シャベルがあることを確認してください。

▶ **ホイールとタイヤ：** タイヤトレッド部の溝の深さとタイヤ空気圧を点検してください。

▶ 損傷がないか点検し、ホイール / タイヤに小石などの異物が挟まれている場合は取り除きます。

▶ バルブキャップを紛失した場合は再装着します。

▶ ホイールにへこみや損傷が生じた場合は交換します。

▶ 適正なスペアタイヤを搭載します。

オフロード走行後のチェックリスト

険しい地形の走行は、一般道路を走行するときに比べ車両に大きな負担を与えます。 オフロード走行後は、車両を点検してください。 これにより、損傷を素早く特定し、お客様や他の道路使用者の事故の危険性を低減することができます。

▶ トランスファーを HIGH RANGE に切り替えます。 (▷ 140 ページ)

▶ ディファレンシャルロックを解除します。 (▷ 142 ページ)

▶ ヘッドライトとリアライトを清掃し、損傷がないか点検します。

- ▶ 前後のライセンスプレートを清掃します。
- ▶ 散水ジェットでホイールとタイヤを清掃し、異物を取り除きます。
- ▶ 散水ジェットでホイール、タイヤ、ホイールアーチおよびアンダーボディを清掃し、異物や損傷がないか点検します。
- ▶ 小枝や植物などが挟まっていないか点検してください。 これらにより火災の危険性が増加し、燃料パイプ、ブレーキホース、またはアクスルジョイントおよびプロペラシャフトのラバーベローズが損傷するおそれがあります。
- ▶ 走行後は必ず、車台全体、ホイール、タイヤ、ブレーキ、車体構造、ステアリング、シャーシ、および排気システムの損傷を検査してください。
- ▶ 砂、泥、砂利、水または似たように汚れた状態で長期間走行した後は、ブレーキディスク、車輪、ブレーキパッド/ライニングおよびアクスルジョイントを点検し、清掃してください。
- ▶ オフロード走行後に強い振動を感じた場合は、車輪や駆動系に異物が挟まれていないか点検し、必要に応じてそれらを取り除いてください。 異物は、バランスを妨げ、振動の原因になることがあります。

走行装備

クルーズコントロール

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

クルーズコントロールが車両にブレーキをかけると、ブレーキペダルが動きます。 ブレーキペダル下部に足を入れると、挟まれるおそれがあります。 ブレーキの下部に障害物があると、ペダルの動作が妨げられ車両によるブレーキ制御が制限されるおそれがあります。 事故やけがの危険性があります。

ブレーキペダルの下に足を入れないでください。 ブレーキペダルの下に障害物がない状態にしてください。

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、クルーズコントロールは事故被害を軽減したり、物理的限界を超えて運転を支援することはできません。 クルーズコントロールは路面、天候および交通状況を考慮することはできません。 クルーズコントロールは補助装置です。 運転者には、走行速度や先行車のと車間距離の確保、適切なブレーキ操作など安全確保を行なう責任があります。 交通状況に応じて運転スタイルを合わせてください。 クルーズコントロールは、現在の路面、天候および交通状況から安全に作動可能な場合のみ使用し、それに応じて走行スタイルを合わせてください 注意して運転し、先行車との車間距離を適切に保持してください。

次のような場合にはクルーズコントロールを使用しないでください。

- 一定の速度を維持できない交通状況のとき（交通量が多い場合やカーブが連続している場合、オフロードなど）
- 路面が滑りやすい場合。 ブレーキや加速により駆動輪がトラクションを失い、車両が横滑りするおそれがあります。
- 霧や激しい雨、雪などで視界が悪いとき

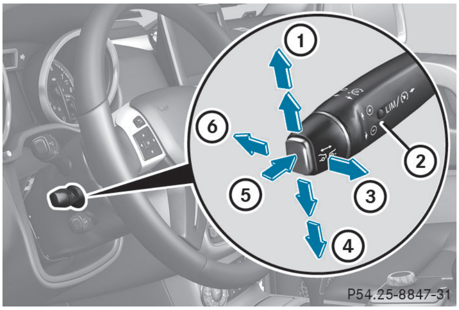
全体的な注意事項

クルーズコントロールは一定の走行速度を維持します。 長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときやトレーラーをけん引しているときは、適時シフトレンジを **1**、**2**、**3** にしてください。 そうすることにより、エンジンのブレーキ効果を利用します。 その結果、ブレー

キシステムへの負荷を軽減し、ブレーキが過熱して早く摩耗するのを防ぎます。

道路や交通状況が長時間の一定速度の維持に適している場合にのみ、クルーズコントロールを使用してください。 約 30 km/h 以上の任意の速度を設定できます。

クルーズコントロールレバー



① 速度を設定する / 上げる

② LIM 表示灯

③ 現在の速度 / 前回の設定速度に設定する

④ 速度を設定する / 下げる

⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える

⑥ クルーズコントロールを解除する

クルーズコントロールレバーで、クルーズコントロールと可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールを作動させると、設定速度がマルチファンクションディスプレイに約 5 秒間表示されます。

AdBlue® ディスプレイメッセージが確認されら、以下の操作を行なうことにより、クルーズコントロールのすべての機能を再び使用できます。

▶ マルチファンクションステアリングの [▭]、[▭]、[△] または [▽] スイッチを軽く押します。

または

▶ メーターパネルのリセットスイッチを押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯は、どのシステムが選択されているかを示します。

- **LIM 表示灯が消灯：** クルーズコントロールが選択されています。
- **LIM 表示灯が点灯：** 可変スピードリミッターが選択されています。

作動条件

クルーズコントロールを作動させるには、以下の条件をすべて満たしている必要があります。

- パーキングブレーキを解除していること
- 約 30 km/h 以上で走行していること
- ESP® を使用しているが機能が介入していないこと
- トランスミッションがポジション **D** であること
- クルーズコントロールの機能を設定していること (▷ 115 ページ)

クルーズコントロールの選択

▶ LIM 表示灯 ② が消灯しているか確認してください。

消灯しているときは、クルーズコントロールが選択されています。

消灯していないときは、クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ⑤ に押します。
クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が消灯します。 クルーズコントロールが選択されます。

現在の速度を記憶および維持する

設定および維持

約 30 km/h 以上で走行しているときは、現在の速度に設定することができます。

▶ 希望の速度まで加速します。

▶ クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ④ に軽く押します。

▶ アクセルペダルから足を放してください。
クルーズコントロールが作動します。 車両は自動的に設定速度を維持します。

ℹ 上り坂や下り坂では、クルーズコントロールは設定速度を維持できないことがあります。 勾配が平らになると設定速度に復帰します。 下り坂では、クルーズコントロールが自動的にブレーキを効かせることにより設定速度を維持します。

前回の設定速度を呼び出す

⚠ 警告

設定速度を呼び出し、それが現在の速度より低いときは、車両が減速します。 設定速度を覚えていないと、車両が不意に減速することがあります。 事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。 設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。

▶ クルーズコントロールレバーを手前 ③ に軽く引きます。

▶ アクセルペダルから足を放してください。
クルーズコントロールが作動し、車両速度を前回の設定速度に調整します。

ℹ 速度が設定されていない場合、クルーズコントロールは現在の速度を設定して維持します。

最後に保存した速度の呼び出し

設定および維持

約 30 km/h 以上で走行しているときは、現在の速度に設定することができます。

▶ 希望の速度まで加速します。

▶ クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ④ に軽く押します。

▶ アクセルペダルから足を放してください。
クルーズコントロールが作動します。 車両は自動的に設定速度を維持します。

ℹ 上り坂や下り坂では、クルーズコントロールは設定速度を維持できないことがあります。 勾配が平らになると設定速度に復帰します。 下り坂では、クルーズコントロールが自動的にブレーキを効かせることにより設定速度を維持します。

前回の設定速度を呼び出す

⚠ 警告

設定速度を呼び出し、それが現在の速度より低いときは、車両が減速します。 設定速度を覚えていないと、車両が不意に減速することがあります。 事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。 設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。

- クルーズコントロールレバーを手前 ③ に軽く引きます。
- アクセルペダルから足を放してください。
  クルーズコントロールが作動し、車両速度を前回の設定速度に調整します。

ℹ 速度が設定されていない場合、クルーズコントロールは現在の速度を設定して維持します。

速度の設定

調整

車両が設定速度まで加速または減速するまでには少し時間がかかることに注意してください。

- **速度を上げる：** クルーズコントロールレバーを上 ①に押します。
- **速度を下げる：** クルーズコントロールレバーを下 ④に押します。
- 希望の速度になるまでクルーズコントロールレバーを保持します。
- クルーズコントロールレバーから手を放します。
  新しい速度が記憶されます。

約 1 km/h 単位で調整する

- 設定速度を上げるにはクルーズコントロールレバーを上 ① に、設定速度を下げるには下 ④ に軽く押します。
  前回設定された速度が増減します。

約 10 km/h 単位で調整する

- クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ④ に圧力点を越えて操作します。
  前回の設定速度が約 10 km/h 単位で増減します。

クルーズコントロールの解除

クルーズコントロールを解除するにはいくつかの方法があります。

- クルーズコントロールレバーを前方 ⑥ に軽く押します。

または

- ブレーキペダルを踏みます。

または

- クルーズコントロールレバーを矢印 ⑤ の方向に軽く押します。
  可変スピードリミッターが選択されます。 クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。

以下のときはクルーズコントロールが自動的に解除されます。

- パーキングブレーキを効かせたとき
- 約 30 km/h 以下で走行したとき
- ESP® が作動したときや ESP® の機能を解除したとき
- 走行中にシフトポジションを N にしたとき

ℹ エンジンを停止すると、記憶されている前回の設定速度が消去されます。

可変スピードリミッター

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

走行中にブレーキペダルの上に足を置くと、ブレーキシステムがオーバーヒートすることがあります。これにより制動距離が増加して、ブレーキシステムが故障する原因になるおそれもあります。事故の危険性があります。

ブレーキペダルをフットレストとして使用しないでください。ブレーキペダルとアクセルペダルを同時に踏まないでください。

! ブレーキペダルを常時踏むと、ブレーキパッドが極端に早く磨耗する結果になります。

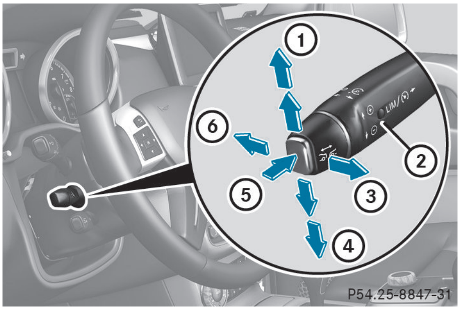
運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、可変スピードリミッターは事故被害を軽減したり、物理的限界を超えて安全を確保することはできません。 可変スピードリミッターは路面、天候および交通状況を考慮することはできません。 可変スピードリミッターは補助装置です。 運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキをかけ、車線を維持する責任があります。 可変スピードリミッターは、現在の路面、天候および交通状況から安全に作動可能な場合のみ使用し、それに応じて走行スタイルを合わせてください 注意して運転し、先行車との車間距離を適切に保持してください。

全体的な注意事項

設定された速度を超えないように可変スピードリミッターは自動的にブレーキを効かせます。 長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときやトレーラーをけん引しているときは、適時シフトレンジを **1**、**2**、**3** にしてください。 そうすることにより、エンジンのブレーキ効果を利用します。 その結果、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキが過熱して早く摩耗するのを防ぎます。 さらにブレーキが必要な場合は、継続的にではなく、繰り返しブレーキペダルを踏んでください。

i スピードメーターに表示された速度は記憶された制限速度と若干異なる場合があります。

クルーズコントロールレバー



① 現在の走行速度、またはより速い速度を記憶する
② LIM 表示灯
③ 前回の設定速度を呼び出す
④ 現在の走行速度、またはより遅い速度を記憶する
⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
⑥ 可変スピードリミッターを解除する

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールおよび可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯は、選択したシステムの状態を表しています。

- **LIM 表示灯が消灯：** クルーズコントロールが操作可能な状態です。
- **LIM 表示灯が点灯：** 可変スピードリミッターが操作可能な状態です。

エンジンがかかっているときにクルーズコントロールレバーを使用して、約 30 km/h 以上のあらゆる速度に速度を制限できます。

可変スピードリミッターの選択

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、可変スピードリミッターは事故被害を軽減したり、物理的限界を超えて安全を確保することはできません。 可変スピードリミッターは路面、天

候および交通状況を考慮することはできません。 可変スピードリミッターは補助装置です。 運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキをかけ、車線を維持する責任があります。 可変スピードリミッターは、現在の路面、天候および交通状況から安全に作動可能な場合のみ使用し、それに応じて走行スタイルを合わせてください 注意して運転し、先行車との車間距離を適切に保持してください。

▶ LIM 表示灯 ② が点灯しているか確認してください。

点灯しているときは、可変スピードリミッターはすでに選択されています。

消灯していないときは、クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ⑤ に押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。 可変スピードリミッターが選択されます。

現在の速度の記憶

エンジンがかかっているときにクルーズコントロールレバーを使用して、約 30 km/h 以上のあらゆる速度に速度を制限できます。

▶ クルーズコントロールレバーを上方 ① または下方 ④ へ軽く押します。

現在の速度に設定されマルチファンクションディスプレイに表示されます。

ℹ 下り坂では可変スピードリミッターを作動させても設定速度を超えることがあります。 その場合は警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに リミット コエマシタ というメッセージが表示されます。 必要に応じて、ご自身でブレーキをかけてください。

最後に保存した速度の呼び出し

前回の設定速度を呼び出す

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、可変スピードリミッターは事故被害を軽減したり、物理的限界を超えて安全を確保することはできません。 可変スピードリミッターは路面、天候および交通状況を考慮することはできません。 可変スピードリミッターは補助装置です。 運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキをかけ、車線を維持する責任があります。 可変スピードリミッターは、現在の路面、天候および交通状況から安全に作動可能な場合のみ使用し、それに応じて走行スタイルを合わせてください 注意して運転し、先行車との車間距離を適切に保持してください。

▶ クルーズコントロールレバーを手前 ③ に軽く引きます。

ℹ 設定速度を呼び出し、現在の速度が設定速度を超えているときは、警告音が鳴ります。 マルチファンクションディスプレイに リミット コエマシタ というメッセージが表示されます。

ℹ 速度が設定されていない場合、可変スピードリミッターは現在の速度を設定して維持します。

1 km/h 単位の調節

▶ **速度を上げる：** クルーズコントロールレバーを手前 ③に軽く引きます。

または

▶ 希望の速度が設定されるまでクルーズコントロールレバーを手前 ③ に引きます。

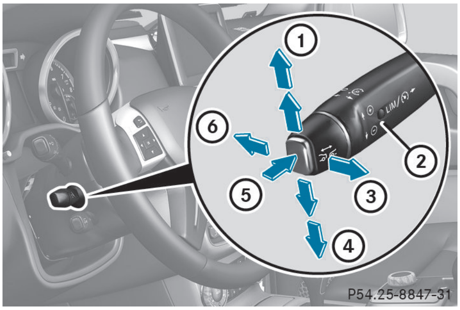
10 km/h 単位の調節

▶ 設定速度を上げるにはクルーズコントロールレバーを上 ① に、設定速度を下げるには下 ④ に軽く押します。

または

▶ 希望の速度が設定されるまでクルーズコントロールレバーを保持します。 設定速度を上げるにはクルーズコントロールレバーを上 ① に、設定速度を下げるには下 ④ に操作します。

可変スピードリミッターの解除



可変スピードリミッターを解除するにはいくつかの方法があります。

▶ クルーズコントロールレバーを前方 ⑥ に軽く押します。

または

▶ クルーズコントロールレバーを矢印 ⑤ の方向に軽く押します。
クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が消灯します。 可変スピードリミッターは解除されます。
クルーズコントロールが選択されます。

ブレーキにより可変スピードリミッターを解除することはできません。

アクセルペダルを圧力点を越えて踏むと(キックダウン)、現在の速度が保存した速度と約 12 km/h 以上異ならないときのみに、可変スピードリミッターは自動的に解除されます。

ディストロニック・プラス

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

ディストロニック・プラスは以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 駐停車している車両など、道路上の静止している障害物
- 対向車や横切る車両

この場合、ディストロニック・プラスは警告も介入も行ないません。 事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

⚠ **警告**

ディストロニック・プラスは、他の道路使用者や複雑な交通状況を常に明確に認識できるとは限りません。

その場合、ディストロニック・プラスは以下のように作動することがあります。

- 不必要な警告を行ない、車両にブレーキをかける
- 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる
- 不意に加速する

事故の危険性があります。

特に、ディストロニック・プラスから警告が送られた場合は、慎重に運転しブレーキをかける用意をしてください。

⚠ **警告**

ディストロニック・プラスは最大制動力の約 40% までで車両にブレーキをかけます。 制動力が不十分なときは、ディストロニック・プラスが音とランプで警告を送ります。 事故の危険性があります。

その場合は、必ずご自身でブレーキをかけ、危険回避の運転操作を行なってください。

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、ディストロニック・プラ

スは事故被害を軽減したり、物理的限界を超えて運転を支援することはできません。 ディストロニック・プラスは路面、天候および交通状況を考慮することはできません。 ディストロニック・プラスはあくまでも運転を支援するシステムです。 運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキをかけ、車線を維持する責任があります。 ディストロニック・プラスは、現在の路面、天候および交通状況から安全に作動可能な場合のみ使用し、それに応じて走行スタイルを合わせてください。 注意して運転し、先行車との車間距離を適切に保持してください。

ディストロニック・プラスが衝突の危険を感知しても、設定された車間距離を保持するため十分に減速することができない場合は、音とランプで運転者に警告を送ります。 ディストロニック・プラスは運転者の操作なしで衝突を回避することはできません。 断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの車間距離警告灯が点灯します。 安全な場合のみ、ただちにブレーキを操作して先行車のと距離を広げ、危険回避の操作を行なってください。

ディストロニック・プラスは、オートバイなど前方を走行している幅の狭い車両、または異なるラインを走行している車両を検知しないことがあります。 ディストロニック・プラスを作動させているときでも、交通状況には常に注意してください。 危険を適切に認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

ディストロニック・プラスが作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。 特にけん引時や自動洗車機で洗車しているときに、不意にブレーキが作動することがあります。 事故の危険性があります。 上記の状況やこれに類似した状況ではディストロニック・プラスを解除してください。

ディストロニック・プラスの支援機能を利用するには、以下の作動条件を満たし、 (▷ 122 ページ) レーダーセンサーシステムが作動可能な状態である必要があります。

全体的な注意事項

ディストロニック・プラスは速度を制御し、検知された先行車との車間距離を一定に維持するよう運転者を支援するシステムです。 ディストロニック・プラスは、設定された速度を超えないように自動的にブレーキを作動させます。

長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときは、適時シフトレンジを **1**、**2**、**3** にしてください。 そうすることにより、エンジンのブレーキ効果を利用します。 その結果、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキが過熱して早く摩耗するのを防ぎます。

ディストロニック・プラスが前方に速度の遅い車両を検知すると、事前に設定された先行車のと距離を維持するため、車両にブレーキをかけて減速させます。

先行車がいない場合は、ディストロニック・プラスは、30 km/h ～ 200 km/h の速度範囲で、クルーズコントロールと同じように作動します。 先行車がいる場合は、ディストロニックは約 0 km/h ～ 200 km/h の間の速度範囲で作動します。

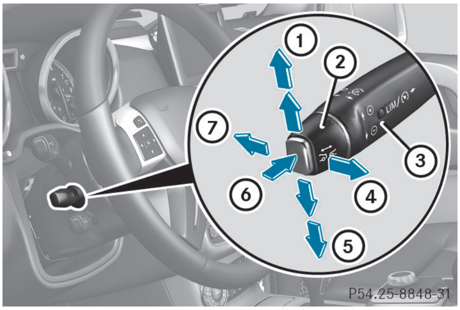
急勾配の道路ではディストロニック・プラスを使用しないでください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 速度の設定
- 指定の最小車間距離の設定
- メーターパネルのディストロニック・プラスディスプレイ

クルーズコントロールレバー



① 速度を設定する / 上げる
② 指定最短距離を設定する
③ LIM 表示灯
④ 現在の速度 / 前回の設定速度に設定する
⑤ 速度を設定する / 下げる
⑥ ディストロニックプラスと可変スピードリミッターを切り替える
⑦ ディストロニックプラスを解除する

クルーズコントロールレバーでディストロニックプラスや可変スピードリミッターを操作できます。

▶ **可変スピードリミッターとディストロニック・プラスを切り替える：** クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ⑥ に押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ③ は現在選択されている機能を表示します。

- **LIM 表示灯 ③ が消灯：** ディストロニック・プラスが選択されています。
- **LIM 表示灯 ③ が点灯：** 可変スピードリミッターが選択されています。

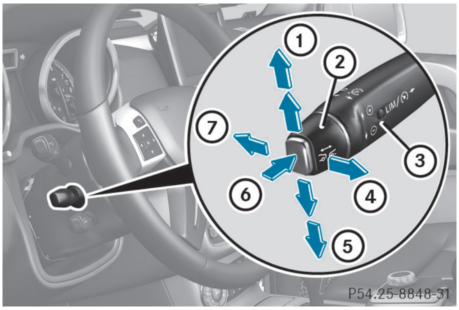
ディストロニック・プラスの設定

作動条件

ディストロニック・プラスを作動させるには、以下の条件を満たす必要があります。

- エンジンがかかっている。 ディストロニック・プラスが作動可能になるまで約 2 分間走行する必要があります。
- パーキングブレーキを解除している。
- ディファレンシャルロックが解除されている。
- ESP® を使用しているが機能が介入していない。
- シフトポジションは D にしている。
- P から D にシフトするときに運転席ドアが閉じている、または運転者のシートベルトが装着されている。
- 助手席ドアとリアドアが閉じている。
- 車両が横滑りしていない。
- ディストロニック・プラスの機能が選択されている。 (▷ 122 ページ)
- トランスファーは HIGH RANGE ポジションに設定されている。
- 車両は傾斜度約 22 ～ 25%以上の上り坂または下り坂にいない。
- レーダーセンサーに汚れが付着していない。 (▷ 217 ページ)

走行時の作動



約 30 km/h 以下の速度で走行しているときは、先行車両が検知され、マルチファンクションディスプレイに表示されている場合にのみディストロニック・プラスを作動させることができます。 先行車が検知および表示されなくなると、ディストロニック・プラスが解除され、音が鳴ります。

- ▶ クルーズコントロールレバーを手前に軽く引く ④ か、上 ① または下 ⑤ に押します。
  ディストロニック・プラスが選択されます。
- ▶ 希望の速度が設定されるまでクルーズコントロールレバーを繰り返し押し上げる ① か下に ⑤ 押します 。
- ▶ アクセルペダルから足を放してください。
  希望の記憶した速度までのみ、先行車の速度に自車の速度が合わせられます。

ℹ アクセルペダルから完全に足を放していない場合は、マルチファンクションディスプレイに ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸﾌﾟﾗｽ 制御待機中 というメッセージが表示されます。 このときは、ゆっくり走行している先行車との設定距離は維持されません。 アクセルペダルの位置に応じた速度で走行します。

停車中にオンにする

この機能は、渋滞列の最後尾にいるときなど、交通の流れに追従走行したいときに便利です。

ディストロニック・プラスは以下のときのみ作動させることができます。

- 先行車がいるとき
- 自車が停車中のとき

- ▶ クルーズコントロールレバーを手前に軽く引く ④ か、上 ① または下 ⑤ に押します。
  ディストロニック・プラスが選択されます。

ℹ ディストロニック・プラスは、先行車が検知されたときのみ、停車中および約 30 km/h 以下の速度で作動させることができます。 そのためには、メーターパネルのディストロニック・プラスの距離表示を作動させなければなりません (▷ 152 ページ)。

- ▶ 希望の速度が設定されるまでクルーズコントロールレバーを押し上げたままにするか ① 下げたままにします ⑤。

ℹ クルーズコントロールレバーを操作して希望の速度を設定したり、クルーズコントロールレバーのコントローラーを操作して規定最小距離を設定することができます。 (▷ 122 ページ)

現在の速度 / 前回の設定速度に設定する

⚠ **警告**

設定速度を呼び出し、それが現在の速度と異なるときは、車両が加速または減速します。 設定速度を覚えていないと、車両が不意に加速したりブレーキがかかることがあります。 事故の危険性があります。

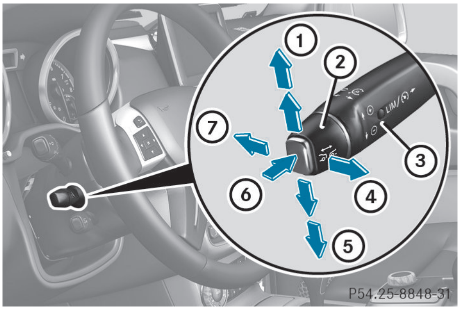
設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。 設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。

▶ クルーズコントロールレバーを手前 ④ に軽く引きます。

▶ アクセルペダルから足を放してください。
ディストロニック・プラスが作動します。 初めて作動させたときは、そのときの速度が記憶されます。 それ以外のときは、車両のクルーズ速度は前回の設定速度に設定されます。

ディストロニック・プラス作動時の運転

発進と走行



▶ **先行車が発進した場合は、** ブレーキペダルから足を放します。

▶ クルーズコントロールレバーを手前に軽く引く ④ か、上 ① または下 ⑤ に押します。

または

▶ 軽く加速します。
自車が発進して、速度を先行車の速度に合わせます。

先行車がいない場合は、ディストロニック・プラスはクルーズコントロールと同じ方法で作動します。

先行車が減速したことをディストロニック・プラスが検知すると、車両にブレーキをかけます。 このようにして設定された車間距離を維持します。

ディストロニック・プラスは、先行車が速度を上げたことを検知すると設定速度まで車両を加速します。

ブレーキを踏んだとき、自車が停止していないときはディストロニックプラスは解除されます。

車線の変更

追い越し車線に移るときは、以下の条件でディストロニック・プラスが運転者をサポートします。

- ディストロニックプラスが先行車との距離を維持しているとき
- 該当する方向指示灯を点滅させているとき
- ディストロニックプラスが衝突の危険を検知しないとき

これらの条件を満たした場合は、車両は加速します。 車線変更に時間がかかりすぎたり、自車と先行車との距離が狭すぎるときは、加速は中断されます。

ℹ 車線変更を行なうとき、ディストロニック・プラスは左ハンドル車では左側の車線、右ハンドル車では右側の車線をモニターします

停止

⚠ **警告**

車から離れるときは、ディストロニック・プラスによりブレーキがかかっていても以下の場合は車両が動き出すことがあります。

- システムまたは電源供給に異常があるとき
- 乗員または車外の誰かがクルーズコントロールレバーを操作して、ディストロニック・プラスが解除されたとき
- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造されたとき

- バッテリーの接続を外したとき
- 同乗者などがアクセルペダルを踏んだとき

事故の危険性があります。

車から離れるときは、必ずディストロニック・プラスをオフにして車両が動き出さないように固定します。

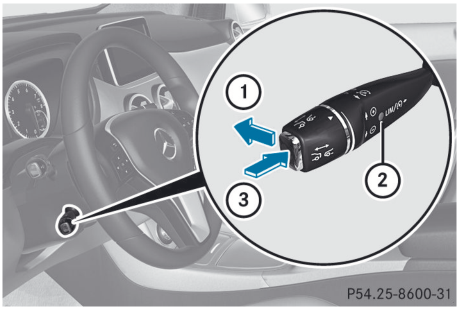
先行車が停止したことをディストロニック・プラスが検知すると、車両が停止するまでブレーキを効かせます。

一度車両が停止すると、停車したままになり、ブレーキを踏む必要はありません。

ⓘ 指定した最短距離によっては、自車は先行車後方の十分な距離があるところで停止することがあります。 指定最短距離はクルーズコントロールレバーのコントローラーを使用して設定します。

急勾配の上り坂または下り坂を走行しているときや異常が発生したときは、トランスミッションが自動的に **P** にシフトされることがあります。

ディストロニック・プラスの解除



ディストロニック・プラスを解除するにはいくつかの方法があります。

▶ クルーズコントロールレバーを前方 ① に軽く押します。

または

▶ 車両が停止していない場合はブレーキを効かせます。

または

▶ クルーズコントロールレバーを矢印 ③ の方向に軽く押します。
可変スピードリミッターが選択されます。 クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。

ディストロニック・プラスを解除すると、マルチファンクションディスプレイに約 5 秒間 ディストロニック プラス オフ というメッセージが表示されます。

ⓘ エンジンを停止するまで、前回の設定速度に設定されます。

以下のときは、ディストロニック・プラスが自動的に解除されます。

- パーキングブレーキを効かせたとき
- ESP® が介入したときや ESP®の 機能を解除したとき
- シフトポジションが **P**、**R**、**N** のいずれかのとき
- 車両が電波望遠鏡施設の近辺にあるとき (▷ 261 ページ)
- 発進するためにクルーズコントロールレバーを手前に引き、助手席ドア、またはリアドアのどちらかが開いているとき
- 車両が横滑りしたとき

ディストロニック・プラスが解除されると警告音が鳴ります。 マルチファンクションディスプレイにディストロニック プラス オフというメッセージが約 5 秒間表示されます。

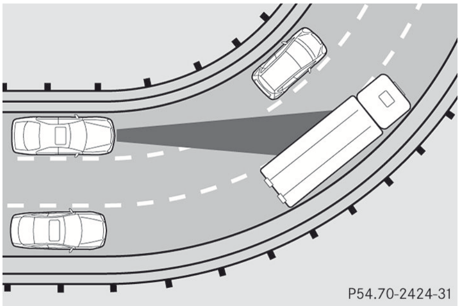
マルチファンクションディスプレイのアシスタンスメニュー (▷ 152 ページ)から、距離ディスプレイ表示を選択することができます。

ディストロニック・プラス使用時の運転のヒント

全体的な注意事項

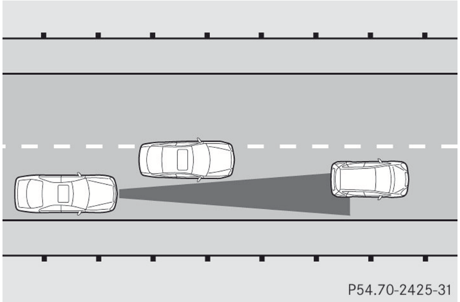
以下には、特に注意すべき道路や交通状況が説明されています。 そのような状況では、必要に応じてブレーキを効かせてください。 ディストロニック・プラスは解除されます。

カーブでの走行、カーブに入るときやカーブを抜けるとき



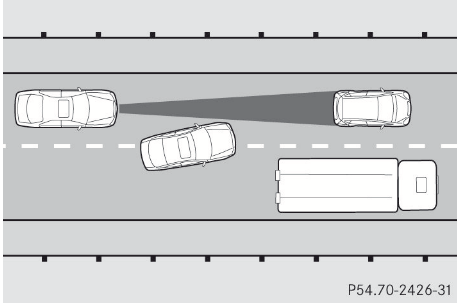
カーブではディストロニック・プラスの車両検知能力が制限されます。 予期せずまたは遅くブレーキを効かせることがあります。

車線の中央を走行していない車両



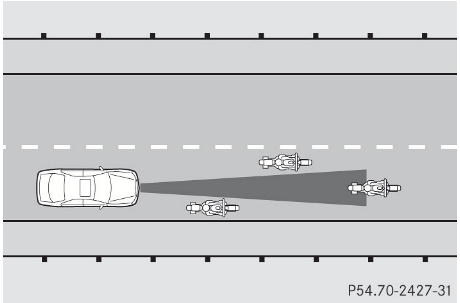
ディストロニック・プラスは車線の中央を走行していない車両を認識することができません。 先行車との距離は非常に短くなります。

車線変更している他の車両



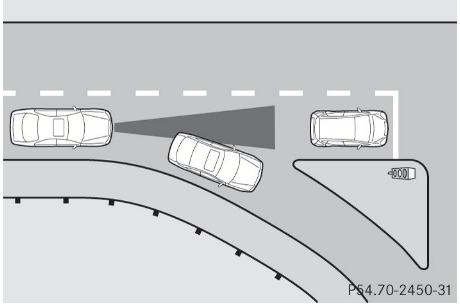
ディストロニック・プラスは割り込んでくる車両を検知しません。 この車両との距離は非常に短くなります。

幅の狭い車両



ディストロニック・プラスは道路の端の幅の狭い車両を検知しないことがあります。 先行車との距離は非常に短くなります。

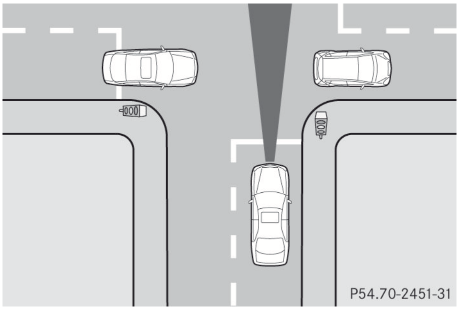
障害物や停止車両



ディストロニック・プラスは障害物や停止車両に対してブレーキを効かせないこ

とがあります。 例えば、検知していた車両がカーブを曲がり、障害物や停止車両が現れたときは、ディストロニック・プラスはこれらに対してブレーキを効かせないことがあります。

横切る車両



ディストロニック・プラスは車線を横切る車両を誤って検知することがあります。 交差点の信号でディストロニック・プラスを作動させると、不意に車両が発進することがあります。

ブラインドスポットアシスト

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

ブラインドスポットアシストは、以下のときは作動しません。

- 自車が追い越そうとしている隣接車線の車両が接近し過ぎ、死角エリアに入ったとき
- 隣接車線の接近車両との速度差が約 11 km/h を超えているとき

ブラインドスポットアシストはこのような状況では警告を行ないません。 事故の危険性があります。

常に交通状況に注意し、隣接する車両と安全な距離を維持してください。

ブラインドスポットアシストはあくまでも運転を支援するシステムです。 状況によっては車両を検知できないことがあり、運転者の代わりに安全確認を行なうことはできません。

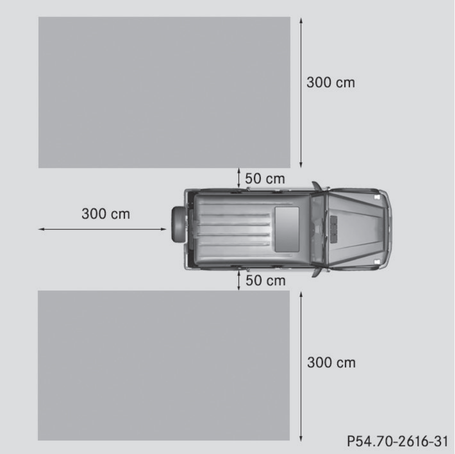
特に以下のときは、障害物の検知が困難になります。

- センサーに異物が付着しているとき、またはセンサーが何かでおおわれているとき
- 霧や激しい雨、雪などで視界が悪いとき
- オートバイや自転車など幅の狭い車両が前方を走行しているとき
- 車線の幅が極端に広い道路のとき
- 狭い車線の道路のとき
- 自車が車線の中央を走行していないとき
- 隔壁その他の道路分離帯があるとき

全体的な注意事項

ブラインドスポットアシストは、レーダーセンサーシステムを使用して車両の左右両側をモニターします。 システムは走行速度が約 30 km/h 以上のときに運転者を支援します。 モニター領域に車両が検知された場合は、ドアミラー内蔵の警告灯が点灯して運転者の注意を喚起します。 さらに運転者が車線変更を行なうために方向指示器を作動させると、音と光により衝突警告を行ないます。 そのために、ブラインドスポットアシストはリアバンパーに装着されたレーダーセンサーを使用します。

センサーの感知範囲



ブラインドスポットアシストは、図に示すように車両の左右に隣接する領域で車両の後方約 3 m までのエリアをモニターします。

車線の幅が狭い場合、2 車線横の車両が（レーンの中央を走行していない場合などに）検知されることがあります。 これは、車両が車線の外端部を走行している場合などです。

システムの性質上、以下のように作動することがあります。

- ガードレールや中央分離帯など停止物に接近すると、誤って警告を発することがあります。
- トラックなど特に長い車両が長い時間並走しているときに、警告が中断されることがあります。

ブライドスポットアシストの 2 個のレーダーセンサーは、リアバンパーの左右に内蔵されています。 バンパーのセンサー付近に汚れ、氷や泥が付着していないことを確認してください。 車両に装着された自転車のキャリアや垂れ下がった荷物などでセンサー付近が覆われないようにしてください。 強い衝撃を受けたりバンパーが損傷したときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの機能を点検してください。 これらのことをお守りいただかないと、ブラインドスポットアシストが正常に作動しなくなるおそれがあります。

表示灯と警告灯

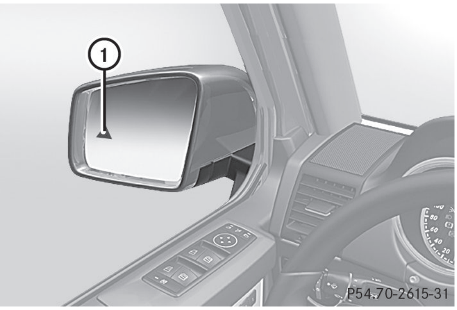
⚠ **警告**

ブラインドスポットアシストは、以下のときは作動しません。

- 自車が追い越そうとしている隣接車線の車両が接近し過ぎ、死角エリアに入ったとき
- 隣接車線の接近車両との速度差が約 11 km/h を超えているとき

ブラインドスポットアシストはこのような状況では警告を行ないません。 事故の危険性があります。

常に交通状況に注意し、隣接する車両と安全な距離を維持してください。



① 黄色の表示灯 / 赤色の警告灯

ブラインドスポットアシストをオンにすると、約 30 km/h 以下の速度ではドアミラーの表示灯 ① が黄色に点灯します。

約 30 km/h 以上の速度では表示灯が消灯し、ブラインドスポットアシストが作動可能になります。

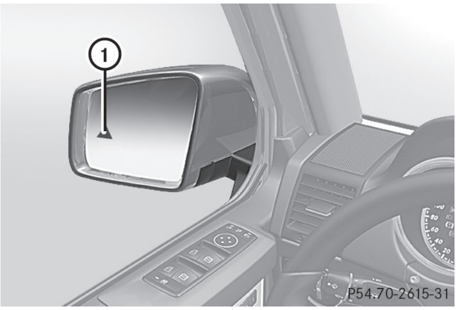
約 30 km/h 以上の速度でブラインドスポットアシストのモニター範囲内に車両が検知されると、対応する側の警告灯 ① が赤色に点灯します。 この警告は、後方または側方から車両がブラインドスポッ

トのモニター範囲に入ると常に行なわれます。 車両を追い越すときは、速度差が約 12 km/h 以下の場合にのみ警告が行なわれます。

黄色の表示灯はリバースギアになると消灯します。 次に、ブラインドスポットアシストが解除されます。

表示灯 / 警告灯の照度は周囲の明るさに応じて自動的に調整されます。

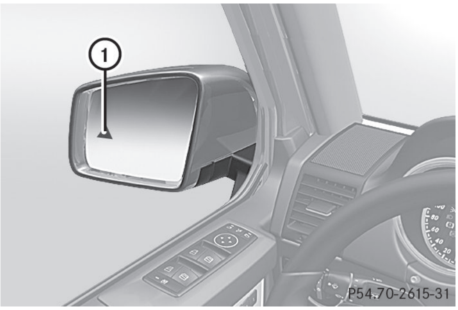
衝突の警告



① 黄色の表示灯 / 赤色の警告灯

ブラインドスポットアシストのモニター範囲に車両が検知されている状態で検知された側の方向指示灯をオンにすると、警告音が 2 回鳴ります。 赤色の警告灯 ① が点滅します。 方向指示灯をそのままにすると、検知された車両が赤色の警告灯 ① の点滅により表示されます。警告音はそれ以上鳴りません。

ブラインドスポットアシストをオンにする



① 黄色の表示灯 / 赤色の警告灯

- ナビゲーションシステム非装備車の場合は、Becker® MAP PILOT が接続されていることを確認してください。別冊のオーディオ 20 取扱説明書をご覧ください。
- マルチファンクションディスプレイで、ブラインドスポットアシストが作動していることを確認してください。(▷ 152 ページ)
- エンジンスイッチのキーを **2** (▷ 102 ページ) の位置にします。
  ドアミラーの警告灯 ① が約 1.5 秒間赤色で点灯した後、黄色に変わります。

トレーラーのけん引

トレーラーを連結するときは、電気的接続が正しく行なわれていることを確認してください。 トレーラーのライトの点灯により、接続が正しいことを確認することができます。 次に、ブラインドスポットアシストが解除されます。 ドアミラーの黄色の表示灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイに ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞｽﾎﾟｯﾄｱｼｽﾄ 現在 使用できません 取扱説明書を参照 というメッセージが表示されます。

ℹ ドアミラーの表示灯を消灯させることができます。

そのためには、以下のときにブラインドスポットアシストのスイッチをオフにします。

- エンジンスイッチが 2 の位置のとき
- エンジンが作動しないとき
- トレーラーとの電気的接続が確立されているとき

アクティブブラインドスポットアシスト

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

アクティブブラインドスポットアシストは、以下のときは作動しません。

- 自車が追い越そうとしている隣接車線の車両が接近し過ぎ、死角エリアに入ったとき
- 隣接車線の接近車両との速度差が約 11 km/h を超えているとき

この場合、アクティブブラインドスポットアシストは警告も介入も行ないません。 事故の危険性があります。

常に交通状況に注意し、隣接する車両と安全な距離を維持してください。

アクティブブラインドスポットアシストはあくまでも運転を支援するシステムです。 状況によっては車両を検知できないことがあり、運転者の代わりに安全確認を行なうことはできません。

特に以下の場合は、障害物の感知が困難になります。

- センサーに異物が付着しているとき、またはセンサーが何かでおおわれているとき
- 霧や激しい雨、雪などで視界が悪いとき
- オートバイや自転車など幅の狭い車両が前方を走行しているとき
- 車線の幅が極端に広い道路のとき
- 狭い車線の道路のとき
- 自車が車線の中央を走行していないとき
- 隔壁その他の道路分離帯があるとき

全体的な注意事項

アクティブブラインドスポットアシストは、レーダーセンサーシステムを使用して、車両の左右に隣接する運転者後方のエリアをモニターします。 モニター領域に車両が検知された場合は、ドアミラー内蔵の警告灯が点灯して運転者の注意を喚起します。 それでも運転者が車線変更を行なうため方向指示灯を作動させると、音と光により衝突警告を行ないます。 さらに、側面衝突の危険性を察知すると、コースを修正するためにブレーキを作動させ、衝突回避をサポートします。 コース修正ブレーキの適用を支援するために、アクティブブラインドスポットアシストは前方を監視するレーダーセンサーシステムを使用しています。

アクティブブラインドスポットアシストは走行速度が約 30 km/h 以上のときに運転者を支援します。

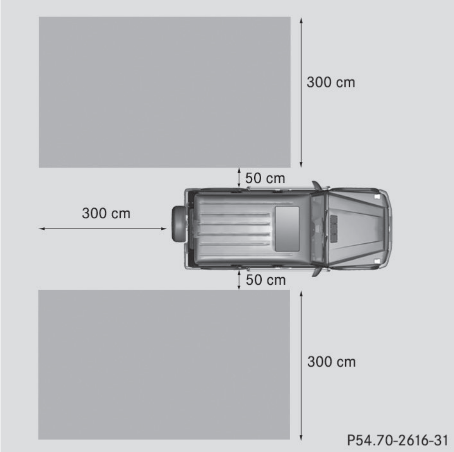
モニター範囲

⚠ **警告**

アクティブブラインドスポットアシストは車両近辺の特定の範囲をモニターします。高速で近づき通り過ぎていく車両は検知されません。視覚的、聴覚的な警告は発せられず、進路を修正するために、システムが車両にブレーキを効かせることはしません。

車線の幅が非常に広いときは、隣の車線の幅すべてをモニターしないことがあります。このため、特に車線の中央を走行していない場合は隣の車線の車両は検知されないことがあります。これは、車両が車線の外端部を走行している場合などです。

常に交通状況や周囲に注意してください。 適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。



アクティブブラインドスポットアシストは図に示すように、約 3.0 m までの車両後方、および車両のすぐ側方の範囲をモニターします。 このために、アクティブブラインドスポットアシストはリアバンパーのレーダーセンサーを使用します。

車線が狭い場合は、特に車両が車線の中央を走行していない場合は、お客様の車両の隣車線の次の車線の車両を検知することがあります。 これは、車両が車線の外端部を走行している場合などです。

以下は、システムの特性に起因するものです。

- ガードレール、または似たような高さのある車線境界の近くを走行しているときに警告が間違って発せられることがあります。
- トラックのように特に長い車両の脇を長い間走行しているときに、警告が中断されることがあります。

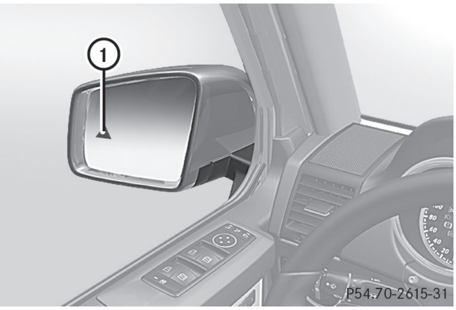
2 つのアクティブブラインドスポットアシストのセンサーがそれぞれフロントとリアのバンパーに内蔵されています。 ラジエーターグリルのカバーの裏に追加センサーがあります。 バンパーとラジエーターグリルのカバーに汚れや、氷、泥がないことを確認してください。 リアセンサーが自転車用ラック、または突き出た荷物などによって覆われないようにしてください。 強い衝撃を受けたり、バンパーに損傷を与えたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの機能を点検してください。 アクティブブラインドスポットアシストが正しく作動しないことがあります。

表示灯と警告表示

⚠ **警告**

アクティブブラインドスポットアシストは 30 km/h 以下の速度では作動しません。 ドアミラーの表示灯は黄色です。 モニター範囲にある車両は検知されません。

常に交通状況や周囲に注意してください。 適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。



① 黄色の表示灯/赤の警告灯

アクティブブラインドスポットアシストが作動しているとき、ドアミラーの表示灯 ① は、約 30 km/h 以下の速度では黄色に点灯します。 30 km/h 以上の速度では、表示灯は消え、アクティブブラインドスポットアシストが作動可能になります。

約 30 km/h 以上の速度でブラインドスポットアシストのモニター範囲内に車両が検知されると、対応する側の警告灯 ① が赤に点灯します。 この警告は、後方または側方から車両がブラインドスポットのモニター範囲に入ると常に行なわれます。 車両を追い越すときは、速度差が約 12 km/h 以下の場合にのみ警告が行なわれます。

黄色の表示灯はリバースギアに入れると消灯します。 アクティブブラインドスポットアシストは作動しなくなります。

表示灯 / 警告灯の照度は周囲の明るさに応じて自動的に調整されます。

視覚と音による衝突警告

運転者が車線変更のために方向指示灯を作動させ、モニター範囲に車両が検知されると、視覚と音による衝突警告を発します。 その後、2 重の警告音が鳴り、赤色の警告灯 ① が点滅します。 方向指示灯を作動させたままにすると、赤色の警告灯 ① が点滅して検知された車両の存在を知らせます。警告音はそれ以上鳴りません。

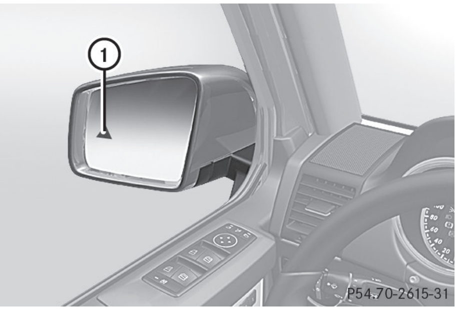
コース修正ブレーキの適用

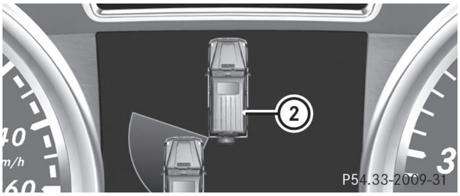
⚠ **警告**

アクティブブラインドスポットアシストは、運転を補助するためだけに設計されています。 注意を払った運転の代わりになるものではありません。 状況によっては、車線修正ブレーキの適用は衝突を防ぐためには不十分な場合があります。そのような場合は、ステアリング操作、またはブレーキ操作、アクセル操作をする必要があります。

非常にまれな場合、システムが間違って周辺にあるガードレール、または似たような車線の境界との衝突の危険を検知し、ブレーキをかけることがあります。アクティブブラインドスポットアシストはすべての交通状況と道路使用者を検知するわけではありません。他の交通や障害物との距離が十分であることを常に確認してください。 ステアリングを反対方向に軽く操作する、または加速すると、不適切なブレーキの適用を中断できます。

車両の速度、タイミングに合ったブレーキ操作、適切なステアリング操作の責任は運転者にあります。常に、運転スタイルを実際の道路や天候状況に合わせてください。 常に交通状況や周囲に注意してください。 適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。





コース修正ブレーキが適用されると、ドアミラーの赤色の警告灯 ① が点滅して、2 重の警告音が鳴ります。 さらにマルチファンクションディスプレイにマーク ② が表示されます。

アクティブブラインドスポットアシストがモニター範囲で側面衝突の危険性を察知すると、コース修正ブレーキが適用されます。 この機能により運転者の衝突回避をアシストします。

コース修正ブレーキは、速度が約 30 km/h ～ 200 km/h の範囲で作動可能です。

以下のときは、コース修正ブレーキの適用はわずかにしか行なわれないか、まったく行なわれません。

- 自車の両側に車両やガードレールなどの障害物があるとき
- 車両が自車の側方に接近しすぎているとき
- 速度を上げてカーブを曲がるなど、スポーティな走行をしているとき
- 明確にブレーキまたはアクセルペダルを操作したとき
- ESP® などの走行安全装備が介入したとき
- ESP® の機能が解除されているとき
- LOW RANGE オフロードギアを選択したとき
- タイヤ空気圧の不足が検知されたとき

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書では、以下に関する情報を確認できます。

- アクティブブラインドスポットアシストの作動
- トレーラーのけん引

ホールド機能

全体的な注意事項

ホールド機能は以下の状況で運転者を支援します。

- 急な坂道などで発進するとき
- 急な坂道でステアリング操作を行なうとき
- 信号待ちをしているとき

ブレーキペダルを踏み続けなくても、停車した状態を維持することができます。

発進するためにアクセルペダルを踏み込むと、ブレーキ効果が解除されホールド機能は解除されます。

ℹ オフロードや急勾配の坂道、滑りやすい路面または軟弱な路面を走行するときは、ホールド機能を使用しないでください。 このような路面では、ホールド機能により停車した状態を維持できません。

作動条件

ホールド機能は、以下のときに作動させることができます。

- 停車しているとき
- エンジンがかかっているとき、または ECO スタート / ストップ機能によりエンジンが自動的に停止しているとき
- エンジンがかかっているとき
- 運転席ドアを閉じているとき、または運転者がシートベルトを着用しているとき
- シフトポジションが D、R、N のいずれかのとき
- ディストロニック・プラスが解除されます。

ホールド機能を作動させる

ホールド機能が作動しているときは車両にブレーキがかかっています。 そのため、自動洗車機の使用時やけん引時はホールド機能を解除してください。

▶ 作動条件を満たしていることを確認します。

▶ ブレーキペダルを踏んでください。

▶ マルチファンクションディスプレイに HOLD が表示されるまでブレーキペダルを素早く深く踏み込みます。
ホールド機能が作動します。 ブレーキペダルから足を放すことができます。

ℹ 最初にブレーキペダルを踏んだときにホールド機能が作動しない場合には、少し待った後に再度試してください。

ホールド機能を解除する

⚠ **警告**

車両を離れるときは、ホールド機能によりブレーキを利かせているにも関わらず、以下のときに発進するおそれがあります。

- システムまたは電圧の供給に不具合がある
- 例えば車両乗員によってアクセルペダルが踏まれることによりホールド機能が解除される
- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造される
- バッテリーの接続が外された

事故の危険性があります。

車両を離れる前には常にホールド機能を解除し、発進しないように車両を固定してください。

ホールド機能は以下のときに自動的に解除されます。

- シフトポジションが D または R のときにアクセルペダルを踏んだとき
- シフトポジションを P にしたとき
- マルチファンクションディスプレイの HOLD が消えるまでブレーキペダルを再度深く踏んだとき
- ディストロニック・プラスを作動させたとき

急勾配の上り坂または下り坂を走行しているときや異常が発生したときは、トランスミッションが自動的に P にシフトされることがあります。

4MATIC（フルタイム 4 輪駆動システム）

! 片方のアクスルを持ち上げた状態で車両をけん引しないでください。 トランスファーケースを損傷するおそれがあります。このような損傷はメルセデス・ベンツの一般保証では保証されません。 全ての車輪が接地しているか、完全に持ち上がっていなければなりません。 車輪全てが完全に接地している状態で車両をけん引するときは、取扱説明書に従ってください。

! パーキングブレーキをテストするときは、ブレーキテスト用ダイナモメーターで車両を短時間のみ（約 10 秒以内）作動させてください。 そのときは、エンジンスイッチを 0 または 1 の位置にしてください。 お守りいただかないと、駆動装置やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

! 機能テストや性能テストを行なうには、必ず 2 軸式ダイナモメーターを使用してください。 このようなダイナモメーターで車両を作動させる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。 お守りいただかないと、駆動装置やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

4MATIC は 4 輪すべてが常に駆動力を維持するシステムです。 システムは、ESP® や 4ETS と連動して、タイヤのグリップが低く駆動輪が空転する状況で車両の駆動力を高めます。

タイヤのグリップが失われて駆動輪が空転した場合は、以下の操作を行なってください。

- 発進するときは、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。
- 走行中はアクセルペダルを緩めてください。

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、4MATIC は事故被害を軽減したり、物理的限界を超えて運転を支援することはできません。 4MATIC は路面、天候および交通状況を考慮することはできません。 4MATIC はあくまでも運転を支援するシステムです。 運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキをかけ、車線を維持

する責任があります。 4MATIC は、現在の路面、天候および交通状況から安全に作動可能な場合のみ使用し、それに応じて走行スタイルを合わせてください。注意して運転し、先行車との車間距離を適切に保持してください。

ℹ 寒冷時の走行時は、ウィンタータイヤ（M+S タイヤ）、さらに必要に応じてスノーチェーンを装着することで 4MATIC の効果が最大限に発揮されます。

オフロード走行については、(▷ 112 ページ) をご覧ください。

パークトロニック

重要な安全上の注意

❗ 駐車するときは、鉢植えやトレーラーけん引部などセンサーの上下にあるものに十分注意をしてください。パークトロニックはこれらが車両の至近距離にあるときは感知できません。車両や物を損傷するおそれがあります。

センサーは超音波を吸収しやすい雪やその他のものを感知しないことがあります。

自動洗車機や大型車の排気ブレーキ、空気圧ドリルなどの超音波により、パークトロニックが誤作動することがあります。

不整地などではパークトロニックが正しく作動しないことがあります。

パークトロニックは超音波センサーにより駐車時に運転者を支援するシステムです。 システムは車両と障害物との距離を光と音で示します。

パークトロニックは駐車を支援するシステムです。 運転者の代わりに周辺状況を確認することはできません。 運転者には安全にステアリングを操作し駐車する責任があります。 ステアリング操作、駐車スペースへの出入りを行なう前に、車両の前方、後方および側方の状況を直接確認してください。 進行方向に人や動物、障害物が存在しないことを確認してください。

パークトロニックは、感知範囲外にある人や障害物を認識することはできません。 その場合、パークトロニックはその領域にある障害物について警告を発することができません。

パークトロニックは以下のようなときに自動的に作動します。

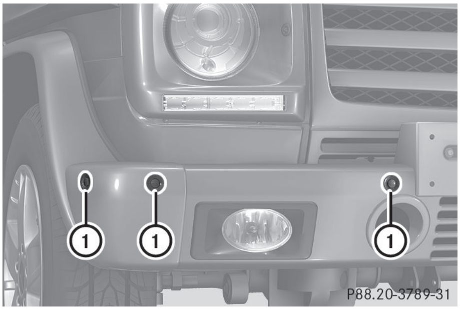
- イグニッションをオンにしたとき
- トランスミッションをポジション D、R または N にしたとき
- パーキングブレーキを解除したとき

パークトロニックは約 18 km/h 以上の速度で解除されます。 それより低い速度で再作動します。

パークトロニックはフロントバンパーの 6 個のセンサーとリアバンパーの 4 個のセンサーを使用して、車両周辺のエリアをモニターします。

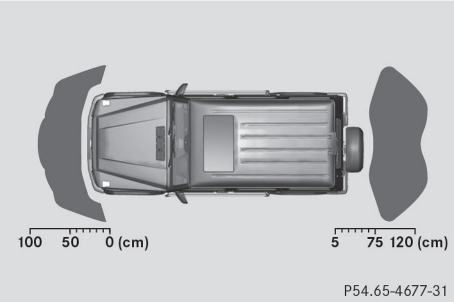
センサーの感知範囲

全体的な注意事項



① 例：左側フロントバンパーのセンサー

側方図



上方図

センサーに汚れ、氷および泥がないようにしてください。 適切に機能しないことがあります。 センサーに損傷を与えないように注意して、定期的に清掃してください。(▷ 217 ページ)

フロントセンサー

センター部	約 100 cm
コーナー部	約 60 cm

リアセンサー

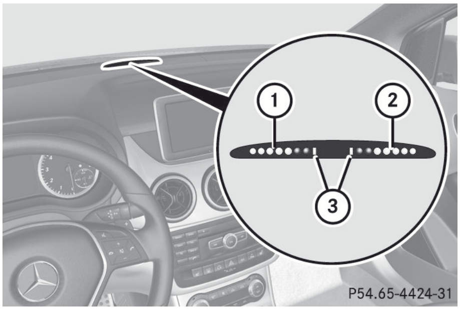
センター部	約 90 cm（スペアタイヤから）
コーナー部	約 80 cm

最短感知距離

センター部	約 20 cm
コーナー部	約 20 cm

この範囲内に障害物があるときは、対応する警告灯が点灯して警告音が鳴ります。 最短感知距離以下になると、警告灯が表示されなくなることがあります。

警告灯



フロントの警告灯

① 車両左側のセグメント

② 車両右側のセグメント

③ 作動準備ができていることを示すセグメント

警告灯はセンサーと障害物との距離を示します。 フロントの警告灯は中央送風口上部のダッシュボードにあります。 リアの警告灯は、後席のルーフ・ライニングに装備されています。

車両左右の警告灯は黄色のインジケーター 5 個と赤色のインジケーター 2 個で構成されています。 作動準備ができていることを示す黄色インジケーター ③ が点灯すると、パークトロニックは作動可能です。

エンジンがかかっているときに、選択したトランスミッションポジションと車両の進行方向によって、作動する警告灯が決まります。

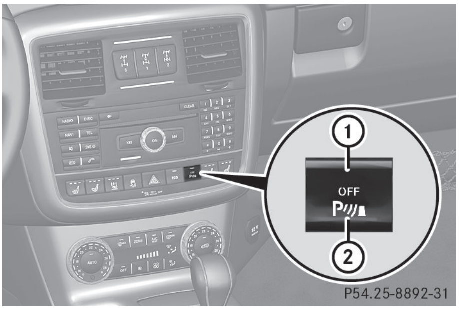
シフトポジション	警告灯
D	フロントが作動します。
R、N または車両が後退しているとき	リアとフロントが作動します。
P	いずれも作動しません。

車両が障害物に近付くにつれて、障害物との距離に応じて 1 個以上のインジケーターが点灯します。

以下のように警告が行なわれます。

- 6 個目のインジケーターが点灯すると、警告音が断続的に約 2 秒間鳴ります。
- 7 個目のインジケーターが点灯すると、警告音が連続的に約 2 秒間鳴ります。 これは、最短感知距離に入ったことを示します。

パークトロニックの解除 / 作動



① 表示灯

② パークトロニックの解除 / 作動

表示灯 ① が点灯しているときは、パークトロニックは解除されています。

ℹ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にすると、パークトロニックは自動的に作動します。

トレーラーのけん引

車両とトレーラーが電気的に接続されると、リア側のパークトロニックが解除されます。

パークトロニックの不具合

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯している。警告音も約 2 秒間鳴った。 パークトロニックが数秒後に解除され、パークトロニックスイッチの表示灯が点灯する。	パークトロニックが故障のため停止している。 ▶ 不具合が続く場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯している。 パークトロニックが数秒後に解除される。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物がある。 ▶ パークトロニックセンサーを掃除してください (▷ 217 ページ)。 ▶ エンジンスイッチを再びオンにしてください。
	外部の電波や超音波の干渉などが原因で、機能が解除されている。 ▶ 場所を変えてパークトロニックが作動するか確認してください。

パーキングアシストリアビューカメラ

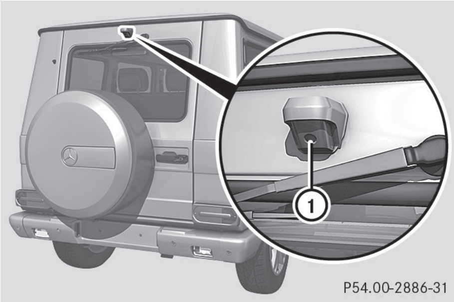
重要な安全上の注意

パーキングアシストリアビューカメラは駐車支援システムです。 運転者の代わりに周辺状況を確認することはできません。 運転者には、常に安全にステアリング操作を行ない駐車する責任があります。 ステアリング操作や駐車を行なう前に、進行方向に人や動物、障害物が存在しないことを確認してください。

以下の状況では、パーキングアシストリアビューカメラは機能しなかったり機能が制限されます。

- リアドアが開いているとき
- 激しい雨、雪または霧のとき
- 夜間や暗い場所で使用するとき
- カメラが非常に明るい光にさらされているとき
- 蛍光灯や LED 照明の下で使用するとき（映像にちらつきが出ることがあります。）
- 冬に暖房されたガレージに入れるときなど、急激な温度変化があったとき
- カメラのレンズが汚れていたり、遮られているとき
- 車両の後部が損傷しているとき このようなときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの位置や設定を点検してください。 メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

パーキングアシストリアビューカメラの作動 / 解除



① パーキングアシストリアビューカメラ

▶ **作動させる：** エンジンスイッチが 2 の位置になっていることを確認します。

▶ “パーキングアシストリアビューカメラ”機能が COMAND システムで選択されていることを確認してください。（別冊 COMAND システム取扱説明書をご覧ください。）

▶ リバースギアに入れます。
COMAND ディスプレイに車両後方の映像がガイドライン入りで表示されます。

▶ **機能モードを変更する：** COMAND コントローラーを操作して、"後退駐車"機能のマーク ① または"トレーラー連結"のマーク ② を選択します。（別冊の COMAND 取扱説明書をご覧ください。）
選択された機能のマークが強調表示されます。

解除する： パーキングアシストリアビューカメラは以下のときに解除されます。

- シフトポジションを P にしたとき
- 10 m 前進したとき
- セレクターレバーを R から他のポジションに入れたとき（約 15 秒後）
- 10 km/h 以上の速度で前進したとき

オフロード走行装備

トランスファーケース

全体的な注意事項

車両にはフルタイム 4WD システムが搭載されています。 フロントおよびリアアクスルは常時駆動されています。

オフロード走行について、詳しくは (▷ 112 ページ)をご覧ください。

シフトレンジ

⚠ **警告**

トランスファーのシフトチェンジが完了するまで待たないと、トランスファーがニュートラルポジションに入ったままになることがあります。 被駆動輪への動力伝達が妨げられるおそれがあります。 車両が不意に動き出すおそれがあり危険です。 事故の危険性があります。

トランスファーの変速プロセスが完了するまで待ってください。

シフトチェンジ中はエンジンを切らないでください。また、オートマチックトランスミッションで他のギアにシフトしないでください。

HIGH RANGE	通常のあらゆるオンロード走行状況で使用するポジション
LOW RANGE	オフロード走行で使用するローレンジポジション 急勾配の上り坂や下り坂、特にトレーラーけん引時に使用します。 車両はオンロード走行モード HIGH RANGE の約半分の速度で走行します。 それに応じて駆動力が向上します。

トランスファーの切り替え

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

トランスファーがニュートラルポジションのときは、被駆動輪への動力伝達が遮断されます。 そのため、車両が動き出すおそれがあります。 事故の危険性があります。

パーキングブレーキをかけて車両を確実に固定してください。また、上り坂や下り坂では輪止めなどをかけてください。

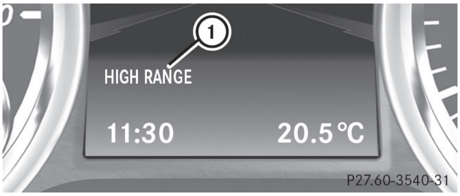
⚠ **警告**

トランスファーがニュートラルポジションのときは、被駆動輪への動力伝達が遮断されます。 そのため、車両が動き出すおそれがあります。 事故の危険性があります。

パーキングブレーキをかけて車両を確実に固定してください。また、上り坂や下り坂では輪止めなどをかけてください。

HIGH RANGE から LOW RANGE、および LOW RANGE から HIGH RANGE にシフトチェンジプロセスが完了するまで必ずお待ちください。 シフトチェンジ中はエンジンを切らないでください。また、オートマチックトランスミッションで他のギアにシフトしないでください。

全体的な注意事項



① 現在のシフトレンジ

① 表示灯

② LOW RANGE スイッチ

オフロードギア比を選択する

! 選択操作は以下のときのみ行なってください。

- エンジンがかかっているとき
- 車両が走行しているとき
- セレクターレバーが N に入っているとき
- 約 40 km/h 以下で走行しているとき

お守りいただかないと、トランスファーを損傷するおそれがあります。

ℹ **AMG 車：** トランスファーを LOW RANGE にシフトするには、ECO スタート / ストップ機能を解除します。(▷ 104 ページ)

▶ LOW RANGE スイッチ ② を押します。
シフト操作が完了すると、マルチファンクションディスプレイに LOW RANGE のトランスファーポジションが表示されます。
表示灯 ① が点灯します。

▶ トランスミッションをポジション **D** にシフトします。

オフロードギア比を解除する

⚠ 警告
トランスファーがニュートラルポジションのときは、被駆動輪への動力伝達が遮断されます。 そのため、車両が動き出すおそれがあります。 事故の危険性があります。
パーキングブレーキをかけて車両を確実に固定してください。また、上り坂や下り坂では輪止めなどをかけてください。

▶ スイッチ ② を押します。
シフト操作が完了すると、マルチファンクションディスプレイに HIGH RANGE のトランスファーポジションが表示されます。
表示灯 ① が消灯します。

シフトチェンジが完了しないときは、ディスプレイに以下のメッセージが表示されます。

- トランスファー切り替え 条件不十分
1 つ以上のシフト条件が満たされていません。
- トランスファーニュートラル オン
トランスファーはシフトチェンジプロセスを中止し、**ニュートラル**になります。 マルチファンクションディスプレイに N のトランスファーポジションが表示されます。
- トランスファー切り替え 中止
トランスファーはシフトチェンジプロセスを実行しませんでした。

▶ シフトチェンジ操作を繰り返してください。
シフトチェンジを行なうための条件がすべて満たされていることを確認してください。

- トランスファー故障 サービス工場に連絡
トランスファーに異常があります。

▶ トランスファーのシフトはできません。

▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ニュートラルの選択

⚠ 警告
トランスファーがニュートラルポジションのときは、被駆動輪への動力伝達が遮断されます。 そのため、車両が動き出すおそれがあります。 事故の危険性があります。
パーキングブレーキをかけて車両を確実に固定してください。また、上り坂や下り坂では輪止めなどをかけてください。

▶ エンジンスイッチのキーを **2** (▷ 102 ページ) の位置にします。

▶ パーキングブレーキをかけます。

▶ ブレーキペダルを踏んでください。

▶ セレクターレバーを **N** のポジションにします。 (▷ 104 ページ)

▶ LOW RANGE スイッチ ② を約 10 秒間押し続けます。
シフトチェンジプロセスが完了すると、マルチファンクションディスプレイに トランスファ ケースニュートラル というメッセージが約 5 秒間表示されます。

シフトチェンジが完了しないときは、ディスプレイに以下のメッセージが表示されます。(▷ 152 ページ)

走行装備

ⓘ トランスファーが**ニュートラル**のポジションで、エンジンスイッチにキーが差し込まれているときに運転席ドアを開くと、マルチファンクションディスプレイに トランスファ ケースニュートラル というメッセージが表示されます。 さらにパーキングブレーキを解除すると、警告音が鳴ります。

ディファレンシャルロック

全体的な注意事項

⚠ **警告**

かたくてグリップの高い路面でディファレンシャルロックを使用すると、車両の操縦性が著しく損なわれます。 特にコーナリング時にディファレンシャルロックを使用すると車両のコントロールを失うおそれがあります。 事故の危険性があります。

かたくグリップの高い路面では、ただちにディファレンシャルロックを解除してください。

! トランスファーの損傷を防ぐため、以下のときは、ローラーダイナモメーター（シングルアクスルローラーダイナモミーター）以外で車両を作動させないでください。

- 非駆動輪を持ち上げているとき
  または
- 対応するプロペラシャフトを切り離し、トランスファーのディファレンシャルロックを使用しているとき

お守りいただかないと、トランスファーを損傷させるおそれがあります。

ディファレンシャルロックは車両の駆動力を向上させます。

車両には以下のディファレンシャルロックが装備されています。

- トランスファー： フロントアクスルとリアアクスル間のバランスを制御します。
- リアアクスル： リアアクスルの左右の車輪間のバランスを制御します。
- フロントアクスル： フロントアクスルの左右の車輪間のバランスを制御します。

ディファレンシャルロックを使用する

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

かたくてグリップの高い路面でディファレンシャルロックを使用すると、車両の操縦性が著しく損なわれます。 特にコーナリング時にディファレンシャルロックを使用すると車両のコントロールを失うおそれがあります。 事故の危険性があります。

かたくグリップの高い路面では、ただちにディファレンシャルロックを解除してください。

⚠ **警告**

ディファレンシャルロックの使用中は、ABS、4ETS、ESP® および BAS が解除されます。 そのため、ブレーキ時にホイールがロックしやすくなり制動距離が長くなります。 事故の危険性があります。

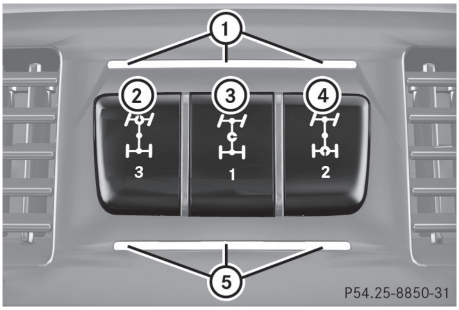
かたくグリップの高い路面では、ただちにディファレンシャルロックを解除してください。

! ディファレンシャルロックは以下のときのみ使用してください。

- 歩行速度で走行しているとき
- 被駆動輪が空転していないとき
- かたい路面を走行していないとき

全体的な注意事項

スイッチはセンターコンソールに配置されています。



① 機能表示灯（赤色）

② フロントアクスルのディファレンシャルロック

③ トランスファーのディファレンシャルロック

④ リアアクスルのディファレンシャルロック

⑤ 作動表示灯（黄色）

ディファレンシャルロックは以下の状況で使用してください。

- オフロード
- オフロードで ABS、4ETS、ESP® および BAS を解除するとき
- 渡河時

オフロード走行について、詳しくは (▷ 112 ページ)をご覧ください。

ℹ ディファレンシャルロックは、トランスファーが **LOW RANGE** オフロード走行ポジションのときのみ使用できます。 (▷ 139 ページ)

ℹ ディファレンシャルロックは、③、④、②の順番でのみ作動させることができます。

トランスファーのディファレンシャルロック

▶ **作動させる：** トランスファーを **LOW RANGE** オフロード走行ポジションに切り替えます。(▷ 140 ページ)

▶ スイッチ ③ を押します。

トランスファーを **LOW RANGE** オフロード走行ポジションにすると、スイッチ下側の黄色の作動表示灯 ③ が点灯します。

メーターパネルの警告灯 が点灯します。

ディファレンシャルがロックされると、スイッチ上側の赤色の機能表示灯 ③ が点灯します。

マルチファンクションディスプレイに以下のメッセージが表示されます。

ABS ショウフカノウ ロックサレテイマス

メーターパネルの警告灯 が点灯します。

トランスファーのディファレンシャルロックが作動します。

4ETS、ESP®、BAS および ABS は解除されます。

車両の操縦性が著しく制限されます。 最適な駆動力を確保するため、慎重に運転し緩やかに加速してください。

ℹ 必要に応じて、今度はリアアクスルのディファレンシャルロック ④ およびフロントアクスルのディファレンシャルロック ② を作動させることができます。

走行装備

リアアクスルのディファレンシャルロック

▶ **作動させる：** スイッチ ④ を押します。
まずスイッチ ④の黄色の作動表示灯 ⑤ が点灯し、次に赤色の機能表示灯 ① が点灯します。
リアアクスルのディファレンシャルロックが作動します。

フロントアクスルのディファレンシャルロック

▶ **作動させる：** スイッチ ② を押します。
まず黄色の作動表示灯が点灯し、次に赤色の機能表示灯が点灯します。
フロントアクスルのディファレンシャルロックが作動します。

ディファレンシャルロックを解除する

ディファレンシャルロックは、②、④、③の順番で解除することができます。

▶ **すべてのディファレンシャルロックを同時に解除する：** スイッチ ③を押します。
黄色の作動表示灯 ⑤ および赤色の機能表示灯 ① が消灯します。
約 3 秒間の一般走行後に ABS、4ETS、ESP® および BAS が起動します。
マルチファンクションディスプレイの ABS ショウフカノウ ロックサレテイマス というメッセージが消え、メーターパネルの警告灯 [OFF]、[ABS] および [ ] が消灯します。

▶ トランスファーを HIGH RANGE オフロードポジションに切り替えます。(▷ 140 ページ)

ディファレンシャルロックを解除しても赤色の機能表示灯 ① が消灯していないときは、以下の注意事項をお守りください。

▶ 交通状況に注意してください。

▶ 走行中は滑らかなステアリング操作を行なってください。
ディファレンシャルロックが解除されるとすぐに赤色の機能表示灯 ① が消灯します。

トレーラーのけん引

トレーラーをけん引する際の注意点

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

走行中にブレーキペダルの上に足を置くと、ブレーキシステムがオーバーヒートすることがあります。これにより制動距離が増加して、ブレーキシステムが故障する原因になるおそれもあります。事故の危険性があります。

ブレーキペダルをフットレストとして使用しないでください。ブレーキペダルとアクセルペダルを同時に踏まないでください。

⚠ **警告**

車両/トレーラーの連結が傾き始めると、そのコントロールを失うことがあります。車両/トレーラーの連結が横転する場合があります。事故の危険性があります。

速度を上げることによって車両/トレーラーの連結を真っ直ぐにしようとするべきではありません。車両速度を下げ、カウンターステアを行なわないでください。必要であればブレーキをかけてください。

⚠ **警告**

ボールカップリングが正しく装着されていない、または提供されたボルトおよび対応する割りピンで固定されていない場

合は、トレーラーが緩むことがあります。事故の危険性があります。

必ず記載されているようにボールカップリングを装着して固定してください。各走行前に、ボールカップリングがボルトおよび対応する割りピンで固定されていることを確認してください。

トレーラー連結時の最大許容値は車載書類に記載されています。 メーカーにより承認された許容値はビークルプレートに、けん引車両に関する許容値は"サービスデータ"に記載されています。(▷ 254 ページ)

トレーラーの連結と切り離しは慎重に行なってください。 トレーラーがけん引車に正しく連結されていないと、トレーラーが離脱するおそれがあります。

以下の値を超えていないことを確認してください。

- トレーラーけん引部許容ヒッチ荷重
- 許容トレーラー荷重
- けん引車両の許容後軸荷重
- けん引車両とトレーラー両方の最大許容車両総重量

トレーラーけん引時は、単独走行時と比べて次のようにハンドリング特性が異なります。

トレーラー連結走行時

- ステアリング操作が重くなります。
- 加速性能および登坂性能が制限されます。
- 制動距離が長くなります。
- 強い横風の影響を受けやすくなります。
- より緻密なステアリング操作が要求されます。
- 回転半径が大きくなります。

車両のハンドリング特性が損なわれることがあります。

トレーラーけん引時は、必ず現在の路面と天候状態に合わせて速度を調整してください。 トレーラーけん引車の最高許容速度を厳守してください。

運転のヒント

▶ 急勾配の長い下り坂では、ギアレンジ **1**、**2** または **3**(▷ 105 ページ)を適時選択してください。

ℹ クルーズコントロールまたは可変スピッドリミッターを設定したときも、同様の操作を行ないます。

▶ 必要に応じて、トランスファーを **LOW RANGE** に切り替えます。(▷ 140 ページ)
エンジンブレーキを効かせることにより、少ないブレーキ操作で車両が加速するのを防ぐことができます。 その結果、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキが過熱し早期摩耗するのを防ぎます。 さらにブレーキが必要な場合は、継続的にではなく、繰り返しブレーキペダルを踏んでください。

車両/トレーラー連結での最高許容速度はトレーラーの種類によって異なります。 走行を始める前に、トレーラーの書類で最高許容速度を確認してください。 関係する国では法律で規定された最高速度を遵守してください。

特定のメルセデス・ベンツ車では、トレーラーけん引時は最大許容後軸荷重が増大します。 このことがお客様の車両に該当するかは「テクニカル・データ」を参照してください。 追加の最大後軸荷重を利用してトレーラーをけん引する場合は、運行許可に関する理由から、車両/トレーラー連結状態の最高速度を 100 km/h までとしなければならないことがあります。 この最高速度は、車両/トレーラー連結状態の制限速度が 100 km/h を超える国でも適用されます。

トレーラーけん引時は、非けん引時とはハンドリング特性が異なり、燃料消費量が増加します。

運転のヒント

トレーラーが横揺れする場合

▶ 加速しないでください。
▶ カウンタステアを避けてください。
▶ 必要に応じてブレーキをかけてください。

- トレーラーをけん引していないときよりも、先行車との車間距離を十分に保ってください。
- 急ブレーキを避けてください。 できれば、最初は穏やかにブレーキをかけ、トレーラーの動力を維持してください。 その後、急速にブレーキ踏力を上げてください。
- 停止状態からの登坂性能は、海抜ゼロでの数値を示しています。 山岳地域を走行するときは、高度が増すにつれてエンジン出力および車両の登坂性能が低下します。

トレーラーの連結

⚠ 警告

オーバーランブレーキを固定した状態でトレーラーを外すと、車両とトレーラのけん引バーの間に手を挟むおそれがあります。けがの危険性があります。

オーバーランブレーキが固定されている場合は、トレーラーを外さないでください。

! アンチロック・ブレーキング・システムが装備されているので、トレーラーブレーキシステム（トレーラーにこれが装備されている場合）をけん引車両の油圧ブレーキシステムに直接接続しないでください。さもなければ、けん引車両のブレーキもトレーラーのブレーキも作動しなくなります。

トレーラーの最大許容寸法（幅と長さ）を遵守してください。

ほとんどの州とカナダのすべての州が以下のことを規定しています。

- けん引車両とトレーラー間の安全チェーン。 チェーンはトレーラーけん引バーの下に十字パターンで通してください。 それらはバンパーまたは車軸ではなく、トレーラーけん引ヒッチに接続してください。

  きついコーナリングを可能にするためにチェーンには十分な遊びを持たせてください。
- 特定のトレーラーの独立したブレーキシステム
- ブレーキのかかったトレーラーの安全スイッチ。 お客様の州の法律に従って特定の要件を決定します。

  トレーラーがけん引車両から外されると、安全スイッチがトレーラーのブレーキを効かせます。

▶ オートマチックトランスミッションがトランスミッション P の位置であることを確認してください。
▶ 車両のパーキングブレーキを効かせます。
▶ トレーラーを連結します。
▶ すべての電気接続を確立します。

トレーラーの連結解除

! オーバーランブレーキを締結した状態でトレーラーを外さないでください。オーバーランブレーキの反発により車両が損傷する可能性があります。

▶ シフトポジションが P であることを確認してください。
▶ パーキングブレーキをかけます。

- ▶ エンジンを始動します。
- ▶ すべてのドアとテールゲートを閉じます（G-Class カブリオレ）。
- ▶ トレーラーのパーキングブレーキをかけます。
- ▶ トレーラーケーブルを取り外してトレーラーを切り離します。
- ▶ エンジンを停止します。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- トレーラーの電力供給
- LED ライトの電球切れ表示灯
- 7 ピンコネクター付きトレーラー

役に立つ情報 150
重要な安全上の注意 150
表示および操作 150
メニューおよびサブメニュー 152
ディスプレイメッセージ 152
メーターパネルの警告灯 / 表示灯 166

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国により、仕様が異なる場合があります。 お買い上げいただいた車両には、記載されているすべての内容が備わっていないことがあります。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 26 ページ).

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

道路状況および交通事情が許す限り、マルチファンクションディスプレイをご使用ください。注意力が散漫になり、運転に集中することができず、事故の原因になる可能性があります。

⚠ **警告**

メーターパネルまたはマルチファンクションディスプレイが故障している場合は、メッセージが表示されません。

その結果として、速度や外気温度、警告やインジケータランプ、ディスプレイメッセージまたはシステム故障などの走行状況の情報を得ることができなくなります。 車両の操縦性が損なわれるおそれがあります。 状況に応じて、運転スタイルと車両の速度を調整してください。

ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

⚠ **警告**

マルチファンクションディスプレイは、特定のシステムからのメッセージや警告のみを記録し、表示します。そのため、運転者は車両が安全に運転できる状態であることを常に確認する必要があります。安全確保ができていない車両を運転することは、事故の原因になりまる可能性があります。

⚠ **警告**

メインテナンス作業が適切に行なわれなかった場合は、車両の操作に関する安全性が損なわれている可能性があります。これにより車両がコントロールを失い、事故の原因になるおそれがあります。さらに、安全装備が運転者または他の乗員を保護できなくなるおそれがあります。

点検整備や修理などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご依頼ください。

メーターパネルの図は、(▷ 150 ページ)をご覧ください。

表示および操作

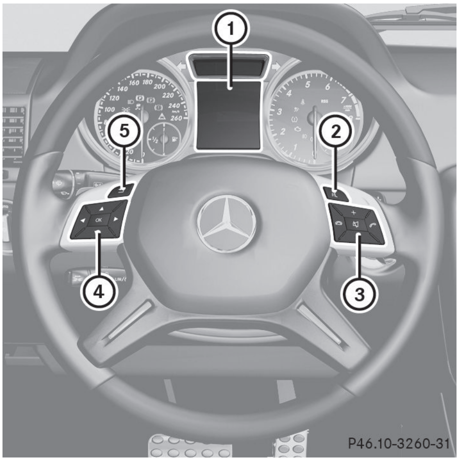
デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- メーターパネル
- メーターパネル照明
- エンジン冷却水温度計
- タコメーター
- セグメント付きスピードメーター
- マルチファンクションディスプレイ
- 外気温度計

マルチファンクションディスプレイの操作

概要



① マルチファンクションディスプレイ

② 音声認識機能に切り替えるには、別冊の取扱説明書をご覧ください

③ 右側操作パネル

④ 左側操作パネル

⑤ リターンスイッチ

▶ **マルチファンクションディスプレイを起動する：**イグニッション位置を **1**(▷ 102 ページ)にします。

マルチファンクションステアリングのスイッチを使用して、マルチファンクションディスプレイの操作と設定を行なうことができます。

左側操作パネル

◀ ▶	• メニューやメニューバーの呼び出し
▲ ▼	**軽く押す：** • リストのスクロール • サブメニューや機能の選択 • オーディオ メニュー：保存した放送局、音楽トラックまたはビデオシーンの選択 • TEL（電話）メニュー：電話帳の表示、名前や電話番号の選択
▲ ▼	**長押しする：** • オーディオ メニュー：高速スクロールによる、前 / 次の放送局または音楽トラック、ビデオシーンの選択 • TEL（電話）メニュー：電話帳を開いている場合、高速スクロールの開始
OK	• 選択項目 / ディスプレイメッセージの確定 • TEL（電話）メニュー：電話帳への切り替えと発信の開始 • オーディオ メニュー：放送局サーチ機能による希望の放送局の選局

右側操作パネル

(終話)	• 通話を拒否する、または終了する • 電話帳 / 発信履歴を終了する
(発信)	• 発信する、または受ける • リダイアルメモリーに切り替える

ディスプレイ

+ / −	• 音量の調整
🔇	• ミュート

リターンスイッチ

↩	**軽く押す：** • 前の画面に戻る • 音声認識のオフ：別冊の取扱説明書をご覧ください • ディスプレイメッセージの消去/最後に使用した トリップ メニュー機能の呼び出し • 電話帳 / 発信履歴の終了
↩	**長押しする：** • トリップ メニューの基本画面の呼び出し

メニューおよびサブメニュー

メニュー概要

ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押してメニューバーを呼び出し、メニューを選択します。

マルチファンクションディスプレイの操作 (▷ 151 ページ)

デジタル版取扱説明書には、個々のメニューについての詳しい情報が記載されています。

車両に取り付けられている装備に応じて、以下のメニューを呼び出すことができます。

- トリップ メニュー
- ナビ メニュー（ナビゲーションの詳細）
- オーディオメニュー
- TEL メニュー（電話）
- アシスト メニュー（支援機能）
- メンテナンス メニュー
- 設定メニュー
- AMG メニュー（AMG 車両）

ディスプレイメッセージ

概要

全体的な注意事項

本項目では、安全に関わるディスプレイメッセージおよびその対応方法などについて記載しています。 他のメッセージおよびその対応方法の記載については、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

ディスプレイメッセージはマルチファンクションディスプレイに表示されます。

取扱説明書では記号マークを伴うディスプレイメッセージを簡略化しているため、マルチファンクションディスプレイのマークと異なる場合があります。

ディスプレイメッセージの指示に従って対応し、この取扱説明書の追加の注意事項に従ってください。

特定のディスプレイメッセージには、警告音、または連続音が伴います。

駐停車するときは、駐車に関する注意事項をお守りください。(▷ 109 ページ)

ディスプレイメッセージを非表示にする

▶ ディスプレイメッセージを非表示にするには、ステアリングの OK または ↩ スイッチを押します。

ディスプレイメッセージが消えます。

重要度の高いディスプレイメッセージは赤色で表示されます。

特に重要度の高いディスプレイメッセージは、非表示にすることができません。これらのメッセージは、故障や異常の原因が解決するまでマルチファンクションディスプレイに常時表示されます。

メッセージメモリーメニュー

マルチファンクションディスプレイには、特定のディスプレイメッセージが記憶されています。 **メッセージメモリー**にディスプレイメッセージを呼び出すことができます。

- ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、メンテナンス メニューを選択します。
  メッセージがある場合は、マルチファンクションディスプレイに "2 メッセージ" のように故障の件数が表示されます。
- ▲ または ▼ スイッチを押して、"2 メッセージ" を選択します。
- OK を押して確定します。
- ▲ または ▼ スイッチを押して、ディスプレイメッセージをスクロールします。

エンジンスイッチをオフにすると、重要度の高い一部のメッセージを除いて、メッセージがすべて削除されます。 故障の原因が解決すると、重要度の高いメッセージも削除されます。

安全装備

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
現在 使用できません 取扱説明書を参照	ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、BAS（ブレーキアシスト）、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、および ESP® トレーラースタビライゼーションが一時的に作動しない状態になっている。 BAS およびアダプティブブレーキライトも故障した。 メーターパネルの 、 、 警告灯も点灯している。 考えられる原因 • セルフ・ダイアグノシスがまだ完了していない。 • バッテリーの電圧が不十分な可能性がある。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。 緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 約 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリング操作しながら、適切な道路を選んで注意して走行してください。ディスプレイメッセージが消えると、上記の機能が再び作動します。 ディスプレイメッセージが消えないとき ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
作動できません 取扱説明書を参照	故障のため、ABS、ESP®、BAS、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、および ESP® トレーラースタビライゼーションが作動しない状態になっている。 BAS およびアダプティブブレーキライトも故障した。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	さらに、メーターパネルの [(!)] [ESP]、[ESP OFF]、[(ABS)] 警告灯も点灯している。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。 緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
現在 使用できません 取扱説明書を参照	故障のため、ESP®、BAS、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、および ESP® トレーラースタビライゼーションが作動しない状態になっている。 BAS およびアダプティブブレーキライトも故障した。 さらに、メーターパネルの と 警告灯も点灯している。 たとえば、セルフ・ダイアグノシスがまだ完了していないと考えられる。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 これにより緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 約 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリング操作しながら、適切な道路を選んで注意して走行してください。ディスプレイメッセージが消えると、上記の機能が再び作動します。 ディスプレイメッセージが消えないとき ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
作動できません 取扱説明書を参照	故障のため、ESP®、BAS、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、および ESP® トレーラースタビライゼーションが作動しない状態になっている。 BAS およびアダプティブブレーキライトも故障した。 さらに、メーターパネルの と OFF 警告灯も点灯している。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。これにより緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
EBD 作動できません 取扱説明書を参照	故障のため、EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）、ABS、ESP®、BAS、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、ESP® トレーラースタビライゼーションが作動しない状態になっている。 BAS およびアダプティブブレーキライトも故障した。 さらに、メーターパネルの と 、 も点灯し、警告音が鳴った。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには前輪および後輪がロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。 緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ブレーキ液レベル 点検して ください	リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 さらに、メーターパネルの 警告灯が点灯し、警告音も鳴った。 ⚠ **警告** ブレーキの性能が損なわれるおそれがある。 事故の危険性がある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 109 ページ) ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 ▶ 絶対にブレーキ液を補給しないでください。 ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
SRS システム 故障 工場で点検	SRS（乗員保護補助装置）が故障している。 メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 乗員保護補助装置に関する詳しい情報 は、以下を参照してください。(▷ 39 ページ)
フロント左 SRS システム故障 工場で点検またはフロント右 SRS システム故障 工場で点検	フロント左側またはフロント右側の SRS に異常がある。 メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
リア左 SRS システム故障 工場で点検またはリア左 SRS システム故障 工場で点検	リア左側またはリア右側の SRS に異常がある。 メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
リア中央 SRS システム故障 工場で点検	リア中央の SRS に異常がある。 メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
左ウインドウバッグ故障 工場で点検 または 右ウインドウバッグ 故障 工場で点検	左側または右側のウインドウバッグが故障している。 メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** 左側または右側のウインドウバッグが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジン

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 冷却水が減少 停車して エンジンを停止	冷却水の温度が高すぎる。 警告音も鳴った。 ⚠ **警告** エンジンが過熱した状態では絶対に走行しないでください。エンジンが過熱した状態で走行すると、エンジンルームに漏れたフルード類に引火するおそれがあります。 ボンネットを開いただけで、過熱したエンジンからの蒸気で重度の火傷をするおそれがある。 けがの危険性があります。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 109 ページ) ▶ 車から降り、エンジンが冷えるまで車から安全な距離を確保してください。 ▶ 雪やほこりなどにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ メッセージが消え、冷却水温度が約 120 ℃以下になるまではエンジンを始動しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ エンジン冷却水温度計で冷却水温度を点検してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、通常の作動条件で冷却水温度が約 120 ℃に上がるまではオーバーヒートは起こしません。
	V ベルトが切れている可能性がある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ V ベルトを点検。 **V ベルトが切れているとき** ❗ 走行しないでください。 エンジンがオーバーヒートするおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	V ベルトが損傷していないとき ▶ メッセージが消えない場合はエンジンを始動しないでください。 エンジンが損傷することがあります。 ▶ エンジン冷却水温度計で冷却水温度を点検してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

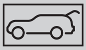
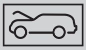
走行装備

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ﾄﾗﾝｽﾌｧｰ切り替え 条件不十分 ﾌﾞﾚｰｷ/ﾊﾟｰｷﾝｸﾞﾌﾞﾚｰｷ 使用してください	パーキングブレーキが引かれておらず、ブレーキペダルも踏まれていません。 トランスファーはシフトチェンジプロセスを中止し、**ニュートラル**になります。 エンジンと駆動輪が接続されていない。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ ブレーキペダルを踏んで、パーキングブレーキを引きます。 ▶ オートマチックトランスミッションのシフトポジションをニュートラルポジション **N** にします。 ▶ ギアチェンジのための条件がすべて満たされていることを確認してください(▷ 140 ページ)。 ▶ ギアシフト操作を繰り返します。
ﾄﾗﾝｽﾌｧｰ故障 サービス工場に連絡 ﾊﾟｰｷﾝｸﾞﾌﾞﾚｰｷを 使用して駐車	トランスファーに異常がある。 ▶ トランスファーをシフトさせないでください。 ▶ 駐車時は、車両が動き出さないよう確実に固定してください。 (▷ 109 ページ) ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾄﾗﾝｽﾌｧｰ切り替え 中止 再起動してください	トランスファーはシフトチェンジプロセスを実行しませんでした。 ▶ ギアシフト操作を繰り返します。 ▶ ギアチェンジのための条件がすべて満たされていることを確認してください(▷ 140 ページ)。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
トランスファー切り替え 条件不十分 最高速度 40 km/h	ギアシフト操作に対する最高速度を超えている。 ▶ 速度を緩めて走行してください。 ▶ ギアシフト操作を繰り返します。
トランスファー切り替え 条件不十分 ニュートラルに シフトしてください	1 つ以上のシフト条件が満たされていません。 ▶ オートマチックトランスミッションのシフトポジションをニュートラルポジション **N** にします。 ▶ ギアシフト操作を繰り返します。
トランスファー切り替え 条件不十分 最高速度 70 km/h	ギアシフト操作に対する最高速度を超えている。 ▶ 速度を緩めて走行してください。 ▶ ギアシフト操作を繰り返します。
LOW RANGE オン	トランスファーは **LOW RANGE** オフロードポジションにあります。
HIGH RANGE オフ	トランスファーは **HIGH RANGE** オンロードポジションにあります。
ディファレンシャルロック LOW RANGE でのみ使用可能	LOW RANGE スイッチが押されています。 トランスファーは **LOW RANGE** オフロードポジションにあり、ディファレンシャルロックがかかっています。 ▶ ディファレンシャルロックを解除します (▷ 142 ページ)。 ▶ ギアシフト操作を繰り返します。
トランスファーニュートラル オン	トランスファーは **Neutral** ニュートラルポジションにあります。 運転席ドアが開いていて、ブレーキペダルが踏まれていないと、警告音も鳴ります。 ▶ 運転席ドアを閉じます。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 109 ページ) ▶ 走行条件に応じてトランスファーをシフトします (▷ 139 ページ)。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ﾃﾞｨﾌｧﾚﾝｼｬﾙﾛｯｸ ﾌﾟﾘｾﾚｸﾄ ESP 使用できません	ディファレンシャルロックはかかっています。 ディファレンシャルギヤは、まだそれぞれのディファレンシャルギヤをロックしていません。 スイッチの作動表示灯（黄色）(▷ 142 ページ)が点灯します。 ESP は使用できません。 ABS は引き続き使用できます。
ﾃﾞｨﾌｧﾚﾝｼｬﾙﾛｯｸ ｱｸﾃｨﾌﾞ ABS, ESP 使用できません	ディファレンシャルロックがかかって、ディファレンシャルギヤがそれぞれのディファレンシャルをロックしています。 スイッチの作動表示灯（黄色）と機能表示灯（赤色）(▷ 142 ページ) が点灯します。 ABS と ESP は使用できません。

車両

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	リアドアが開いています。 ⚠ **警告** エンジンをかけた状態でリアドアが開いたままになっていると、排気ガスが車内に入る可能性がある。 中毒を起こすおそれがある。 ▶ リアドアを閉じます。
	ボンネットが開いている。 警告音も鳴った。 ⚠ **警告** ボンネットが開いた状態で走行すると視界が遮られるおそれがあります。 事故の危険性がある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。(▷ 109 ページ) ▶ ボンネットを確実に閉じてください。
 パワーステアリング故障 取扱説明書を参照	ステアリングのパワーアシストが故障している。 警告音も鳴った。 ⚠ **警告** ステアリング操作に大きな力が必要になる。 事故の危険性がある。 ▶ 大きな力を加えればステアリングが操作できるか確認してください。 ▶ **安全にステアリング操作ができるときは、**注意しながら、メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 ▶ **安全にステアリング操作ができないときは、**走行しないでください。 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

メーターパネルの警告灯 / 表示灯

全体的な注意事項

この章では、メーターパネルに表示される安全に関わる表示灯と警告灯および対応方法について説明しています。 メーターパネルに表示される他の表示灯と警告灯の概要および対応方法については、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

安全装備

シートベルト

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 フロントドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。 (▷ 44 ページ) 警告灯が消灯します。
	助手席シートの上に荷物を置いている。 ▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の安全な場所に収納してください。 警告灯が消灯します。
 赤色のシートベルト警告灯が点滅し、断続的な警告音も鳴った。	運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。 その状態で、約 25 km/h 以上の速度で走行している。または速度が一時的に約 25 km/h を超えた。 ▶ シートベルトを着用してください。 (▷ 44 ページ) 警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
	助手席シートの上に荷物を置いている。 その状態で、約 25 km/h 以上の速度で走行している。または速度が一時的に約 25 km/h を超えた。 ▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の安全な場所に収納してください。 警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。

安全装備

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
(!) エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。	⚠ 警告 ブレーキシステムが故障しているため、ブレーキの作動に影響を与えるおそれがある。 事故の危険性がある。 ▶ マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されているときは、そのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
(!) エンジンがかかっているときに黄色のブレーキ警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	⚠ 警告 ブレーキのブースト機能が故障しているため、ブレーキの作動に影響を与えるおそれがある。 事故の危険性がある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 109 ページ) ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
(!) エンジンがかかっているときに黄色のブレーキ警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 ⚠ 警告 ブレーキの性能が損なわれるおそれがある。 事故の危険性がある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 109 ページ) ▶ 絶対にブレーキ液を補給しないでください。 補給しても異常は解消しません。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
(ABS) エンジンがかかっているときに赤色のABS 警告灯が点灯する。	ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）に異常があるため機能が解除されている。 そのため、BAS（ブレーキアシスト）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライト、ESP® トレーラースタビライゼーションなどの機能も解除されている。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。 緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ABS コントロールユニットが故障すると、ナビゲーションシステム、オートマチックトランスミッションなど、他のシステムも作動しなくなる可能性がある。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
(ABS) エンジンがかかっているときに赤色の ABS 警告灯が点灯する。	ABS が一時的に作動しない状態になっている。 そのため、BAS、ESP®、EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、ESP® トレーラースタビライゼーション、アダプティブブレーキライトなどの機能も解除されている。 考えられる原因 • セルフ・ダイアグノシスがまだ完了していない。 • バッテリーの電圧が不十分な可能性がある。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには前輪および後輪がロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。 緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 事故の危険性がある。 ▶ 約 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリング操作しながら、適切な道路を選んで注意して走行してください。 警告灯が消灯すると、上記の機能が再び作動します。 警告灯がまだ点灯したままのとき ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンがかかっているときに赤色の ABS 警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	EBD が故障している。 そのため、ABS、BAS、ESP®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライト、ESP® トレーラースタビライゼーションが作動しない状態になっている。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 そのため、急ブレーキ時などには前輪および後輪がロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。 緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに赤色の ABS 警告灯が点灯する。	ディファレンシャルロックがかかっている。 ABS が作動解除されている。 ▶ ディファレンシャルロックを解除します。 その後で ABS が再度作動する。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンがかかっているときに黄色のブレーキ警告灯、黄色の ESP®および ESP® OFF 警告灯および黄色の ABS 警告灯が点灯する。	ABS と ESP® が故障している。 そのため、BAS、EBD、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライト、ESP®トレーラースタビライゼーションが作動しない状態になっている。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 そのため、急ブレーキ時などには前輪および後輪がロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。 緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
走行中に黄色の ESP® 表示灯が点滅する。	車が横滑りをするおそれがあるか、少なくとも 1 つの車輪が空転し始めているため、ESP® やトラクションコントロールが作動している。 クルーズコントロールやディストロニックプラスは解除されている。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中は緩やかに加速してください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESP® の機能を解除しないでください。 以下の場合を除きます：(▷ 63 ページ)

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンがかかっているときに黄色の ESP® オフ表示灯が点灯する。	ESP® の機能が解除されているとき ⚠ **警告** ESP® がオフになっている場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ ESP® を再び作動させてください。 以下の場合を除きます：(▷ 63 ページ) ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ESP® が作動しないとき ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で ESP® の点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯と黄色の ESP® オフ表示灯が点灯する。	故障のため、ESP®、BAS、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライト、ESP® トレーラースタビライゼーションが作動しない状態になっている。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。これにより緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯と黄色の ESP® オフ表示灯が点灯する。	ESP®、BAS、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、ESP®トレーラースタビライゼーションが一時的に作動しない状態になっている。 BAS およびアダプティブブレーキライトも故障した。 セルフ・ダイアグノシスがまだ完了していない。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 これにより緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 約 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリング操作しながら、適切な道路を選んで注意して走行してください。警告灯が消灯すると、上記の機能が再び作動します。 警告灯がまだ点灯したままのとき ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンがかかっているときに黄色の ESP® オフ表示灯が点灯する。	ディファレンシャルロックがかかっている。 ABS、ESP®、4ETS および BAS が作動解除されている。 ▶ ディファレンシャルロックを解除します。 ESP®、4ETS および BAS がその後で再度作動する。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。
エンジンがかかっているときに赤色の SRS 警告灯が点灯する。	SRS（乗員保護補助装置）が故障している。 ⚠ 警告 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で SRS の点検を受けてください。 乗員保護補助装置に関する詳しい情報 は、以下を参照してください。(▷ 39 ページ)

エンジン

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	冷却水温度が約 120 ℃を超えている。ラジエターへの送風が遮られているか、冷却水量がかなり不足している可能性がある。 ⚠ **警告** エンジンが十分に冷却されないため、エンジンが損傷するおそれがある。 エンジンが過熱した状態では絶対に走行しないでください。エンジンが過熱した状態で走行すると、エンジンルームに漏れたフルード類に引火するおそれがあります。 ボンネットを開いただけで、過熱したエンジンからの蒸気で重度の火傷をするおそれがある。 けがの危険性があります。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 109 ページ) ▶ 車から降り、エンジンが冷えるまで車から安全な距離を確保してください。 ▶ 冷却水の点検・補給時の注意事項 (▷ 214 ページ) に従って、冷却水量を点検のうえ冷却水を補給してください。 ▶ 冷却水の減りかたが著しい場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジン冷却システムの点検を受けてください。 ▶ 雪やほこりなどにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ 冷却水温度が約 120 ℃以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行することができます。 ▶ その場合は、山道の走行などでエンジンに大きな負荷をかけたり、発進 / 停止を繰り返さないでください。

走行装備

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。	設定された速度に対し、先行車との車間距離が近すぎる。 ▶ 車間距離を広げてください。
走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	同じ走行車線にいる前車または固定障害物に急速に近付いている。 ▶ ただちにブレーキをかける準備をしてください。 ▶ 交通状況に注意して運転してください。 ブレーキ操作や危険回避の操作が必要となる可能性があります。 ディストロニックプラスについて詳しくは、(▷ 120 ページ)をご覧ください。

役に立つ情報 180
全体的な注意事項 180
重要な安全上の注意 180
著作権の情報 180
機能の制限 181
COMAND システムの操作 181
COMAND Online とインターネット 188

役に立つ情報

ℹ これらの取扱説明書は印刷時点で利用可能な COMAND システムのすべての標準装備やオプション装備について記載しています。 国により、仕様が異なる場合があります。 本書に記載されているすべての機能が、お客様の車両に当てはまらない可能性があることにご留意ください。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 26 ページ).

全体的な注意事項

これらの取扱説明書の COMAND システムの項には、COMAND システムとオンラインおよびインターネット機能の操作の基本原則が記載されています。 詳細はデジタル版取扱説明書をご覧ください。

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

常に交通状況に注意してください。

道路や交通状況が許す場合のみ、COMAND システムや電話を使用してください。

50km/h の速度でも、車両は 1 秒間に約 14 m の距離を走行するということを念頭に置いてください。ナビゲーションシステムは、一時停止の標識や前方優先道路の標識、交通規則、道路の安全性についての情報を提供するものではありません。車両を運転している場合に、これらのことに注意を払うのは運転者の義務です。車両が停止している場合にのみ、新しい目的地を入力してください。

著作権の情報

全体的な注意事項

COMAND システムおよびその構成部品で使用されているフリーおよびオープンソースのソフトウェアのライセンスの情報は、ウェブサイトが公開されるとすぐにここ **http://www.mercedes-benz.com/opensource** でご覧になれます。（このリンクは現在のところ有効ではありません）

Macrovision

この製品には、米国の特許や他の知的所有権によって保護された著作権保護技術が取り込まれています。 この著作権保護技術の使用は Rovi Corporation の許可が必要であり、Rovi Corporation による許可がない場合には、家庭および他の制限された閲覧使用にのみ意図されています。 リバースエンジニアリングや分解は禁じられています。

libJPEG

このソフトウェアは Independent JPEG Group の製品に一部基づいています。

Free Type

本ソフトウェアの一部は © 2005The FreeType Project (www.freetype.org) の著作権です。 All rights reserved. © 1996-2000 by David Turner, Robert Wilhelm, and Werner Lemberg.

NetFront™

本製品には ACCESS 社の NetFront Browser ソフトウェアが含まれていま

す。著作権 © 1996-2010 ACCESS Co., Ltd. All rights reserved.

NetFront Browser ソフトウェアは、Independent JPEG Group の製品に一部基づいています。

Camellia

著作権 © 2006, 2007 NTT （日本電信電話株式会社）。

All rights reserved.

Camellia の使用に関する利用条件と免責条項は **http://info.isl.ntt.co.jp/crypt/eng/index.html** で入手できます。

Flash® Lite™

本製品にはアドビシステム社による Flash® Lite™技術が含まれています。本製品にはアドビシステム社からのライセンスの下、Adobe® Flash® player ソフトウェアが含まれています。著作権 © 1995-2010 Adobe Macromedia Software LLC. All rights reserved. Adobe と Flash は米国や他の国のアドビシステム社の登録商標です。

機能の制限

安全のために、車両走行中は COMAND システムのいくつかの機能が制限されたり、利用できないことがあります。 このことは、例えば、いくつかのメニュー項目が選択できなかったり、COMAND システムにこの結果に対するメッセージが表示されることで、ご確認いただけます。

COMAND システムの操作

概要

① COMAND ディスプレイ(▷ 182 ページ)

② シングル DVD ドライブ付き COMAND コントロールパネル

③ COMAND コントローラー(▷ 187 ページ)

COMAND システムを使用して以下の基本機能が操作できます。

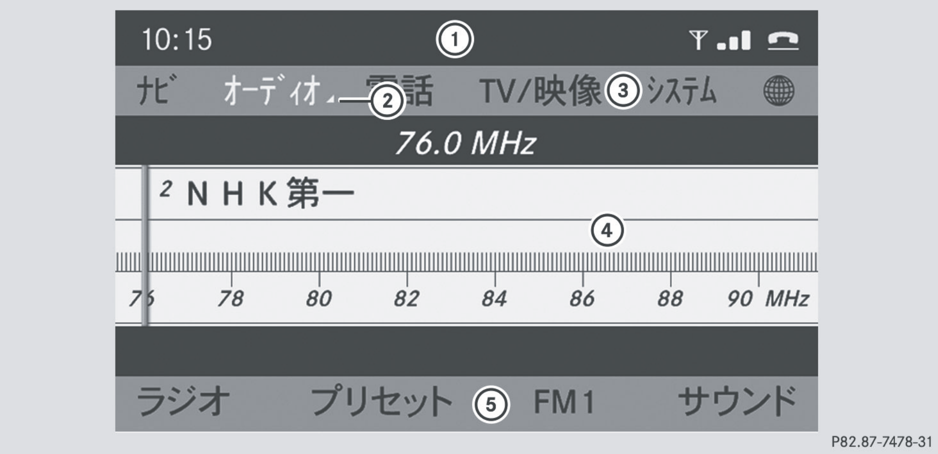
- ナビゲーションシステム
- オーディオ機能
- 電話機能
- ビデオ機能
- システムの設定
- オンラインとインターネット機能
- デジタル版取扱説明書

以下のようにして基本機能を呼び出すことができます。

- 対応する機能の選択スイッチを使用する
- COMAND ディスプレイの基本機能バーを使用する

COMAND ディスプレイ

ディスプレイの概要



ラジオの表示例

①	ステータスバー	時刻および電話操作の現在の設定を表示します。
②	オーディオメニューの呼び出し	作動しているオーディオ基本機能を強調します。 三角はこの基本機能に選択可能なサブメニューがあることを示します。
③	基本機能バー	基本機能バーから希望する基本機能を呼び出すことができます。 基本機能が作動しているときは、白色の文字によって識別可能です。
④	表示/選択ウインドウ	ラジオモードで作動しているオーディオ基本機能の内容を表示します。
⑤	ラジオメニューバー	ラジオモードで作動しているオーディオ基本機能の他の機能を表示します。

メニュー概要

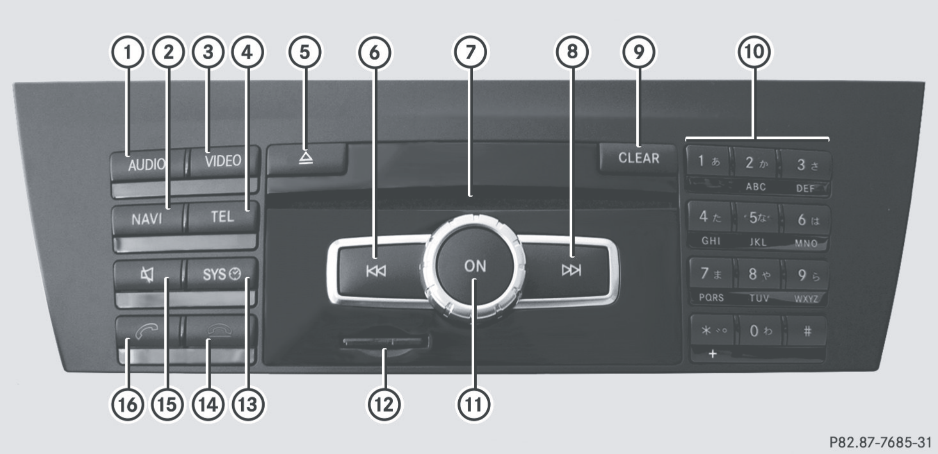
ナビ	オーディオ	電話	TV/映像	システム	🌐 マーク
地図表示切替	ラジオ	電話	テレビ	設定メニューを呼び出す	デジタル版取扱説明書を呼び出す
地図表示形式	ディスク	アドレス帳	DVD ビデオ		COMAND Online とインターネットを呼び出す
VICS 表示	メモリーカード		外部入力		
施設マークの表示	ミュージックレジスター				
設定	USB メモリー				
案内の中止/継続	メディアインターフェース				
コンパスを表示する	Bluetooth® オーディオ				
	外部入力				

システムメニュー概要

設定	時刻	消費	シート	ディスプレイオフ
ディスプレイの設定	時刻の設定	燃料消費量表示を呼び出す	運転席/助手席の設定を変更する	ディスプレイのオフ
音声認識	フォーマットの設定			
言語の設定	タイムゾーンの設定			
お気に入りスイッチ				

設定	時刻	消費	シート	ディスプレイオフ
☑Bluetooth®の作動/解除				
データのインポート/エクスポート				
COMAND システムをリセットする				

COMAND コントロールパネル



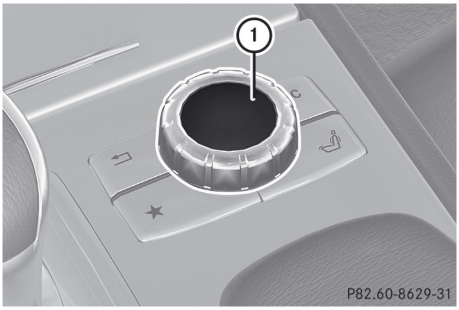
	機能	ページ
①	最後に選択されていたオーディオモード（例：ラジオモード）に切り替える	
②	ナビゲーションモードに切り替える 設定メニューを表示する	
③	最後に選択されていたビデオモード（例：テレビモード）に切り替える	
④	電話基本メニュー（Bluetooth® インターフェースによる電話機能）を呼び出す アドレス帳を呼び出す	
⑤	挿入/排出スイッチ	
⑥	放送局サーチ機能を使って放送局を選択する 早戻し 前のトラックを選択する	

	機能	ページ
⑦	ディスクスロット • CD/DVD を挿入する • CD/DVD を排出する	
⑧	放送局サーチ機能を使って放送局を選択する 早送り 次のトラックを選択する	
⑨	クリアスイッチ • 文字を削除する • 項目を削除する	

	機能	ページ
⑩	テンキー • 放送局プリセットによって放送局を選択する • 手動で放送局を登録する • 携帯電話の認証 • 電話番号の入力 • 文字入力 • メモリーから天気予報の場所を選択する [#] 再生されている現在のトラックを表示する [#] 文字バーのあるリスト：文字の設定（かな/漢字/アルファベット/カタカナ/数字入力）を切り替える [#] 選択リストとしてのリスト：文字の設定（カタカナ/アルファベット）を切り替える [*] 周波数を手動で入力して放送局を選択する [*] トラックを選択する	
⑪	COMAND システムのオン/オフを切り替える 音量の調整	
⑫	SD メモリーカードスロット	
⑬	設定メニューを呼び出す	
⑭	通話を拒否する 通話を終える 保留中の通話を拒否する	
⑮	ミュート ハンズフリーマイクのオン/オフを切り替える ナビゲーションの音声案内を停止する	
⑯	通話を受ける 番号をダイアルする リダイアル 保留中の通話を受ける	

COMAND コントローラー

概要

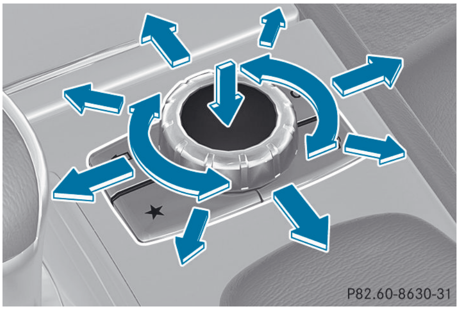


① COMAND コントローラー

COMAND コントローラーを使用して COMAND ディスプレイのメニュー項目を選択できます。
以下のことができます。

- メニューまたはリストの呼び出し
- メニューまたはリスト内のスクロール、そして
- メニューまたはリストの終了

操作



例：COMAND コントローラーを操作する

COMAND コントローラーは以下のようなことができます。

- 軽く押す、または押して保持する ◎
- 時計回り、または反時計回りにまわす ↺◎↻
- 左右にスライドする ←◎→
- 前後にスライドする ↑◎↓
- 斜めにスライドする ↗◎↘

操作の例

説明では、操作の順番は以下に記載されているようになります。

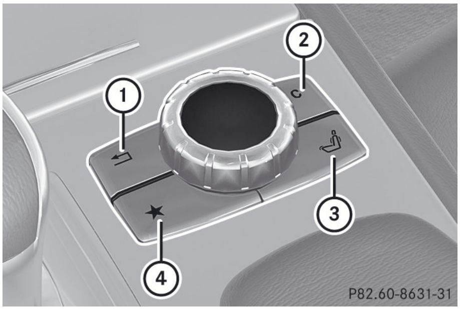
▶ AUDIO スイッチを押す。
最後に選択されていたオーディオソースがオンになります。

▶ COMAND コントローラーをスライドして ↑◎ 、オーディオを選択し、押して ◎ 確定します。
オーディオメニューが表示されます。

▶ COMAND コントローラーをまわして ↺◎↻、ミュージックレジスター のように異なるオーディオソースを選択し、押して ◎ 確定します。
ミュージックレジスターがオンになります。

COMAND コントローラーのスイッチ

概要



① リターンスイッチ(▷ 188 ページ)
② クリアスイッチ(▷ 188 ページ)
③ シート機能スイッチ
④ お気に入りスイッチ

ⓘ 車両にシート機能スイッチが装備されていない場合は、2 つのお気に入りスイッチがあります。

リターンスイッチ

リターンスイッチ [↩] を使用して、メニューを終了するか、または現在の操作モードの基本画面を呼び出すことができます。

▶ **メニューを終了する：** リターンスイッチ [↩] を軽く押します。

COMAND システムは現在の操作モードのなかで、一つ上のメニュー階層に切り替わります。

▶ **基本画面を呼び出す：** リターンスイッチ [↩] を押して保持します。

COMAND システムは現在の操作モードの基本表示に切り替わります。

クリアスイッチ

▶ **個々の文字を削除する：**クリアスイッチ [c] を軽く押します。

▶ **入力全体を削除する：** クリアスイッチ [c] を押して保持します。

シート機能のスイッチ

[シート] スイッチを使用して、以下のシート機能を呼び出すことができます。

- マルチコントロールシートバック（電動ランバーサポート付）
- アクティブマルチコントロールシートバック（ダイナミックシートとマッサージ機能）
- バランス（シートヒーターの配分）

お気に入りスイッチ

あらかじめ設定した機能をお気に入りスイッチ [*] に指定し、スイッチを押してそれらを呼び出すことができます。

COMAND Online とインターネット

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- インターネットアクセスデータの選択/設定
- COMAND Online とインターネット
- Google™ ローカル検索
- 目的地/ルートのダウンロード
- 天気表示
- インターネット

全体的な注意事項

アクセスの条件

⚠ **警告**

COMAN Online を操作するときは、そのときに運転している国の法規則に従ってください。走行中に通信機器を操作することが法律で認められている場合は、交通状況が許すときのみ操作してください。交通状況から注意がそれて、事故の原因になったり、お客様や他の乗員の方々が負傷するおそれがあります。

オンライン機能とインターネットアクセスは、Bluetooth® インターフェースを介して利用することができます。

機能を使用するには、以下の条件が必要です。

- 携帯電話が DUN Bluetooth® プロファイル (**D**ial-**U**p **N**etworking：ダイアルアップネットワーク) をサポートしていて、Bluetooth® インターフェース によって COMAND システムに接続されていること。 DUN Bluetooth® プロファイルは携帯電話

のインターネットへのダイアルアップ接続を確立させることができます。

- データオプションがある有効な携帯電話の契約が必要で、それには関連する接続費用が請求されます。
- 接続している携帯電話のアクセスデータが COMAND システムに設定されていること(▷ 190 ページ)。

ℹ 適合している携帯電話の詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場へお問い合わせください。

ℹ 携帯電話によっては、独立して DUN Bluetooth® プロファイルをオンにしなければならないものもあります (携帯電話の取扱説明書をご覧ください)。

ℹ 携帯電話の中には同時に 2 つの Bluetooth® プロファイルのみをサポートするものがあります (例：Bluetooth® 電話機能のハンズフリープロファイルおよびオーディオストリーミングの Bluetooth® オーディオプロファイル)。さらにインターネット接続を確立させたときは、Bluetooth® オーディオ経由での再生が停止することがあります。

ℹ 正しくないアクセスデータを使用すると、追加の費用が発生することがあります。 これは、契約と違う項目や、他の契約/データパッケージの項目を使用したときに発生します。

ℹ 個々の COMAND システムのメルセデス・ベンツのアプリケーションの使用可能状況は国によって異なります。

ℹ 利用規約は COMAND Online が初めて使用されたとき、およびそれ以降年に 1 度表示されます。 車両が停止しているときにのみ、利用規約を読んで同意してください。

ℹ インターネットのページは走行中は表示できません (▷ 196 ページ)。

データをインポート/エクスポートし、そのために インターネットデータ オプションを選択するときは、携帯電話のネットワークプロバイダーのパスワードは保存**されません**。

インターネットに再度接続するときは、以下のように進めます。

▶ **ステップ 1：** 携帯電話のネットワークプロバイダーを削除します。

▶ **ステップ 2：** 携帯電話のネットワークプロバイダーを再度選択する (オプション 1)か、手動で設定します (オプション 2)。

車両が走行している間の接続障害

以下の場合は、接続が切断されることがあります。

- 特定の地域において、携帯電話のネットワーク範囲が不十分なとき
- 携帯電話の送信/受信エリア（携帯電話の基地局）を他に移動して空いているチャンネルがないとき
- 使用可能なネットワークに適していない SIM カードを使用しているとき

機能の制限

以下の状況のときは、携帯電話を使用できなかったり、携帯電話を使用できなくなったり、使用できるようになるまでに待たなければならないことがあります。

- 携帯電話の電源が入っていないとき
- COMAND システムの"Bluetooth®"機能がオフになっているとき
- Bluetooth® インタフェースの電話機能を使用している間に携帯電話の"Bluetooth®"機能がオフになったとき

- 携帯電話が携帯電話のネットワークにログインしていないとき
- 携帯電話のネットワークおよび携帯電話のどちらにも、電話とインターネット接続の同時使用が認められていないとき

ℹ 使用している携帯電話と携帯電話ネットワークによっては、インターネットに接続しているときは着信できないことがあります。

ローミング

他の国でご自身の車両を運転していて、オンラインとインターネット機能を使用すると、追加費用（ローミング料金）が発生することがあります。他の国にいるときは、SIM カードがデータローミングをできるようにしなければなりません。携帯電話のネットワークプロバイダーがローミングパートナーとデータローミングの契約を結んでいない場合は、インターネット接続を確立できないことがあります。 他の国にいるときにデータローミングを避けたい場合は、携帯電話のこの機能を非作動にしてください。

アクセスデータの設定

概要

接続された携帯電話のインターネットアクセスデータは、携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。 COMAND システムにおいて必要なインターネットアクセスデータの設定は以下に記載されています。

選択された/手動で設定された携帯電話のネットワークプロバイダーは、選択/設定されたときに接続されている携帯電話のみで有効です。 再接続されたときは携帯電話のネットワークプロバイダーは自動的に設定されます。

ℹ 正しくないアクセスデータを使用すると、追加の費用が発生することがあります。 例えば、適切でないデータは契約と異なる項目や、他の契約/データパッケージの項目です。

ℹ 他の国で車両を運転していて、COMAND システムとインターネット機能を使用すると、追加費用（ローミング料金）が発生することがあります。

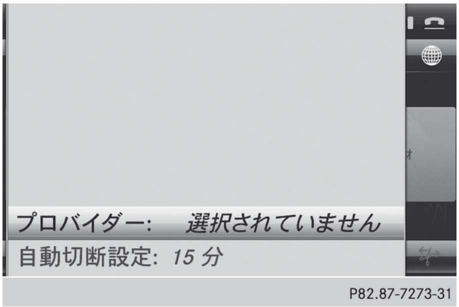
ℹ 車両が停止しているときにアクセスデータの設定を調整してください。 交通状況から注意がそれて、事故の原因になったり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

インターネットアクセスデータの選択/設定

携帯のネットワークプロバイダーを呼び出す

▶ COMAND コントローラーをスライドしてから ↑◎、まわして ↻◎↺、基本機能バーでマーク 🌐 を選択し、押して ◎ 確定します。

カルーセルビュー（マルチウインドウ）が表示されます。



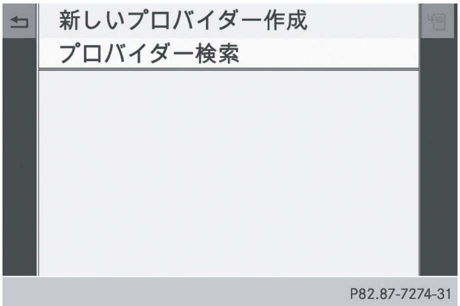
▶ COMAND コントローラーをスライドしてから ◎↓、まわして ◀◎▶、設定 を選択し、押して ◎ 確定します。

携帯電話を初めて COMAND システムに接続するときは、あらかじめ設定されている携帯電話のネットワークプロバイダーはありません。 プロバイダー： に選択されていません という言葉が続きます。

携帯電話が接続されていて、携帯電話のネットワークプロバイダーが選択されている場合は、携帯電話のネットワークの名称がプロバイダー： の後に表示されます。

▶ COMAND コントローラーを押します ◎。

携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示されます。

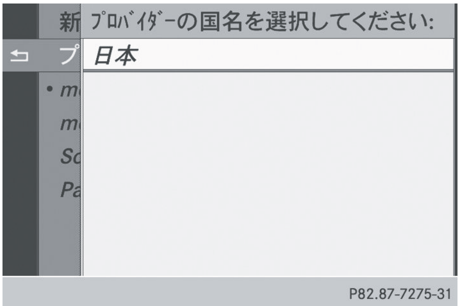


携帯電話のネットワークプロバイダーのリスト（空欄）

携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを設定するために、以下のことができます。

- 携帯電話のネットワークプロバイダーのあらかじめ設定されたアクセスデータを選択する(▷ 191 ページ)
- 携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを手動で設定する(▷ 194 ページ)

携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの選択



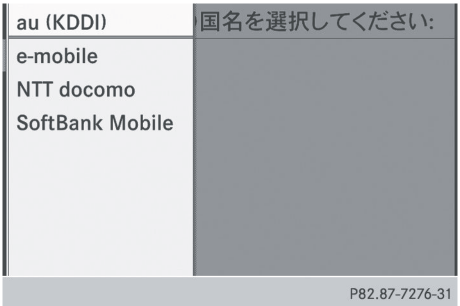
プロバイダーの検索

▶ COMAND コントローラーをまわして ◀◎▶、携帯電話のネットワークプロバイダーリストで プロバイダー検索 を選択し、押して ◎ 確定します (▷ 190 ページ)。
国のリストが表示されます。

▶ 押して 、日本 を確定します。

使用可能な携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示されます。

ℹ 携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータが接続している携帯電話で一度選択されると、携帯電話が接続されるたびに再び読み込まれます (▷ 190 ページ)。



ℹ 接続している携帯電話の SIM カードおよび関連するデータパッケージ（アクセス設定）を提供している携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを設定してください。 他に国にいるときは、アクセスデータは同じままです（ローミング）。 他のネットワークのアクセスデータは選択**されません**。

複数のアクセスデータを提供している携帯電話のネットワークプロバイダーがあります。 これは、例えば使用しているデータパッケージによって異なります。

携帯電話のネットワークアクセス設定が 1 つの場合

▶ COMAND コントローラーをまわして ◎、携帯電話のネットワークプロバイダーを選択し、押して 確定します。
メニューが表示されます。

▶ **プリセットアクセスデータを確認する：**編集 を選択し、 で確定します。
アクセスデータのリストが表示されます。
アクセスデータを確認します。 アクセスデータの記載(▷ 194 ページ).

▶ **アクセスデータが正しい場合：** リセットスイッチ を押すか、または マークを選択し、押して 確定します。
携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを受け取ることができます。

▶ 保存 を選択し、押して 確定します。
携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示されます。プロバイダーのアクセスデータを受け取ります。

▶ **アクセスデータを編集する：**"携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの手動設定" (▷ 194 ページ) に記載されているように進めてください。
編集したアクセスデータを確定すると、携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示され、選択したプロバイダーが表示されます。

携帯電話のネットワークアクセス設定が複数の場合

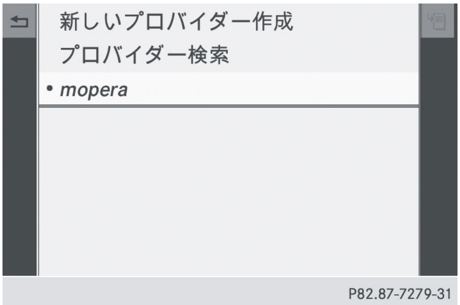
▶ COMAND コントローラーをまわして〔◎〕、適切なアクセス設定を選択し、押して ⓢ 確定します。
メニューが表示されます。

▶ **アクセス設定を確認する：** 編集 を選択し、押して ⓢ 確定します。
アクセスデータのリストが表示されます。
アクセスデータを確認します。 アクセスデータの記載(▷ 194 ページ).

▶ **アクセスデータが正しい場合：** リセットスイッチ [↩] を押すか、または [↩] マークを選択し、押して ⓢ 確定します。
携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを受け取ることができます。

▶ 保存 を選択し、押して ⓢ 確定します。
携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示されます。プロバイダーのアクセスデータを受け取ります。

▶ **アクセスデータを編集する：**"携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの手動設定" (▷ 194 ページ) に記載されているように進めてください。
編集したアクセスデータを確定すると、携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示され、選択したプロバイダーが表示されます。



選択したプロバイダーがある携帯電話のネットワークプロバイダーのリスト

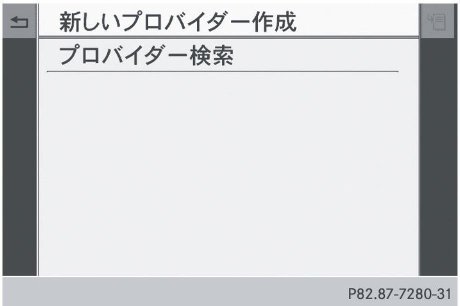
現在選択されているアクセス設定（項目の前の ● で示されています）は接続されている携帯電話に使用されています。

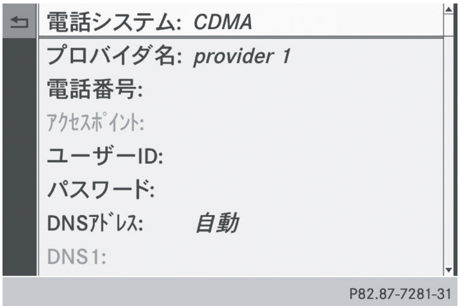
▶ **カルーセルビュー（マルチウインドウ）に戻る：** リターンスイッチ [↩] を 2 回押します。

または

▶ COMAND コントローラーを押して ⓢ、リターンスイッチ [↩] を押します。

携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの手動設定





アクセスデータのリスト（新しいプロバイダー）

アクセスデータのリストを呼び出す

▶ COMAND コントローラーを押して ⊛、携帯電話のネットワークプロバイダーのリストで 新しいプロバイダー作成 を確定します。
アクセスデータのリストが表示されます。 標準的な名前 プロバイダー <x> がプロバイダー： 欄に自動的に入力されます。 ここで項目を作成することができます。

ℹ 携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータは接続されている携帯電話に一度設定されます。

アクセスデータの説明

入力欄	意味
プロバイダー名：	携帯電話のネットワークプロバイダーのリストに表示されるプロバイダーの名前。 名前を自由に選択できます。 標準的な項目は プロバイダー <x> です。
電話番号:	接続を確立するためのアクセス番号 ℹ アクセス番号はプロバイダーによって異なります。
アクセスポイント：	APN ネットワークアクセスポイント (Access Point Name：アクセスポイント名) ℹ ネットワークのアクセスポイントは入力されている必要はありません。
ユーザー ID：	ユーザー ID は携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。 ℹ すべての携帯電話のネットワークプロバイダーで入力は必要ではありません。

入力欄	意味
パスワード：	パスワードは携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。 ℹ すべての携帯電話のネットワークプロバイダーで入力は必要ではありません。 ℹ パスワードはデータをインポート/エクスポートすると失われます。
DNS アドレス：	DNS アドレス (**D**omain **N**ame **S**ervice：ドメインネームサービス) は自動的に決めるか、手動で入力することができます。 必要な情報は携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。 ℹ ほとんどの携帯電話のネットワークプロバイダーは自動 機能をサポートしています。 マニュアル オプションを選択すると、通常は DNS アドレスを入力する必要があります。
DNS 1： DNS 2：	DNS サーバーのアドレスを手動で入力するための欄。 アドレスは携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。

接続の確立/終了

接続を確立する

P82.87-8416-31

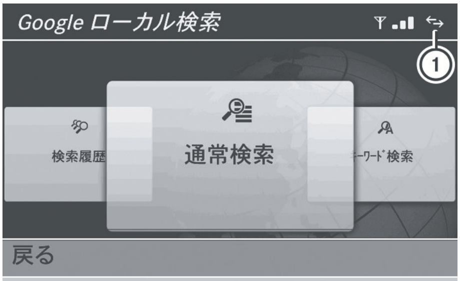
P82.87-8417-31

接続を確立するための前提条件は、"全体的な注意事項" (▷ 188 ページ) をご覧ください。

▶ **オプション 1：** COMAND コントローラーをスライドしてから ↑◎、まわして ↺◎↻、基本機能バーでアイコン 🌐 を選択し、押して ◎ 確定します。
カルーセルビュー（マルチウインドウ）が表示されます。

▶ Mercedes-Benz Apps パネル、または以前に作成されている場合はお気に入りが前面になるまで、COMAND コントローラーをまわすか ↺◎↻、スライドします ←◎→。

▶ **オプション 2：** ウェブアドレス (▷ 197 ページ) を入力します。



P82.87-7270-31

P82.87-7271-31

▶ どちらのオプションも、COMAND コントローラーを押します。
インターネットの接続が確立されます。 インターネットの接続の作動は、マーク ① で識別されます。例は、Google™ ローカル検索 機能のメニューを示しています。

▶ **接続を中止する：** 接続を確立している間に、押して 中止 を確定します。

または

▶ COMAND システムまたはマルチファンクションステアリングの スイッチを押します。

ℹ インターネット接続の作動と同時に通話をすると、 マークが ① に表示されます。インターネット接続は、使用されている携帯電話と携帯電話ネットワークによって接続されたままになります。

接続を終了する

▶ COMAND システムまたはマルチファンクションステアリングの スイッチを押します。

または

▶ カルーセルビュー（マルチウインドウ）の右下にあるハサミマークを選択して、押して 確定します。

ℹ 携帯電話のインターネット接続が中止されると、COMAND システムは再接続しようとします。 そのため、COMAND システムでまたはマルチファンクションステアリング経由で接続を常に閉じるようにしてください。

インターネット

表示制限

インターネットのページは走行中は表示できません。

ウェブサイトを呼び出す

カルーセルビュー（マルチウインドウ）を呼び出す

P82.87-8421-31

▶ COMAND コントローラーをスライドしてから、まわして、基本機能バーで マークを選択し、押して 確定します。
カルーセルビュー（マルチウインドウ）が表示されます。

ウェブアドレスを入力することができます。

ウェブアドレスの入力

P82.87-7204-31

文字バーまたはテンキーのどちらかを使用してウェブアドレスを入力できます。

▶ COMAND コントローラーをスライドしてから ◎↓、まわして ⟲◎⟳、www を選択し、押して ◉ 確定します。
入力メニューが表示されます。

▶ **文字バーを使用して入力する：** 入力行にウェブアドレスを入力します。
最初の文字を入力行に入力するとすみやかに、リストがその下に表示されます。 入力した文字で始まるウェブアドレスと、すでに呼び出されたウェブアドレスがリストに表示されます。
初めて呼び出したときはリストは空欄です。

▶ ウェブアドレスを入力した後に、COMAND コントローラーをスライドしてから ◎↓、まわして ⟲◎⟳、 ok マークを選択し、押して ◉ 確定します。
ウェブサイトが呼び出されます。

ウェブサイトを操作する

手順	動作
▶ コントローラーをまわす ⟲◎⟳	リンク、文字欄または選択リストなどの選択できる 1 つの項目から次に操作し、ウェブサイトのそれぞれの項目を強調します。
コントローラーをスライドする ▶ 左右 ←◎→ ▶ 上下 ↑◎↓ ▶ 斜め ↘◎↙	ページのポインターを動かします。
▶ コントローラーを押す ◉	メニューを呼び出す、または選択した項目を開きます。
▶ 押す ⮌	前のページを呼び出します。
▶ 押す c	インターネットのブラウザーを、または複数が開いているときは現在のウインドウを閉じます。

役に立つ情報 200
荷物の積み方 200
ラゲッジルーム 201
室内装備 208

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国により、仕様が異なる場合があります。 お買い上げいただいた車両には、記載されているすべての内容が備わっていないことがあります。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 26 ページ).

荷物の積み方

⚠ **警告**

荷物を積むときは、以降に記載されている注意点を守り、確実に固定してください。

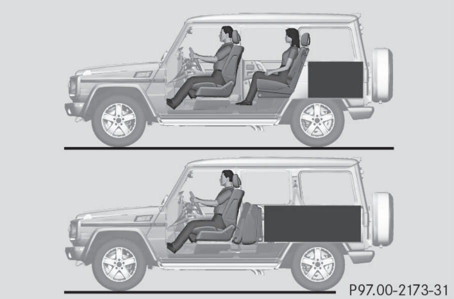
急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が車内に放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。 これは取り外されたシートについてもあてはまります。

荷物の積み方については、"荷物の固定" にも詳しく説明されています。

荷物を積むときの注意点を守ったとしても、荷物を積むことにより、事故のときなどに乗員がけがをする可能性は高まります。

⚠ **警告**

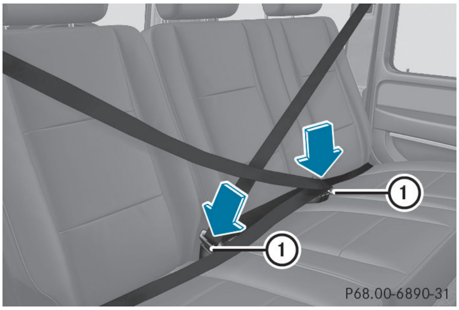
エンジンをかけた状態でトランクリッド / テールゲートを開いたままにしないでください。 排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。



荷物の積み方は車両の走行安定性に大きく影響します。 したがって、荷物は図のように積んでください。

荷物を輸送する際は、以下の注意事項を守ってください。

- 荷物を積むときは、(乗員を含めて) 最大車両総重量および許容軸重を超えないようにしてください。
- 重い物はできるだけラゲッジルームの前方の低い位置に積んでください。
- 荷物を車内に積むときは、シートのバックレストよりも高く積み上げないでください。
- トランクに荷物を積むときは、必ずフロントシートまたはリアシートのバックレストに接するように積んでください。
- なるべく乗員のいない席の後方に荷物を積んでください。
- 可能な場合は、必ず荷物はラゲッジルームに積んでシートバックレストを起こしてロックした状態で輸送してください。



リアシートに乗員がいない場合：

- ▶ 外側のシートベルトの先端部を反対側のシートベルトのバックル ① に差し込みます。
- ▶ 強度のある耐摩耗性の荷物固定用ストラップなどを使用して、荷物を確実に固定してください。
- ▶ 鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。

ℹ 適用規格に従ってチェックした荷物固定用ストラップなどはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で使用できます。

ラゲッジルーム

小物入れ

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

小物入れに収納物があるときは、確実に閉じてください。 ラゲッジネットは、バッグなどの重い物を固定するためのものではありません。

以下の場合に、荷物が放り出されて乗員がけがをするおそれがあります。

- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故のとき

ラゲッジネットには、鋭利な形状の物や割れやすい物を入れないでください。

シートポケットには、かたい物を入れないでください。 また、シートポケットから収納物がはみ出さないようにしてください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- グローブボックス
- アームレストの小物入れ / 携帯電話入れ
- ドア収納ボックス
- フロントセンターコンソールの小物入れ

ラゲッジネット

⚠ **警告**

ラゲッジネットには軽い物のみを収納してください。 重くてかさばる物やかたい物、鋭利な形状の物や割れやすい物はラゲッジネットに入れないでください。 事故のときなどに、収納物が飛び出して乗員がけがをするおそれがあります。

ラゲッジネットは助手席足元にあります。

ラゲッジルームの拡大

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

車内やラゲッジルームに重い荷物やかたい荷物を積載するときは、確実に固定してください。

急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が車内に放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

ラゲッジルームを拡大して使用するときは、セーフティネットがある場合必ず取り付けてください。

⚠ **警告**

エンジンをかけた状態でトランクリッド / テールゲートを開いたままにしないでください。 排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

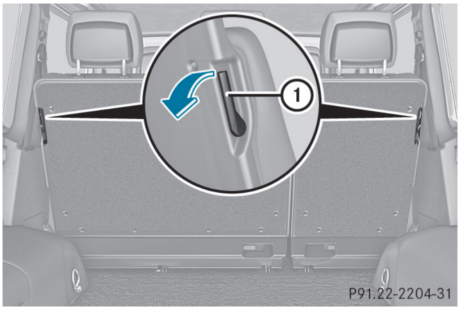
! リアベンチシートのバックレストとシートクッションを前に倒す前に、後席のカップホルダーから容器を取り除いてあることを確認してください。

リアベンチシートが対照に分割されています。

左右リアシートを倒して、ラゲッジルーム容量を拡大することができます。 以下の変更が可能です。

• シートバックレストを前に倒す
• リアベンチシートを完全に倒す

シートバックレストを前方に倒す



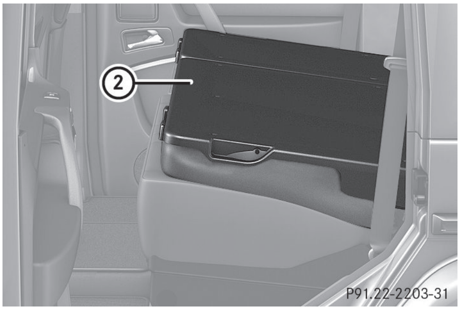
シートバックレストを前方に倒すには、以下のようにしてください。

▶ リアドアを開きます。
こうすると、ロック解除レバー ① に手が届きやすくなります。

▶ センターヘッドレスト (▷ 81 ページ) を取り外します。

▶ キャッチ ① を矢印の方向に引きます。
対応する側のリアシートバックレストがロックされていません。

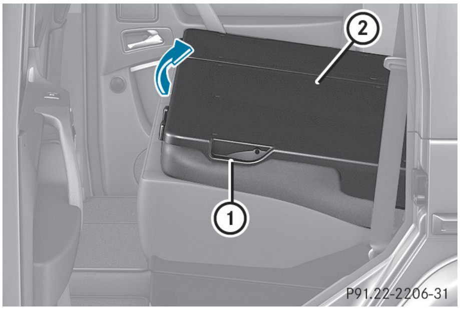
▶ バックレストを前に倒します。
リアシートバックレストは音をたててかみ合います。



② 前方に倒したバックレスト

シートバックレストを倒して戻す

! リアシートバックレストを起こすときは、シートベルトが挟まれていないことを確認してください。 損傷するおそれがあります。



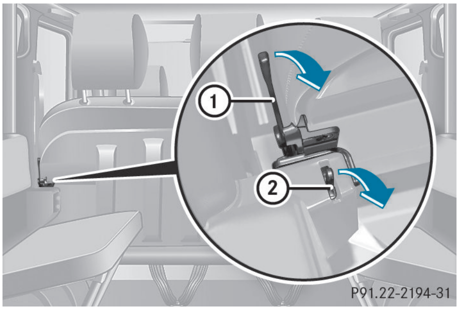
▶ ロック解除レバー ① を引きます。
対応する側のシートバックレストが解除されます。

▶ バックレスト ② を矢印の方向に後方に倒します。
シートキャッチは音をたててかみ合います。

▶ ヘッドレスト (▷ 81 ページ) を取り付けます。

リアベンチシート

シートバックレストの解除レバー



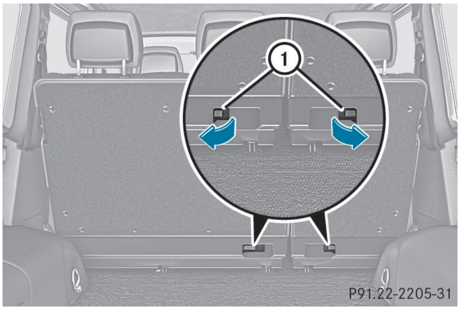
シートバックレストロック解除レバー
① ロングレバー
② ショートレバー

▶ ヘッドレスト (▷ 81 ページ)を取り外します。

▶ ショートレバー ② を矢印の方向に引き、保持します。

▶ ロングレバー ① を矢印の方向に引き、シートバックレストを前に倒します。

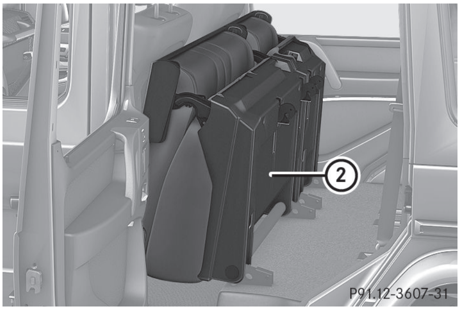
リアシートを前に倒す



▶ リアシートバックレスト (▷ 202 ページ) を前方に倒します。

▶ キャッチ ① を矢印の方向に引きます。
対応する側のリアベンチシートが解除されます。

▶ リアベンチシート ② を前方に倒します。



② 前に倒したリアベンチシート

リアベンチシートを直立位置に戻す

⚠ 警告

リアベンチシートおよびフロントシートバックレストが所定の位置に適切にロックされていることを確認してください。

シートバックレストまたはリアベンチシートが完全にロックされておらず、以下のようなことが発生した場合：

- 急ブレーキのとき
- 急な進路変更時
- 事故のとき

▷▷

シートバックレストやリアベンチシートが目的通りにシートに固定される代わりに前に倒れて、運転者が負傷するおそれがあります。 事故が発生すると、ラゲッジルームから物が前に飛び出すなどして、乗員も負傷するおそれがあります。

▶ リアベンチシートを後ろに倒します。シートキャッチは音をたててかみ合います。

▶ バックレストを後ろに倒します。(▷ 202 ページ)

▶ ヘッドレスト (▷ 81 ページ)を取り付けます。

荷物の固定

重要な安全上の注意

⚠ 警告

荷物固定用リングには均等に力がかかるようにしてください。

以下のような状況で、容器が飛び出して、乗員がけがをするおそれがあります。

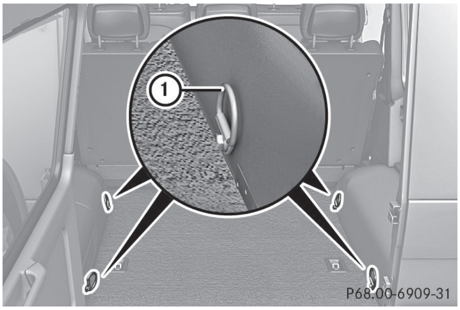
- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故のとき

荷物を積むときの注意点を守ってください。

荷物を固定するときは、以下の点に注意してください。

- 荷物固定用リングを使用して、荷物を固定してください。
- 伸縮性のあるストラップやネットは軽い荷物のずれを防ぐためのものです。これらを使用して荷物を固定しないでください。
- テンションストラップを使用する場合は、必ず最低許容伸長強度が Fzul = 600 daN で伸長率が約 7%のテンションストラップを使用してください。
- 固定用具が荷物のとがった部分や角に当たらないようにしてください。
- 鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。
- 荷物固定用ネットや荷物固定用ストラップなど、必ず適用基準にしたがってチェックされた荷物固定具を使用してください。
- 荷物とラゲッジルームの壁とホイールマウントの間のスペースを形が崩れないように埋めてください。 そのためには、必ず輪留めブロック、木製の固定具や詰め物などの寸法安定性のある輸送補助具を使用してください。

ラゲッジルームの荷物固定用リング



ラゲッジルームには、側面に 4 個の荷物固定用リング ① が取り付けられています。

ラゲッジルームカバー

重要な安全上の注意

⚠ 警告

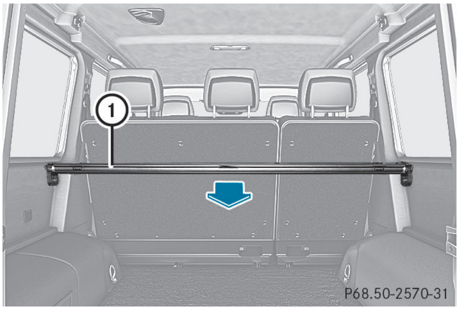
ラゲッジルームカバーは、乗員保護装置ではありません。 ラゲッジルームカバー下の荷物は、適切な方法で固定してください。 ラゲッジルームカバーが確実にロックされていることを確認してください。 荷物が確実に固定されていないと、急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物がバックレストを超えて

車内に放り出されることがあります。 これにより、事故や乗員がけがをするおそれがあります。

! 荷物を車内に積むときは、ラゲッジルーム内の荷物をサイドウインドウ下端より高く積み上げないでください。 ラゲッジルームカバーの上に重い物を載せないでください。

ラゲッジルームカバーはリアベンチシートのバックレストの後方にあります。

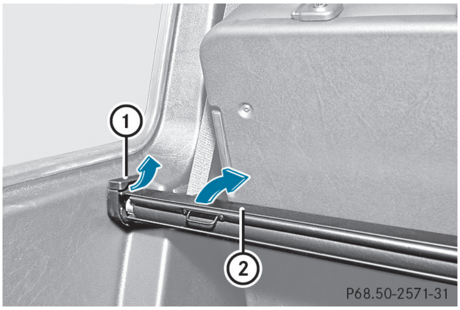
ラゲッジルームカバーの開閉



ℹ ラゲッジルームカバー ① は、2 つのローラーブラインドで構成されています。 リアシートバックレストをたたんでいても、ラゲッジルーム全体をカバーすることができます。

- **開く：** ラゲッジルームカバー ① を後方に引き、リアドアの左右にあるフックに固定します。
- **閉じる：** ラゲッジルームカバー ① のクリップを外して、完全に巻き上げられるまで前に引きます。

ラゲッジルームカバーの取り付け / 取り外し



- **取り外す：**ラゲッジルームカバー ② が巻き取られていることを確認します。
- ラゲッジルームカバー ② の左右のキャッチ ① を車両の中心に向かってスライドさせます。
- ラゲッジルームカバー ② を上にあげて出します。
- **取り付ける：** キャッチ ① を車両の中心に向かってスライドさせます。
- ラゲッジルームカバー ② をサイドトリムのリセスに差し込みます。
- ラゲッジルームカバー ② の左右をロックされるまで押し下げます。
- キャッチ ① をサイドトリムの方向にスライドさせます。

セーフティネット

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

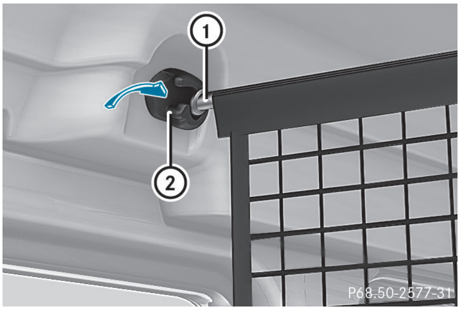
セーフティネットが上下にきちんと固定されていることを確認してください。

損傷したセーフティネットを使用しないでください。

セーフティネットで重い荷物を積載することはできません。 荷物は必ず確実に固定してください。

急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに確実に固定されていない荷物が放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

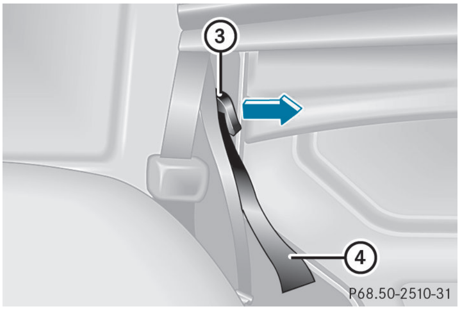
ラゲッジルーム非拡大時のセーフティネット



▶ リアドアを開きます。
こうすると、セーフティネットにフックで留めやすくなります。

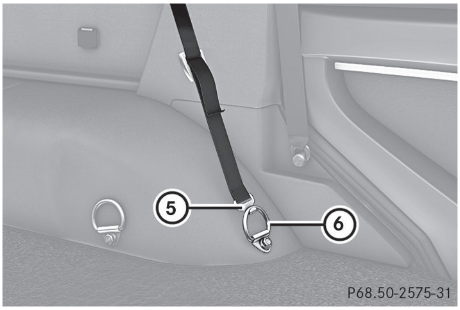
▶ 事前にシートバックレストを前に倒さずに、リアベンチシートを前に倒します。 (▷ 203 ページ)

▶ セーフティネット ① を両側の固定装置 ② にひっかけます。



▶ テンションストラップ ④ のテンションバックル ③ は進行方向を向いていなければなりません。

▶ テンションストラップ ④ は、テンションバックル ③ を使って荷物固定用リング ⑥ の長さに合わせてセットできます。

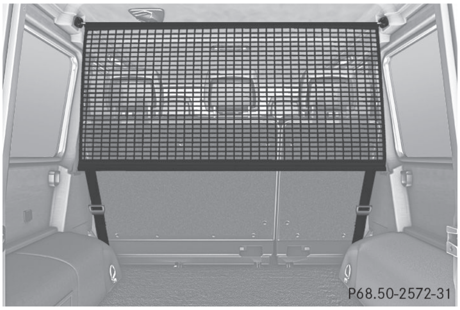


▶ フック ⑤ を荷物固定用リング ⑥ にひっかけます。

▶ テンションストラップ ④ の端をテンションセーフティネットの方に引きます。

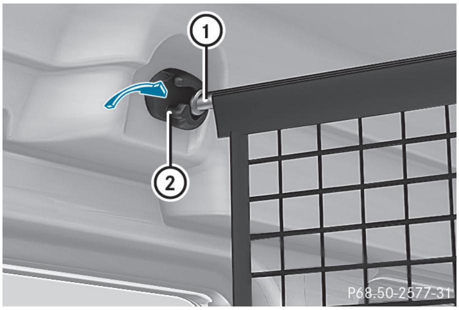
▶ リアベンチシートを前に倒して直立ポジションにします。(▷ 203 ページ)
セーフティネットがリアベンチシートによってピンと張られます。

▶ 短距離を走行した後で、セーフティネットの張りを点検し、必要であれば再度締め付けます。



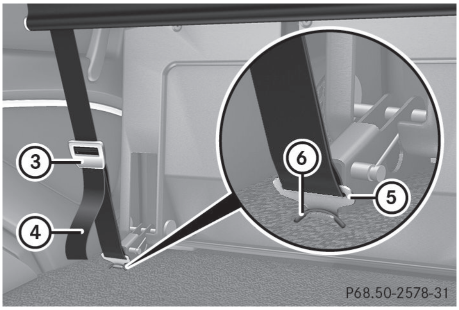
取り付けられたセーフティネット

ラゲッジルーム拡大時のセーフティネット



▶ リアベンチシートを前方に倒します。(▷ 203 ページ)

▶ セーフティネット ① を両側の固定装置 ② にひっかけます。



③ テンションバックル

④ テンションストラップ

⑤ フック

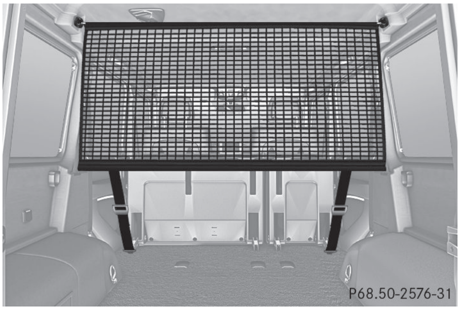
⑥ 荷物固定用リング

▶ テンションストラップ ④ は、テンションバックル ③ を使って荷物固定用リング ⑥ の長さに合わせてセットできます。
テンションストラップ ④ のテンションバックル ③ は、ラゲッジルームの方向を向いていなければなりません。

▶ フック ⑤ を荷物固定用リング ⑥ にひっかけます。

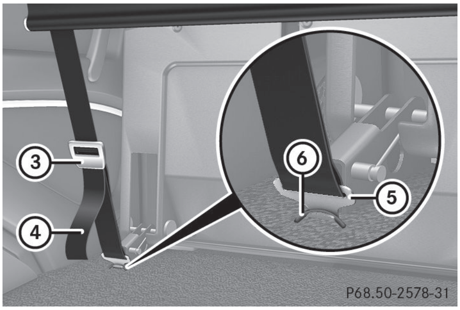
▶ テンションセーフティネットが適切に張られまで、テンションストラップ ④ の自由な端をしっかり引きます。

▶ 短距離を走行した後で、セーフティネットの張りを点検し、必要であれば再度締め付けます。



取り付けられたセーフティネット

セーフティネットの解除



③ テンションバックル

④ テンションストラップ

⑤ フック

⑥ 荷物固定用リング

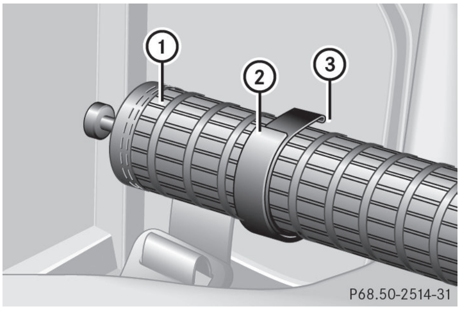
▶ テンションバックル ③ を水平の位置まで持ち上げます。
テンションストラップ ④ がゆるんでいます。

▶ フック ⑤ を荷物固定用リング ⑥ から外します。

セーフティネットの取外し

▶ セーフティネット ① をホルダー ② から取り外します。

セーフティネットの保管



▶ セーフティネット ① を巻き上げて、マジックテープ ② を使ってそれを固定します。

▶ セーフティネット ① をリアベンチシートの後ろのホルダー ③ に入れます。

ルーフラック

⚠ **警告**

ルーフラックやスキーキャリアおよび荷物の固定方法を誤ると、車両から脱落する場合があります。 キャリアや荷物が放り出されて、乗員がけがをしたり、事故が起こるおそれがあります。 ルーフラック / スキーキャリアの取り扱いについては、製品に添付の取扱説明書をお読みください。

ルーフに荷物を積んでいると、車両の重心位置が変化し走行安定性に影響を与えます。 必ず最大ルーフ負荷を守ってください ("テクニカルデータ"を参照)。 ルーフに荷物を積んでいるときは、道路状況や天候状態に合わせて運転スタイルを変えて、十分に注意して運転してください。

! ルーフラックは、メルセデス・ベンツ車用に認定された推奨品の使用をお勧めします。 推奨品以外の製品を取り付けると車両を損傷するおそれがあります。

ルーフラックに荷物を積むときは、走行中に車両を損傷しないように確実に固定してください。

スライディングルーフをチルトアップしたときに接触しない用にしてください。

▶ ルーフラックを取り付けるときは、メーカーの取付け指示に従ってください。

室内装備

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- カップホルダー
- 灰皿
- ライター
- 12 V 電源ソケット
- ルーフラック

運転席のフロアマット

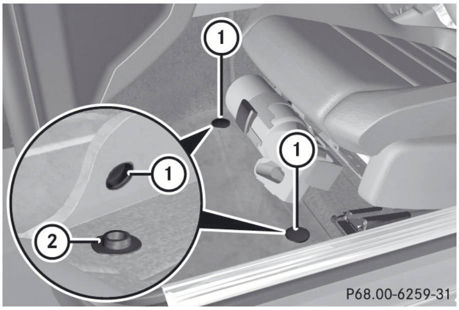
⚠ **警告**

フロアマットを使用するときは、ペダルとの間に十分な空間があり、確実に固定されていることを確認してください。

フロアマットは、固定用ノブと凸部を使用して、確実に固定してください。

走行前にフロアマットを点検し、必要に応じて適切に調整してください。確実に固定されていないと、フロアマットが滑ってペダルに引っかかり、ペダル操作を妨げるおそれがあります。

運転席のフロアマットは重ねて使用しないでください。



▶ シートを後方に動かします。

▶ **取り付ける：** フロアマットを足元に敷きます。

▶ フロアマットの凹部 ① を押し、フロアの凸部 ② にはめ込みます。

▶ **取り外す：** フロアの凸部 ② からフロアマットを取り外します。

▶ フロアマットを取り外します。

役に立つ情報 212
エンジンルーム 212
サービス 215
日常の手入れ 216

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国により、仕様が異なる場合があります。 お買い上げいただいた車両には、記載されているすべての内容が備わっていないことがあります。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 26 ページ).

エンジンルーム

ボンネット

重要な安全上の注意

⚠ 警告

走行中はボンネットロック解除レバーを絶対に引かないでください。ボンネットが開いて視界が妨げられ、事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警告

エンジンが停止している状態でも、ボンネットが開いていると火傷をするおそれがあります。

エンジン部品は非常に高温になっている可能性があります。

火傷を防ぐため、ボンネットを下降させる場合は、取扱説明書に記載されている箇所のみに触れるようにし、必ず注意事項を守ってください。

⚠ 警告

車両は電子制御イグニッションシステムを装備しています。 このシステムには高電圧が発生しているため、 以下のときは、イグニッションシステムの 部品（イグニッションコイル、スパークプラグのソケット、テストソケット）に手を触れると危険です。

- エンジンがかかっているとき
- エンジンを始動したとき
- イグニッションをオンにして、 手動で始動操作を行っているとき.

⚠ 警告

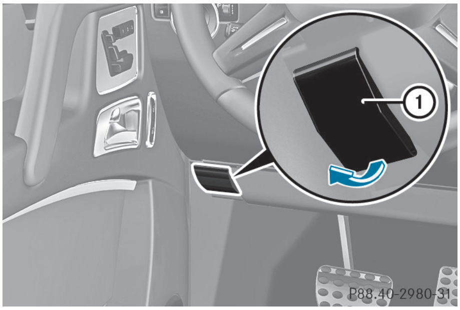
ワイパーおよびワイパーリンケージが作動する可能性があります。

ボンネットを開くときに、ワイパーリンケージでお客様や他の方々がけがをするおそれがあります。

ボンネットを開く前に、フロントワイパーが停止していて、エンジンスイッチからキーが抜かれていることを確認してください。

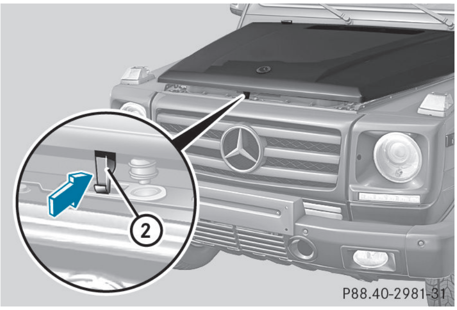
! ワイパーアームを起こしたままでボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが接触して、損傷するおそれがあります。

ボンネットを開く



ボンネットの解除レバーは車両の左側足元（進行方向）にあります。

▶ フロントワイパーが停止していることを確認します。
▶ ボンネットの解除レバー ① を引きます。
ボンネットが解除されます。



▶ ボンネットを少し持ち上げます。
▶ ボンネット固定ハンドル ② を矢印の方向に押し、ボンネットを持ち上げます。

ボンネットを閉じる

⚠ 警告
ボンネットを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。

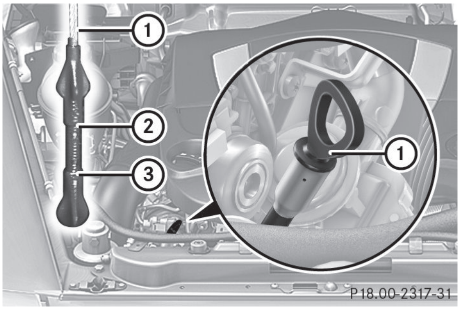
▶ ボンネットを下げ、約 20 cm の高さで手を離します。
▶ ボンネットが確実に固定されていることを確認します。
ボンネットがわずかに持ち上がる場合は、確実に固定されていません。 再度開き、少し力を入れて閉じます。

エンジンオイル

オイル量に関する注意事項

運転スタイルによって、車は 1000 km 当たり最大で約 0.8 L のオイルを消費します。 新車のときや頻繁にエンジン回転数を上げて走行する場合は、オイル消費量はこれより増加します。

オイルレベルゲージでエンジンオイル量を点検する



例：オイルレベルゲージ

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

- 車を水平な場所に停車している。
- エンジンが温まっている場合は、エンジンを停止してから約 5 分以上経過している。
- エンジンが温まっていない（エンジン始動直後など）場合は、エンジンを停止してから少なくとも約 30 分 以上経過している。

▶ オイルレベルゲージ ① をオイルレベルゲージチューブから引き抜きます。
▶ オイルレベルゲージ ①を拭きます。
▶ オイルレベルゲージ ① をガイドチューブにいっぱいまでゆっくり差し込んで、再び引き抜きます。
オイル量はエンジンオイルレベルゲージの上限（MAX） ②と下限（MIN） ③ の間にあれば正常です。
▶ 必要であれば、オイルを補給します。

エンジンオイルの補給

環境
エンジンオイルを補給するときは、こぼさないように注意してください。 エンジンオイルが地面や排水溝に流れると、環境に悪影響を与えます。

! 多すぎる量のオイルを補給しないでください。オイル量がオイルレベルゲージの"MAX"マークを超えている場合は、多すぎる量のオイルが補給されています。ンジンまたは触媒コンバーターの損傷につながるおそれがあります。必ず余分なエンジンオイルを抜き取ってください。

例：エンジンオイルキャップ

- キャップ ① を反時計回りにまわして取り外します。
- 必要な量のオイルを補給します。

この場合、マルチファンクションディスプレイの仕様に従うか、オイルレベルゲージ上の最大マークまで慎重に補充します。

エンジンオイルについての詳しい情報は、(▷ 257 ページ) をご覧ください。

ℹ オイルレベルゲージの最小マークと最大マークの差は約 2 L です。

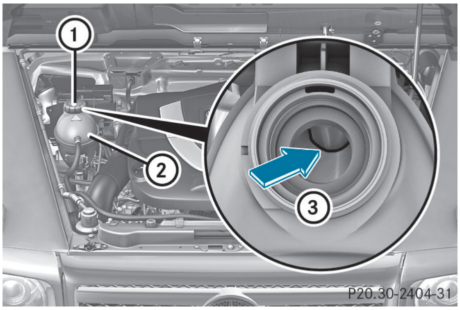
- キャップ ① を補給口に合わせ、時計回りに締めます。
  キャップが元の場所に固定されていることを確認します。

そのほかのサービスプロダクト

冷却水量の点検

⚠ 警告

冷却システムには圧力がかかっているので、必ずエンジンが冷えてから、キャップを緩めてください。冷却水温度表示が約 70 ℃以下にならないと、高温の冷却水が噴き出して火傷をするおそれがあります。



- 車を水平な場所に停めます。
  車両が水平な場所にあり、エンジンが冷えているときにのみ冷却水の量を点検します。
- エンジンスイッチのキーを **2** (▷ 102 ページ) の位置にします。
- メーターパネルのエンジン冷却水温度表示を確認します。
  冷却水温度は約 70 ℃以下でなければなりません。
- キャップ ① を反時計回りにゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。
- キャップ ① をさらに反時計回りにまわして取り外します。
  冷えているときに、冷却水が補給口内のマーカーバー ③ の高さにあれば、リザーバータンク ② 内の冷却水は十分にあります。
  温かいときに、冷却水が補給口内のマーカーバー ③から約 1.5 cm 上にあれば、リザーバータンク②内の冷却水は十分にあります。

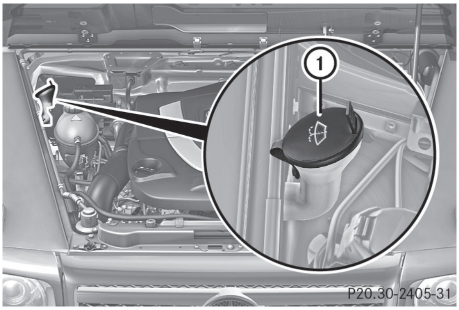
▶ 必要であれば、メルセデス・ベンツでテストされ、承認された冷却水を補給します。

▶ キャップ ① を合わせ、時計回りにいっぱいまでまわします。

冷却水についての詳しい情報は、(▷ 257 ページ)をご覧ください。

ウインドウウォッシャーとヘッドライトウォッシャーの補給

> ⚠ **警告**
> ウォッシャー液は可燃性の高い液体です。 ウォッシャー液を取り扱うときは、火気や直火、タバコの火などを近づけないでください。



例：ウォッシャー液リザーブタンク

▶ **開く：** タブを持ってキャップ ① を引き上げます。

▶ 混合しておいたウォッシャー液を補給します。

▶ **閉じる：** キャップ ① を補給口に押し付けて、固定します。

ウインドウウォッシャーとヘッドライトウォッシャーのウォッシャー液リザーブタンクは共用です。

ウインドウウォッシャー液 / 凍結防止液について、詳しくは (▷ 258 ページ) をご覧ください。

サービス

ASSYST サービスインターバル表示

メンテナンスメッセージ

点検の種類と点検時期に関する情報（別冊の整備手帳をご覧ください）。

さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

メンテナンスインジケーター画面は、次回の点検期日をお知らせします。

点検整備時期を超えると、警告音が鳴ります。

マルチファンクションディスプレイに以下のようなメンテナンスメッセージが数秒間表示されます。

メンテナンス A アト 99999 km

メンテナンス A ジッコウ

メンテナンス A99999 km コエテイマス

時期に左右されるメンテナンススケジュールは、以下のように管理してください。

▶ バッテリーの接続を外す前に、表示された点検整備時期をメモしてください。

または

▶ バッテリーを再度接続した後に、ディスプレイに表示されているメンテナンス予定期日からバッテリーの接続を外していた期間を引いてください。

どのメンテナンスの種類が期日であるかを表示するマークおよび文字は以下の通りです。

🔧 小規模メンテナンス A

🔧🔧 大規模メンテナンス B

メンテナンスインジケーター画面は、バッテリーの接続を外している間の期日を考慮していません。

メンテナンスメッセージを表示しない

▶ メンテナンスメッセージを隠すには、マルチファンクションステアリングの スイッチを押します。（▷ 31 ページ）

メンテナンスメッセージを表示する

マルチファンクションステアリングのスイッチを使用します。

▶ イグニッションをオンにします。

▶ ステアリングの または スイッチを押して、**基本画面** メニューを選択します。（▷ 152 ページ）

▶ または を押して、メンテナンスインジケーター画面を選択します。メンテナンスマーク または および点検整備時期が表示されます。

メンテナンスに関する情報

過酷な使用条件や、車両に高い負荷がかかるときには、車両を通常で使用するときよりも頻繁に各種の点検作業が必要になります。 こうした過酷な条件には、通常の市街地走行であっても頻繁に停止を繰り返す場合や、山間地や路面の悪いところで車両を使用している場合も含まれます。

過酷な条件で使用する車両の場合、たとえばエアフィルター、エンジンオイルやオイルフィルターなどを短い周期で交換し、タイヤを頻繁に点検することが必要になります。 詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

燃料/水 セパレーター

環境

燃料および油脂は、環境汚染を配慮して、廃棄処分してください。

! 燃料 / ウォータセパレーターを整備しないで走行を続けると、エンジンを損傷するおそれがあります。 いかなる損傷も保証の対象外になります。

燃料 / ウォータセパレーターに整備が必要な場合、以下のメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

短い警告音も発せられます。

▶ できるだけ早くメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

日常の手入れ

全体的な注意事項

定期的な車の手入れにより、長い期間品質を保つことができます。

メルセデス・ベンツが推奨し、承認した手入れ用品およびクリーナーを使用してください。

! お車の手入れをされる場合は、次のものは絶対に使用しないでください。

- 乾いた布や目の粗い布、硬めの布など
- 研磨剤を含む洗剤
- 溶剤
- 溶剤を含む洗剤

強く擦らないでください。

リングやスクレーパーなどのかたい物が、塗装面や保護膜に触れないようにしてください。塗装面や保護膜が損傷するおそれがあります。

🌱 **環境**

空の容器や使用済みのクリーニングクロスは、環境に配慮した方法で廃棄してください。

! 特にホイールクリーナーでホイールを清掃した後は、清掃したままで車両を長い間駐車しないでください。ホイールクリーナーが、ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングの錆を増加させる原因になるおそれがあります。このため、清掃した後は数分間走行してください。ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングを、ブレーキ制動により加熱して乾燥させます。その後で駐車してください。

外装の手入れ

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 高圧式スプレーガン
- ホイールの清掃
- 塗装面の清掃
- マットペイント塗装車の取り扱い
- ウインドウの清掃
- ワイパーブレードの清掃
- ヘッドライトの清掃
- センサーの清掃
- パーキングアシストリアビューカメラの清掃
- マフラーの清掃
- クローム部品の清掃

自動洗車機の使用

⚠ **警告**

自動洗車機で洗車した直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。そのまま運転すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。ブレーキが乾くまで、洗車後しばらくは慎重に運転してください。

! 自動洗車機が車両のサイズに合っていることを確認してください。 車両を洗車する前に、ドアミラーをたたんでください。 ドアミラーを損傷するおそれがあります。

! けん引式の洗車機で洗車するときは、オートマチックトランスミッションが N の位置にあることを確認してください。トランスミッションが他の位置にあると、車両の損傷につながります。

! 注意：

- サイドウインドウとスライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。
- ベンチレーション / ヒーターの送風が停止していること（送風コントローラーが 0 の位置にあり、AUTO および A/C REST スイッチがオフであること）。
- ワイパースイッチが 0 の位置になっていること

車両を損傷するおそれがあります。

最初から自動洗車機で洗車することができます。

ひどい汚れは、自動洗車機で洗車をする前に洗ってください。

自動洗車機を使用した後は、フロントウインドウやワイパーブレードのワックスを拭いてください。 フロントウインドウの残留物に起因する汚れを防ぎ、ワイパーの音を低減します。

高圧式スプレーガン

⚠ **警告**

高圧式スプレーガンを使用して洗車しないでください。特に、タイヤなどはこのスプレーガンを使用しないでください。タイヤが損傷して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

! 車両と高圧式スプレーガンのノズルの間には、常に最低でも約 11.8in（30cm）以上の距離をあけてください。適正な距離については、製品のメーカーにご確認ください。

車両を清掃するときは、高圧式スプレーガンのノズルを円を描くように動かしてください。

以下のものには直接向けないでください。

- タイヤ
- ドアの隙間、ルーフの隙間、継ぎ目など
- 電気装備
- バッテリー
- コネクター
- ライト
- シール
- トリム部品
- 換気用の隙間

シールや電気装備が損傷して、水漏れや故障につながります。

ホイールの清掃

! ホイールには酸性ホイールクリーナーを絶対に使用しないでください。ホイールボルトやブレーキ部品が損傷するおそれがあります。

! 特にホイールクリーナーでホイールを清掃した後は、清掃したままで車両を長い間駐車しないでください。ホイールクリーナーが、ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングの錆を増加させる原因になるおそれがあります。このため、清掃した後は数分間走行してください。ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングを、ブレーキ制動により加熱して乾燥させます。その後で駐車してください。

塗装面の清掃

! ボディの表面には、次のものを貼り付けないでください。

- ステッカー
- フィルム
- マグネット

塗装面が損傷するおそれがあります。

誤って傷を付けたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、補修が困難になる場合もあります。 このような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

▶ 可能であれば、不純物は強くこすらないようにしてただちに取り除いてください。

▶ 虫の死がいは、インセクトリムーバーをしみこませ、その後で手入れを行なった範囲を洗い流してください。

▶ 鳥のふんは、水をしみこませ、その後で手入れを行なった範囲を洗い流してください。

▶ 冷却水、ブレーキ液、樹液、オイル、燃料、グリースなどは、エーテルやライターオイルを染み込ませた布で軽く拭いて、取り除いてください。

▶ タールの汚れは、タール除去剤を使用して取り除いてください。

▶ ワックスは、シリコン除去剤を使用して取り除いてください。

マットペイント塗装車の取り扱い

! 車両や軽合金ホイールを磨かないでください。磨くと光沢がある仕上がりの原因になります。

! 塗装クリーナーや研磨・艶出し用品、ワックス等を使用しないでください。 これらの製品は、表面に光沢がある塗装のみに適したものです。 これらの製品をマットペイント塗装車に使用すると、表

面の著しい損傷（光沢のあるシミ部分）につながります。

塗装面の補修は、常にメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

! ホットワックス仕上げによる洗車サービスは絶対に利用しないでください。

マットペイント塗装車にお乗りの場合は、誤った手入れによる損傷を防ぐため、以下の点を守ってください。

これらの注意はクリアマット仕上げの軽合金ホイールにも当てはまります。

ℹ 車両は、柔らかいスポンジやカーシャンプー、たくさんの水を使用して手で洗うようにしてください。

ℹ インセクトリムーバーおよびカーシャンプーは、メルセデス・ベンツが推奨し、承認した中からのみお選びください。

ウインドウの清掃

⚠ **警告**

フロントウインドウやワイパーブレードの清掃を行なう前に、フロントワイパーを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 フロントワイパーが作動し、けがをするおそれがあります。

! ウインドウの内側を清掃する場合は、乾いた布や、研磨剤、有機溶剤や有機溶剤を含むクリーナーを使用しないでください。アイススクレーパーや指輪などの硬質のものがウインドウの内側に触れないようにしてください。ウインドウを損傷する危険性があります。

! フロントウインドウおよびリアウインドウの排水口を定期的に清掃してください。特定の状況では、葉、花びら、花粉などの堆積物により排水されなくなり、腐食による損傷や電子部品の損傷につながるおそれがあります。

▶ 湿らせた布とメルセデス・ベンツが推奨し、承認したクリーナーでウインドウの内側と外側を清掃してください。

ワイパーブレードの清掃

⚠ **警告**

フロントウインドウやワイパーブレードの清掃を行なう前に、フロントワイパーを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 フロントワイパーが作動し、けがをするおそれがあります。

! ワイパーブレードを持って引っ張らないでください。ワイパーブレードが損傷するおそれがあります。

! ワイパーブレードを頻繁に清掃したり、強く擦ったりしないでください。グラファイトコーティングが損傷するおそれがあります。ワイパーからノイズが発生する原因になります。

! ワイパーアームを元の位置に確実に固定します。ワイパーアームが不意に当たると、フロントウインドウに傷が付くおそれがあります。

▶ ワイパーアームをフロントウインドウから起こします。

▶ ワイパーブレードの汚れは、湿った布で注意して拭き取ってください。

▶ イグニッションをオンにする前に、ワイパーを再度元に戻します。

ヘッドライトの清掃

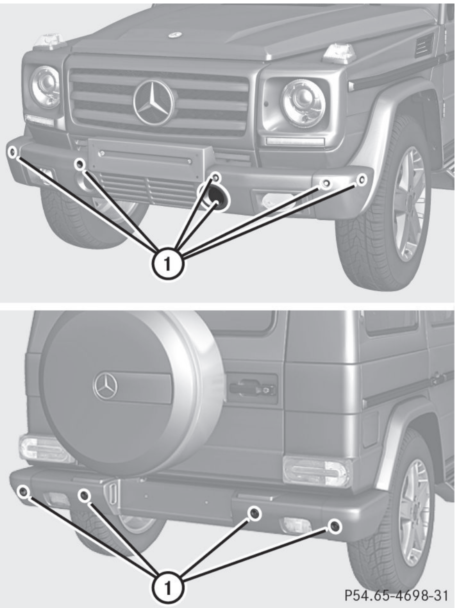
! 必ずヘッドライトの樹脂製レンズ専用の洗剤やクリーニングクロスを使用してください。 不適切な洗剤やクリーニングクロスを使用すると、樹脂製ヘッドライトレンズを損傷するおそれがあります。

▶ メルセデス・ベンツ純正シャンプーやクリーニングクロスなど、湿らせたス

ポンジと中性洗剤を使用してヘッドライトのレンズを清掃してください。

センサーの清掃

! 高圧式スプレーガンを使用してセンサーを清掃するときは、スプレーガンのノズルと車体の距離を約 30 cm 以上離してください。適正な距離については、製品のメーカーにご確認ください。

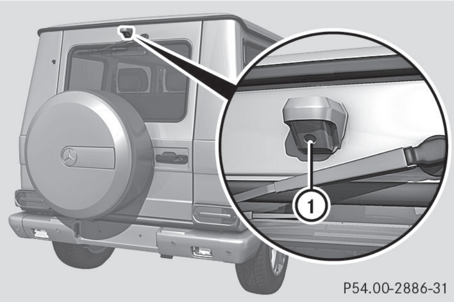


P54.65-4698-31

▶ 走行装備のセンサー ① は、カーシャンプーを混ぜた水で汚れを落とし、柔らかい布で拭き取ってください。

パーキングアシストリアビューカメラの清掃

! 高圧式スプレーガンを使用する場合は、カメラのレンズやパーキングアシストリアビューカメラの周囲を避けてください。



P54.00-2886-31

▶ カメラのレンズ ① は、きれいな水に浸した柔らかい布で汚れを拭き取ってください。

メッキ部品の清掃

! ホイールクリーナーなど、酸性のクリーナーでマフラーを清掃しないでください。

路面の小石や腐食性の環境物質などが混ざった不純物が、マフラーの表面に発生する錆の原因になることがあります。 特に、冬の間や洗車後など、定期的に清掃することにより、クローム部品の元来の輝きを取り戻すことができます。

▶ メルセデス・ベンツによりテストされ、承認されたクロームケア製品でクローム部品を清掃してください。

車内の手入れ

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- ディスプレイの清掃
- 樹脂製トリムの清掃
- ステアリングとギアレバー / セレクターレバーの清掃
- ウッド / トリムストリップの清掃
- シートカバーの清掃

- シートベルトの清掃
- ルーフライニングとカーペットの清掃

役に立つ情報 224
車載品の収納場所 224
タイヤのパンク 227
バッテリー（車両） 227
ジャンプスタート 231
けん引およびけん引による始動 . . 234
ヒューズ 237

役に立つ情報

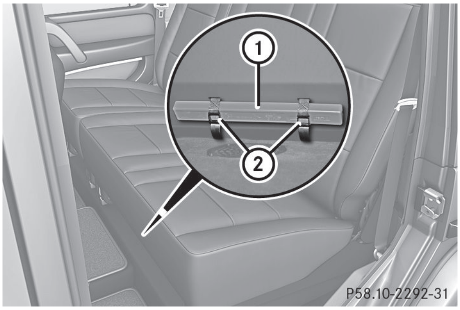
i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国により、仕様が異なる場合があります。 お買い上げいただいた車両には、記載されているすべての内容が備わっていないことがあります。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 26 ページ).

車載品の収納場所

停止表示板

停止表示板の取り外し

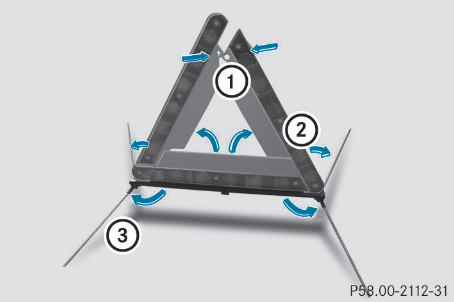


停止表示板 ① はリアベンチシートの下側に収納されています。

▶ タブ ② を外します。

▶ 停止表示板 ①を取り外します。

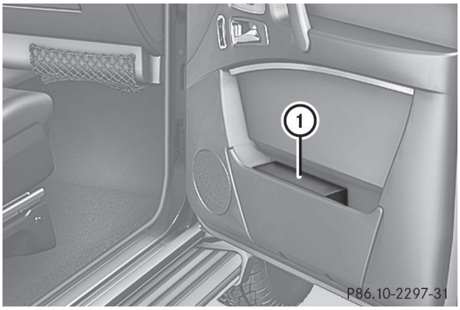
停止表示板の組み立て



▶ スタンド ③ を下および横に引き出します。

▶ 側方の反射板 ② を引き上げて三角形を作り、上部のフック ① で固定します。

救急セット



救急セット ① は右側ドアの小物入れに収納されています。

i 最低 1 年に 1 回、救急セットの使用期限が切れていないか確認してください。 中身が揃っているか確認し、なくなりかけたものは補充してください。

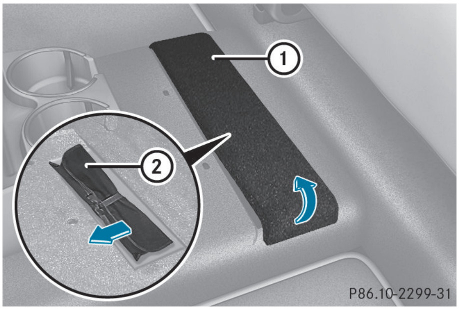
車載工具

全体的な注意事項

車載工具には以下のものが収納されています。

- 以下のアイテムを含む車載工具バッグ
  - ヒューズエキストラクター
  - アレンキー： 非常時にスライディングルーフを手動で作動させるときなどに使用。
  - ジャッキ用ポンプレバー
  - ドライバー
  - ホイールレンチ
- ジャッキ

車載工具



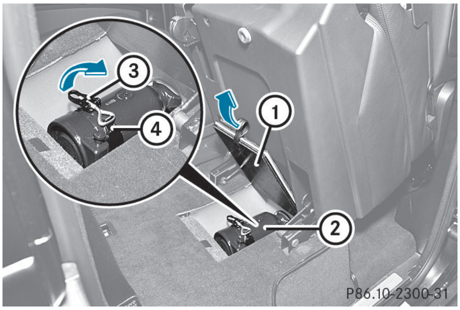
車載工具はリアベンチシート前方の足元のカバーの下に収納されています。

▶ カバー ① を横にめくり上げます。

▶ タブを外して車載工具 ② を取り出します。

ジャッキ

! ジャッキを収納するときは、ホルダーにケーブルがないことを確認し、挟み込まないように注意してください。



ジャッキは、進行方向右側のリアベンチシートの下に収納されています。

▶ リアベンチシート (▷ 203 ページ) を前方に倒します。

▶ カバー ①を開きます。

▶ バー ③ を引き上げ、タブ ④から外します。

▶ ジャッキ ②を取り出します。

外側のスペアタイヤブラケット

全体的な注意事項

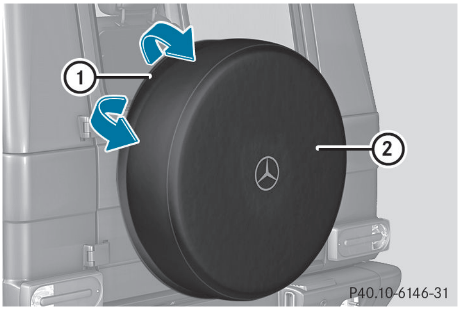
サイズが異なるスペアタイヤを装着しているときは、約 50 mph（80 km/h）以上で走行しないでください。

i タイヤ交換をするときは、"パンクしたとき"に記載された安全上の注意をお守りください。 (▷ 246 ページ)

スペアタイヤは、リアドアの外側に搭載されています。

カバーの取り外し

タイヤ保護カバー

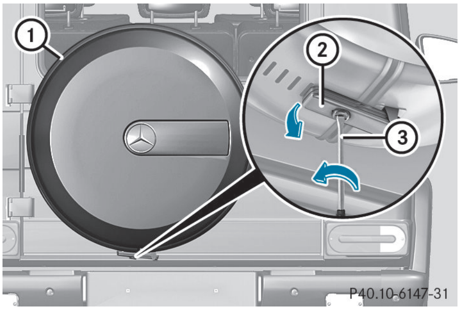


P40.10-6146-31

▶ タイヤ保護カバー ② のラバーリング ① を引き外します。

▶ タイヤ保護カバー ② を外します。

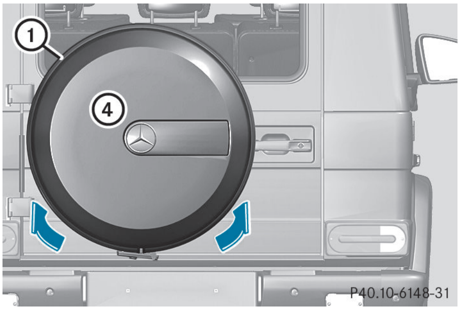
ステンレススチール製スペアタイヤカバー



P40.10-6147-31

▶ ドライバー ③ または同等の工具を使用して、カバーリング ① のロックを開きます。

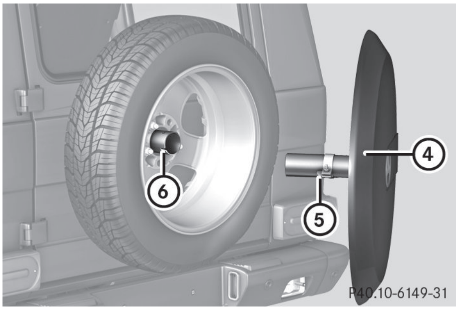
▶ タブ ② を折り曲げます。



P40.10-6148-31

▶ カバーリング ① 引き離して取り外します。

▶ カバーパネル ④を外します。

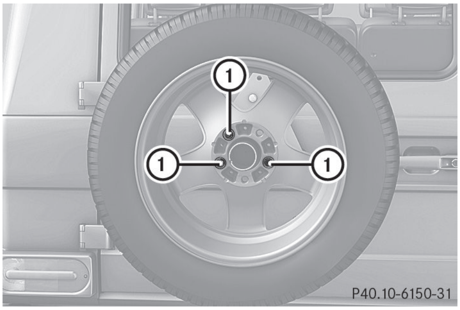


P40.10-6149-31

ℹ カバーパネル ④ を再び取り付けるときは、リテーナー ⑤ が凹部 ⑥ に確実にはまっていることを確認してください。

スペアタイヤの取り外し

スペアタイヤは重量があります。 スペアタイヤを取り外すときは、このことに特に注意してください。



P40.10-6150-31

▶ ホイールナット ①を取り外します。
▶ スペアタイヤを取り外します。

タイヤの取り付け

タイヤ交換後は以下の作業を行なってください。

▶ 損傷したタイヤは、ホイールナット ①を使用してスペアタイヤブラケットに固定します。このとき、タイヤが外れないことを確認してください。
▶ タイヤ保護カバーをタイヤに被せます。
▶ **ステンレススチール製スペアタイヤカバー装備車：** カバーパネル ④ を再び取り付けるときは、リテーナー ⑤ が凹部 ⑥ に確実にはまっていることを確認してください。(▷ 226 ページ)
▶ カバーリング ①を再び取り付けるときは、タブ ② が下方にあることを確認してください。 (▷ 226 ページ)
▶ 安全のため、定期点検を行ないタイヤが確実に固定されていることを確認してください。

タイヤのパンク

車両の準備

▶ 走行中にタイヤがパンクしたときは、交通の妨げにならず、地面がかたく滑らない水平な場所に停車します。
▶ 非常点滅灯を点滅させます。 (▷ 86 ページ)
▶ 車速感応ドアロックを解除してください。 (▷ 152 ページ)
▶ パーキングブレーキをかけます。
▶ ステアリングを操作して、前輪を直進位置にします。
▶ セレクターレバーを **P** にします。
▶ エンジンを停止します。
▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。キーを抜き取ると、ステアリングロックが効いた状態になります。
▶ 乗員を全員車から降ろします。 降車時は、周囲の安全を確認してください。
▶ タイヤ交換をするときは、危険な範囲に誰も近付いていないことを確認してください。 作業者以外は、フェンスなどで区切られた安全な場所に避難してください。
▶ 運転者も車から降ります。 降車時は周囲の交通状況に注意してください。
▶ 運転席ドアを閉じます。
▶ 適切な位置に停止表示板 (▷ 224 ページ) または停止表示灯を置きます。 法規を遵守してください。

ⓘ 高速道路や自動車専用道路で駐停車する場合は、周囲に注意を促すため、停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

バッテリー（車両）

重要な安全上の注意

取り外し、または取り付けなどのバッテリーに関する作業は、専門的な知識と特別な工具の使用が必要です。 したがって、バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ **警告**

バッテリーに不適切な作業を行なうと、例えばショートにつながり、車両の電子部品を損傷します。ABS(アンチロックブレーキング・システム)または ESP®(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)のような走行安全装備の故障の原因になります。

- ABS が故障している場合は、ブレーキ時に車輪がロックすることがあります。ブレーキ時のステアリング操縦性が制

万一のとき

▷▷

限され制動距離が長くなるおそれがあります。 事故発生の危険性があります。

- ESP®が故障している場合は、横滑りしたとき、または車輪が空転したときに車両を安定させることができないので、事故発生の危険性があります。

したがって、バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ **警告**

充電中はバッテリーから水素ガスが発生します。 バッテリーのショートや火花の発生により、水素ガスに引火するおそれがあります。 爆発の危険性があります。

- 接続されたバッテリーのプラス端子が車両部品と接触していないことを確認してください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。
- バッテリーの接続および切り離しを行なうときは、記載された手順通りにバッテリー端子を接続することが重要です。
- ジャンプスタートを行なうときは、同じ極のバッテリー端子を接続していることを確認してください。
- ブースターケーブルの接続、切り離しを行なうときは、記載された手順に従うことが特に重要です。
- エンジン作動中は、決してバッテリー端子の接続または切り離しを行なわないでください。

⚠ **警告**

静電気を帯びていると、火花が発生してバッテリーから発生する高可燃性のガスに引火することがあります。 爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱う前に、車体に触れて身体の静電気を放電させてください。

⚠ **警告**

バッテリー液は腐食性があります。 けがをするおそれがあります。

皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。 バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。 バッテリーをのぞき込まないでください。 バッテリーは子供の手が届かない場所に保管してください。 バッテリー液が付着したときはただちに水洗いし、医師の診察を受けてください。

! メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を定期的に受けてください。

整備手帳のメンテナンスインターバルを確認するか、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。やむを得ず お客様自身でバッテリーを切り離す必要がある場合は、以下の注意事項をお守りください。

- エンジンを停止し、キーを抜き取ります。 メーターパネルのすべての表示灯が消灯していることを確認します。 オルタネーターなどの電子部品を損傷するおそれがあります。
- 先にマイナス端子、次にプラス端子を外します。 決して端子を逆に接続しないでください。 車両の電子部品を損傷するおそれがあります。
- オートマチックトランスミッション搭載車では、バッテリーを切り離した後、シフトポジションが P にロックされます。 車両が動き出さないように固定されます。 そのため、車両を動かすことができなくなります。

運転中はバッテリーおよびプラス端子のカバーを確実に装着しておく必要があります。

! メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を受け、2 年ごとまたは 20,000 kmごとにバッテリーを交換してください。

環境保護に関する注意

電池には環境汚染物質が含まれています。 電池を家庭用ゴミとして廃棄することは法律で禁じられています。 使用済みの電池は個別に回収し、環境に適合するリサイクル方法で処分してください。

電池は環境に配慮した方法で廃棄してください。 使用済みの電池は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお持ちいただくか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

バッテリーの性能を長期にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分に充電されていることが必要です。

バッテリーを取り扱うときは、安全上の注意事項および防護措置を守ってください。

警告

火花の発生を防ぎ、熱から遠ざけてください。

火気、裸火、タバコの火を遠ざけてください。 火花が発生するおそれがあります。

バッテリー液は腐食性があります。

皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。

保護眼鏡を着用してください。

子供を近付けないでください。

取扱説明書の指示に従ってください。

車両のバッテリーは他のバッテリーと同様に、車両を使用しないと、徐々に放電する可能性があります。 そのような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの接続を外す作業を依頼してください。 純正バッテリー充電器を使用してバッテリーを充電することもできます。 詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

バッテリーの充電中やジャンプスタートを行なっているときは、爆発性のガスが発生します。

安全のため、バッテリーは必ず純正品を使用してください。 これらのバッテリーは衝撃保護性能に優れており、事故などでバッテリーが損傷した際に乗員が酸で火傷をする危険性を低減します。

車を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多い場合は、通常よりも頻繁にバッテリー液量や充電状態を点検してください。 車を長期間使用しないときの保管方法については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i 駐車時に電気装備を必要としないときは、キーを抜いてください。 エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、電力をわずかに消費します。

i バッテリーのあがりなどで電源が遮断された場合は、以下の操作を行なってください。

- 時計の設定をします。 時計の設定に関する情報はデジタル版取扱説明書をご覧ください。

COMAND システムおよびナビゲーションシステム装備車は、時計は自動的に設定されます。
- フロントシートのヘッドレストをリセットします。 ヘッドレストの調整に関する情報は、デジタル版取扱説明書に記載されています。
- ミラーを一度展開して、ドアミラーの自動展開 / 格納機能をリセットします。 (▷ 83 ページ)

バッテリーの充電

⚠ **警告**

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、可燃性のガスがバッテリーから発生することがあります。 爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱うときは、特に火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。 バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、十分な換気を確保してください。 バッテリーをのぞき込まないでください。

⚠ **警告**

バッテリー液は腐食性があります。 けがをするおそれがあります。

皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。 バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。 バッテリーをのぞき込まないでください。 バッテリーは子供の手が届かない場所に保管してください。 バッテリー液が付着したときはただちに水洗いし、医師の診察を受けてください。

⚠ **警告**

放電したバッテリーは、気温が氷点下になると凍結するおそれがあります。 ジャンプスタートやバッテリーの充電を行なうときは、バッテリーからガスが発生することがあります。 爆発の危険性があります。

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なう前に、凍結したバッテリー液を解凍してください。

! 必ず最大充電電圧が約 14.8 V のバッテリー充電器を使用してください。

! バッテリーを充電する場合は、必ずジャンプスタートターミナルを使用してください。

決して、純正品以外のバッテリー充電器を使ってバッテリーを取り付けたまま充電しないでください。

メルセデス・ベンツ純正の、承認済みバッテリー充電器ユニットがアクセサリーとしてお買い求めいただけます。 この充電器によりバッテリーを取り付けたまま充電することができます。 詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。 バッテリー充電器に付属の説明書に従ってバッテリーを充電してください。

ジャンプスタートターミナルは、エンジンルーム (▷ 231 ページ)内にあります。

バッテリーを充電する前に、バッテリー充電器の取扱説明書をお読みください。

▶ ボンネットを開きます。 (▷ 212 ページ)

▶ ジャンプスタートにより救援車のバッテリーを接続したときと同じ順序で、バッテリー充電器をプラス端子とアース端子に接続してください。 (▷ 231 ページ)

ジャンプスタート

⚠ **警告**

バッテリー液は腐食性があります。 けがをするおそれがあります。

皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。 バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。 バッテリーをのぞき込まないでください。 バッテリーは子供の手が届かない場所に保管してください。 バッテリー液が付着したときはただちに水洗いし、医師の診察を受けてください。

⚠ **警告**

ジャンプスタートとは、ブースターケーブルを使用して、他車のバッテリーなどを電源としてエンジンを始動させる方法です。ジャンプスタートを行なう時は、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火すると、爆発が起こるおそれがあります。火花が発生しないように注意してください。 火気や裸火、タバコの火などを、絶対にバッテリーに近づけないでください。

バッテリーを取り扱う時は、重要な安全上の注意を守ってください。さくいんの"バッテリー(車両) - 重要な安全上の注意"をご覧ください。

⚠ **警告**

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、可燃性のガスがバッテリーから発生することがあります。 爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱うときは、特に火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。 バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、十分な換気を確保してください。 バッテリーをのぞき込まないでください。

⚠ **警告**

充電中はバッテリーから水素ガスが発生します。 バッテリーのショートや火花の発生により、水素ガスに引火するおそれがあります。 爆発の危険性があります。

- 接続されたバッテリーのプラス端子が車両部品と接触していないことを確認してください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。
- バッテリーの接続および切り離しを行なうときは、記載された手順通りにバッテリー端子を接続することが重要です。
- ジャンプスタートを行なうときは、同じ極のバッテリー端子を接続していることを確認してください。
- ブースターケーブルの接続、切り離しを行なうときは、記載された手順に従うことが特に重要です。
- エンジン作動中は、決してバッテリー端子の接続または切り離しを行なわないでください。

⚠ **警告**

放電したバッテリーは、気温が氷点下になると凍結するおそれがあります。 ジャンプスタートやバッテリーの充電を行なうときは、バッテリーからガスが発生することがあります。 爆発の危険性があります。

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なう前に、凍結したバッテリー液を解凍してください。

⚠ **警告**

未燃焼燃料が排気システムに充満して発火するおそれがあります。 火災のおそれがあります。 エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。

! エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。 未燃焼の燃料により触媒が損傷し、火災のおそれが生じます。

急速充電器によるエンジン始動を行なわないでください。

ブースターケーブルに損傷がないことを確認してください。

ブースターケーブルをバッテリーに接続するときは、ケーブルが金属部品に触れないように注意してください。

気温が 0 度または氷点下になっても表示灯 / 警告灯が点灯しない場合は、バッテリー液が凍結することがあります。 その場合は、ジャンプスタートやバッテリーの充電を行なわないでください。

一度解凍したバッテリーは、使用寿命が大幅に短くなるおそれがあります。

特に低温時の始動性能が損なわれることがあります。

解凍したバッテリーはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

急速充電器によるエンジン始動を行なわないでください。 バッテリーがあがったときは、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーや補助バッテリーを電源としてエンジンを始動することができます。 以下の点に注意して、慎重に作業を行なってください。

- バッテリーが手の届きにくい位置に設置されている車もあります。 他車のバッテリーが手の届きにくい位置にある場合は、補助バッテリーまたはジャンプスタート装置の電源を使用してエンジンを始動してください。
- **ガソリンエンジン車：** 必ずエンジンおよび排気システムが冷えているときにジャンプスタートを行なってください。
- バッテリー液が凍結しているときはジャンプスタートはできません。 バッテリー液を解凍してから行なってください。
- ジャンプスタートは、公称電圧 12 V のバッテリーからのみ実行できます。
- 十分な容量と太さがあり、絶縁されたクランプを持つブースターケーブルを使用してください。
- バッテリーが完全に放電した場合は、ケーブルの接続を完了してすぐにエンジン始動を試みるのでなく、数分置いてから始動操作を行なってください。 その間、バッテリーは十分な電力を溜めることができます。
- 自車と救援車が接触していないことを確認します。

以下のことを確認してください。

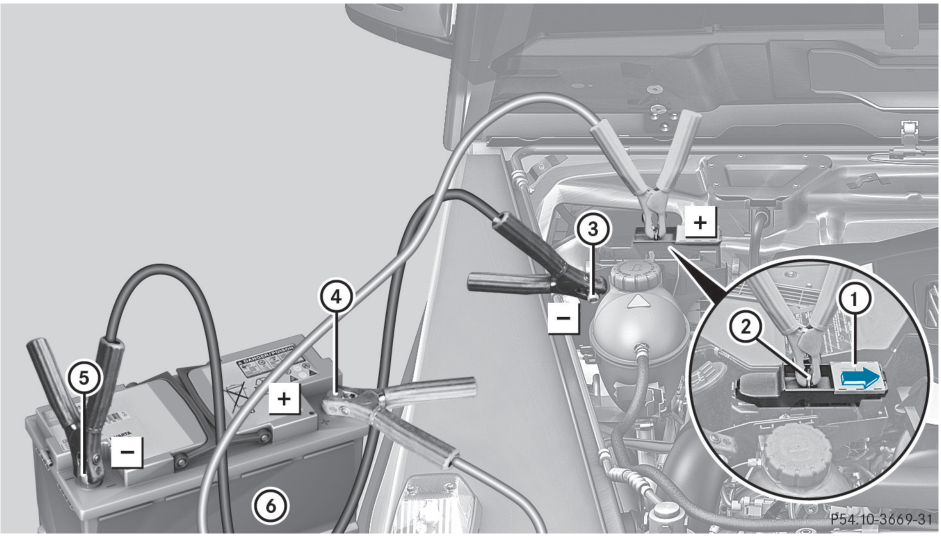
- ブースターケーブルが損傷していないこと。
- ブースターケーブルをバッテリーに接続している間、クランプの絶縁されていない部分が他の金属部品と接触しないこと。
- ブースターケーブルが V ベルトプーリーやファンなどの部品に巻き込まれないようにすること。 エンジンが始動し回転し始めると、これらの部品は動きます。

▶ パーキングブレーキをかけます。

▶ セレクターレバーを P にします。

▶ 電気装備（ラジオ、エアコンディショナーなど）をすべて停止します。

▶ ボンネットを開きます。 (▷ 212 ページ)



位置番号 ⑥ は、救援車のバッテリーまたはジャンプスタート装置を示します。

ジャンプスタートの端子位置は、端子 ② と ④で構成されます。

▶ プラス端子 ② のカバー ① を矢印の方向に引き上げて開きます。

▶ ブースターケーブルを、自車のバッテリーのプラス端子 ② に接続します。次に、ケーブルの反対側を救援車のバッテリー ⑥ のプラス端子に接続します。プラス端子 ④ に接続します。 自車のバッテリーから先につなぎます。

▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。

▶ ブースターケーブルを救援車のバッテリー ⑥ に接続します。次に、救援車のバッテリー ⑥ のマイナス端子 ⑤ を自車のバッテリーのアース端子 ③ に接続します。

▶ エンジンを始動してください。

▶ 自車のエンジンが始動したら、以下の手順でブースターケーブルを取り外します。最初に、自車のマイナス端子 ③、救援車のマイナス端子 ⑤ から外します。次に、もう 1 本のブースターケーブルを自車のプラス端子 ②、救援車のプラス端子 ④から外します。両方とも、先に自車のバッテリーの端子から外します。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。

ⓘ ジャンプスタートでエンジンがかかっても、車両は正常な作動状態ではありません。

ⓘ ブースターケーブルおよびジャンプスタートについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

けん引およびけん引による始動

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

ホールド機能またはディストロニックプラスが作動している時は、車両にブレーキが効いています。車両をけん引する場合は、必ずホールド機能およびディストロニックプラスを解除してください。

! 車両は最長で約 50 km までけん引できます。けん引する際の速度は、約 50 km/h を超えないように注意してください。

距離が約 50 km を超える場合は、必ず車両全体をリフトアップして、車両積載車を利用してください。

! けん引ロープやロッドは、けん引フック以外に固定しないでください。 車両を損傷するおそれがあります。

! スタックから脱出するためにけん引フックを使用しないでください。車体を損傷するおそれがあります。 できれば、クレーンを使用して車両を脱出させてください。

! けん引する時は、ゆっくりとスムーズにけん引します。けん引力が大きすぎると、車両が損傷するおそれがあります。

! この車両にはオートマチックトランスミッションが装備されています。 そのため、車両をけん引で始動させることはできません。 トランスミッションが損傷するおそれがあります。

⚠ **警告**

自車の許容総重量より重い車をけん引またはけん引始動しようとすると、以下の状態が発生するおそれがあります。

- けん引フックが外れる。
- トレーラーを連結した車両が横転する。

事故が起こるおそれがあります。

他車をけん引またはけん引始動するときは、自車の許容総重量より軽い車でなければなりません。

車両総重量値に関する情報はビークルプレート (▷ 254 ページ) をご覧ください。

けん引を行なうときは、各国の法規を遵守してください。

けん引はできるだけ避け、車両を搬送してください。

トランスファーを N にシフトすることができれば、車両をけん引することができます。

トランスファーを N にシフトすることができない場合は、いずれかのアクスルをつり上げた状態で車両をけん引可能です。 以下の点に注意してください。

- トランスファーと駆動側アクスル間のプロペラシャフトを取り外します。
- エンジンスイッチを 1 の位置にまわします。 (▷ 102 ページ)

バッテリーが接続されていて、十分に充電されていることを確認してください。そうしないと、以下の問題が起こります。

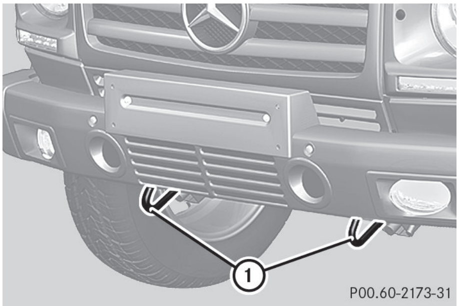
- エンジンスイッチを 2 にすることができなくなる (▷ 102 ページ)
- オートマチック車の場合、シフトポジションを N にすることができなくなる

ℹ 車速感応ドアロック (▷ 74 ページ) を解除してください。 車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

けん引してもらうときは、けん引防止機能を解除してください。 (▷ 67 ページ)

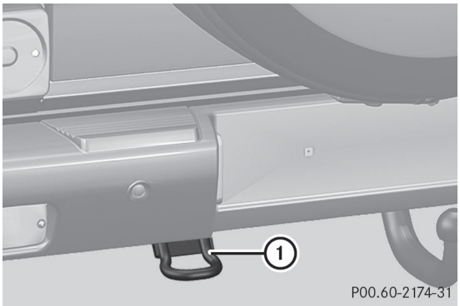
けん引フック

フロントのけん引フック



① フロント側けん引フック

リア側けん引フック



リア側けん引フック ① は、バンパー下部で進行方向左側にあります。

フロントとリアが共に接地した状態でけん引する

けん引を行なうときは、以下の安全注意事項を守ってください。 (▷ 234 ページ)

▶ 非常点滅灯を点滅させます。 (▷ 86 ページ)

ℹ 非常点滅灯を点滅させてけん引してもらうときは、方向指示を行なうために、通常通りコンビネーションスイッチを操作してください。 このときは、操作した側の方向指示灯が点滅します。 コンビネーションスイッチを元に戻すと、非常点滅灯が再度点滅し始めます。

▶ エンジンスイッチを 2 の位置にまわします。(▷ 102 ページ)

▶ 車両が停止しているときに、ブレーキペダルを踏んで、そのまま保持します。

▶ トランスファーを**ニュートラル**にシフトします。 (▷ 141 ページ)

▶ オートマチックトランスミッションのシフトポジションを N にします。

▶ ブレーキペダルを徐々に戻します。

▶ パーキングブレーキを解除します。 (▷ 110 ページ)

ⓘ トランスミッションは、バッテリーの充電状態が十分なときのみギアチェンジを行なうことができます。

セレクターレバーを **N** に動かすことができない場合は、駆動アクスル側のプロペラシャフトを取り外す必要があります。

車両を運搬する

! 車両運搬車に積載して固定するときは、固定ロープをアクスルやステアリング部品などにかけずに、ホイールやホイールリムにかけてください。 車体が損傷するおそれがあります。

トレーラーや車両運搬車に車両を積載して搬送するときは、必要に応じてけん引フックを使用してください。(▷ 235 ページ)

- パーキングブレーキをかけます。
- エンジンスイッチを **2** の位置にします。(▷ 102 ページ)
- セレクターレバーを **N** にします。
- トランスファーを**ニュートラル**にシフトします。 (▷ 141 ページ)
- けん引ロープはけん引フック以外にかけないでください。 (▷ 235 ページ)
- 車両が動き出さないことを確認してください。
- パーキングブレーキを解除します。
- 車両を車両運搬車に積みます。

車両を積載したら、以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキをかけます。
- オートマチックトランスミッションのシフトポジションを **P** にします。
- キーをまわしてイグニッション位置を **0** にした後(▷ 102 ページ)、キーを抜き取ります。
- 車両を固定します。

動かなくなった車両の回収

! はまった車両を復帰させるときは、車両を急に引いたり、角度をつけて引いたりしないでください。けん引力が大きすぎると、車両が損傷するおそれがあります。

ぬかるみなど柔らかい路面に駆動輪が埋まり込んで動けなくなったときは、細心の注意を払って脱出してください。荷物積載時は特に注意してください。

トレーラーを連結したままで脱出しないでください。

できれば埋まり込んだときにできたわだちを利用して、後退して脱出してください。

故障時のけん引

全体的な注意事項

! プロペラシャフトを取り外すときは、M8 ボルトのスペーサとして M10 ナットを使用し、M8 ナットで固定してください。

プロペラシャフトが装着されている場合は、必ず新品のセルフロッキングナットを使用してください。

- この作業を行なうときは安全上の注意に従ってください。 (▷ 234 ページ)

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

エンジン損傷、ギア損傷または電気的故障

- セレクターレバーを **N** の位置に動かします。 (▷ 104 ページ)
- トランスファーを**ニュートラル**にシフトします。 (▷ 141 ページ)

トランスファーが損傷したとき

アクスルとトランスファー間のプロペラシャフトを取り外します。

フロントアクスルが損傷したとき

リアアクスルとトランスファー間のプロペラシャフトを取り外します。

フロントアクスルを持ち上げた状態で車両をけん引してもらいます。

リアアクスルが損傷したとき

フロントアクスルとトランスファー間のプロペラシャフトを取り外します。

次に、リアアクスルを持ち上げ、ホイールローラーをフロントアクスルの下にした状態でけん引してもらいます。

ヒューズ

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

ヒューズは必ずメルセデス・ベンツの車両に適合し、該当する電気装備と同じ規定容量を満たすものを使用してください。 切れているヒューズを修理したり、つなごうとしたりしないでください。 適合しないヒューズを使用したり、切れたヒューズを修理したりつなごうとすると、ヒューズに過負荷がかかり、火災の原因になります。 ヒューズ切れの原因の特定や修理は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

! ヒューズは必ずメルセデス・ベンツ車両に適合し、該当する電気装備と同じ規定容量を満たすものを使用してください。 適切でないヒューズを使用すると、構成部品や電気装備を損傷するおそれがあります。

車両にあるヒューズは、異常のある回路への接続を切断する働きをします。 ヒューズが切れると、回路上のすべての構成部品とそれらの機能は作動しなくなります。

切れたヒューズを交換するときは、ヒューズの色と数字で確認し、必ず同じ規定容量のヒューズと交換してください。 ヒューズの電流値は、ヒューズ一覧に記載されています。

新しいヒューズに交換してもすぐに切れる場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因究明および修理を行なってください。

ヒューズを交換する前に

▶ 停車して、パーキングブレーキを効かせます。

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
メーターパネル内のすべての表示灯が消灯します。

ヒューズは、以下のヒューズボックス内にあります。

- ダッシュボードの運転席側のメインヒューズボックス
- 助手席足元のヒューズボックス
- トランスミッショントンネル内のヒューズボックス
- バッテリーケース内のヒューズボックス

ヒューズ配置表は、ダッシュボードのメインヒューズボックス内にあります。 (▷ 237 ページ)

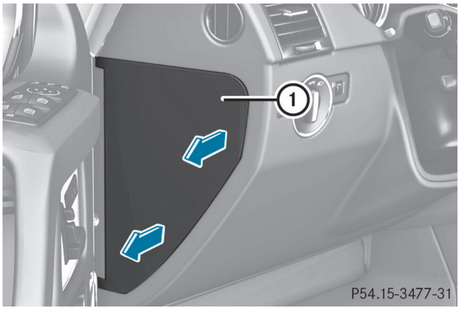
ヒューズ取り外し工具は車載工具に収納されています。 (▷ 225 ページ)

ダッシュボードのヒューズボックス

! ドライバーなどの鋭利な物を使用して、ダッシュボードのカバーを開かないでください。 ダッシュボードやカバーを損傷するおそれがあります。

! カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

! カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にはまっていることを確認してください。 ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。

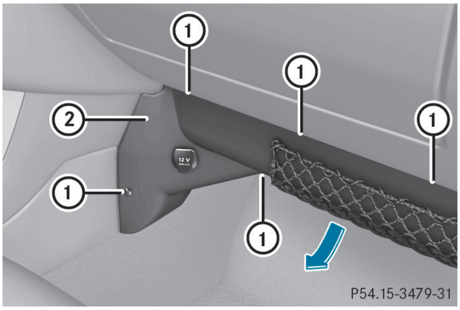


- 運転席ドアを開きます。
- **開く：** カバー ① を外側（矢印の方向）に開いて、取り外します。
- **閉じる：** カバー ① をダッシュボードの前面に差し込みます。
- カバー ① がはまるまで内側にたたみます。

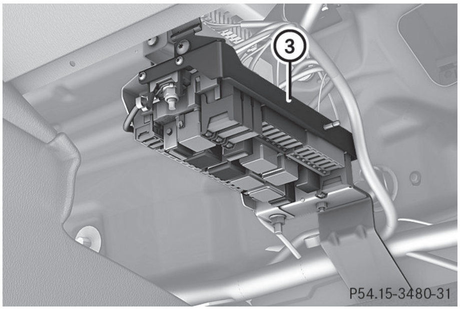
助手席足元のヒューズボックス

! カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

! カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にはまっていることを確認してください。 ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。



- スクリュー ①を取り外します。
- カバー ② を矢印の方向に持ち上げます。

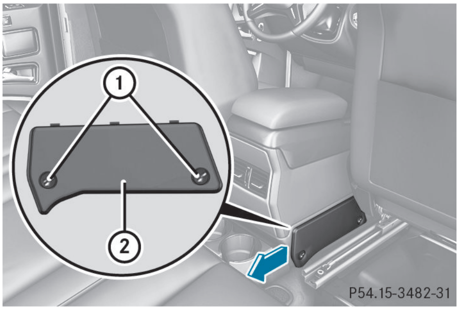


③ ヒューズボックス

トランスミッショントンネルのヒューズボックス

! カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

! カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にはまっていることを確認してください。 ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。



- センターコンソールのカップホルダーを閉じます。 (▷ 208 ページ)
- 助手席シートを最も前方の位置にスライドします。(▷ 81 ページ)
- 開く： スクリュー ①を取り外します。
- カバー ② を矢印の方向に引いて取り外します。
- **閉じる：** カバー ② を押し込みます。
- カバー ② をスクリュー ①で取り付けます。

電池収納部のヒューズボックス

バッテリーケース内のヒューズは、通常交換の必要がありません。 ヒューズの交換が必要になったときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

役に立つ情報 242
重要な安全上の注意 242
操作 242
寒冷時の取り扱い 244
タイヤ空気圧 244
タイヤの交換 246
ホイールとタイヤの組み合わせ . . 250

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国により、仕様が異なる場合があります。 お買い上げいただいた車両には、記載されているすべての内容が備わっていないことがあります。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 26 ページ).

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

パンクは車両の走行、ステアリング、ブレーキ特性を著しく損なうことがあります。 事故を起こすおそれがあります。

パンクしたタイヤで走行しないでください。 ただちにパンクしたタイヤをスペアタイヤと交換するか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

⚠ **警告**

タイヤやホイール、アクセサリーは、純正品および承認された製品だけを使用してください。指定外の製品を装着すると、走行安全性が損なわれるおそれがあります。 その結果、事故を起こすおそれがあります。 製品を購入する前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に各製品の適合性、合法性、推奨品などについておたずねください。

メルセデス・ベンツにより車両への使用が認められていないアクセサリーを装着したり、アクセサリーが正しく使用されていないと、操縦安定性を損なうことがあります。

承認されていないアクセサリーを購入し、ご使用になる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で以下の事柄をご確認ください。

- 適合性
- 合法性
- 推奨品

車両のホイールおよびタイヤのサイズと種類に関する情報は"ホイール／タイヤの組み合わせ"(▷ 250 ページ) にあります。

車両のタイヤ空気圧に関する情報は、以下にあります。

- 燃料給油口にあるタイヤ空気圧ラベル
- "タイヤ空気圧"の

ブレーキシステムやホイールの改造は絶対にしないでください。また、スペーサープレートやブレーキダストシールドを使用しないでください。 このような改造を行なった場合は、不具合が生じても保証の適用外になります。

ℹ タイヤとホイールについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

操作

走行時の注意

車両に重い荷物を積んでいるときは、タイヤ空気圧を点検し、必要に応じて調整してください。

走行中は、振動や騒音が発生したり、ステアリングが片側に取られるなど、車両操縦性に変化が現れていないか注意してください。 このような症状の原因には、タイヤやホイールの損傷が考えられます。 タイヤに異常を感じたら、速度を落として慎重に運転してください。 すみやかに安全な場所に停車して、タイヤとホイールに損傷がないか点検してください。 タイヤが損傷すると、車両操縦性が

損なわれる原因になります。 損傷が何も認められない場合、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でタイヤおよびホイールの点検を受けてください。

車両を駐車するときは、タイヤが縁石や障害物により変形していないことを確認してください。 また、縁石や路面の段差などを乗り越える必要がある場合は、速度を落とし、縁石や段差に対してタイヤをできるだけ直角にして乗り越えてください。 そうしないと、タイヤ、特にサイドウォールが損傷するおそれがあります。

タイヤとホイールの定期点検

- タイヤとホイールの定期点検は、少なくとも 2 週間に 1 度、またオフロードや凹凸路の走行後に行ない、損傷がないか確認してください。 損傷には、タイヤの切り傷・穴・ひび割れ・突起、ホイールの著しい腐食や変形などが含まれます。 ホイールが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。
- タイヤ全周にわたって、タイヤの溝の深さやトレッドの状態を定期的に点検してください(▷ 243 ページ)。 タイヤ表面の内側を点検するために、ステアリングをフルロックまでまわしてください。
- ほこりや水分の侵入を防ぎバルブを保護するため、すべてのホイールにバルブキャップを必ず装着してください。純正品またはメルセデス・ベンツが承認しているバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。
- スペアタイヤも含めて、すべてのタイヤの空気圧を定期的に点検してください。特に、長距離走行の前は必ずタイヤ空気圧を点検してください。 必要であれば、タイヤ空気圧を調整してください。(▷ 246 ページ)

タイヤの耐用年数は、以下を含むさまざまな要因に左右されます。

- 走行スタイル
- タイヤ空気圧
- タイヤ総走行距離

タイヤのトレッド

⚠ **警告**

以下の点に注意してください。

- タイヤの残り溝の深さが約 3 mm 以下になると、濡れた路面でタイヤのグリップが著しく低下します。 残り溝の深さが不足しているタイヤは、交換してください。
- ウィンタータイヤは、残り溝の深さが約 4 mm 以下になったら、適切なグリップが確保できなくなるため、新品と交換してください。
- タイヤのトレッド部の摩耗具合は均一ではありません。 タイヤの定期点検を行うときは、タイヤの溝の残りだけでなく、タイヤの内側の摩耗状態も点検してください。 必要であれば、トレッドの点検を行いやすくするため、ステアリングを操作して前輪をフルロックの位置までまわしてください。

上記の指示に従わなければ、タイヤが十分に路面をグリップできなくなるため、車のコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤの選択、装着および交換

- タイヤとホイールは、4 輪とも同一種類、同一銘柄のものを装着してください。
- 適正なサイズの指定されたタイヤをホイールに装着してください。
- タイヤには、工場出荷時に保護層が処理されています。 新品のタイヤを装着しているときは、最初の約 100 km では適度な速度で走行してください。

この距離を走行後にのみ、最高の性能に達します。

- タイヤトレッド部の溝の深さが不足したタイヤで走行しないでください。 濡れた路面ではタイヤのグリップが著しく低下します（ハイドロプレーニング現象）。
- 摩耗の程度に関わらず、6 年以上経過したタイヤは新品と交換してください。 これはスペアタイヤにも該当します。

寒冷時の取り扱い

これに関する情報はデジタル版取扱説明書に記載されています。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧基準値

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

タイヤ空気圧が不足または過剰な場合、以下の危険があります。

- 荷重が大きく車両速度が高い場合は特に、タイヤが破裂するおそれがある。
- タイヤが過度に、また不均一に摩耗し、それによってタイヤの駆動力が損なわれるおそれがある。
- ステアリング操作やブレーキ操作などの車両操縦性が大幅に損なわれるおそれがある。

事故を起こすおそれがあります。

指定のタイヤ空気圧を遵守し、以下のときにはスペアタイヤを含むすべてのタイヤの空気圧を点検してください。

- 少なくとも 2 週間に 1 回
- 荷重が変化したとき
- 長距離走行を開始する前
- オフロード走行など、使用条件が変わったとき

必要であれば、適正なタイヤ空気圧に調整してください。

⚠ **警告**

適切でないアクセサリーをバルブに取り付けると、バルブに過負荷がかかって誤作動し、タイヤ空気圧が不足する原因となります。設計上、タイヤ空気圧モニターシステムを後装着すると、バルブが開いたままになり、タイヤ空気圧が不足するおそれもあります。事故発生の危険性があります。

標準仕様のバルブキャップまたはメルセデス・ベンツ純正の車両専用バルブキャップのみをバルブに取り付けてください。

⚠ **警告**

タイヤ空気圧が何度も低下する場合は、ホイール、バルブまたはタイヤが損傷している可能性があります。タイヤ空気圧が不十分であると、タイヤが破裂するおそれがあります。事故発生の危険性があります。

- タイヤに異物がないか点検します。
- ホイールやバルブからの空気漏れがないか点検します。

損傷を修理できない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

環境保護に関する注意

少なくとも 2 週間に 1 度、タイヤ空気圧の点検を行なってください。

全体的な注意事項

燃料給油口裏側には、走行状況に応じた空気圧が記載されたタイヤ空気圧ラベルが貼られています。

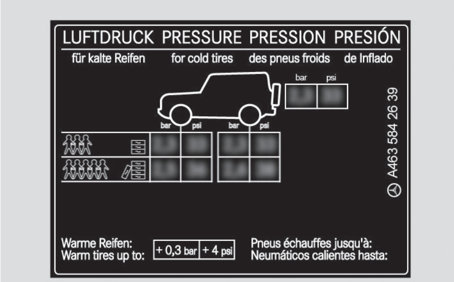
トレーラーでの操作： リアタイヤの適切な値は、燃料給油口の内側の表に記載されている最大タイヤ空気圧の値です。

燃料給油口の裏側の表には、さまざまな積載状態でのタイヤ空気圧が記載されて

いることがあります。 これらは、さまざまな乗員数および積載量として表に定義されています。 実際の座席数は異なる場合があります。詳しくは、車両の登録書類を参照してください。

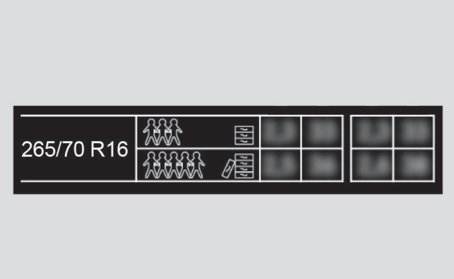
タイヤサイズの指定がない場合、タイヤ空気圧ラベルに記載されているタイヤ空気圧は車両に承認されているすべてのタイヤに適用されます。

タイヤ空気圧ラベル

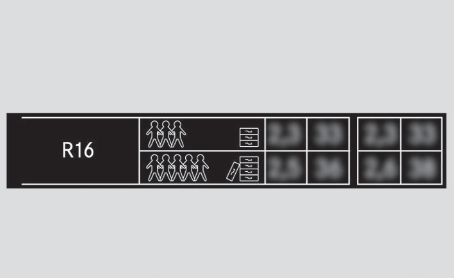


P88.60-2305-31

タイヤのサイズに応じて空気圧を調整する場合は、以下の空気圧に関する情報は、そのタイヤサイズのみに有効となります。



P40.00-2188-31



P40.00-2181-31

タイヤサイズの代わりに、R16 などのリム径が表示されている場合もあります。

P40.10-5973-31

リム径 ① はタイヤのサイドウォールにあるタイヤサイズ表示に記載されています。

タイヤ空気圧を点検するには、適切な空気圧ゲージを使用してください。 タイヤの外観を点検しても空気圧を正しく判断することはできません。

タイヤ空気圧の調整は、できるだけタイヤが冷えているときに行なってください。

以下のときは、タイヤの温度が低い状態です。

- 車両に直射日光が当たらない状態で最低約 3 時間駐車した場合、および
- 車両が約 1.6 km 以上走行しなかった場合

周辺温度、走行速度、タイヤへの負荷などによって、タイヤの温度と空気圧は変化します。周辺温度が約 10 ℃変化すると、タイヤ空気圧は約 10 kPa (0.1 bar/1.5 psi) 変化します。タイヤ自体が暖まっているときは、この点を考慮して空気圧をチェックしてください。そのときの使用条件に対して非常に低いときのみ、タイヤ空気圧を修正してください。

空気圧が適正でないタイヤで走行すると、以下のような状態になります。

- タイヤの寿命が短くなります。
- タイヤが損傷を受けやすくなります。
- 車両操縦性や走行安全性に悪影響をおよぼします（ハイドロプレーニング現象など）。

ℹ 低負荷時の空気圧は、快適な乗り心地を得るために必要な空気圧の下限値を示しています。

ただし、高負荷時の空気圧に調整することもできます。 これらは空気圧許容値であり、車両の走行安全性に悪影響を与えることはありません。

タイヤ空気圧の点検

重要な安全上の注意

タイヤ空気圧に関する注意事項をお守りください。(▷ 244 ページ)

車両のタイヤ空気圧に関する情報は、以下に記載されています。

- B ピラーにある車両のタイヤおよび積載情報表
- 燃料給油口のタイヤ空気圧ラベル
- "タイヤ空気圧情報" のセクション

タイヤ空気圧の手動による点検

タイヤ空気圧を測定し、適正な数値に調整するには、以下の手順に従ってください。

▶ 点検するタイヤのバルブキャップを外します。

▶ タイヤ空気圧ゲージをバルブの上にしっかり押してはめます。

▶ タイヤ空気圧を読み取り、運転席側の B ピラーにあるタイヤおよび積載情報表に記載された指定値と比較します。(▷ 245 ページ)

▶ **タイヤ空気圧が低すぎる：** タイヤ空気圧を指定値まで上げます。

▶ **タイヤ空気圧が高すぎる：** ペンの先などを使用して、バルブのメタルピンを押し下げます。
タイヤから空気が漏れます。

▶ タイヤ空気圧ゲージを使用して、タイヤ空気圧を再度点検します。

▶ バルブキャップをバルブにねじ込みます。

▶ 他のタイヤでも、この手順を繰り前します。

タイヤの交換

タイヤのパンク

"万一のとき" (▷ 227 ページ) には、タイヤがパンクしたときの処置方法や注意事項が記載されています。

タイヤローテーション

⚠ **警告**

タイヤまたはホイールのサイズが前後で異なるときは、タイヤローテーションを行なわないでください。

タイヤの交換を行なった後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

ホイールボルトが規定のトルク 130 Nm で締め付けられていないと、ホイールが緩むおそれがあります。

安全のため、ホイールボルトは適正なサイズの指定品を使用してください。

異なるサイズのフロントとリアのホイールを入れ替えると、一般の使用許可が無効になることがあります。

"タイヤの交換とスペアタイヤの取り付け" (▷ 247 ページ)に記載された指示と安全規定に注意してください。

タイヤは、走行状況によって前輪と後輪で摩耗具合に差が生じ、偏摩耗を起こします。 これを防止するため、タイヤが摩耗し始めたら早めにタイヤローテーションをしてください。 一般的に、前輪はショルダー部の摩耗が起こりやすく、後輪ではセンター部の摩耗が起こりやすい傾向があります。

フロントとリアの車輪が同じサイズの車両は、タイヤの摩耗具合に応じて約 5000 km ～ 10,000 km 毎に車輪を入れ替えてください。 タイヤの回転方向は維持してください。

タイヤの回転方向

タイヤの回転方向が指定されているタイヤは、例えばハイドロプレーニング現象のおそれがある状況などで補助的な効果を発揮します。 回転方向が指定されているタイヤは、指定された回転方向になるように装着することで性能を十分発揮できます。

タイヤのサイドウォールにある矢印は、正しい回転方向を示しています。

スペアタイヤは回転方向に逆らって装着することができます。 応急用スペアタイヤに記載されている使用制限時間と制限速度を守って正しく使用してください。

タイヤの保管

使用していないタイヤは、涼しくて乾燥している、なるべく暗い場所に保管してください。 タイヤにオイルやグリース、ガソリン、軽油などが付着しないように保護してください。

ホイールの清掃

⚠ **警告**

高圧式スプレーガンを使用して洗車しないでください。特に、タイヤなどはこのスプレーガンを使用しないでください。タイヤが損傷して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤの取り付け

車両の準備

▶ 指示に従って、タイヤ交換の準備を行ないます。 (▷ 227 ページ)

▶ 車両にトレーラーが連結されている場合は、切り離してください。

▶ 車載工具およびジャッキを取り出します。 (▷ 225 ページ)

▶ 作業中に車が動き出すのを防ぐため、車を固定します。

▶ スペアタイヤブラケット (▷ 225 ページ)からスペアタイヤを取り外します。

車両が動き出さないように固定する

▶ **水平な場所：** 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、輪止めまたは適切な物を挟みます。

▶ **下り坂：** 前輪と後輪の前方に輪止めまたは適切な物を挟みます。

車高を上げる

⚠ 警告

車両の適切なジャッキポイントに正しくジャッキを設置しないと、車両をジャッキアップした時にジャッキが倒れるおそれがあります。 負傷するおそれがあります。

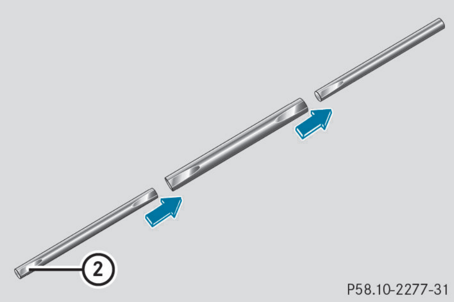
必ず車両の適切なジャッキポイントにジャッキを設置してください。ジャッキの底面は車両のジャッキポイントの真下に来るように設置してください。

ジャッキアップするときは、以下の注意事項をお守りください。

- 車両をジャッキアップするときは、メルセデス・ベンツ純正の車両専用ジャッキを必ず使用してください。ジャッキを正しく使用しないと、車両をジャッキアップしている間に倒れることがあります。
- ジャッキは、この車のタイヤ交換で一時的に車両をジャッキアップするためだけに設計されています。 車両の下回りのメンテナンス作業を行なう目的には適していません。
- 上り坂や下り坂でのタイヤ交換は行なわないでください。
- 車両をジャッキアップする前にパーキングブレーキをかけて輪止めをし、車両が動き出さないように固定してください。 車両をジャッキアップしている間は絶対にパーキングブレーキを解除しないでください。
- ジャッキは、固く平らで滑らない地面の上に設置してください。 柔らかい地面の上では、大型の耐荷重マットを使用してください。 滑りやすい地面の上では、ラバーマットなどの滑り止めマットを敷いてください。
- ジャッキの下に木片などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキの高さ制限による耐荷重性能を得られない可能性があります。
- タイヤの下面と地面との間の距離が 3 cm を超えていないことを確認してください。
- ジャッキアップした車両の下には絶対に手または足を入れないでください。
- ジャッキアップした車両の下には絶対に身体を入れないでください。
- ジャッキアップした状態で絶対にエンジンを始動しないでください。
- ジャッキアップしているときは絶対にドアやテールゲートを開閉しないでください。
- ジャッキアップした状態で車両に人が乗っていないことを確認してください。

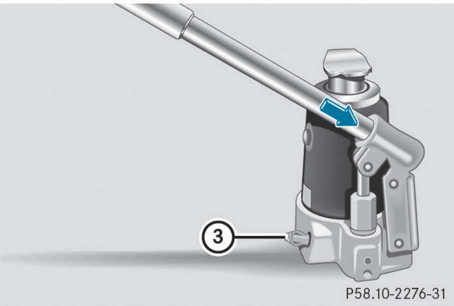
P40.10-6152-31

▶ ホイールレンチ ① を使用して、交換するタイヤのホイールボルトを約 1 回転緩めます。 この時点では、ホイールボルトを完全に緩めないでください。



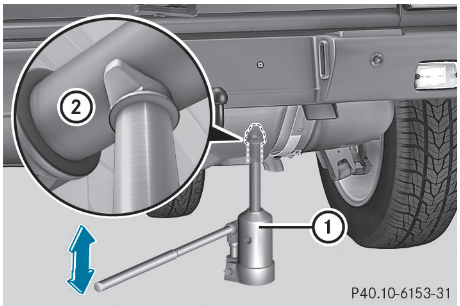
ポンプレバー
② ポンプレバーのノッチ

▶ ジャッキのポンプレバーを組み立てます。 これは車載工具 (▷ 225 ページ) に含まれます。



▶ ポンプレバーのノッチ ② を使用して、空気圧調整バルブ ③ を時計回りにいっぱいまでまわします。
空気圧調整バルブ ③ が閉じます。

ℹ 空気圧調整バルブ ③ は 1 ～ 2 回転以上まわさないでください。 ハイドロリックオイルが漏れ出すおそれがあります。



▶ ジャッキ ① を、フロントまたはリアアクスルのアクスルキャリアチューブ ② の位置にセットします。 ジャッキ ① は、たとえ傾斜地でも必ず垂直に立てます。
▶ タイヤが地面から約 3 cm 離れるまで車両を矢印の方向にジャッキアップします。

タイヤの取り外し

! 砂などの異物が付着しないように注意してください。ホイールボルトをねじ込む時に、ボルトやハブのネジ山が損傷するおそれがあります。

▶ ホイールボルトを緩めます。
▶ タイヤを取り外します。

新しいタイヤの取り付け

⚠ 警告

ホイールハブのネジ山が損傷しているときは、それ以上走行しないでください。 メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

⚠ 警告

ホイールボルトは、必ずホイールと車両に適合した製品を使用してください。 安全のため、ホイールボルトは純正品または承認されている製品を使用することをお勧めします。 純正品以外のホイールボルトを使用すると、ボルトが緩んだり、

ブレーキシステムが損傷するおそれがあります。

ジャッキアップした状態でホイールボルトを締め付けないでください。 車両が揺れて、ジャッキが外れるおそれがあります。

"タイヤの交換" (▷ 247 ページ) にある指示や安全上の注意に常に注意を払ってください。

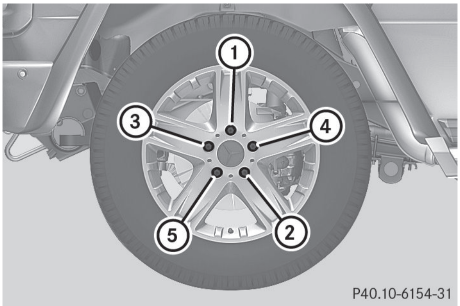
▶ ホイールおよびハブの接合面の汚れを拭き取ります。
▶ 新しいタイヤをホイールハブに取り付け、押し込みます。
▶ 4 本のホイールボルトを取り付けて、手締めします。

車高を下げる

⚠ 警告

ホイールナットやボルトが規定の締め付けトルクで締め付けられていないと、ホイールが緩むおそれがあります。 事故発生の危険性があります。

タイヤを交換した後で、直ちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で、締め付けトルクの点検を受けてください。



▶ ポンプレバー (▷ 248 ページ) を使用して、ジャッキの空気圧調整バルブを約 1 回転開きます。
▶ ジャッキを外し、横に置きます。
▶ 図の順番（① ～ ⑤）に対角パターンで、ホイールボルトを均一に締め付けます。 締め付けトルクの規定値は 130 Nm です。
▶ ジャッキピストンを押し込み、ドレンプラグを閉じます。
▶ ボルトを使用して不具合のあるホイールをスペアホイールブラケット (▷ 225 ページ)に固定します。
▶ ジャッキと車載ツールを車内に再び収納します。
▶ 新しく取り付けた車輪のタイヤ空気圧を点検し、必要に応じて調整します。

燃料給油口の裏側にあるタイヤ空気圧ラベルを参照してください。

ホイールとタイヤの組み合わせ

全体的な注意事項

! 安全に走行するため、タイヤとホイール、アクセサリーは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。 これらのタイヤは、ABS や ESP®などの走行安全装備の使用に合わせて特別に調整されています。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイール、アクセサリーを使用しないでください。 車両操縦性や騒音、排出ガス、燃料消費などに悪影響を与えるおそれがあります。 また、乗車人数や荷物が増えた場合などには、タイヤやホイールが車体やサスペンションに接触するおそれがあります。 これにより、タイヤや車両の損傷につながるおそれがあります。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイール、アクセサリーを装着した場合は、損傷が生じても保証の対象外になります。

タイヤやホイール、指定された組み合わせなどに関して、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 大径ホイール：特定のホイールサイズの断面幅が減少すると、悪路での乗り心地が低下します。 走行快適性および安定性が低下し、さらに路面の障害物を乗り越えることが増加するので、ホイールやタイヤへの損傷リスクが高くなります。

ℹ 燃料給油口の裏側にあるタイヤ空気圧ラベルを参照してください。 タイヤ空気圧について、詳しくは (▷ 244 ページ)を参照してください。 タイヤ空気圧の点検は定期的に、タイヤが冷えている状態で行なってください。

ℹ タイヤとホイールは、以下の点を確認して正しく装着してください。

- 左右には必ず同サイズのタイヤを装着してください。
- （サマータイヤ、ウィンタータイヤ、オールシーズンタイヤ、全地形タイヤなど）種類の異なるタイヤを同時に装着しないでください。

表に記載のタイヤとホイールの組み合わせは、以下のモデルを対象とします。

V1	G 550
V2	G 63 AMG

ℹ すべてのホイール/タイヤの組み合わせが、すべての国の工場で装着できるわけではありません。

タイヤ

G 550

サマータイヤ

タイヤ	軽量アルミホイール
265/60 R18 109 H メルセデス・ベンツ指定のタイヤメーカー：Bridgestone	7.5J x 18 H2 ET 63

ℹ ここに記載されていないタイヤおよびタイヤサイズに関する情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

オールシーズンタイヤ

タイヤ	軽量アルミホイール
265/70 R16 112 HM+S メルセデス・ベンツ指定のタイヤメーカー：Bridgestone	7.5J x 16 H2 ET 63
265/60 R18 110 VM+S メルセデス・ベンツ指定のタイヤメーカー：Yokohama	7.5J x 18 H2 ET 63

ℹ ここに記載されていないタイヤおよびタイヤサイズに関する情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

スペアタイヤ

! スペアタイヤは、燃料給油口の裏側のタイヤ空気圧ラベルに記載された最大空気圧になるまで空気を注入してください。

タイヤ	軽量アルミホイール
265/60 R18 110 VM+S メルセデス・ベンツ指定のタイヤメーカー：Yokohama	7.5J x18 H2 ET 63

i スペアタイヤは標準タイヤに適合します。

i ここに記載されていないタイヤおよびタイヤサイズに関する情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

G 63 AMG

サマータイヤ

タイヤ	軽量アルミホイール
275/50 R20 113W XL スノーチェーンは装着できません。 メルセデス・ベンツ指定のタイヤメーカー： Yokohama	9.5J x 20 H2 ET 50

i ここに記載されていないタイヤおよびタイヤサイズに関する情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

ウィンタータイヤ

タイヤ	軽量アルミホイール
265/55 R19 109HM+S メルセデス・ベンツ指定のタイヤメーカー： Dunlop	9.5J x 19 H2 ET 50

i ここに記載されていないタイヤおよびタイヤサイズに関する情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

スペアタイヤ

! スペアタイヤは、燃料給油口の裏側のタイヤ空気圧ラベルに記載された最大空気圧になるまで空気を注入してください。

タイヤ	軽量アルミホイール
265/55 R19 109H M+S メルセデス・ベンツ指定のタイヤメーカー： Dunlop	9.5J x 19 H2 ET 50

i ここに記載されていないタイヤおよびタイヤサイズに関する情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

役に立つ情報 254
メルセデス・ベンツ純正部品 254
ビークルプレート 254
サービスプロダクトと容量 254
車両データ 259
トレーラーけん引ヒッチ 259
24 GHz レーダーセンサーシステム 261

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国により、仕様が異なる場合があります。 お買い上げいただいた車両には、記載されているすべての内容が備わっていないことがあります。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 26 ページ).

メルセデス・ベンツ純正部品

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

ビークルプレート

車台番号（VIN）および塗装コード付きビークルプレート

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ビークルプレート
- VIN
- エンジン番号

車台番号（VIN）

ビークルプレートにある情報に加えて、進行方向に向かって右側のシャーシにも車台番号（VIN）が刻印されています。

エンジン番号

サービスプロダクトと容量

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

燃料および油脂の取り扱い、保管、廃棄については、負傷するおそれがあるので、法令を遵守して取り扱ってください。

燃料および油脂は子供の手の届かない場所に保管してください。

燃料および油脂が目や粘膜、傷に触れないようにしてください。万一目に入ったり、皮膚に付着した場合は、直ぐに水道水で洗い流し、医師の診断を受けてください。

環境

燃料および油脂は、環境汚染を配慮して、廃棄処分してください。

サービスプロダクトには以下のものが含まれます。

- 燃料
- 潤滑剤（エンジンオイル、オートマチックトランスミッションオイルなど）
- 冷却水
- ブレーキ液
- ウォッシャー液
- エアコンディショナーの冷媒

構成部品とサービスプロダクトは適合していなければなりません。 Daimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社の指定品のみを使用することをお勧めします。 これらの製品は、本書の該当するセクションに記載されています。

テストおよび承認された製品に関する情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場またはインターネット **http://bevo.mercedes-benz.com** で入手することができます。

Daimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社の指定するサービスプロダクトは、容器に以下のようなマークが付いています。

- MB-Freigabe （MB-Freigabe 229.51 など）
- MB Approval （MB Approval 229.51 など）

これ以外のマークや推奨は、MB シート番号（MB 229.5 など）に準拠した品質レベルまたは仕様を示しています。 これらは、メルセデス・ベンツが承認する製品とは限りません。

さらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

燃料

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

燃料は可燃性の高いものです。 燃料を不適切に扱った場合は、火災および爆発の危険性があります。

火気、裸火、火花の発生および喫煙は避けてください。給油の前にはエンジン、当てはまる場合は補助ヒーターを停止します。

⚠ **警告**

燃料は健康に有毒で危険です。けがの危険性があります。

燃料が肌、目または衣服と接触しておらず、飲み込まれていないことを確認しなければなりません。燃料の気体を吸い込まないでください。燃料は子供から離してください。

お客様または他の方が燃料に触れた場合は、以下に従ってください。

- 石鹸および水道水を使用して、ただちに肌から燃料を洗い流してください。
- 燃料が目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。ただちに医療補助を求めてください。
- 燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医療補助を求めてください。吐かせないでください。
- 燃料が付着した衣服はただちに替えてください。

燃料タンク容量

全容量	
全車種	約 96.0 L

予備タンク容量	
全車種	約 14.0 L

ガソリン（EN 228）

燃料のグレード

! ガソリンエンジン車には、絶対に軽油を給油しないでください。軽油が少量混入しただけでも、 燃料供給システムを損傷するおそれがあります。

! 触媒コンバーターの損傷を防ぐために、必ず無鉛プレミアムガソリンを給油してください。

エンジンの作動に問題がある場合は、直ちに点検および修理を受けてください。余分な未燃焼燃料が触媒コンバーターに流入すると、触媒コンバーターが過熱し火災の原因になります。

! 燃料を給油するときは、最低 96 RON の無鉛プレミアムガソリンを使用してください。

指定以外の燃料を給油すると、エンジンの出力が低下したり、エンジンが損傷するおそれがあります。

! 必ず指定の燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料などの指定以外の燃料を使用すると、燃料系部品が腐食したり、エンジンを損傷するおそれがあります。

! 燃料携行缶から燃料を補給するときは、フィルターを使用してください。燃料携行缶に付着した微粒子によって、フューエルラインや燃料噴射システムの部品が詰まるおそれがあります。

通常、燃料のグレードは給油ポンプに記載されています。燃料ポンプにラベルが見当たらないときは、ガソリンスタンドのスタッフにおたずねください。

i 推奨燃料が入手できないときに限り、一時的な手段として 91 RON の無鉛ガソリンも使用できることがあります。これにより、エンジンの性能が低下したり、燃料消費が増加することがあります。フルスロットルでの走行は避けてください。

i 特定の国では入手できる燃料が十分に低い硫黄でないことがあります。短い走行では特に、燃料が一時的に不快な臭いを発することがあります。給油の際に硫黄のない燃料（硫黄含有量約<10 ppm）を使用すると、臭いが減少します。

給油に関する情報 (▷ 106 ページ)

AMG 車

! 燃料を給油するときは、最低 98 RON の無鉛プレミアムガソリンを使用してください。

指定以外の燃料を給油すると、エンジンの出力が低下したり、エンジンが損傷するおそれがあります。

! 緊急時で指定燃料が入手できないときに限り、91 RON 無鉛レギュラーガソリンも使用できます。

その結果燃料消費量が著しく増大し、エンジン出力は著しく低下します。アクセルをいっぱいに踏み込んで運転するのは避けてください。

91 RON あるいはそれ以下のグレードのガソリン以外の燃料しか入手できない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でその燃料で走行するために必要な車両の調整を受けてください。

添加剤

! 燃料を補給するときは、粗悪な燃料や純正以外の燃料添加剤を使用しないでください。燃料供給システムが損傷または故障するおそれがあります。

粗悪な燃料を使用すると、燃料が燃焼する過程でスラッジが生成されます。添加剤を含有する燃料の使用をお勧めいたします。

添加剤を含まない燃料を長期間使用すると、スラッジが生成されるおそれがあります。スラッジは主に吸気バルブや燃焼室に付着します。

その結果、次のようなエンジン不調を起こすおそれがあります。

- 始動性能の低下
- アイドリング不良
- エンジン騒音
- ミスファイヤ
- 出力の低下

規定の添加剤を含むガソリンが市販されていない地域では、カーボン堆積物が発生することがあります。メルセデス・ベンツは、メルセデス・ベンツ車のために承認された添加剤の使用をお勧めします。

一部の国で市販されている燃料の中には、品質の劣るものがあります。このような燃料を使用すると、エンジン内部に

スラッジが生成されるおそれがあります。 その場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談のうえ、純正の添加剤をガソリンに注入してください。（部品番号 A000989254510） 製品の容器に記載された注意事項と配合率をお守りください。

純正品に関する情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。 製品の容器に記載の使用上の注意をお守りください。

純正以外の添加剤を燃料に注入しないでください。 無駄な費用が発生し、エンジンを損傷する原因になります。

エンジンオイル

容量

以下の容量は、オイルフィルター分を含むオイル交換時の参考数値です。

以下のモデルの未確認の数値は印刷時点では使用できません。

- G 63 AMG

車種	オイルフィルターを含む容量
G 550	9.0 l
G 63 AMG	

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- エンジンオイルに関する注意事項
- 添加剤
- 粘度

ブレーキ液

⚠ **警告**

ブレーキ液は、使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。 ブレーキ液が劣化すると、沸点が低下します。

ブレーキ液の沸点が低すぎる場合、長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生します。 ブレーキ液が劣化しベーパーロックが起こると、ブレーキの性能が損なわれます。

ブレーキ液は、定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。 ブレーキ液の交換時期は、整備手帳で確認してください。

メルセデス・ベンツにより承認された MB Approval 331.0 準拠のブレーキ液のみを使用してください。

承認されたブレーキ液に関する情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ⓘ ブレーキ液はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で定期的に交換して下さい。

冷却水

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

不凍液は可燃性の強い液体です。不凍液を取り扱う場合は、火気や裸火を近づけたり、近くで喫煙しないでください。

不凍液が高温のエンジン部品に付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。不凍液をエンジンルームにこぼさないよう注意してください。

! 冷却水は、必ず弊社指定の不凍液を混合したものを補給してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

冷却水についての詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

! たとえ熱帯地域であっても、必ず適切な冷却水を使用してください。

不適切な冷却水を使用すると、エンジン冷却システムの腐食やオーバーヒートを防ぐことができなくなります。

冷却水は水と不凍液 / 防錆剤の混合液です。 冷却水は、以下の効果を発揮します。

- 防錆保護
- 凍結防止
- 沸点の上昇

凍結/腐食防止剤が正しい濃度にある場合は、冷却水の沸点は約 130 ℃になります。

エンジン冷却システム内の不凍液 / 防錆剤の濃度は、

- 約 50 %以上にしてください。 約 -37 ℃ までエンジン冷却システムが凍結するのを防ぎます。
- 約 55 %（約 -45 ℃ での凍結防止）以上にすると、冷却能力が低下します。

冷却水が不足している場合は、同量の水道水と不凍液 / 防錆剤を補充してください。 メルセデス・ベンツは、サービスプロダクト 310.1 用の MB 仕様に準拠した凍結/腐食防止剤をお勧めします。

冷却水が不足している場合は、水道水と不凍液 / 防錆剤を同量混合した冷却水を補充してください。

冷却水は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場での定期整備時に点検が行なわれます。

i 車両の納車時には、指定の不凍液 / 防錆剤を適正な濃度で混合した冷却水がリザーブタンクに充填されています。

ウォッシャー液

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

ウインドウウォッシャー液の濃縮液は高い可燃性です。 熱いエンジン部品または排気システムに触れると、発火することがあります。火災およびけがの危険性があります。

ウインドウウォッシャー液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。

! 夏季用や冬季用など、ヘッドライトの樹脂製レンズに適したウォッシャー液のみを使用してください。不適切なウォッシャー液を使用すると、ヘッドライトの樹脂製レンズを損傷するおそれがあります。

! 蒸留水や脱イオン水をウォッシャー液リザーブタンクに入れないでください。レベルセンサーを損傷するおそれがあります。

! 夏季用および冬季用の純正ウォッシャー液を混合して使用します。純正品以外のウォッシャー液を使用すると、 噴射ノズルが詰まるおそれがあります。

気温が氷点より高いとき

▶ 夏用のウォッシャー液と水を混ぜて、ウォッシャー液リザーブタンクに補充します。

▶ 夏用のウォッシャー液と水を 1 : 100 の混合比に混ぜます。

気温が氷点下のとき

▶ 冬用のウォッシャー液と水を混ぜて、ウォッシャー液リザーブタンクに補給します。

外気温度に応じて混合比を調整してください。

▶ 約 -10 ℃に下がるまで：水の量 2 に対して冬用ウォッシャー液の量 1 を混合します。
▶ 約 -20 ℃に下がるまで：水の量 1 に対して冬用ウォッシャー液の量 1 を混合します。
▶ 約 -29 ℃に下がるまで：水の量 1 に対して冬用ウォッシャー液の量 2 を混合します。

ℹ 1 年を通して、夏用と冬用などのウォッシャー濃縮液を水で薄めたウォッシャー液を使用してください。

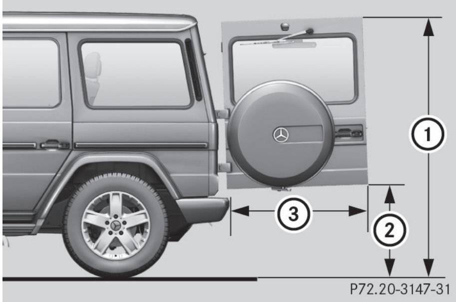
車両データ

全体的な注意事項

記載の車両データについては、以下の点にご注意ください。

- 記載の車高は、以下の条件に応じて異なります。
  - タイヤ
  - 積載条件
  - サスペンションの状態
  - オプション装備品

寸法および重量



以下のモデルの未確認の数値は印刷時点では使用できません。

- G 63 AMG

	G 550	G 63 AMG
①上端の高さ	約 1905 mm ～ 2005 mm	
②下端の高さ	約 680 mm ～ 780 mm	
③動く範囲	約 36.7 インチ (931 mm) 約 931 mm	

ルーフの制限重量

全車種	
ルーフの制限重量	約 200 kg

バッテリー

全車種	
バッテリー電圧	12 V
バッテリー容量	95 Ah

トレーラーけん引ヒッチ

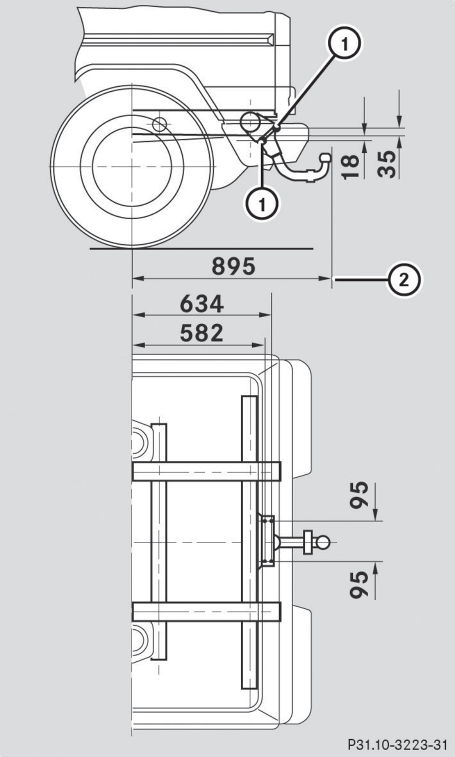
取付寸法

⚠ **警告**

トレーラーけん引ヒッチはメルセデス・ベンツ指定サービス工場でのみ装着してください。

! トレーラーけん引ヒッチを装着する場合は、車両の種類によってエンジン冷却システムへの変更が必要となることがあります。

トレーラーけん引ヒッチを装着する場合は、シャーシフレームの固定ポイントを遵守してください。



例: トレーラーけん引ヒッチ用固定ポイント

① 固定ポイント

② オーバーハング寸法

工場で装着されたトレーラーけん引ヒッチでは、保護カバーを含むオーバーハング寸法は約 895 mm です。

トレーラーの積載量	
G 550 G 63 AMG	
許容トレーラー荷重（ブレーキなし）	750 kg
許容トレーラー荷重、ブレーキあり（停止状態からの最小登板能力が12%のとき）	3500 kg
けん引バーの最大ノーズウェイト（けん引バーのノーズウェイトは、トレーラー荷重には含まれていません）	140 kg
トレーラーをけん引するときのリアアクスルの許容積載量	約 1900 kg
トレーラーをけん引するときの最大車両総重量	約 6700 kg

24 GHz レーダーセンサーシステム

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

インターネット

メルセデス・ベンツ車や Daimler AG についての詳細情報については、以下のウェブサイトに記載されています。

http://www.mercedes-benz.co.jp

編集オフィス

Daimler AG の書面による許可なく、本書のすべてまたは一部を複写、翻訳または複製することはできません。

編集終了 20.12.2011

4635845172

Order no. 6515 4144 20 Part no. 463 584 51 72 Edition ÄJ 2012-Ma